

Hitachi Command Suite

Dynamic Link Manager Software

ユーザーズガイド (Windows[®]用)

3020-3-X01-60

対象製品

Hitachi Dynamic Link Manager 7.6.0

適用 OS の詳細については「ソフトウェア添付資料」でご確認ください。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

AIX は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

CLUSTERPRO は、日本電気株式会社の登録商標です。

HP-UX は、Hewlett-Packard Development Company, L.P. のオペレーティングシステムの名称です。

HP および StorageWorks は、Hewlett-Packard Development Company, L.P. の商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

MVS は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Symantec, および Backup Exec は、Symantec Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Veritas および Veritas Storage Foundation は、Symantec Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Veritas および Veritas ロゴは、Symantec Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Veritas および NetBackup は、Symantec Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

VMware, VMware vSphere は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

This product includes software developed by the JDOM Project (<http://www.jdom.org/>).

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

発行

2013 年 10 月 3020-3-X01-60

著作権

All Rights Reserved. Copyright © 2011, 2013, Hitachi, Ltd.

目次

はじめに.....	15
対象読者.....	16
マニュアルの構成.....	16
マイクロソフト製品の表記について.....	17
読書手順.....	19
このマニュアルで使用している記号.....	19
コマンドまたはユーティリティの文法で使用している記号.....	20
ファイル名で使用している記号.....	20
マニュアルの提供形態について.....	20
1. HDLM の概要.....	21
1.1 HDLM とは.....	22
1.2 HDLM の特長.....	22
2. HDLM の機能.....	25
2.1 HDLM で管理するデバイス.....	26
2.2 システム構成.....	26
2.2.1 FC-SAN を使用するシステム構成.....	26
2.2.2 IP-SAN を使用するシステム構成.....	27
(1) iSCSI ソフトウェアと iSCSI HBA の設定範囲.....	29
(2) HDLM がサポートするストレージシステム.....	29
2.3 LU 構成.....	29
2.4 プログラム構成.....	30
2.5 HDLM ドライバと MPIO ドライバの位置づけ.....	32
2.6 ロードバランスによる負荷分散.....	33
2.6.1 ロードバランスが適用されるパス.....	34
(1) SANRISE9500V シリーズ, または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズを使用している場合.....	34
(2) SANRISE9500V シリーズ, または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズ以外を使用している場合.....	35
2.6.2 ロードバランスのアルゴリズム.....	36
2.7 パス切り替えによるフェイルオーバーとフェイルバック.....	37
2.7.1 自動パス切り替え.....	38
(1) 自動フェイルオーバー.....	38
(2) 自動フェイルバック.....	39
2.7.2 手動パス切り替え.....	40
2.7.3 パスの状態遷移.....	40
(1) 稼働状態.....	41
(2) 閉塞状態.....	41

(3) パスの状態遷移.....	42
2.8 間欠障害の監視（自動フェイルバック使用時の機能）.....	44
2.8.1 間欠障害の確認.....	44
2.8.2 間欠障害監視の設定.....	44
2.8.3 間欠障害監視の動作.....	44
(1) 間欠障害が発生していると見なす場合.....	45
(2) 間欠障害が発生していないと見なす場合.....	45
(3) 間欠障害の監視中に間欠障害と見なす条件を変更した場合.....	46
2.8.4 ユーザの操作による間欠障害情報の変化.....	46
2.9 パスヘルスチェックによる障害検出.....	48
2.10 ダイナミック I/O パスコントロール機能による負荷分散.....	48
2.10.1 ダイナミックロードバランスコントローラ機能とは.....	48
2.10.2 ダイナミック I/O パスコントロール機能について.....	48
2.11 動的再構成.....	49
2.11.1 LU の動的追加.....	49
2.11.2 LU の動的削除.....	49
2.12 障害管理.....	49
2.12.1 採取するログの種類.....	50
2.12.2 障害情報のフィルタリング.....	52
2.12.3 HDLM 障害情報収集ユーティリティ（DLMgetras）を使用した障害情報の収集.....	52
2.13 監査ログの採取.....	53
2.13.1 HDLM で監査ログに出力する種別と監査事象.....	54
2.13.2 監査ログ出力の前提条件.....	55
2.13.3 監査ログの出力先とフィルタリング.....	56
2.13.4 監査ログの出力形式.....	56
2.14 Global Link Manager による HDLM の統合管理.....	57
2.15 クラスタ対応.....	58
3. HDLM の環境構築.....	61
3.1 HDLM のシステム要件.....	62
3.1.1 HDLM がサポートするホストと OS.....	62
(1) 適用ホスト.....	62
(2) Microsoft MPIO ドライバ.....	62
(3) HDLM がサポートする Web ブラウザ.....	63
3.1.2 HDLM がサポートするストレージシステム.....	63
(1) ストレージシステム.....	63
(2) HBA.....	64
(3) Hitachi RapidXchange 管理の中間ボリュームを扱う場合.....	65
3.1.3 HDLM がサポートするクラスタソフトウェア.....	65
3.1.4 HDLM がサポートするボリュームマネージャ.....	67
3.1.5 HDLM がサポートする仮想環境.....	68
3.1.6 メモリ所要量とディスク占有量.....	68
(1) メモリ所要量.....	68
(2) ディスク占有量.....	68
3.1.7 HDLM がサポートする LU 数とパス数.....	69
3.2 環境構築の流れ.....	69
3.3 HDLM のインストールの種別.....	69
3.4 環境を構築する場合の注意事項.....	70
3.4.1 HBA および HBA ドライバに関する注意事項.....	70
3.4.2 ストレージシステムに関する注意事項.....	70
3.4.3 HDLM のバージョンに関する注意事項.....	70
3.4.4 Windows に関する注意事項.....	71
3.4.5 関連するソフトウェアに関する注意事項.....	74
3.4.6 新規インストールおよびアップグレードインストールに関する注意事項.....	77

3.4.7 移行またはアップグレードインストールに関する注意事項.....	78
3.5 HDLM のインストール.....	79
3.5.1 HDLM を新規インストールする前の準備.....	79
3.5.2 JP1/NETM/DM を使用して HDLM をリモートインストールする場合の準備.....	80
(1) リモートインストールの流れ.....	81
(2) 前提条件.....	81
(3) HDLM のパッケージング.....	82
(4) HDLM の配布指令の作成および登録.....	82
3.5.3 HDLM をサイレントインストールする場合の準備.....	83
(1) インストール情報設定ファイルの定義.....	83
(2) インストール時の注意事項.....	83
3.5.4 HDLM の新規インストール (Windows Server 2003 の場合)	84
(1) クラスタ環境以外の場合.....	84
(2) MSCS 環境の場合.....	88
(3) VCS 環境の場合.....	95
(4) MSCS 環境または VCS 環境以外の場合.....	98
3.5.5 HDLM の新規インストール (Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合)	102
(1) クラスタ環境以外の場合.....	102
(2) MSCS 環境の場合.....	105
3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール.....	111
3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行.....	112
3.5.8 JRE のインストール.....	113
3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定.....	114
(1) firewall_setup コマンドについて.....	115
3.6 パス構成の確認.....	115
3.7 HDLM の機能の設定.....	116
3.7.1 変更前の設定内容の確認.....	117
3.7.2 機能の設定.....	117
(1) ロードバランスの設定.....	118
(2) パスヘルスチェックの設定.....	118
(3) 自動フェイルバックの設定.....	119
(4) 間欠障害監視の設定.....	119
(5) ダイナミック I/O パスコントロールの設定.....	120
(6) LU の動的削除の設定.....	120
(7) 障害ログ採取レベルの設定.....	121
(8) トレースレベルの設定.....	121
(9) 障害ログファイルサイズの設定.....	122
(10) 障害ログファイル数の設定.....	122
(11) トレースファイルサイズの設定.....	122
(12) トレースファイル数の設定.....	123
(13) 監査ログ採取の設定.....	123
3.7.3 変更後の設定の確認.....	124
3.8 統合トレースの設定.....	124
3.9 HDLM の設定解除.....	127
3.9.1 HDLM をアンインストールする前の準備.....	127
3.9.2 HDLM をアンインストールする場合の注意.....	127
3.9.3 HDLM のアンインストール.....	128
(1) クラスタ環境以外の場合.....	128
(2) MSCS または VCS を使用している場合.....	130
(3) Oracle RAC を使用している場合.....	131
3.9.4 Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2) のアンインストール.....	132
3.9.5 パーシステントリザーブの解除.....	133
4. HDLM の運用.....	135
4.1 HDLM を使用する場合の注意事項.....	136

4.1.1 ストレージ管理プログラム使用時の注意事項	136
4.1.2 Windows のアップグレード時の注意事項	136
4.1.3 MSCS 環境での注意事項	136
(1) パスの本数が実際より少なく表示される現象について	136
(2) MSCS 環境で発生するシステムイベントについて	136
4.1.4 Symantec Backup Exec for Windows, Veritas NetBackup の Intelligent Disaster Recovery 機能を使用する場合の注意事項	136
4.1.5 Windows Server 2008 および Windows Server 2012 を使用する場合の注意事項	137
4.2 HDLM GUI を使用した HDLM の運用	137
4.2.1 HDLM GUI を使用する場合の注意事項	137
4.2.2 GUI ヘルプを参照する	137
4.3 コマンドを使用した HDLM の運用	138
4.3.1 コマンドを使用する場合の注意事項	138
4.3.2 パスの情報を参照する	138
4.3.3 パスの状態を変更する	139
(1) パスの状態を Online 状態にする場合	139
(2) パスの状態を Offline(C)状態にする場合	139
4.3.4 LU の情報を参照する	140
4.3.5 パスの統計情報を初期値にする	141
4.3.6 動作環境を参照または設定する	141
(1) 動作環境を参照する	141
(2) 動作環境を設定する	142
4.3.7 ライセンス情報を参照する	143
4.3.8 ライセンスを更新する	143
4.3.9 HDLM のバージョン情報を参照する	143
4.3.10 HDLM のコンポーネント情報を参照する	144
4.4 Windows の管理ツール（パフォーマンス）を使用してパス情報を確認する	145
4.5 HDLM マネージャの起動と停止	146
4.5.1 HDLM マネージャの起動	146
4.5.2 HDLM マネージャの停止	146
4.6 HDLM の常駐プロセス	147
4.7 HDLM 運用環境の構成変更	147
4.7.1 追加した LU およびパスを HDLM の管理対象にする	147
(1) 追加した LU を HDLM の管理対象にする	148
(2) 追加したパスを確認する	149
4.7.2 LU を動的に削除する	150
(1) LU が動的に削除される条件	150
(2) LU またはパスが動的に削除されていることを確認する	150
(3) 削除された LU またはパスを復旧する	152
5. トラブルシュート	153
5.1 HDLM 障害情報収集ユーティリティ（DLMgetras）を使った障害情報の収集	154
5.2 メッセージでの障害情報の確認	154
5.3 パス障害時の対処	155
5.3.1 メッセージの監視	157
5.3.2 パス情報の取得	157
5.3.3 障害パスの抽出	157
5.3.4 障害発生ハードウェアの絞り込み	157
5.3.5 障害個所の特定・ハードウェアへの障害対処	157
5.3.6 パスを稼働状態に変更	157
5.4 プログラム障害時の対処	158
5.4.1 メッセージの監視	158
5.4.2 プログラム情報の取得	158
5.4.3 プログラム障害への対処	159

5.4.4 HDLM の購入元会社, または保守会社に連絡.....	159
5.5 パスやプログラム以外の障害時の対処.....	159
6. コマンドリファレンス.....	161
6.1 コマンド概要.....	162
6.2 clear パスの統計情報を初期値にする.....	162
6.2.1 形式.....	163
(1) パスの統計情報を初期値 (0) にする場合.....	163
(2) clear オペレーションの形式を表示する場合.....	163
6.2.2 パラメタ.....	163
(1) パスの統計情報を初期値 (0) にする場合.....	163
(2) clear オペレーションの形式を表示する場合.....	163
6.3 help オペレーションの形式を表示する.....	164
6.3.1 形式.....	164
6.3.2 パラメタ.....	164
6.4 offline パスを閉塞状態にする.....	165
6.4.1 形式.....	165
(1) パスを閉塞状態にする場合.....	165
(2) offline オペレーションの形式を表示する場合.....	166
6.4.2 パラメタ.....	166
(1) パスを閉塞状態にする場合.....	166
(2) offline オペレーションの形式を表示する場合.....	168
6.5 online パスを稼働状態にする.....	169
6.5.1 形式.....	169
(1) パスを稼働状態にする場合.....	169
(2) online オペレーションの形式を表示する場合.....	169
6.5.2 パラメタ.....	169
(1) パスを稼働状態にする場合.....	169
(2) online オペレーションの形式を表示する場合.....	171
6.6 set 動作環境を設定する.....	172
6.6.1 形式.....	172
(1) HDLM の動作環境を設定する場合.....	172
(2) set オペレーションの形式を表示する場合.....	172
6.6.2 パラメタ.....	173
(1) HDLM の動作環境を設定する場合.....	173
(2) set オペレーションの形式を表示する場合.....	182
6.7 view 情報を表示する.....	183
6.7.1 形式.....	183
(1) プログラム情報を表示する場合.....	183
(2) パス情報を表示する場合.....	184
(3) LU 情報を表示する場合.....	184
(4) view オペレーションの形式を表示する場合.....	185
6.7.2 パラメタ.....	185
(1) プログラム情報を表示する場合.....	185
(2) パス情報を表示する場合.....	189
(3) LU 情報を表示する場合.....	199
(4) view オペレーションの形式を表示する場合.....	206
6.8 delete パスを動的に削除する.....	206
6.8.1 形式.....	206
(1) パスを動的に削除する場合.....	206
(2) delete オペレーションの形式を表示する場合.....	206
6.8.2 パラメタ.....	207
(1) パスを動的に削除する場合.....	207
(2) delete オペレーションの形式を表示する場合.....	207

7. ユティリティリファレンス.....	209
7.1 ユティリティ概要.....	210
7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ.....	210
7.2.1 形式.....	211
(1) コマンドプロンプトから HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行する場合..	211
(2) Windows の [スタート] メニューから HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行する場合.....	211
7.2.2 パラメタ.....	211
7.2.3 収集される障害情報.....	212
7.3 dlmpr HDLM パーシステントリザーブ解除ユティリティ.....	217
7.3.1 形式.....	217
7.3.2 パラメタ.....	217
(1) MSCS 環境で dlmpr ユティリティを実行する手順.....	218
(2) VCS 環境で dlmpr ユティリティを実行する手順.....	219
7.4 dlmprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ.....	219
7.4.1 形式.....	219
7.4.2 パラメタ.....	219
7.5 dlmchkpath HDLM パス状態確認ユティリティ.....	220
7.5.1 形式.....	221
7.5.2 パラメタ.....	221
7.6 dlmhostinfo HDLM インストール情報確認ユティリティ.....	222
7.6.1 形式.....	222
7.6.2 パラメタ.....	222
7.7 installhdlm HDLM インストールユティリティ.....	223
7.7.1 形式.....	223
7.7.2 パラメタ.....	223
7.7.3 インストール情報設定ファイルの定義内容.....	224
7.7.4 ログファイルについて.....	230
7.8 removehdlm HDLM アンインストールユティリティ.....	230
7.8.1 形式.....	230
7.8.2 パラメタ.....	230
8. メッセージ.....	233
8.1 メッセージ一覧を参照するための前提知識.....	234
8.1.1 メッセージ ID の出力形式と意味.....	234
8.1.2 メッセージおよびメッセージの説明で使用する用語.....	234
8.1.3 メッセージの言語種別.....	234
8.2 KAPL01001~KAPL02000.....	235
8.3 KAPL02001~KAPL03000.....	253
8.4 KAPL03001~KAPL04000.....	264
8.5 KAPL04001~KAPL05000.....	265
8.6 KAPL05001~KAPL06000.....	271
8.7 KAPL07001~KAPL08000.....	274
8.8 KAPL08001~KAPL09000.....	275
8.9 KAPL09001~KAPL10000.....	277
8.10 KAPL10001~KAPL11000.....	296
8.11 KAPL11001~KAPL12000.....	302
8.12 KAPL12001~KAPL13000.....	305
8.13 KAPL13001~KAPL14000.....	310
8.14 KAPL15001~KAPL16000.....	313
8.15 Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントのリターンコード.....	315

8.16 HDLM が出力する Windows イベントログ.....	318
付録 A バージョン間の機能差異.....	321
A.1 6.6 以降と 6.6 より前のバージョンとの機能差異.....	322
A.2 6.2 以降と 6.2 より前のバージョンとの機能差異.....	322
A.3 6.0.1 以降と 6.0.1 より前のバージョンとの機能差異.....	322
A.4 6.0 以降と 6.0 より前のバージョンとの機能差異.....	322
A.5 05-94 以降と 05-94 より前のバージョンとの機能差異.....	322
A.6 05-91 以降と 05-91 より前のバージョンとの機能差異.....	323
A.7 05-90 以降と 05-90 より前のバージョンとの機能差異.....	323
A.8 パスの遷移と自動切り替え.....	323
A.8.1 Online 状態のパスの遷移.....	323
A.8.2 Online(E)状態, Offline(C)状態, および Offline(E)状態のパスの自動切り替え.....	323
A.9 LU の動的削除機能の差異.....	324
A.10 Windows のドライブ文字表示の差異.....	325
A.11 デフォルト値の差異.....	325
A.12 MSCS 環境でのロードバランス機能の差異.....	325
付録 B このマニュアルの参考情報.....	327
B.1 関連マニュアル.....	328
B.2 このマニュアルでの表記.....	328
B.3 このマニュアルで使用している略語.....	330
B.4 KB (キロバイト) などの単位表記について.....	332
用語解説.....	333
索引.....	339

目次

図 1-1 ホストとストレージシステムとの接続形態.....	22
図 2-1 FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成.....	27
図 2-2 iSCSI HBA を使用する IP-SAN のシステム構成.....	28
図 2-3 iSCSI ソフトウェアと NIC を使用する IP-SAN のシステム構成.....	28
図 2-4 HDLM をインストールしたあとにホスト側で認識される LU の構成.....	30
図 2-5 HDLM のプログラム構成.....	31
図 2-6 HDLM ドライバと MPIO ドライバの位置づけ.....	32
図 2-7 ロードバランス機能を使用していない場合の I/O の流れ.....	33
図 2-8 ロードバランス機能を使用している場合の I/O の流れ.....	34
図 2-9 ロードバランス.....	35
図 2-10 パスの切り替え.....	39
図 2-11 パスの状態遷移.....	42
図 2-12 パスに間欠障害が発生していると見なす場合の動作.....	45
図 2-13 パスに間欠障害が発生していないと見なす場合の動作.....	45
図 2-14 間欠障害の監視中に間欠障害と見なす条件を変更した場合の動作.....	46
図 2-15 障害情報を採取するときのデータの流れ.....	50
図 2-16 HDLM と Global Link Manager を使用したシステム構成例.....	58
図 2-17 クラスタ構成時のパス切り替え.....	59
図 3-1 環境構築の流れ.....	69
図 3-2 シングルパス構成およびマルチパス構成.....	79
図 3-3 リモートインストールの流れ.....	81
図 3-4 JP1/NETM/DM を使用して HDLM をリモートインストールする場合のシステム構成.....	82
図 3-5 シングルパス構成およびマルチパス構成.....	88
図 3-6 シングルパス構成およびマルチパス構成.....	105
図 3-7 Hitachi Network Objectplaza Trace Utility 2 Release 2.0 ダイアログボックス.....	126
図 3-8 シングルパス構成およびマルチパス構成.....	129
図 3-9 シングルパス構成およびマルチパス構成.....	130
図 4-1 LU の追加をコマンドで確認する例.....	148
図 4-2 パスの追加をコマンドで確認する例.....	149
図 4-3 KAPL05301-E の表示例.....	151
図 4-4 KAPL05301-E メッセージに出力されるデータの例.....	151
図 5-1 KAPL08022-E が出力される場合の障害箇所.....	156
図 5-2 パス障害時の対処手順.....	156
図 5-3 プログラム障害時の対処手順.....	158

表目次

表 2-1 FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成要素.....	27
表 2-2 IP-SAN を使用する HDLM のシステム構成要素.....	29
表 2-3 ホスト側で認識される要素.....	30
表 2-4 HDLM の各プログラムの役割.....	31
表 2-5 ロードバランスのアルゴリズムの特長.....	36
表 2-6 ユーザの操作による、間欠障害情報の変化.....	47
表 2-7 障害情報の種類.....	51
表 2-8 障害レベル.....	52
表 2-9 監査ログの種類と説明.....	53
表 2-10 監査ログに出力する種別と監査事象.....	54
表 2-11 指定できる重要度 (Severity)	56
表 2-12 メッセージ部に出力される情報.....	57
表 3-1 ホストの適用 OS.....	62
表 3-2 HDLM に同梱している Microsoft MPIO ドライバのバージョン.....	63
表 3-3 適用ストレージシステム.....	63
表 3-4 Hitachi RapidXchange 管理の中間ボリュームでデータ交換をする場合の関連プログラム.....	65
表 3-5 HDLM がサポートするクラスタソフトウェア.....	65
表 3-6 ボリュームマネージャを使用する場合の関連プログラム.....	67
表 3-7 ホストのメモリ所要量.....	68
表 3-8 ホストのディスク占有量.....	68
表 3-9 HDLM がサポートする LU 数とパス数.....	69
表 3-10 条件を満たさないフォルダを指定して HDLM をインストールした場合に発生する現象および対処.....	74
表 3-11 「MISSCOUNT」の計算式.....	76
表 3-12 「DISKTIMEOUT」の計算式.....	76
表 3-13 firewall_setup コマンドの構文.....	115
表 3-14 各機能のデフォルト値と推奨値.....	117
表 3-15 LU の動的削除の設定値.....	120
表 3-16 障害ログ採取レベルの設定値.....	121
表 3-17 トレースレベルの設定値.....	121
表 3-18 監査ログ採取レベルの設定値.....	123
表 3-19 監査ログ種別の設定値.....	124
表 3-20 統合トレースファイルの設定のデフォルト値と推奨値.....	125
表 4-1 カウンタの一覧.....	145
表 4-2 インスタンスの選択項目.....	145
表 4-3 HDLM の常駐プロセス一覧.....	147
表 4-4 KAPL05301-E メッセージに表示されるパス情報の項目と説明.....	151
表 6-1 HDLM コマンドのオペレーション一覧.....	162

表 6-2 各設定のデフォルト値と推奨値.....	173
表 6-3 障害ログ採取レベルの設定値.....	174
表 6-4 トレースレベルの設定値.....	175
表 6-5 自動フェイルバックおよび間欠障害監視の設定状況と、実行できる操作の関係.....	178
表 6-6 ライセンスキー種別.....	180
表 6-7 LU の動的削除機能の設定値.....	181
表 6-8 監査ログ採取レベルの設定値.....	181
表 6-9 監査ログ種別の設定値.....	181
表 6-10 プログラム情報の表示項目.....	185
表 6-11 -path -item パラメタで選択できる表示項目と指定する後続パラメタ.....	191
表 6-12 パス情報の表示項目.....	194
表 6-13 パス名を構成する項目.....	197
表 6-14 プロダクト ID の表示内容.....	197
表 6-15 -lu -item パラメタで追加できる表示項目と指定する後続パラメタ.....	200
表 6-16 -lu -c -item パラメタで追加できる表示項目と指定する後続パラメタ.....	202
表 6-17 LU 情報の表示項目.....	203
表 7-1 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) が収集する障害情報の一覧.....	212
表 7-2 インストール情報.....	223
表 7-3 セクション[INSTALLATION_SETTINGS]のキー.....	224
表 7-4 セクション[ENVIRONMENT_SETTINGS]のキー.....	226
表 8-1 メッセージ ID (KAPLnnnnn-I) の形式と意味.....	234
表 8-2 メッセージとメッセージの説明で使用する用語.....	234
表 8-3 Windows イベントログ一覧表 (アプリケーションログ)	318
表 8-4 Windows イベントログ一覧表 (システムログ)	319



はじめに

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトの機能と使用方法について説明したものです。

- Hitachi Dynamic Link Manager

- 対象読者
- マニュアルの構成
- マイクロソフト製品の表記について
- 読書手順
- このマニュアルで使用している記号
- コマンドまたはユティリティの文法で使用している記号
- ファイル名で使用している記号
- マニュアルの提供形態について

対象読者

このマニュアルは、Hitachi Dynamic Link Manager（以降、HDLM と表記します）を使ってストレージシステムの運用・管理をするシステム管理者を対象としています。また、次のことについて理解していることを前提としています。

- Windows の概要および管理機能
- ストレージシステムの管理機能
- クラスタソフトウェアの機能
- ボリューム管理ソフトウェアの機能

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

1. HDLM の概要

HDLM の概要と特長について説明しています。

2. HDLM の機能

HDLM の管理対象、システム構成、基本的な用語、および機能について説明しています。

3. HDLM の環境構築

HDLM の環境を構築する手順および設定を解除する手順について説明しています。

4. HDLM の運用

HDLM GUI、HDLM のコマンドを使用して HDLM を操作する方法、HDLM マネージャを手動で起動または停止するための操作手順について説明しています。また、パスが接続する HDLM 管理対象のデバイスの変更、パスを構成するハードウェアの交換など、HDLM を運用する環境の構成を変更する場合の操作について説明しています。

Windows の管理ツールを使用してパス情報を確認する方法についても説明しています。

5. トラブルシューティング

パスに障害が発生した場合、HDLM に障害が発生した場合、などの対処方法について説明しています。

6. コマンドリファレンス

HDLM で使用するコマンドについて説明しています。

7. ユティリティリファレンス

HDLM で使用するユティリティについて説明しています。

8. メッセージ

HDLM から出力されるメッセージを参照するときに知っておいてほしい情報について説明しています。そのあと、HDLM から出力されるメッセージ、およびその対処について説明しています。

付録 A. バージョン間の機能差異

HDLM のバージョンによる機能の差異について説明しています。

付録 B. このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明しています。

用語解説

このマニュアルで使用している用語について説明しています。

マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Internet Explorer	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft® Internet Explorer®• Windows® Internet Explorer®
MSCS	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft® Cluster Service• Microsoft® Failover Cluster
Windows	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2003• Windows Server 2008• Windows Server 2012
Windows Server 2003	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2003(IPF)• Windows Server 2003(x64)• Windows Server 2003(x86)
Windows Server 2003(IPF)	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft® Windows Server® 2003, Datacenter Edition for Itanium®-based Systems• Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium®-based Systems
Windows Server 2003(x64)	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft® Windows Server® 2003, Datacenter x64 Edition• Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition• Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition• Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Datacenter x64 Edition• Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition• Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition• Microsoft® Windows® Storage Server 2003, Enterprise x64 Edition• Microsoft® Windows® Storage Server 2003, Standard x64 Edition• Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition• Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Express x64 Edition• Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard x64 Edition• Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Workgroup x64 Edition
Windows Server 2003(x86)	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition• Microsoft® Windows Server® 2003, Web Edition• Microsoft® Windows Server® 2003, Datacenter Edition• Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition• Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Datacenter Edition• Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition

表記	製品名
	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Enterprise Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Express Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Workgroup Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003, Standard Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003, Enterprise Edition
Windows Server 2003 R2	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Datacenter Edition • Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Datacenter x64 Edition • Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition • Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition • Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition • Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Enterprise Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Express Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Express x64 Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard x64 Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Workgroup Edition • Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Workgroup x64 Edition
Windows Server 2008	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008(IPF) • Windows Server 2008(x64) • Windows Server 2008(x86) • Windows Server 2008 R2 • Windows Server 2008 R2(x64)
Windows Server 2008(IPF)	Microsoft® Windows Server® 2008 for Itanium®-Based Systems
Windows Server 2008(x64)	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter • Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V® • Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise • Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V® • Microsoft® Windows Server® 2008 Standard • Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V®
Windows Server 2008(x86)	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-bit • Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V® 32-bit

表記	製品名
	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V® 32-bit Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V® 32-bit
Windows Server 2008 R2	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 R2 for Itanium®-Based Systems Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard Microsoft® Windows® Web Server 2008 R2
Windows Server 2012	Windows Server 2012(x64)
Windows Server 2012(x64)	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2012 Foundation Microsoft® Windows Server® 2012 Standard

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて直接章を選択して読むことができます。利用目的別に、次の表に従ってお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
HDLM の概要と特長を知りたい。	第 1 章
HDLM のシステム構成と機能を知りたい。	第 2 章
HDLM を使用するための、環境構築の手順を知りたい。	第 3 章
HDLM のコマンドを使用して HDLM を操作する方法を知りたい。	第 4 章
HDLM を運用する環境の構成を変更する場合の操作方法を知りたい。	第 4 章
運用時の注意事項について知りたい。	第 4 章
HDLM でパスの構成や状態を確認する方法を知りたい。	第 4 章
ライセンスの更新について知りたい。	第 4 章
障害対処の手順を知りたい。	第 5 章
HDLM のコマンドについて知りたい。	第 6 章
HDLM のユティリティについて知りたい。	第 7 章
HDLM 使用時に出力されるメッセージについて知りたい。	第 8 章
HDLM のバージョンによる機能の差異について知りたい。	付録 A
このマニュアルを読むに当たっての参考情報について知りたい。	付録 B
HDLM で使用する用語について知りたい。	用語解説

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用しています。

記号	意味
[]	画面、メニュー、ボタン、キーボードのキーなどを示します。 表示項目を連続して選択する場合には、[] を一でつないで説明しています。 (例) [Ctrl] + [C] 上記の例では、Ctrl キーと C キーを同時に押すことを示します。

コマンドまたはユーティリティの文法で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号をコマンドおよびユーティリティの文法説明に使用しています。

文法記述記号	意味
[]	この記号で囲まれている項目は省略できます。 []内に、「 」で区切られた項目が複数ある場合は、どれか1つだけを指定するか、またはすべて省略できます。なお、項目に下線がある場合は、すべての項目を省略したときに、その項目が仮定されます。
{ }	この記号で囲まれている、「 」で区切られた項目のうちから、どれか1つだけを必ず指定します。
...	記述の省略の意味です。
正字体で記述された部分	キーワードとしてそのまま入力することを示します。 (例) dlnkmgr help
斜字体で記述された部分	該当する要素を指定することを示します。 (例) dlnkmgr online [-path] [-pathid パス管理 <i>PATH_ID</i>] [-s] 上記の例では、パス管理 <i>PATH_ID</i> の部分に、該当する ID を指定します。
PROMPT>	コマンドを実行する画面上のプロンプトです。 PROMPT は、画面上に表示されるカレントディレクトリのパスを表します。

ファイル名で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号をファイル名に使用しています。

ファイル名記述記号	意味
[]	この記号で囲まれている文字または数値の範囲を示します。 []内の文字または数値が「-」で区切られている場合、範囲内の文字または数値を表します。

マニュアルの提供形態について

HDLM については、次の説明資料を提供しています。

- 製品添付のマニュアル「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software ユーザーズガイド (Windows®用)」
- 「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」
HDLM GUI のパス管理ウィンドウの [ヘルプ] ボタンをクリックすると、HDLM GUI ヘルプをご覧になれます。

HDLM の概要

HDLM は、ストレージシステムとホストとを結ぶ経路を管理します。HDLM を使用することで、経路に掛かる負荷を分散したり、障害発生時に経路を切り替えたりして、システムの信頼性を向上できます。

この章では、HDLM の概要と特長について説明します。

- 1.1 HDLM とは
- 1.2 HDLM の特長

1.1 HDLM とは

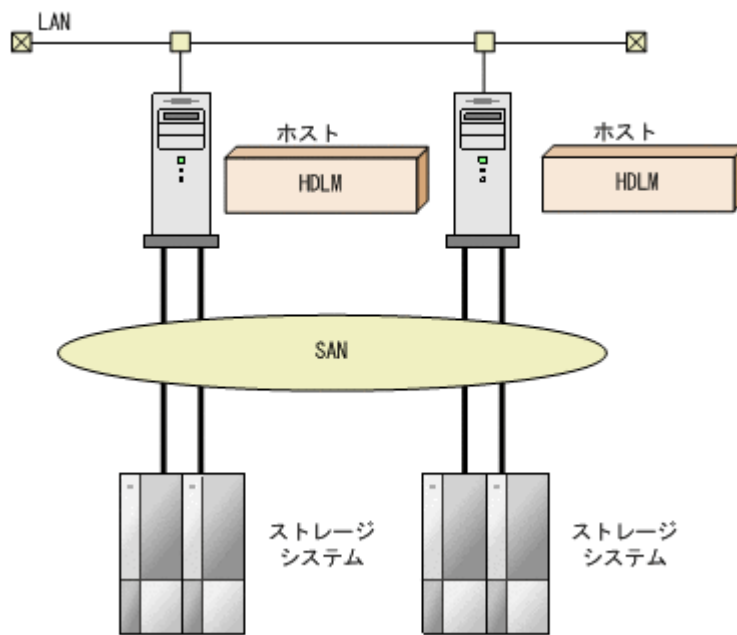
データウェアハウスの普及やマルチメディアデータの利用拡大によって、ネットワーク上で大容量のデータを高速に利用する要求が高まっています。このような要求に応えるために、SAN などのデータ転送専用のネットワークを使用してストレージシステムへアクセスする運用が始められています。

HDLM はストレージシステムへのアクセス経路を管理するプログラムです。

HDLM は、経路に掛かる負荷を分散してバランスを取ったり、経路の障害時にほかの経路に切り替えたりする機能を持ちます。HDLM を使用することでシステムの可用性と信頼性を向上させることができます。

ホストとストレージシステムとの接続形態を次の図に示します。HDLM がインストールされているサーバを、ホストと呼びます。

図 1-1 ホストとストレージシステムとの接続形態



HDLM がサポートするストレージシステムについては、「3.1.2 HDLM がサポートするストレージシステム」を参照してください。

1.2 HDLM の特長

HDLM には次の特長があります。

経路に掛かる負荷を分散できます (ロードバランス)

ホストとストレージシステムを複数の経路で接続している場合、負荷をそれぞれの経路へ分散します。こうすることで、1つの経路に負荷が偏って処理速度が遅くなることを防げます。

ロードバランスについては、「2.6 ロードバランスによる負荷分散」を参照してください。

障害発生時にも処理を継続できます (フェイルオーバー)

ホストとストレージシステムを複数の経路で接続している場合、使用中の経路に障害が発生したときに、自動的に経路が切り替えられます。こうすることで、経路に障害が発生しても処理を継続できます。

フェイルオーバーについては、「[2.7 パス切り替えによるフェイルオーバーとフェイルバック](#)」を参照してください。

障害から回復した経路を稼働状態にできます (フェイルバック)

経路が障害から回復したときに、経路の状態を稼働状態にできます。こうすることで、稼働状態の経路をできるだけ多く確保します。

経路のフェイルバックは、手動または自動で実行できます。自動フェイルバックは、ユーザーによって物理的な経路の障害を復旧したあと、**HDLM** が経路を自動的に稼働状態にします。

フェイルバックについては、「[2.7 パス切り替えによるフェイルオーバーとフェイルバック](#)」を参照してください。

一定の時間間隔で経路の状態を自動で確認できます (パスヘルスチェック)

ユーザーが指定した時間間隔で経路の状態を確認し、障害を検出します。これによって、ユーザーは経路の障害を把握し、必要な対処を取ることができます。

パスヘルスチェックについては、「[2.9 パスヘルスチェックによる障害検出](#)」を参照してください。

GUI で HDLM を視覚的に操作できます (HDLM GUI)

ホストと日立製ストレージシステムの経路情報を、構成図の形式や一覧の形式で GUI に表示できます。また、GUI で経路の状態を変更できます。

さらに、GUI で HDLM の動作環境を設定できます。

HDLM GUI については、「[Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ](#)」を参照してください。

HDLM の機能

この章では、HDLM の機能について説明します。はじめに HDLM の管理対象、システム構成、および基本的な用語について説明します。そのあとで経路への負荷分散や経路切り替えなどの機能について説明します。

- 2.1 HDLM で管理するデバイス
- 2.2 システム構成
- 2.3 LU 構成
- 2.4 プログラム構成
- 2.5 HDLM ドライバと MPIO ドライバの位置づけ
- 2.6 ロードバランスによる負荷分散
- 2.7 パス切り替えによるフェイルオーバーとフェイルバック
- 2.8 間欠障害の監視（自動フェイルバック使用時の機能）
- 2.9 パスヘルスチェックによる障害検出
- 2.10 ダイナミック I/O パスコントロール機能による負荷分散
- 2.11 動的再構成
- 2.12 障害管理
- 2.13 監査ログの採取
- 2.14 Global Link Manager による HDLM の統合管理
- 2.15 クラスタ対応

2.1 HDLM で管理するデバイス

HDLM が管理できるデバイスと、管理できないデバイスを次に示します。HDLM が管理するデバイスを HDLM 管理対象デバイスと呼びます。

HDLM が管理できるデバイス

「1.1 HDLM とは」で示したストレージシステムの次のデバイスを管理します。

- SCSI デバイス
- コマンドデバイス (例: 日立製 RAID Manager のコマンドデバイス)

HDLM が管理できないデバイス

- 「1.1 HDLM とは」で示したストレージシステム以外の SCSI デバイス
- ホストの内蔵ディスク
- ディスク以外のデバイス (例: テープデバイス)

2.2 システム構成

HDLM は、FC-SAN および IP-SAN の 2 つの SAN 環境で使用できます。

2.2.1 FC-SAN を使用するシステム構成

FC-SAN では、ホストとストレージシステムは、ファイバケーブルで接続します。ホスト側のケーブルの接続口はホストバスアダプタ (HBA)、ストレージシステム側のケーブルの接続口はチャンネルアダプタ (CHA) の持つポート (P) です。

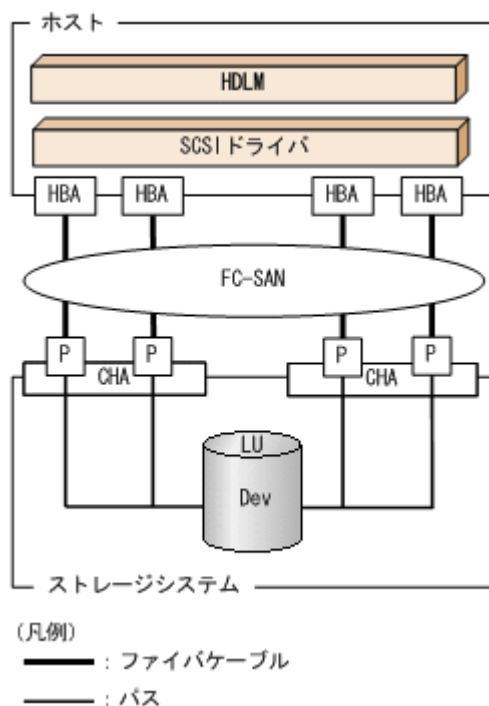
ストレージシステムにはホストからの入出力対象になる論理ユニット (LU) があります。LU 内の領域を Dev と呼びます。

ホストと LU 内の Dev を結ぶ経路をパスと呼びます。

HDLM は、管理するパスに ID を割り当てます。この ID をパス管理 PATH_ID と呼びます。また、パスを管理対象物と呼ぶこともあります。

FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成を次の図に示します。

図 2-1 FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成



FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成要素を次の表に示します。

表 2-1 FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成要素

構成要素	説明
HBA	ホストバスアダプタです。ホスト側のケーブルの接続口です。
FC-SAN	ホストマシンとストレージシステムがデータ転送に使用する、専用のネットワークです。
CHA	チャネルアダプタです。
P	CHA のポートです。ストレージシステム側のケーブルの接続口です。
LU	論理ユニットです。ホストからの入出力対象となる、ネットワークからアクセスできるユニットです。
Dev	LU 内の領域です。
バス	ホストと LU 内の Dev を結ぶ経路です。

2.2.2 IP-SAN を使用するシステム構成

IP-SAN では、ホストとストレージシステムは、LAN ケーブルで接続します。ホスト側のケーブルの接続口は iSCSI 用ホストバスアダプタ (iSCSI HBA) またはネットワークインタフェースカード (NIC) です。NIC を使用する場合は、ホストに iSCSI ソフトウェアがインストールされている必要があります。ストレージシステム側のケーブルの接続口は、iSCSI 接続に使用するチャネルアダプタ (CHA) の持つポート (P) です。

ストレージシステムには、ホストからの入出力対象になる論理ユニット (LU) があります。LU 内の領域を Dev と呼びます。

ホストと LU 内の Dev を結ぶ経路をバスと呼びます。

HDLM は、管理するバスに ID を割り当てます。この ID をバス管理 PATH_ID と呼びます。また、バスを管理対象物と呼ぶこともあります。

iSCSI HBA を使用する IP-SAN のシステム構成を「[図 2-2 iSCSI HBA を使用する IP-SAN のシステム構成](#)」に示します。iSCSI ソフトウェアおよび NIC を使用する IP-SAN のシステム構成を「[図 2-3 iSCSI ソフトウェアと NIC を使用する IP-SAN のシステム構成](#)」に示します。

図 2-2 iSCSI HBA を使用する IP-SAN のシステム構成

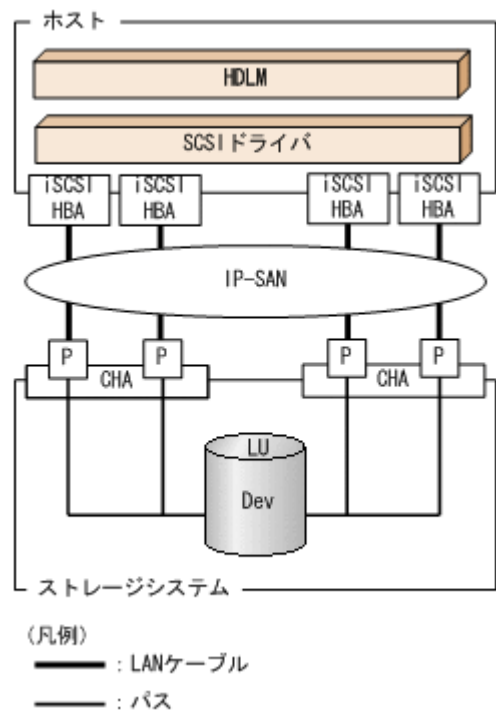
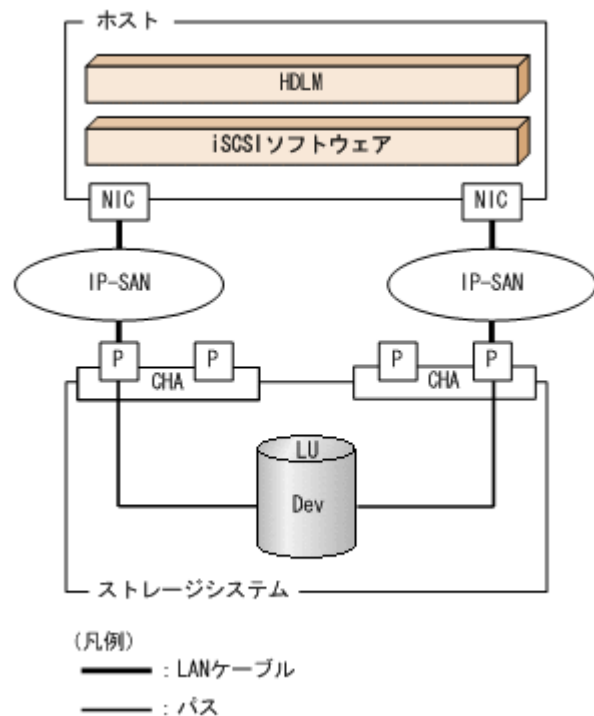


図 2-3 iSCSI ソフトウェアと NIC を使用する IP-SAN のシステム構成



IP-SAN を使用する HDLM のシステム構成要素を次の表に示します。

表 2-2 IP-SAN を使用する HDLM のシステム構成要素

構成要素	説明
iSCSI ソフトウェア	iSCSI のイニシエータ機能を持つドライバソフトウェアです。
iSCSI HBA	iSCSI のイニシエータ機能を持つホストバスアダプタです。ホスト側のケーブルの接続口です。HDLM コマンド, HDLM GUI では HBA と表示します。このマニュアルでは HBA と呼ぶことがあります。
NIC	ネットワークインタフェースカードです。ホスト側のケーブルの接続口です。HDLM コマンド, HDLM GUI では HBA と表示します。このマニュアルでは HBA と呼ぶことがあります。
IP-SAN	iSCSI 規格を用いてホストとストレージシステムを接続する、データ転送用のネットワークです。
CHA	iSCSI 接続に使用するチャネルアダプタです。
P	CHA のポートです。ストレージシステム側のケーブルの接続口です。
LU	論理ユニットです。ホストからの入出力対象となる、ネットワークからアクセスできるユニットです。
Dev	LU 内の領域です。
パス	ホストと LU 内の Dev を結ぶ経路です。

(1) iSCSI ソフトウェアと iSCSI HBA の設定範囲

iSCSI ソフトウェアと iSCSI HBA の設定範囲を、次に示します。設定するときの注意点は、iSCSI ソフトウェアおよび iSCSI HBA のマニュアルを参照してください。

- IP アドレスの設定
 - パスで接続する HBA と CHA ポートのネットワークアドレスは、同一にしてください。
- その他
 - ほかのホストと IP-SAN を共有できます。
 - 1つの HBA から複数の CHA ポートへ接続できます。

iSCSI ソフトウェアと複数の NIC を使用する場合、それぞれの NIC は別々の IP ネットワークを通じて、別々の CHA ポートを使用してストレージシステムと接続してください。構成例は「[図 2-3 iSCSI ソフトウェアと NIC を使用する IP-SAN のシステム構成](#)」を参照してください。

(2) HDLM がサポートするストレージシステム

IP-SAN に使用できるストレージシステムは、SANRISE9900V シリーズ, Hitachi AMS シリーズ, Hitachi WMS シリーズ, Hitachi Universal Storage Platform 100, Hitachi Universal Storage Platform 600, Hitachi Universal Storage Platform 1100, Hitachi NSC55, および Hitachi SMS シリーズです。

2.3 LU 構成

HDLM をインストールすると、ホスト側での LU 構成の認識が、次のように変わります。

HDLM をインストールする前

ホストの「ディスクの管理」画面では、SCSI デバイスがパスごとに表示されます。

つまり、ストレージシステム側の 1つの LU が、パスと同じ数だけ存在するように見えます。

HDLM をインストールしたあと

パスごとに認識される LU が、MPIO ドライバによって、統合されます。ホストの「ディスクの管理」画面では、ストレージシステム側の LU と 1 対 1 で対応するディスクが表示されます。

このため、ストレージシステム側の 1 つの LU が、ホスト側でも 1 つに見えます。

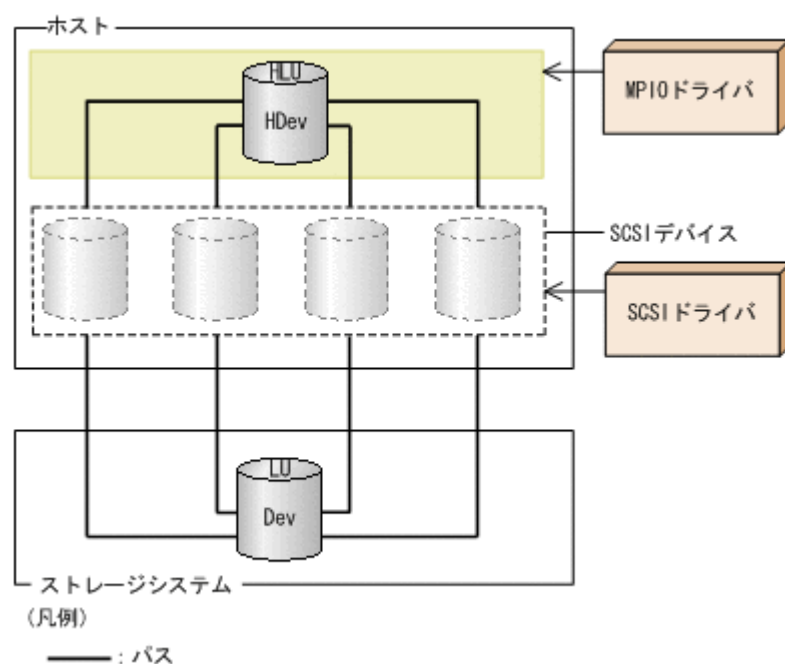
なお、SCSI デバイスは、Windows の「デバイスマネージャ」画面で表示できます。

HDLM をインストールしたあとにホストが認識する LU をホスト LU (HLU) と呼びます。ストレージシステム側の LU 内の Dev に対応する、ホスト LU 内の領域をホストデバイス (HDev) と呼びます。

HDLM を使用したシステムでは、MPIO ドライバによって統合されたディスク (Windows の「ディスクの管理」画面に表示されるディスク) にドライブレターを割り当てて、目的の LU にアクセスします。

HDLM をインストールしたあとに、ホスト側で認識される LU の構成を次の図に示します。

図 2-4 HDLM をインストールしたあとにホスト側で認識される LU の構成



ホスト側で認識される要素を次の表に示します。

表 2-3 ホスト側で認識される要素

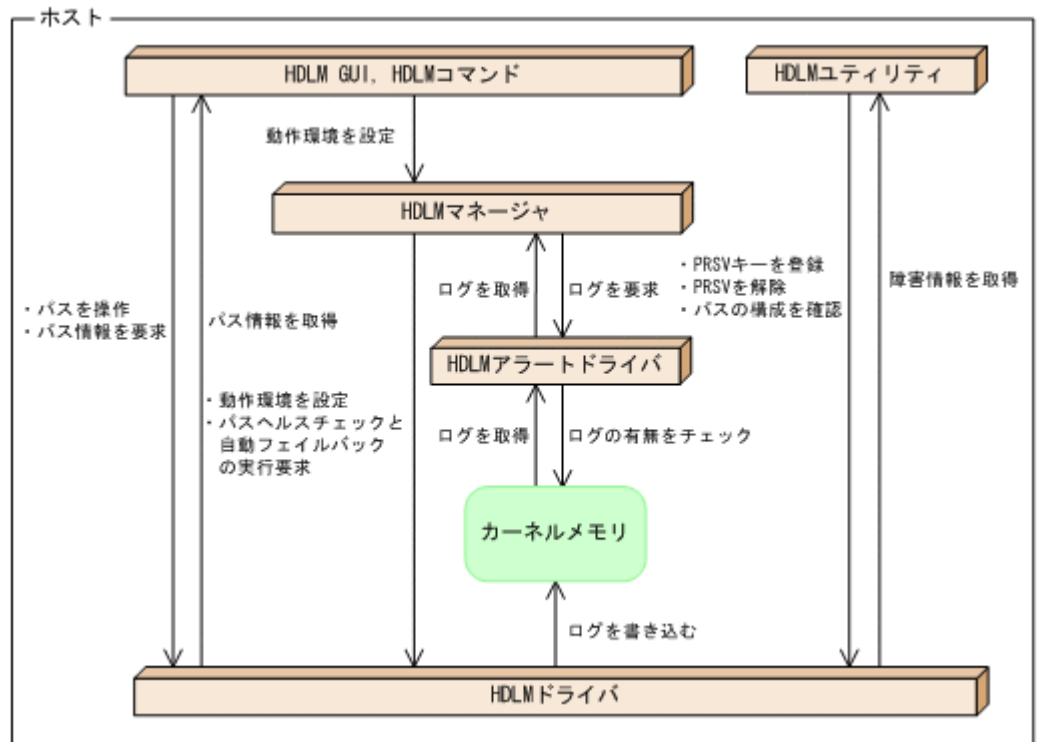
構成要素	説明
HLU	HDLM ドライバを通してホストが認識する LU です。ホスト LU と呼びます。パスの数に関係なく、ストレージシステム側の 1 つの LU に対して 1 つのホスト LU が認識されます。
HDev	HDLM ドライバを通してホストが認識する、LU 内の Dev です。ホストデバイスと呼びます。

2.4 プログラム構成

HDLM は幾つかのプログラムを組み合わせで動作します。HDLM の操作には各プログラムが関わってくるため、それぞれの名称、位置づけ、役割を把握しておいてください。

HDLM のプログラム構成を次の図に示します。

図 2-5 HDLM のプログラム構成



各プログラムの役割を次の表に示します。

表 2-4 HDLM の各プログラムの役割

プログラム名	役割
HDLM GUI	GUI を使った次の機能を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> バスの管理 障害情報の表示 HDLM の動作環境の設定
HDLM コマンド	コマンドを使った次の機能を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> バスの管理 障害情報の表示 HDLM の動作環境の設定
HDLM ユティリティ	ユティリティを使った次の機能を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> 障害情報の収集 パーシステントリザーブの解除 パーシステントリザーブキーの登録 バスの構成を確認 インストール情報を確認 HDLM のサイレントインストール HDLM のサイレントアンインストール
HDLM マネージャ	次の機能を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> HDLM の動作環境の設定 バスヘルスチェックと自動フェイルバックの実行要求 障害ログの採取
HDLM アラートドライバ	HDLM ドライバが採取するログ情報を HDLM マネージャに通知します。
HDLM ドライバ	機能の制御、バスの管理、および障害検知をします。 HDLM ドライバの構成は次のとおりです。

プログラム名	役割
	<ul style="list-style-type: none"> コアロジック部 HDLM の基本機能を制御します。 フィルタ部 I/O を送受信します。ドライバ名は hdlmdsm.sys です。

注

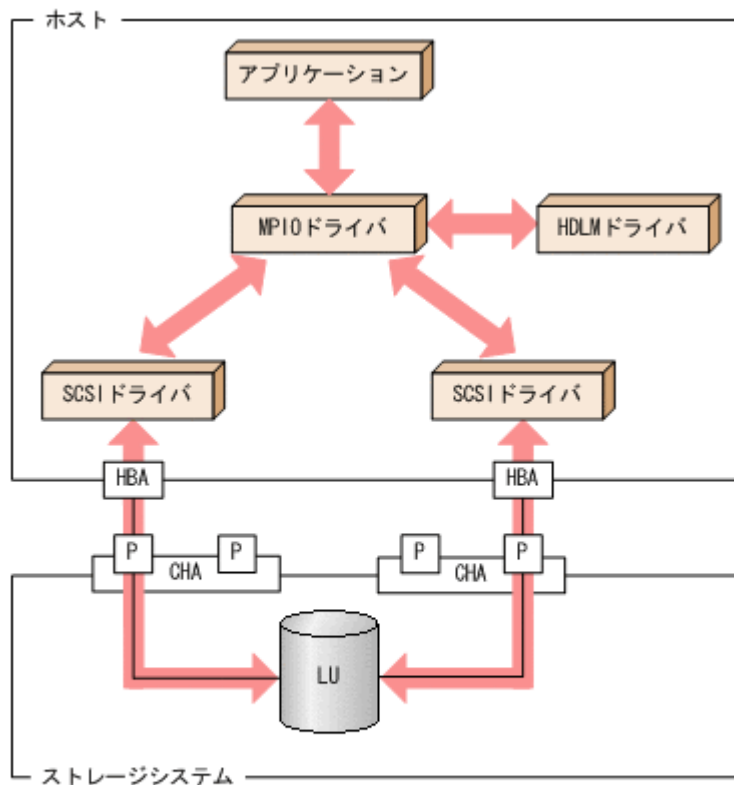
HDLM GUI を除く HDLM のプログラムを、HDLM Core コンポーネントと呼びます。

2.5 HDLM ドライバと MPIO ドライバの位置づけ


HDLM ドライバと MPIO ドライバは SCSI ドライバの上位に位置します。ホストの各アプリケーションは、HDLM ドライバと MPIO ドライバを通してストレージシステム内の LU にアクセスします。

HDLM ドライバと MPIO ドライバの位置づけを次の図に示します。

図 2-6 HDLM ドライバと MPIO ドライバの位置づけ



(凡例)

— : バス
 : I/O

2.6 ロードバランスによる負荷分散

LU に対して複数のパスが接続されている構成の場合、複数のパスを使用して I/O を発行することで、パスに掛かる負荷を分散します。この機能をロードバランスと呼びます。この機能によって、1つのパスに負荷が偏ってシステム全体の性能が劣化することを防げます。

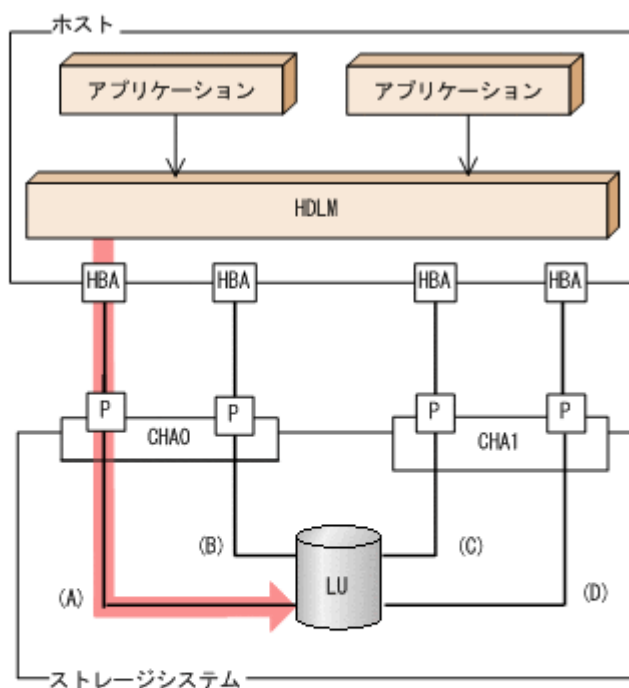
ただし、HDLM が管理する I/O には、パスごとに分配できる I/O と分配できない I/O があります。したがって、ロードバランス機能を使用してもパスごとに I/O が均等に割り振られない場合があります。例えば、RAID Manager がコマンドデバイスへ発行する IOCTL は、パスごとに分配できません。

注意事項

Microsoft iSCSI Software Initiator のユーザインタフェースで設定するロードバランス機能は、使用しないでください。

ロードバランス機能を使用していないときの I/O の流れを「[図 2-7 ロードバランス機能を使用していない場合の I/O の流れ](#)」に、ロードバランス機能を使用しているときの I/O の流れを「[図 2-8 ロードバランス機能を使用している場合の I/O の流れ](#)」に示します。どちらの図も、複数のアプリケーションから同一の LU に I/O が発行された場合の例です。

図 2-7 ロードバランス機能を使用していない場合の I/O の流れ

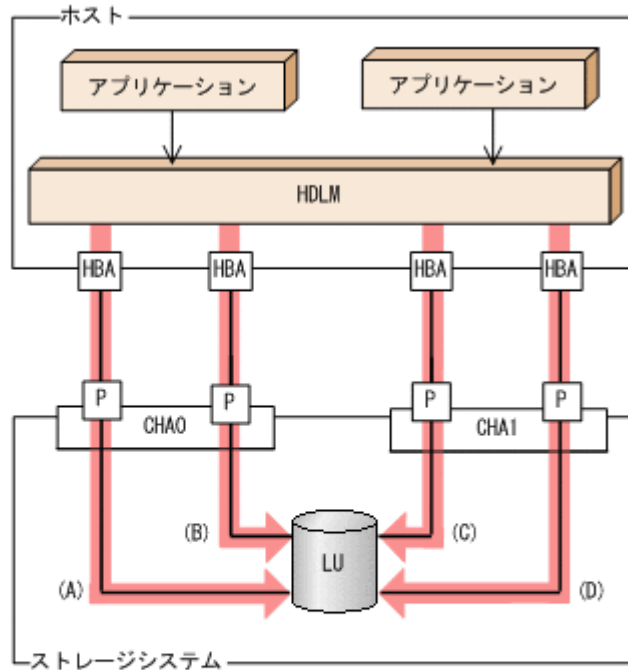


(凡例)

- : パス
- ➡ : I/Oが発行されるパス
- : I/O要求

ロードバランス機能を使用していない場合、(A)のパスに I/O が集中して発行されます。(A)のパスへの負荷がボトルネックとなり、システム全体の性能が劣化する場合があります。

図 2-8 ロードバランス機能を使用している場合の I/O の流れ



(凡例)

- : パス
- ➡ : I/Oが発行されるパス
- : I/O要求

ロードバランス機能を使用している場合、I/O は(A), (B), (C), (D)のパスへ分散して発行されます。1つのパスに負荷が偏ってシステム全体の性能が劣化することを防げます。

2.6.1 ロードバランスが適用されるパス

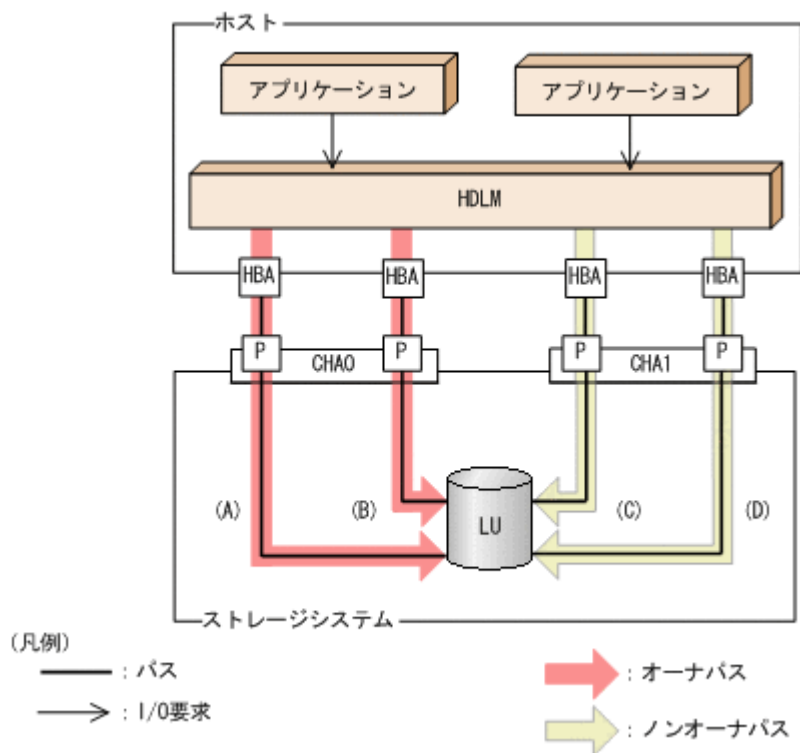
ロードバランス機能を使用したときに適用されるパスについて、ストレージシステムごとに説明します。

(1) SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズを使用している場合

ロードバランスはオーナパス同士、またはノンオーナパス同士で行われます。オーナパスとは、ストレージシステム側の LU のオーナコントローラに設定した、CHA を経由するパスです。オーナコントローラは LU ごとに異なるので、オーナパスも LU ごとに異なります。ノンオーナパスとは、オーナコントローラ以外の CHA (ノンオーナコントローラ) を経由するパスです。使用するパスは、オーナパス、ノンオーナパスの順で選択されます。システム全体の性能劣化を避けるために、オーナパスとノンオーナパスとの間でのロードバランスは行いません。障害などで、一部のオーナパスが使用できなくなった場合、残りの使用できるオーナパスの間でロードバランスが行われます。すべてのオーナパスが使用できなくなった場合、ノンオーナパスの間でロードバランスが行われま

す。「図 2-9 ロードバランス」の例で、LU のオーナコントローラが CHA0 であるとし、このとき、LU にアクセスする場合のロードバランスは、(A)と(B)のパスの間 (オーナパス同士)で行われます。障害などで、(A)のパスが使用できなくなった場合、(B)のパスだけで LU にアクセスします。(A)と(B)のパスが使用できなくなった場合、(C)と(D)のパスの間 (ノンオーナパス同士)で行われま

図 2-9 ロードバランス



(2) SANRISE9500V シリーズ, または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズ以外を使用している場合

すべてのパスがオーナパスになります。したがって、同じ LU にアクセスするすべてのパスの間でロードバランスが行われます。障害などで、一部のパスが使用できなくなった場合、残りの使用できるパスの間でロードバランスが行われます。

「図 2-8 ロードバランス機能を使用している場合の I/O の流れ」の例で、LU にアクセスする場合のロードバランスは、(A)、(B)、(C)、(D)のパスの間で行われます。障害などで、どれかのパスが使用できなくなった場合、残りのパスの間でロードバランスが行われます。

注

対象となるストレージシステムを次に示します。

- SANRISE2000 シリーズ
- SANRISE9900V シリーズ
- Hitachi USP シリーズ
- Universal Storage Platform V/VM シリーズ
- Virtual Storage Platform シリーズ
- Hitachi AMS2000 シリーズ※
- Hitachi SMS シリーズ※
- HUS100 シリーズ※
- HUS VM

注※ ダイナミック I/O パスコントロール機能を無効にしているときに対象になります。

2.6.2 ロードバランスのアルゴリズム

ロードバランスのアルゴリズムには、次の6つがあります。

- ラウンドロビン
- 拡張ラウンドロビン
- 最少 I/O 数
- 拡張最少 I/O 数
- 最少ブロック数
- 拡張最少ブロック数

上記のアルゴリズムは、処理方式によって2つに分類されます。それぞれのアルゴリズムについて説明します。

ラウンドロビン、最少 I/O 数、最少ブロック数

これらのアルゴリズムは、発行する I/O ごとに、使用するパスが選択されます。使用するパスはそれぞれ次のように決定されます。

- ラウンドロビン：
接続しているすべてのパスが順番に選択されます。
- 最少 I/O 数：
接続しているすべてのパスのうち、処理中となっている I/O 数が最も少ないパスが選択されます。
- 最少ブロック数：
接続しているすべてのパスのうち、処理中となっている I/O のブロック数が最も少ないパスが選択されます。

拡張ラウンドロビン、拡張最少 I/O 数、拡張最少ブロック数

これらのアルゴリズムは、発行する I/O が1つ前に発行した I/O と連続性があるかどうか（シーケンシャルな I/O かどうか）を判別して、割り振るパスが決定されます。

1つ前に発行した I/O と連続性がある場合、1つ前の I/O を割り振ったパスが使用されます。ただし、発行した I/O 数が一定数に達したときは、次のパスに切り替わります。

1つ前に発行した I/O と連続性がない場合、I/O ごとに使用するパスが選択されます。

- 拡張ラウンドロビン：
接続しているすべてのパスが順番に選択されます。
- 拡張最少 I/O 数：
接続しているすべてのパスのうち、処理中となっている I/O 数が最も少ないパスが選択されます。
- 拡張最少ブロック数：
接続しているすべてのパスのうち、処理中となっている I/O のブロック数が最も少ないパスが選択されます。

ロードバランスのアルゴリズムの特長を次の表に示します。

表 2-5 ロードバランスのアルゴリズムの特長

アルゴリズムの種別	アルゴリズムの特長
<ul style="list-style-type: none">• ラウンドロビン※• 最少 I/O 数• 最少ブロック数	連続性がない I/O を多く発行する（シーケンシャルな I/O が少ない）場合に有効です。

アルゴリズムの種別	アルゴリズムの特長
<ul style="list-style-type: none"> ・ 拡張ラウンドロビン ・ 拡張最少 I/O 数 ・ 拡張最少ブロック数 	1つ前の I/O と連続性がある I/O でその I/O が Read 要求の場合、ストレージシステムのキャッシュ機能によって読み込み速度の向上が期待できます。連続性がある I/O を多く発行する（シーケンシャルな I/O が多い）場合に有効です。

注※

HDLM の管理する I/O には、パスごとに分配ができるものとできないものがあります。したがって、ラウンドロビンを設定しても、パスごとに I/O が均等に割り振られない場合がありますのでご注意ください。

HDLM を新規にインストールしたときには、拡張最少 I/O 数がデフォルト値として設定されます。アップグレードインストールしたときには従来の設定が引き継がれます。

使用しているシステム環境で、データアクセスの傾向に適したロードバランスのアルゴリズムを選択してください。データアクセスの傾向に特徴が見られない場合は、拡張最少 I/O 数の適用を推奨します。

ロードバランス機能は、HDLM GUI のオプションウィンドウ、HDLM コマンドの set オペレーションで指定します。オプションウィンドウの操作、および表示される項目については、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。set オペレーションについては、「6.6 set 動作環境を設定する」を参照してください。

2.7 パス切り替えによるフェイルオーバーとフェイルバック

LU に対して複数のパスが接続されている構成の場合、使用中のパスに障害が発生したときに、残りの正常なパスに切り替えてシステムの運用を継続できます。この機能をフェイルオーバーと呼びます。

また、障害が発生したパスが障害から回復した場合、使用するパスを、障害から回復したパスに切り替えられます。この機能をフェイルバックと呼びます。

次の 2 種類の方法でフェイルオーバー、およびフェイルバックができます。

- ・ 自動パス切り替え
- ・ 手動パス切り替え

フェイルオーバー、およびフェイルバックは、パスの状態を変更してパスを切り替える機能です。パスの状態は、稼働状態と閉塞状態の 2 つに大別できます。稼働状態とは、パスに対して I/O を正常に発行できる状態です。閉塞状態とは、次に示す理由で、パスに対して I/O を発行できない状態です。

- ・ パスに障害が発生している
- ・ ユーザが HDLM GUI のパス管理ウィンドウで、パスに対してオフライン操作を実行した
- ・ ユーザが HDLM コマンドの offline オペレーションを実行した
offline オペレーションについては、「6.4 offline パスを閉塞状態にする」を参照してください。
- ・ ケーブル、HBA などのハードウェアを取り外した

パスの状態と状態遷移については、「2.7.3 パスの状態遷移」を参照してください。

2.7.1 自動パス切り替え

自動的にパスを切り替える機能である、自動フェイルオーバーと自動フェイルバックについて説明します。

(1) 自動フェイルオーバー

使用中のパスで障害を検知した場合、そのパスを閉塞状態にして、ほかの稼働状態のパスを使用してシステムの運用を続けることができます。これを、自動フェイルオーバーと呼びます。自動フェイルオーバーの対象となる障害は、パスに発生した次のレベルの障害です。

Critical

致命的で、システム停止の危険がある障害

Error

危険度は高いが、フェイルオーバーなどで回避できる障害

障害レベルについては、「2.12.2 障害情報のフィルタリング」を参照してください。

SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズを使用している場合、切り替え先のパスは、同じ LU にアクセスするオーナパス、ノンオーナパスの順で選択されます。

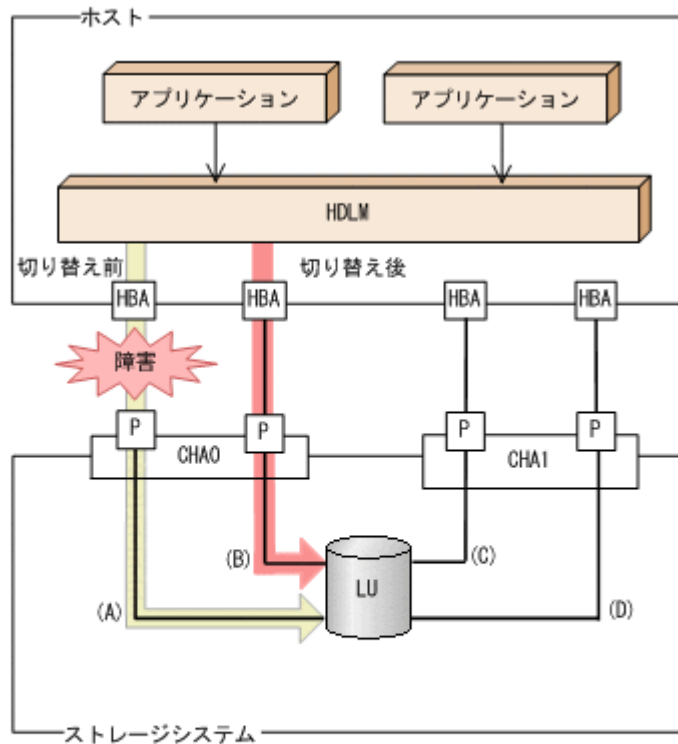
例えば、「図 2-10 パスの切り替え」で LU のオーナコントローラが CHA0 であるとし、(A)のパスだけで LU にアクセスしている場合、使用中のパスが閉塞状態になったあとは、(B)のパスが第 1 候補、(C)または(D)のパスが第 2 候補の切り替え先になります。

SANRISE2000 シリーズ、SANRISE9900V シリーズ、Hitachi USP シリーズ、Universal Storage Platform V/VM シリーズ、Virtual Storage Platform シリーズ、Hitachi AMS2000 シリーズ※、Hitachi SMS シリーズ※、HUS100 シリーズ※、または HUS VM を使用している場合、すべてのパスがオーナパスです。したがって、同じ LU にアクセスするすべてのパスが同時に切り替え先の候補になります。例えば、「図 2-10 パスの切り替え」で(A)のパスだけで LU にアクセスしている場合、使用中のパスが閉塞状態になったあとは、(B)、(C)、(D)のパスのどれかが切り替え先になります。

注※

ダイナミック I/O パスコントロール機能を無効にしているときに対象になります。

図 2-10 パスの切り替え



(凡例)

— : パス

- - - : I/O要求

→ : 切り替え前のパス

→ : 切り替え後のパス

(2) 自動フェイルバック

使用中のパスが障害で閉塞状態になった場合、障害回復後に自動的に稼働状態にできます。これを、自動フェイルバックと呼びます。この機能を使用した場合、HDLM は定期的に障害回復を監視します。

SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズを使用している場合、使用するパスは、稼働状態のオーナパス、ノンオーナパスの順で選択されます。したがって、ノンオーナパスを使用しているときに、オーナパスの障害が回復して、自動的に稼働状態になると、使用するパスがオーナパスに切り替わります。

SANRISE2000 シリーズ、SANRISE9900V シリーズ、Hitachi USP シリーズ、Universal Storage Platform V/VM シリーズ、Virtual Storage Platform シリーズ、Hitachi AMS2000 シリーズ^{※1}、Hitachi SMS シリーズ^{※1}、HUS100 シリーズ^{※1}、または HUS VM を使用している場合、すべてのパスがオーナパスです。したがって、ほかのパスの障害が回復して、自動的に稼働状態になっても、使用するパスは切り替わりません。

なお、パスに間欠障害^{※2}が発生している場合、自動フェイルバックの設定をしていると、閉塞状態と稼働状態を繰り返すため、I/O の性能が低下することがあります。その場合は、間欠障害監視を設定して、間欠障害と見なされたパスを自動フェイルバックの対象外にすることをお勧めします。

自動フェイルバック機能、および間欠障害監視は、HDLM GUI のオプションウィンドウ、HDLM コマンドの set オペレーションで指定します。オプションウィンドウの操作については、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。set オペレーションについては、「6.6 set 動作環境を設定する」を参照してください。

注※1

ダイナミック I/O パスコントロール機能を無効にしているときに対象になります。

注※2

間欠障害とは、ケーブルの接触不良などが原因で、断続的に発生する障害です。

2.7.2 手動パス切り替え

パスを手動で稼働状態または閉塞状態にすることで、パスを切り替えられます。手動で一時的にパスを切り替えることで、システムのメンテナンスなどができます。

次に示すどれかの方法で、パスを手動で稼働状態または閉塞状態にできます。

- HDLM GUI のパス管理ウィンドウを使用する
- HDLM コマンドの online または offline オペレーションを実行する
online については「6.5 online パスを稼働状態にする」を、offline については「6.4 offline パスを閉塞状態にする」を参照してください。

ただし、ある LU に対する最後の稼働状態のパスは、手動で閉塞状態に切り替えられません。また、障害が復旧していないパスについては、稼働状態に切り替えられません。

切り替え先のパスについては、自動パス切り替えの場合と同じです。

SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズを使用している場合、オーナパスが第 1 候補、ノンオーナパスが第 2 候補の切り替え先になります。SANRISE2000 シリーズ、SANRISE9900V シリーズ、Hitachi USP シリーズ、Universal Storage Platform V/VM シリーズ、Virtual Storage Platform シリーズ、Hitachi AMS2000 シリーズ※、Hitachi SMS シリーズ※、HUS100 シリーズ※、または HUS VM を使用している場合、同じ LU にアクセスするすべてのパスが同時に切り替え先の候補になります。

閉塞状態にしたパスは、パス管理ウィンドウでパスの状態を稼働状態に変更するか、online オペレーションを実行することで稼働状態にできます。online オペレーションについては、「6.5 online パスを稼働状態にする」を参照してください。パスの状態を稼働状態に変更したあとに使用するパスは、自動パス切り替えと同じ仕組みで選択されます。SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズを使用している場合、使用するパスは、稼働状態のオーナパス、ノンオーナパスの順で選択されます。SANRISE2000 シリーズ、SANRISE9900V シリーズ、Hitachi USP シリーズ、Universal Storage Platform V/VM シリーズ、Virtual Storage Platform シリーズ、Hitachi AMS2000 シリーズ※、Hitachi SMS シリーズ※、HUS100 シリーズ※、または HUS VM を使用している場合、すべてのパスがオーナパスのためパスの状態を稼働状態に変更したあとも、使用するパスは切り替わりません。

パス管理ウィンドウでパスの状態を変更する操作については「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を、参照してください。

注※

ダイナミック I/O パスコントロール機能を無効にしているときに対象になります。

2.7.3 パスの状態遷移

「2.7 パス切り替えによるフェイルオーバーとフェイルバック」で説明した稼働状態と閉塞状態は、さらに稼働状態は 4 つ、閉塞状態は 3 つの状態に分けられます。7 つの状態を、稼働状態に含まれるものと閉塞状態に含まれるものとに分けて説明します。説明にある「オフライン操作」とは、HDLM GUI のパス管理ウィンドウでオフライン操作をすることか、または offline オペレーションを実行す

ることです。offline オペレーションについては、「6.4 offline パスを閉塞状態にする」を参照してください。

(1) 稼働状態

稼働状態に含まれるものを次に示します。

- **Online 状態**
正常に I/O を発行できます。
- **Online(P)状態**
Online 状態のパスに対して Offline 処理の実行待ちの状態です。
この状態は、クラスタ構成時にだけ発生します。
リザーブ処理中の LU に接続している Online 状態のパスに対してオフライン操作をしたときの状態です。リザーブ処理が完了するまで、正常に I/O を発行できます。リザーブ処理が完了すると offline 処理が実行され、Offline(C)状態になります。
Online(P)の「P」は待機属性を示します。待機属性とは、パスが offline 処理の実行待ちであることを示すものです。
- **Online(E)状態**
パスに障害が発生しています。また、同じ LU にアクセスするほかのパスのうちに、Online 状態のパスがありません。
1つの LU にアクセスするパスのうちに Online 状態のパスがなくなった場合、パスの1つは Online(E)状態になります。1つの LU にアクセスするパスがすべて閉塞状態になることはありません。これは、LU にアクセスできなくなることを防ぐためです。Online(E)の「E」は、エラー属性を示します。エラー属性とは、パスに障害が発生していることを示すものです。
- **Online(EP)状態**
クラスタ構成時、かつリザーブ処理中に次に示す過程を経ると Offline(P)状態のパスがこの状態になります。
 - a. LU に接続するパスが 2 本のとき、ユーザが Offline(E)状態のパスにオフライン操作をして、Offline(P)状態にします。
もう 1 本のパスは、Online(E)状態になっています。
 - b. Offline(P)状態と Online(E)状態のパスがある状態で HDLM が Online(E)状態のパスで障害を検知すると、それぞれのパスの状態は次のように遷移します。
Online(E)状態だったパスは Offline(E)状態に遷移します。
Offline(P)状態だったパスは Online(EP)状態に遷移します。Online(EP)状態から Offline(P)状態になったあとにリザーブ処理が完了すると、Offline 処理に成功して Offline(C)状態になります。
Online(EP)状態のままリザーブ処理が完了すると、Offline 処理に失敗して Online(E)状態になります。

(2) 閉塞状態

閉塞状態に含まれるものを次に示します。

- **Offline(C)状態**
オペレーションの実行オフライン操作によって、パスが閉塞状態になっています。
Offline(C)の「C」は、コマンド属性を示します。コマンド属性とは、コマンドまたは GUI の操作によって、パスが閉塞状態になっていることを示すものです。
- **Offline(E)状態**
障害が発生したため、パスが閉塞状態になっています。

Offline(E)の「E」は、エラー属性を示します。エラー属性とは、パスに障害が発生していることを示すものです。

- Offline(P)状態

この状態は、クラスタ構成時にだけ発生します。

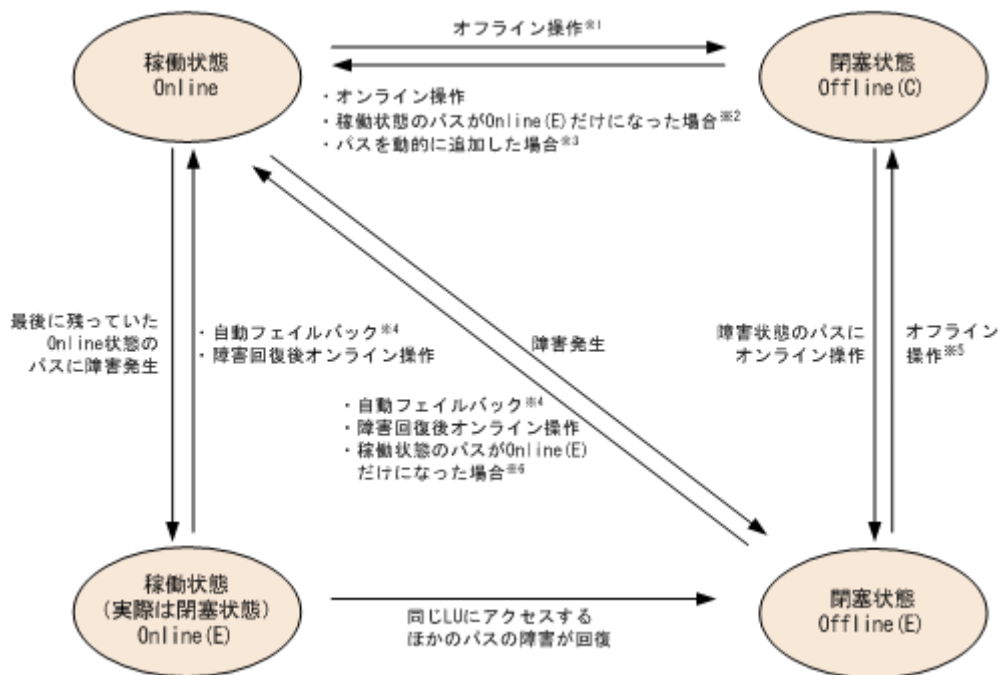
リザーブ処理中の LU に接続している Offline(E)状態のパスに対して、オフライン操作をしたときの状態です。リザーブ処理が完了すると offline 処理が実行され、Offline(C)状態になります。

Offline(P)の「P」は待機属性を示します。待機属性とは、パスが offline 処理の実行待ちであることを示すものです。

(3) パスの状態遷移

パスの状態遷移を次の図に示します。

図 2-11 パスの状態遷移



(凡例)

オンライン操作:パス管理ウィンドウでのオンライン操作,または HDLM コマンドの online オペレーションの実行

オフライン操作:パス管理ウィンドウでのオフライン操作,または offline オペレーションの実行

注※1

リザーブ処理中は Online からいったん Online(P)になり,リザーブ処理完了後に Offline(C)になります。

注※2

次に示す条件を満たしている場合,接続している Offline(C)のパスを自動的に稼働状態へ切り替えます。

- 稼働状態のパスが Online(E)だけになった状態で,かつ Online(E)のパスに対応する SCSI デバイスが削除されている。
- SCSI デバイスが接続状態で,かつ自動フェイルバック対象外の Offline(E)のパスがない。

- Offline(C)のパスに SCSI デバイスが接続している。

注※3

パスを動的に追加すると、まず Offline(C)の状態を追加されます。その後、自動的に Online へ遷移します。パスの動的追加の詳細については、「4.7.1 追加した LU およびパスを HDLM の管理対象にする」を参照してください。

注※4

次の条件をすべて満たす場合は、間欠障害が発生していると見なされたパスでも自動フェイルバックの対象になります。

- LU に接続するすべてのパスが Online(E), Offline(E),または Offline(C)となっている。
- LU に接続するすべてのパスに間欠障害が発生したと見なされている。
- LU に I/O が連続して発行され、I/O が成功している。

注※5

リザーブ処理中は Offline(E)からいったん Offline(P)になり、リザーブ処理完了後に Offline(C)になります。

注※6

次に示す条件を満たしている場合、接続している Offline(E)のパスを自動的に稼働状態へ切り替えます。

- 稼働状態のパスが Online(E)だけになった状態で、かつ Online(E)のパスに対応する SCSI デバイスが削除されている。
- Offline(E)のパスは間欠障害が発生したと見なされ、自動フェイルバック対象外になっている。
- Offline(E)のパスに SCSI デバイスが接続している。

各 LU に対する最後の稼働状態のパスは、パス管理ウィンドウ、offline オペレーションでは閉塞状態にできません。これは、LU にアクセスできなくなることを防ぐためです。offline オペレーションについては、「6.4 offline パスを閉塞状態にする」を参照してください。1つの LU にアクセスするパスの中に、稼働状態 (Online) のパスがなくなった場合、パスの1つが Online(E)になります。自動フェイルバック機能を使用している場合、パスが障害から回復すると、そのパスは自動的に稼働状態 (Online) になります。ただし、次の例外があります。

- 間欠障害を監視している場合、間欠障害と見なされたパスは、障害から回復しても自動的に稼働状態 (Online) になりません。この場合、パスを手動で稼働状態 (Online) にしてください。障害から回復した場合に稼働状態のパスが Online(E)だけだったとき、パスが自動的に稼働状態になることがあります。詳細については、「図 2-13 パスに間欠障害が発生していないと見なす場合の動作」を参照してください。
- 自動フェイルバック機能を使用しなくても、自動的にパスが稼働状態になる場合があります。Windows のプラグアンドプレイ機能に対応したハードウェアを取り外すとパスが閉塞状態になりますが、その後ハードウェアを戻すと自動的に稼働状態になります。ただし、ほかに閉塞状態となる原因がない場合です。自動フェイルバック機能を使用しなくても自動的にパスが稼働状態になるので、パスを手動で稼働状態 (Online) にする必要はありません。

なお、LU の動的削除機能を使用している場合、Online(E)状態になったパスは削除されるため、パス管理ウィンドウ、または view オペレーションでは、Online(E)状態のパスは表示されません。

注意事項

HDLM コマンド、HDLM GUI を使用してパスのオフライン操作を行った直後にパスに障害が発生すると、一度 Offline(C)となった状態が Offline(E)に遷移する場合があります。オフライン操作を実行した場合は、一定時間 (2分程度) 待ってから再度 HDLM コマンド、HDLM GUI

を使用してパスの状態を確認し、Offline(C)になっていることを確認してください。Offline(E)になっている場合は、再度オフライン操作を実行してください。

2.8 間欠障害の監視（自動フェイルバック使用時の機能）

間欠障害とは、ケーブルの接触不良などが原因で断続的に障害が発生する状態です。自動フェイルバックを使用しているときに間欠障害が発生すると、自動フェイルバックが繰り返し行われて I/O 性能が低下することがあります。このような現象を防ぐため、HDLM では間欠障害が発生しているパスを自動フェイルバックの対象から自動的に外すことができます。これを間欠障害監視といいます。

自動フェイルバックを使用する場合は、間欠障害監視をあわせて使用することをお勧めします。

間欠障害監視を使用すると、一定の時間内に一定の回数の障害が発生したパスは、間欠障害が発生していると見なされます。間欠障害が発生したと見なされたパスは、ユーザがオンライン操作を実行するまで障害状態のまま、自動フェイルバックは行われません。この状態を自動フェイルバック対象外と呼びます。

2.8.1 間欠障害の確認

パスが間欠障害と見なされているかどうかは、HDLM コマンドの view オペレーションの実行結果、HDLM GUI のパスリストビューで確認できます。

view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。HDLM GUI のパスリストビューの操作、および表示される項目については、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。

2.8.2 間欠障害監視の設定

間欠障害監視を設定する場合、まず有効にするか無効にするかを設定します。有効にした場合、間欠障害かどうかを判定するための条件（障害監視時間と障害発生回数）を指定できます。指定した監視時間内に、指定した回数の障害が発生すると、HDLM はそのパスに間欠障害が発生していると見なします。例えば、障害監視時間に 30、障害発生回数に 3 を指定すると、30 分以内に 3 回以上障害が発生したパスが、間欠障害が発生していると見なされます。

間欠障害監視は、HDLM コマンドの set オペレーション、HDLM GUI のオプションウィンドウで設定できます。

間欠障害監視は、自動フェイルバックが有効に設定されている場合にだけ設定できます。設定できる値は自動フェイルバックの設定値に依存します。設定方法については、「[6.6 set 動作環境を設定する](#)」、または「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。

2.8.3 間欠障害監視の動作

間欠障害の監視は、パスごとに実施されます。間欠障害監視は、自動フェイルバックによってパスが障害から回復した時点で開始されます。

ここでは、間欠障害監視の動作を、次の 3 つの場合に分けて説明します。

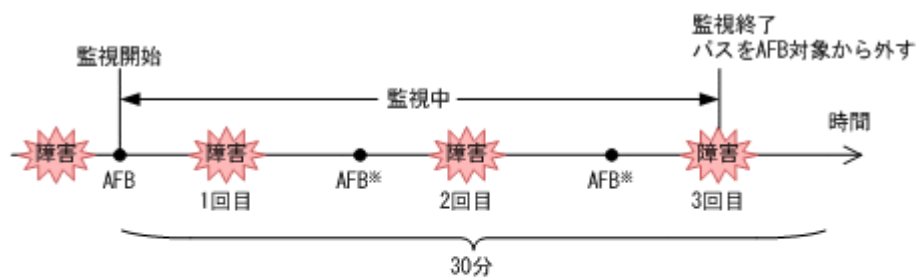
- 間欠障害が発生していると見なす場合
- 間欠障害が発生していないと見なす場合
- 間欠障害の監視中に間欠障害と見なす条件を変更した場合

(1) 間欠障害が発生していると見なす場合

指定した監視時間内に指定した回数の障害がパスに発生した場合、間欠障害が発生していると見なし、該当するパスの監視を終了します。そして、そのパスを自動フェイルバックの対象から外します。自動フェイルバックの対象から外されたパスは、ユーザによるオンライン操作が成功するまで、障害状態のままです。ただし、一定の条件を満たす場合は自動フェイルバックの対象となり、自動的に稼働状態（Online）になります。条件については、「[図 2-11 パスの状態遷移](#)」を参照してください。

パスに間欠障害が発生していると見なす場合の間欠障害監視の動作を次の図に示します。30分以内に3回以上障害が発生した場合に間欠障害と見なす設定をしているときの例です。時間を示す矢印上に、1つのパスに発生するイベントを記載しています。

図 2-12 パスに間欠障害が発生していると見なす場合の動作



(凡例)

AFB：自動フェイルバックによってパスが障害状態から稼働状態に回復

注※

ユーザによるオンライン操作も含まれます。

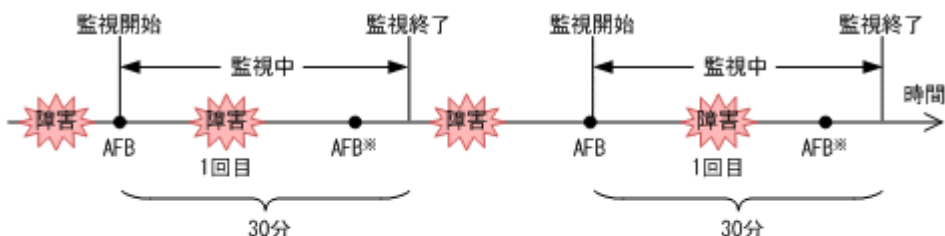
(2) 間欠障害が発生していないと見なす場合

指定した監視時間内に指定した回数の障害がパスに発生しない場合、間欠障害は発生していないと見なします。その場合、監視時間が終了した段階で該当するパスの監視を終了し、カウントした障害発生回数を0に初期化します。そのあとでパスに障害が発生し、自動フェイルバックによってパスが障害から回復した場合、その時点から監視を再開します。

長い間隔を置いて発生する障害を間欠障害と見なすためには、障害監視時間を延ばすか、または障害発生回数を減らしてください。

パスに間欠障害が発生していないと見なす場合の間欠障害監視の動作を次の図に示します。30分以内に3回以上障害が発生した場合に間欠障害と見なす設定をしているときの例です。時間を示す矢印上に、1つのパスに発生するイベントを記載しています。

図 2-13 パスに間欠障害が発生していないと見なす場合の動作



(凡例)

AFB：自動フェイルバックによってパスが障害状態から稼働状態に回復

注※

ユーザによるオンライン操作も含まれます。

障害発生回数は、障害が発生するとカウントされます。通常は「[図 2-13 パスに間欠障害が発生していないと見なす場合の動作](#)」に示すように、間欠障害監視中に自動フェイルバックによって稼働状態に回復してから、障害が発生するごとに障害発生回数がカウントされます。ただし、パスが切断されているなどの理由によって、LU に接続するすべてのパスが **Offline(E)**、**Online(E)**、または **Offline(C)** になっている場合は、自動フェイルバックによって稼働状態に回復しません。このような状態の LU へ I/O を継続して発行すると、パスが稼働状態にならなくても障害発生回数がカウントされることがあります。障害発生回数が指定値に達すると、パスに間欠障害が発生したと見なされます。その場合は、障害の原因を取り除いてから手動でオンライン操作をしてください。

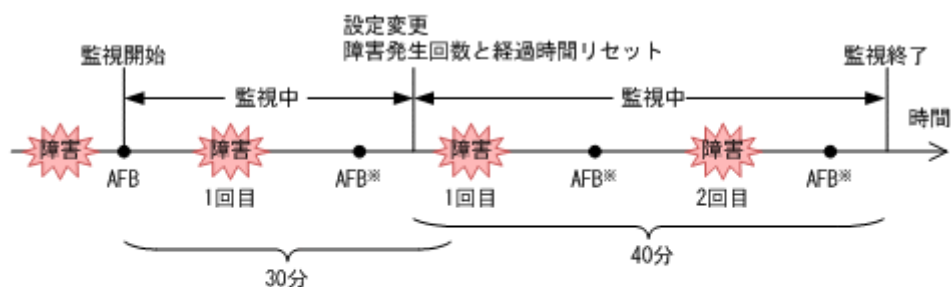
(3) 間欠障害の監視中に間欠障害と見なす条件を変更した場合

間欠障害の監視中に、間欠障害と見なす条件（障害監視時間または障害発生回数）を変更した場合、それまでにカウントされた障害発生回数、および監視を開始してから経過した時間が 0 に初期化されます。監視は終了されないで、変更した時点から、変更後の条件での監視が開始されます。

監視時間外に条件を変更した場合、次に自動フェイルバックによってパスが障害から回復した時点で、変更後の条件で監視が開始されます。

間欠障害の監視中に、間欠障害と見なす条件を変更した場合の間欠障害監視の動作を次の図に示します。間欠障害と見なす障害の発生条件を、「30 分以内に 3 回以上」から、「40 分以内に 3 回以上」に変更した場合の例です。時間を示す矢印上に、1 つのパスに発生するイベントを記載しています。

図 2-14 間欠障害の監視中に間欠障害と見なす条件を変更した場合の動作



(凡例)

AFB：自動フェイルバックによってパスが障害状態から稼働状態に回復

注※

ユーザによるオンライン操作も含まれます。

2.8.4 ユーザの操作による間欠障害情報の変化

間欠障害の監視中にカウントされている障害発生回数、監視を開始してから経過した時間、および間欠障害と見なされている（自動フェイルバック対象外）かどうかの情報は、ユーザが間欠障害の設定値を変更したり、パスの状態を変更したりすると、初期化されることがあります。ユーザがこれらの操作をしたときに、障害発生回数、監視を開始してから経過した時間、および自動フェイルバック対象外の情報が初期化されるかどうかを、「[表 2-6 ユーザの操作による、間欠障害情報の変化](#)」に示します。

パスが間欠障害監視中かどうかは、HDLM コマンドの `view -path` オペレーションで `-iem` パラメータを指定することによって表示される IEP 項目、HDLM GUI のパスリストビューの「間欠障害パス」項目で判断できます。これらの項目に 0 以上の数値が表示された場合、間欠障害監視中です。

表 2-6 ユーザの操作による、間欠障害情報の変化

ユーザの操作	障害発生回数および監視開始後の経過時間	自動フェイルバック対象外の情報
間欠障害監視の設定変更	「off」に設定	初期化
	間欠障害監視中に、間欠障害と見なす条件を変更	初期化※2
	間欠障害監視中に、set オペレーションで再度「on」に設定（条件変更なし）	
	間欠障害監視中に、HDLM GUI のオプションウィンドウで [適用] ボタンまたは [OK] ボタンをクリック※3	
	間欠障害監視時間外に、間欠障害と見なす条件を変更	－（カウントされていない）
自動フェイルバックの設定変更	「off」に設定	初期化
パスの状態変更	パスを Offline(C)に設定	初期化
	間欠障害監視時間外に、パスを Online に設定	－（カウントされていない）
	間欠障害監視中に、パスを Online に設定	引き継ぎ
HDLM マネージャ再起動		初期化※4
ホスト再起動		初期化

(凡例)

－：該当なし

注※1

間欠障害監視を無効にすると、自動フェイルバック対象外の情報は初期化されます。間欠障害監視を無効にする場合に、自動フェイルバック対象外のパスを自動フェイルバック対象外のままとしたいときは、パスを閉塞状態（Offline(C)）にしてください。

注※2

障害発生回数、および監視を開始してから経過した時間が「0」に初期化され、変更後の監視条件に従い、設定を変更した時点から改めて監視が開始されます。

注※3

間欠障害監視以外の機能の設定を変更した場合、または設定をまったく変更しなかった場合でも、[適用] ボタン、または [OK] ボタンをクリックすると、障害発生回数および監視開始後の経過時間が初期化されます。

設定を変更しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてオプションウィンドウを閉じてください。

間欠障害監視以外の機能の設定を変更したいが、間欠障害監視状態を初期化したくない場合は HDLM コマンドを使用してください。

注※4

障害発生回数、および監視を開始してから経過した時間が「0」に初期化され、HDLM マネージャが起動した時点から改めて監視が開始されます。

2.9 パスヘルスチェックによる障害検出

HDLM は、I/O が行われていないパスに対して、パスの状態を一定間隔で確認して、障害を検出できます。この機能をパスヘルスチェックと呼びます。

通常、パスの状態は I/O が発行されたときにチェックされるため、I/O が発行されなければ障害を検出できません。しかし、パスヘルスチェック機能を使用すると、I/O の発行の有無に関係なく、稼働状態 (Online) のパスが一定間隔でチェックされます。障害発生時はパスの状態が Offline(E)、または Online(E)に変更されるため、ユーザは HDLM コマンドの view オペレーション、HDLM GUI のパス管理ウィンドウでパスの障害を確認できます。

例えば、クラスタ構成の待機系ホストのパスや、ノンオーナーパス (SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズのストレージシステムにアクセスするパスの一部) には、通常 I/O が発行されません。最新のパス状態を基にして、パスの切り替え先を選択できるように、待機系ホストやノンオーナーパスに接続しているホストでは、パスヘルスチェック機能を使用して障害を検出することをお勧めします。

パスヘルスチェック機能は、HDLM GUI のオプションウィンドウ、HDLM コマンドの set オペレーションで設定できます。オプションウィンドウについては「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を、set オペレーションについては「6.6 set 動作環境を設定する」を参照してください。

2.10 ダイナミック I/O パスコントロール機能による負荷分散

ダイナミックロードバランスコントローラ機能を備えたストレージシステムに対し、HDLM のダイナミック I/O パスコントロール機能を適用することで、HDLM のロードバランスによる負荷分散の効果を高めることができます。

2.10.1 ダイナミックロードバランスコントローラ機能とは

複数台のホストと 1 台のストレージシステムを接続したシステム構成では、ストレージシステム内のコントローラに I/O 処理の負荷が集中しやすくなり、システム全体のスループット性能が低下する要因となります。ダイナミックロードバランスコントローラ機能は、こうしたコントローラの負荷状態を判断してストレージシステムの性能低下を防ぎます。

HDLM がサポートしている、ダイナミックロードバランスコントローラ機能を持つストレージシステムを次に示します。

- Hitachi AMS2000 シリーズ※
- Hitachi SMS シリーズ※
- HUS100 シリーズ

注※

ダイナミックロードバランスコントローラ機能を使用するためには、導入するマイクロプログラムのバージョンに制限があります。詳細は HDLM のソフトウェア添付資料を確認してください。

2.10.2 ダイナミック I/O パスコントロール機能について

ダイナミックロードバランスコントローラ機能を備えたストレージシステムで、HDLM のロードバランスによる性能効果を得るにはダイナミック I/O パスコントロール機能を有効にしてください。

ダイナミック I/O パスコントロール機能を有効にすると、ダイナミックロードバランスコントローラ機能によって選択されているコントローラをオーナコントローラとして認識します。それ以外のコントローラをノンオーナコントローラとして認識します。

ダイナミック I/O パスコントロール機能は、ホスト単位、接続先のストレージシステム、および LU 単位で有効または無効を設定できます。

ダイナミック I/O パスコントロール機能は、HDLM コマンドの set オペレーションで指定します。set オペレーションについては、「[6.6 set 動作環境を設定する](#)」を参照してください。

2.11 動的再構成

Windows のプラグ アンド プレイ機能を使用して、HDLM がインストールされたホストの稼働中に LU およびパスを追加したり、削除したりできます。これを動的再構成と呼びます。動的再構成の詳細については、「[4.7.1 追加した LU およびパスを HDLM の管理対象にする](#)」を参照してください。

2.11.1 LU の動的追加

LU の動的追加とは、HDLM がインストールされたホストの稼働中に、LU およびパスを追加できる機能です。

LU の動的追加の詳細については、「[4.7.1 追加した LU およびパスを HDLM の管理対象にする](#)」を参照してください。

2.11.2 LU の動的削除

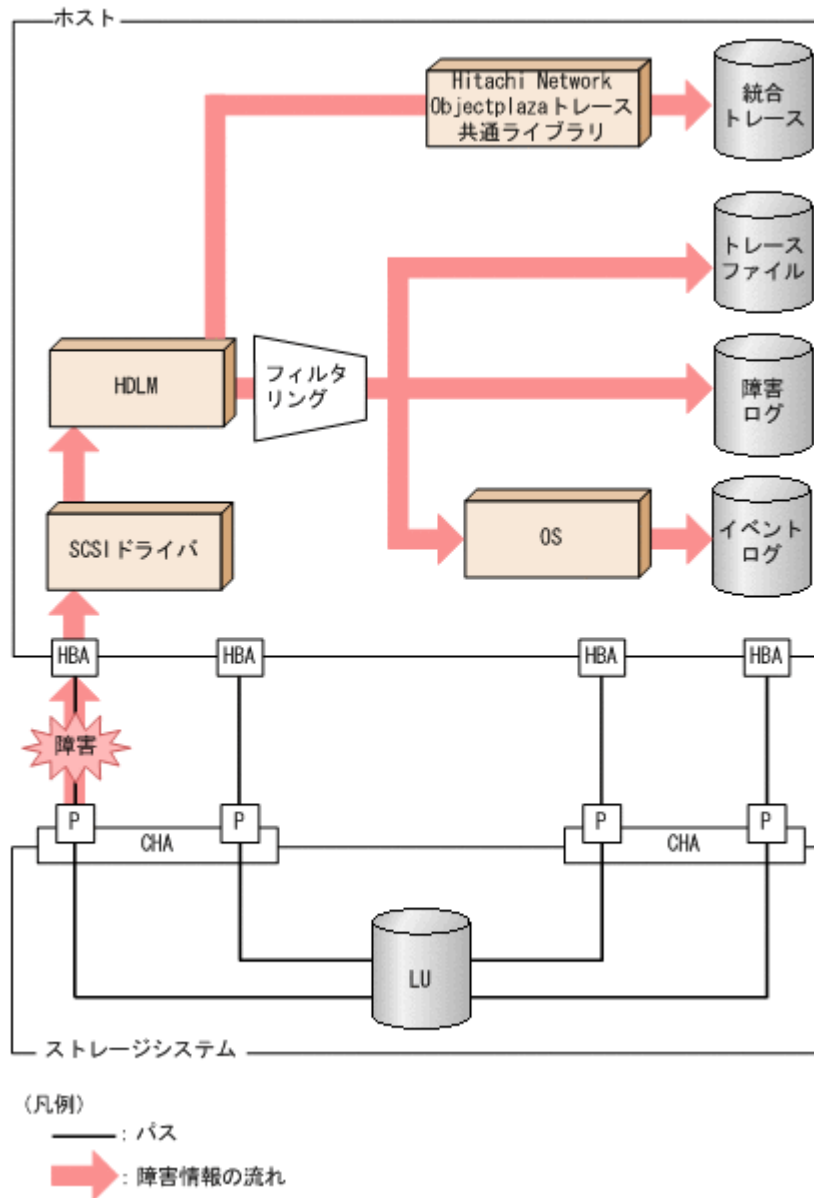
LU の動的削除とは、LU に接続されているすべてのパスが切断された場合に、HDLM の管理対象から LU を削除する機能です。LU の動的削除は、HDLM コマンドの set オペレーションで `-rmlu on` パラメータを指定することで設定できます。また、HDLM GUI のオプションウィンドウでも設定できます。set オペレーションについては、「[6.6 set 動作環境を設定する](#)」を参照してください。HDLM GUI のオプションウィンドウについては、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。

LU の動的削除の詳細については、「[4.7.2 LU を動的に削除する](#)」を参照してください。

2.12 障害管理

HDLM では、障害に対処するための情報をログファイルに採取します。障害情報は障害のレベルごとにフィルタリングして採取できます。HDLM が稼働するホストで障害情報を採取するときのデータの流れを次の図に示します。

図 2-15 障害情報を採取するときのデータの流れ



SCSI ドライバなどの HDLM の下位層でも、ログが採取される場合があります。それらのログについては、Windows のマニュアルを参照してください。

2.12.1 採取するログの種類

HDLM が検知した障害情報やトレース情報は、統合トレースファイル、トレースファイル、障害ログおよびイベントログに採取されます。これらの障害情報から、障害状況の把握や原因の解析ができます。

また、Windows がシステムダウンしたときの情報は、システムメモリダンプファイルに出力されます。

システムメモリダンプファイルとは、Windows がシステムダウンしたときのシステムメモリの内容を出力するファイルです。このファイルは、Windows がシステムダウンしたときの調査に必要です。システムメモリダンプファイルを出力するためには、次の指定をします。

コントロールパネルのシステムダイアログボックスの [詳細タブ] で, [起動回復] ボタンをクリックし, [デバッグ情報の書き込み] で「カーネルメモリダンプ」または「完全メモリダンプ」を指定します。

それぞれのログで採取できる障害情報について次の表に示します。

表 2-7 障害情報の種類

ログ名	内容	出力先
統合トレースファイル	HDLM コマンドや HDLM GUI の動作ログが採取されます。	デフォルトのファイル名称を, 次に示します。 プログラムのインストール先ドライブ:¥Program Files*1¥HITACHI¥HNTRLib2¥spool ¥hntr2n.log (n はファイルの番号) 統合トレースファイルの出力先フォルダおよびファイルのプレフィックスは, Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2) のユティリティで指定します。
トレースファイル	HDLM マネージャのトレース情報が, ユーザの設定したレベルで採取されます。障害が発生したときに, 設定を変更してトレース情報を採取することがあります。	トレースファイルの名称を, 次に示します。 ¥Program Files¥HITACHI ¥DynamicLinkManager¥log ¥hdlmtr[1-64].log**2
障害ログ	検知した障害の中で, ユーザが設定したレベルの障害情報が採取されます。デフォルトでは, 検知したすべての障害情報が採取されます。	HDLM マネージャのログ ¥Program Files¥HITACHI ¥DynamicLinkManager¥log ¥dlmmgr[1-16].log**2 HDLM GUI のログ ¥Program Files¥HITACHI ¥DynamicLinkManager¥log ¥dlmgui[1-2].log**2 Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントのログ ¥Program Files¥HITACHI ¥DynamicLinkManager¥log ¥dlmwebagent[1-N].log**2 N の値は, dlmwebagent.properties ファイルの設定に依存します。
イベントログ	検知した障害の中で, 危険度の高い障害情報 (Critical, および Error レベル) が採取されます。イベントログは [イベントビューア] などの管理ツールで確認できます。	イベントログ (アプリケーションログ)

注※1

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は, Program Files (x86)となります。

注※2

下線部はインストール時に指定したフォルダです。
これらのファイルを取得する場合は, 必ず別のファイルにコピーしてください。

障害レベルについては「2.12.2 障害情報のフィルタリング」を参照してください。

注意事項

HDLM では, ログの採取に Hitachi Network Objectplaza Trace Library サービスを使用します。このサービスを停止させた場合は, 次の手順で再開させてください。

コントロールパネルの「管理ツール」－「サービス」からサービスウィンドウを開きます。サービスの一覧で「Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor 2」を選択します。それから、「操作」メニューの「再開」を選択してサービスを再起動します。

2.12.2 障害情報のフィルタリング

HDLM が検知する障害はレベル分けされています。障害レベルを、システムに対する影響度の高いレベルから低いレベルの順で次の表に示します。

表 2-8 障害レベル

障害レベル	意味	イベントビューアに表示されるレベル
Critical	致命的な障害です。システム停止のおそれがあります。	エラー
Error	システムに与える影響が大きい障害ですが、フェイルオーバなどで回避できます。	エラー
Warning	システムは動作しますが、放置しておくとシステムが正常に稼働しなくなるおそれがあります。	警告
Information	システムが正常に稼働しているときの稼働履歴を示します。	情報

障害情報は、障害レベルごとにフィルタリングされて採取されます。

障害ログ、イベントログには、設定した採取レベルで障害情報が採取されます。採取レベルは次のとおりです。

障害ログ、およびイベントログの採取レベル

イベントログには常に **Error** レベル以上の障害情報が採取されます。

障害ログには次に示すログ採取レベルで設定した障害情報が採取されます。

- 障害ログを採取しない
- **Error** レベル以上の障害情報を採取する
- **Warning** レベル以上の障害情報を採取する
- **Information** レベル以上の障害情報を採取する
- **Information** レベル（保守情報も含む）以上の障害情報を採取する

トレースファイルの採取レベル

- トレースを出力しない
- エラー情報だけ出力する
- プログラムの動作概略を出力する
- プログラムの動作詳細を出力する
- すべての情報を出力する

採取レベルの設定方法については、「[3.7.2 機能の設定](#)」を参照してください。

2.12.3 HDLM 障害情報収集ユーティリティ（DLMgetras）を使用した障害情報の収集

HDLM は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ（DLMgetras）を提供しています。

DLMgetras ユティリティを実行すると、障害の解析に必要な障害ログ、統合トレースファイル、トレースファイル、定義ファイル、OS などの情報をまとめて収集できます。収集した情報は、HDLM の購入元会社、または保守会社への連絡時に利用できます。

DLMgetras ユティリティについては、「7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ」を参照してください。

2.13 監査ログの採取

HDLM をはじめ、日立のストレージ関連製品では、法規制、セキュリティ評価基準、業界ごとの各種基準に従っていることなどを監査者や評価者に証明するために、監査ログを採取できます。日立のストレージ関連製品で採取できる監査ログを次の表に示します。

表 2-9 監査ログの種別と説明

種別	説明
StartStop	ハードウェアまたはソフトウェアの起動と終了を示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> OS の起動と終了 ハードウェアコンポーネント（マイクロを含む）の起動と終了 ストレージシステム上のソフトウェア、SVP 上のソフトウェア、Hitachi Command Suite 製品の起動と終了
Failure	ハードウェアまたはソフトウェアの異常を示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> ハードウェア障害 ソフトウェア障害（メモリエラーなど）
LinkStatus	機器間のリンク状態を示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> リンクアップまたはダウン
ExternalService	日立のストレージ関連製品と外部サービスとの通信結果を示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> RADIUS サーバ、LDAP サーバ、NTP サーバ、DNS サーバとの通信 管理サーバとの通信（SNMP）
Authentication	機器、管理者、またはエンドユーザが、接続または認証を試みて成功または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> FC ログイン 機器認証（FC-SP 認証、iSCSI ログイン認証、SSL サーバ/クライアント認証） 管理者またはエンドユーザ認証
AccessControl	機器、管理者、またはエンドユーザがリソースへのアクセスを試みて成功または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> 機器のアクセスコントロール 管理者またはエンドユーザのアクセスコントロール
ContentAccess	重要なデータへのアクセスを試みて成功または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> NAS 上の重要なファイルまたは HTTP サポート時のコンテンツへのアクセス 監査ログファイルへのアクセス
ConfigurationAccess	管理者が許可された運用操作を実行し、操作が正常終了または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> 構成情報の参照または更新 アカウントの追加、削除などのアカウント設定の更新 セキュリティの設定 監査ログ設定の参照または更新
Maintenance	保守操作を実行し、操作が正常終了または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> ハードウェアコンポーネント増設または減設 ソフトウェアコンポーネント増設または減設
AnomalyEvent	しきい値のオーバーなどの異常が発生したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> ネットワークトラフィックのしきい値オーバー

種別	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • CPU 負荷のしきい値オーバー • 内部に一時保存した監査ログの上限到達前通知やラップアラウンド
	異常な通信の発生を示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> • 通常使用するポートへの SYN フラッド攻撃やプロトコル違反 • 未使用ポートへのアクセス（ポートスキャンなど）

採取できる監査ログは、製品ごとに異なります。以降では、HDLM で採取できる監査ログについて説明します。ほかの製品の監査ログについては、それぞれのマニュアルを参照してください。

2.13.1 HDLM で監査ログに出力する種別と監査事象

HDLM で監査ログに出力する種別と監査事象を次の表に示します。それぞれの監査事象には、重要度（Severity）が設定されています。

表 2-10 監査ログに出力する種別と監査事象

種別	種別の説明	監査事象	重要度 (Severity) ※1	メッセージ ID
StartStop	ソフトウェアの起動と終了	HDLM マネージャの起動成功	6	KAPL15401-I
		HDLM マネージャの起動失敗	4	KAPL15402-W
		HDLM マネージャの停止	6	KAPL15403-I
		DLMgetras ユティリティの開始	6	KAPL15060-I
		DLMgetras ユティリティの終了 ※2	6	KAPL15061-I
		HDLM GUI の起動成功	6	KAPL15201-I
		HDLM GUI の起動失敗	4	KAPL15204-W
		HDLM GUI の終了成功	6	KAPL15202-I
Authentication	管理者またはエンドユーザの認証	HDLM コマンドの実行権限なし	4	KAPL15111-W
		HDLM ユティリティの実行権限なし	4	KAPL15010-W
		HDLM マネージャの起動または停止の実行権限なし	4	KAPL15404-W
		HDLM GUI の起動権限なし	4	KAPL15203-W
ConfigurationAccess	構成情報の参照または更新	バスの統計情報の初期化成功	6	KAPL15101-I
		バスの統計情報の初期化失敗	4	KAPL15102-W
		バスの Online/Offline 成功	6	KAPL15103-I
		バスの Online/Offline 失敗	4	KAPL15104-W
		動作環境の設定成功	6	KAPL15105-I
		動作環境の設定失敗	4	KAPL15106-W
		プログラム情報の表示成功	6	KAPL15107-I
		プログラム情報の表示失敗	4	KAPL15108-W
		HDLM 管理対象物の情報表示成功	6	KAPL15109-I
		HDLM 管理対象物の情報表示失敗	4	KAPL15110-W
		HDLM GUI でのバスのオンライン成功	6	KAPL15207-I

種別	種別の説明	監査事象	重要度 (Severity) ※1	メッセージ ID
		HDLM GUI でのパスのオンライン失敗	4	KAPL15208-W
		HDLM GUI でのパスのオフライン成功	6	KAPL15207-I
		HDLM GUI でのパスのオフライン失敗	4	KAPL15208-W
		HDLM GUI のオペレーション成功 (CSV 出力, オプション情報取得, オプション情報設定, 再表示, データクリア)	6	KAPL15205-I
		HDLM GUI のオペレーション失敗	4	KAPL15206-W
		dmlprsvkey -r の処理成功	6	KAPL15030-I
		dmlprsvkey -r の処理失敗	4	KAPL15031-W
		dmlprsvkey -v の処理成功	6	KAPL15032-I
		dmlprsvkey -v の処理失敗	4	KAPL15033-W
		dlmchkpath -singleconnect の処理成功	6	KAPL15034-I
		dlmchkpath -singleconnect の処理失敗	4	KAPL15035-W
		パスの削除成功	6	KAPL15119-I
		パスの削除失敗	4	KAPL15120-W

注※1

重要度 (Severity) の意味は次のとおりです。

4:Warning 6:Information

注※2

HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) の実行中に, [Ctrl] + [C] で DLMgetras ユティリティを中断した場合は, DLMgetras ユティリティの終了を示す監査ログは出力されません。

2.13.2 監査ログ出力の前提条件

監査ログを出力するには, 次に示す条件をすべて満たしている必要があります。

- ・ イベントログのサービスが起動していること
- ・ HDLM コマンドの set オペレーションで監査ログの出力を有効にしていること

ただし, 上記の条件に関係なく, 外部媒体から HDLM のユーティリティなどを実行した場合, 監査ログが出力されることがあります※。

注※

次の内容で監査ログが出力されます。

- 出力される種別: StartStop, Authentication, ConfigurationAccess
- 出力される重要度 (Severity): 6 (Error, Warning, Information)

注意事項

- 監査ログは大量に出力されるおそれがあるので、ログサイズの変更、採取したログの退避、保管などを実施してください。

2.13.3 監査ログの出力先とフィルタリング

監査ログはイベントログに出力されます。

また、HDLM コマンドの set オペレーションで監査ログの重要度 (Severity) と種別を指定することによってフィルタリングして出力できます。

重要度 (Severity) によるフィルタリング

指定できる重要度を次の表に示します。

表 2-11 指定できる重要度 (Severity)

重要度 (Severity)	出力される監査ログ	イベントログの種類との対応
0	Error	Error (エラー)
1		
2		
3		
4	Error, Warning	Warning (警告)
5		
6	Error, Warning, Information	Information (情報)
7		

種別によるフィルタリング

指定できる種別を次に示します。

- StartStop
- Authentication
- ConfigurationAccess
- 上記のすべての種別

監査ログの設定方法については、「3.7.2 機能の設定」を参照してください。

2.13.4 監査ログの出力形式

監査ログの出力形式を説明します。

[イベントビューア] - [アプリケーションログ] で、イベントを開いたときに表示される [イベントのプロパティ] - [説明] の内容

プログラム名 [プロセス ID]: メッセージ部

メッセージ部の出力形式と内容を説明します。

メッセージ部の出力形式

統一識別子,統一仕様リビジョン番号,通番,メッセージID,日付・時刻,検出エンティティ,検出場所,監査事象の種別,監査事象の結果,監査事象の結果サブジェクト識別情報,ハードウェア識別情報,発生場所情報,ロケーション識別情報,FQDN,冗長化識別情報,エージェント情報,リクエスト送信元ホスト,リクエスト送信元ポート番号,リクエスト送信先ホスト,リクエスト送信先ポート番号,一括操作識別子,ログ種別情報,アプリケーション識別情報,予約領域,メッセージテキスト

メッセージ部には、半角で 950 文字まで表示されます。

表 2-12 メッセージ部に出力される情報

項目※	内容
統一識別子	「CELFSS」固定
統一仕様リビジョン番号	「1.1」固定
通番	監査ログのメッセージの通番
メッセージ ID	メッセージ ID 「KAPL15nnn-I」の形式で出力されます。
日付・時刻	メッセージが出力された日付と時刻 「yyyy-mm-ddThh:mm:ss タイムゾーン」の形式で出力されます。
検出エンティティ	コンポーネント名やプロセス名
検出場所	ホスト名
監査事象の種別	事象の種別
監査事象の結果	事象の結果
監査事象の結果サブジェクト識別情報	事象に応じた、アカウント ID、プロセス ID または IP アドレス
ハードウェア識別情報	ハードウェアの型名や製番
発生場所情報	ハードウェアのコンポーネントの識別情報
ロケーション識別情報	ロケーション識別情報
FQDN	完全修飾ドメイン名
冗長化識別情報	冗長化識別情報
エージェント情報	エージェント情報
リクエスト送信元ホスト	リクエストの送信元のホスト名
リクエスト送信元ポート番号	リクエストの送信元のポート番号
リクエスト送信先ホスト	リクエストの送信先のホスト名
リクエスト送信先ポート番号	リクエストの送信先のポート番号
一括操作識別子	プログラム内での操作の通番
ログ種別情報	「BasicLog」固定
アプリケーション識別情報	プログラムの識別情報
予約領域	出力されません。予約領域です。
メッセージテキスト	監査事象に応じた内容

注※ 監査事象によっては、出力されない項目もあります。

監査事象「HDLM 管理対象物の情報表示成功」で出力されるメッセージ部の例

```
CELFSS,1.1,0,KAPL15109-I,
2008-04-09T10:18:40.6+09:00,HDLMCommand,hostname=moon,ConfigurationAccess,Success,pid=3292,,,,,,,,,,,,,"Information about HDLM-
management targets was successfully displayed. Command Line = dlncmgr
view -path "
```

2.14 Global Link Manager による HDLM の統合管理

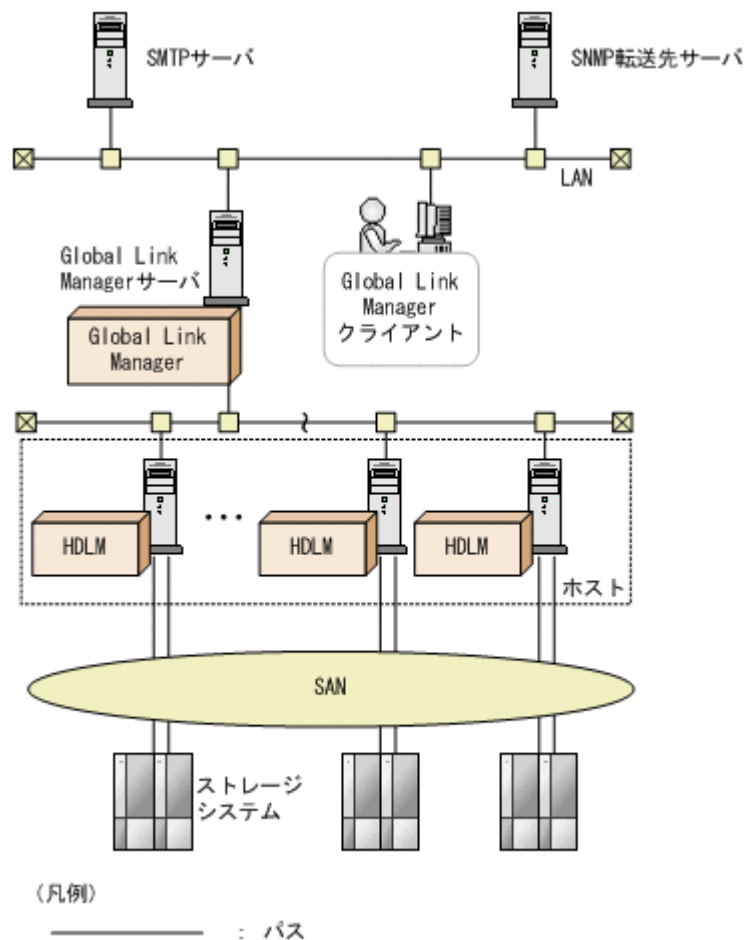
Global Link Manager を使用すると、複数の HDLM が稼働するシステムで、統合的にパスを管理できます。

HDLM が稼働するホストを何台も使用した大規模なシステム構成の場合、各ホストでパスを管理するための作業負荷は、規模の大きさに比例して増大します。HDLM と Global Link Manager を連携させると、複数の HDLM のパス情報を一元管理でき、作業負荷を軽減できます。また、システム全体での負荷バランスを考慮してパスの稼働状態を切り替えたり、HDLM の障害情報を Global Link Manager で集中して管理したりできます。

Global Link Manager では、複数のホストにインストールされた HDLM からパスに関する情報を収集して一元管理します。一元化された情報は、ホストを管理する複数のユーザがクライアントマシンから参照したり制御したりできます。

HDLM と Global Link Manager を使用したシステム構成例を次の図に示します。

図 2-16 HDLM と Global Link Manager を使用したシステム構成例



2.15 クラスタ対応

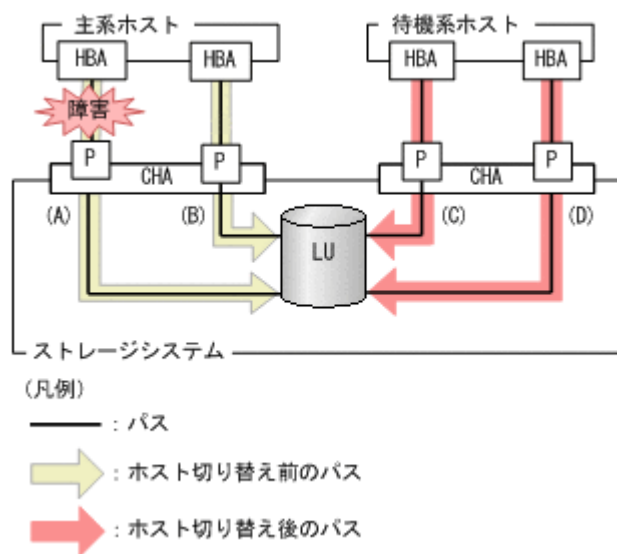
HDLM はクラスタ構成時にも使用できます。

HDLM がサポートするクラスタソフトウェアについては、「3.1.3 HDLM がサポートするクラスタソフトウェア」の「表 3-5 HDLM がサポートするクラスタソフトウェア」を参照してください。

HDLM がサポートするクラスタソフトウェアでロードバランス機能を使用する場合、HDLM は主系ホストのパスを使用して LU にアクセスします。例えば「図 2-17 クラスタ構成時のパス切り替え」で、主系ホストの(A)のパスを経由するパスで LU 内のデバイスにアクセスしている場合、1つのパスが閉塞状態になったあとは、主系ホストの(B)のパスを経由するパスに切り替えて処理を継続します。

ノードの切り替えの契機は、クラスタソフトウェアに依存します。

図 2-17 クラスタ構成時のパス切り替え



HDLM の環境構築

この章では、HDLM の環境を構築する手順および設定を解除する手順について説明します。

HDLM のインストールおよび機能の設定は必ず行ってください。

- 3.1 HDLM のシステム要件
- 3.2 環境構築の流れ
- 3.3 HDLM のインストールの種別
- 3.4 環境を構築する場合の注意事項
- 3.5 HDLM のインストール
- 3.6 パス構成の確認
- 3.7 HDLM の機能の設定
- 3.8 統合トレースの設定
- 3.9 HDLM の設定解除

3.1 HDLM のシステム要件

HDLM をインストールする前に、次の項目を確認してください。

3.1.1 HDLM がサポートするホストと OS

HDLM がサポートするホストと OS、Microsoft MPIO ドライバ、および Web ブラウザについて、次に示します。

(1) 適用ホスト

HDLM をインストールできるホストは次の表に示す OS が動作するホストです。

表 3-1 ホストの適用 OS

OS	SP
Windows Server 2003(IPF)	SP なし※
	SP1
	SP2
Windows Server 2003(x64)	SP なし
	SP2
Windows Server 2003 R2(x64)	SP なし
	SP2
Windows Server 2003(x86)	SP なし※
	SP1
	SP2
Windows Server 2003 R2(x86)	SP なし
	SP2
Windows Server 2008(IPF)	SP なし
	SP2
Windows Server 2008 R2(IPF)	SP なし
	SP1
Windows Server 2008(x64)	SP なし
	SP2
Windows Server 2008 R2(x64)	SP なし
	SP1
Windows Server 2008(x86)	SP なし
	SP2
Windows Server 2012(x64)	SP なし

注

このマニュアルでは、32 ビット CPU で動作する Windows を (x86) と表記しています。

注※

SP1 を適用していない環境で、HBA ドライバとして Storport Miniport ドライバを使用する場合には、Microsoft 社から提供されている QFE 更新プログラム QFE838894 以降が必要です。

(2) Microsoft MPIO ドライバ

HDLM に同梱している Microsoft MPIO ドライバのバージョンを次の表に示します。

表 3-2 HDLM に同梱している Microsoft MPIO ドライバのバージョン

ドライバ	説明	ファイルバージョン
mpdev.sys	Multipath Scsi Device Filter	1.23
mpio.sys	Multipath Support Bus-Driver	1.23
mpspfltr.sys	Multipath Scsi Filter	1.23

注

Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合、OS に同梱されている MPIO ドライバを使用します。

(3) HDLM がサポートする Web ブラウザ

HDLM がサポートする Web ブラウザは、Internet Explorer 5.0 以降です。

3.1.2 HDLM がサポートするストレージシステム

HDLM がサポートするストレージシステム、Hitachi RapidXchange 管理の中間ボリュームを扱う場合の関連プログラムについて、次に示します。

(1) ストレージシステム

HDLM は、「表 3-3 適用ストレージシステム」に示すストレージシステムに適用できます。適用できるストレージシステムは、デュアルコントローラ構成が前提です。HUB 接続環境で使用する場合、接続されているすべてのホスト、およびすべてのストレージのループ ID を一意に設定してください。なお、HDLM を使用するために必要なマイクロプログラムバージョンについては、HDLM のソフトウェア添付資料を参照してください。ストレージの設定情報についてはストレージシステムの保守マニュアルを参照してください。

表 3-3 適用ストレージシステム

適用ストレージシステム※	インタフェース	OS						
		Windows Server 2003			Windows Server 2008			Windows Server 2012
		x86	IPF	x64	x86	IPF	x64	x64
<ul style="list-style-type: none"> H10000 H12000 	FC I/F	○	○	○	○	○	○	×
	FC I/F	○	○	○	○	○	○	○
<ul style="list-style-type: none"> Hitachi AMS シリーズ Hitachi WMS シリーズ 	FC I/F	○	○	○	○	○	○	×
	iSCSI I/F	○	○	○	○	○	○	×
Hitachi AMS2000 シリーズ	FC I/F	○	○	○	○	○	○	○
	iSCSI I/F	○	○	○	○	○	○	○
Hitachi SMS シリーズ	FC I/F	○	○	○	○	○	○	×
	iSCSI I/F	○	○	○	○	○	○	×
Hitachi TMS シリーズ	FC I/F	○	○	○	○	○	○	×
<ul style="list-style-type: none"> Hitachi Universal Storage Platform 100 	FC I/F	○	○	○	○	○	○	×

適用ストレージシステム※	インタフェース	OS						
		Windows Server 2003			Windows Server 2008			Windows Server 2012
		x86	IPF	x64	x86	IPF	x64	x64
<ul style="list-style-type: none"> Hitachi Universal Storage Platform 600 Hitachi Universal Storage Platform 1100 Hitachi NSC55 	iSCSI I/F	○	○	○	×	×	×	×
Hitachi Universal Storage Platform V/VM	FC I/F	○	○	○	○	○	○	○
<ul style="list-style-type: none"> Hitachi Virtual Storage Platform Hitachi Virtual Storage Platform VP9500 HP StorageWorks P9500 Disk Array 	FC I/F	○	○	○	○	○	○	○
HUS100 シリーズ	FC I/F	○	○	○	○	○	○	○
	iSCSI I/F	○	○	○	○	○	○	○
HUS VM	FC I/F	○	○	○	○	○	○	○
<ul style="list-style-type: none"> XP128 XP1024 	FC I/F	○	○	○	○	○	○	×
SANRISE 2000 シリーズ	FC I/F	○	○	○	×	×	×	×
SANRISE 9500V シリーズ	FC I/F	○	○	○	○	○	○	×
SANRISE 9900V シリーズ	FC I/F	○	○	○	○	○	○	×
	iSCSI I/F	○	○	○	×	×	×	×
<ul style="list-style-type: none"> SANRISE H48 SANRISE H512 	FC I/F	○	○	○	×	×	×	×
<ul style="list-style-type: none"> SANRISE H128 SANRISE H1024 	FC I/F	○	○	○	○	○	○	×
<ul style="list-style-type: none"> SVS XP10000 XP12000 	FC I/F	○	○	○	○	○	○	×
<ul style="list-style-type: none"> XP20000 XP24000 	FC I/F	○	○	○	○	○	○	○

(凡例)

○：使用できる

×：使用できない

FC I/F：FC Interface

iSCSI I/F：iSCSI Interface

注※

デュアルコントローラ構成であることが前提です。

(2) HBA

適用できる HBA については、HDLM のソフトウェア添付資料を参照してください。

(3) Hitachi RapidXchange 管理の中間ボリュームを扱う場合

Hitachi RapidXchange で管理している中間ボリュームで、データを交換する場合の関連プログラムを次の表に示します。

表 3-4 Hitachi RapidXchange 管理の中間ボリュームでデータ交換をする場合の関連プログラム

OS	関連プログラム
Windows Server 2003 R2(x64) SP2※1	File Access Library and File Conversion Utility (FAL/FCU) 01-05-66/25 以降※2
Windows Server 2003(x86)※1	File Access Library and File Conversion Utility (FAL/FCU) 01-03-64/21 以降※3 01-04-64/20 以降※4

注※1

詳細については、「3.1.1 HDLM がサポートするホストと OS」の「(1) 適用ホスト」を参照してください。

注※2

接続メインフレーム：MVS, 接続ストレージシステムは、Hitachi Universal Storage Platform V

注※3

接続メインフレーム：MVS, 接続ストレージシステムは、SANRISE9900V シリーズ

注※4

接続メインフレーム：MVS, 接続ストレージシステムは、Hitachi USP シリーズ

なお、Hitachi RapidXchange の詳細は、マニュアル「SANRISE2000/SANRISE9900/SANRISE Universal Storage Platform/Hitachi Universal Storage Platform V Hitachi Virtual Storage Platform FAL for AIX FAL for HP-UX FAL for Solaris FAL for Windows FAL for NCR UNIX FAL for HI-UX/WE2 FAL for Tru64 UNIX FAL for LINUX ユーザーズガイド」を参照してください。

3.1.3 HDLM がサポートするクラスタソフトウェア

クラスタ構成を構築する場合のクラスタソフトウェアを次の表に示します。

表 3-5 HDLM がサポートするクラスタソフトウェア

OS	SP	クラスタソフトウェア名
Windows Server 2003(IPF)	SP なし	MSCS
	SP1	MSCS
		VCS 5.0
		Oracle RAC 10g※
	SP2	MSCS
		VCS 5.0
Oracle RAC 10g※		
Windows Server 2003(x64)	SP なし	MSCS
		VCS 4.3
		Oracle RAC 10g※
	SP2	MSCS

OS	SP	クラスタソフトウェア名
		VCS 4.3
		Oracle RAC 10g [※]
		Oracle RAC 11g [※]
		CLUSTERPRO
Windows Server 2003 R2(x64)	SP なし	MSCS
		VCS 4.3, 5.0
		Oracle RAC 10g [※]
		Oracle RAC 11g [※]
	SP2	MSCS
		VCS 4.3, 5.0
		Oracle RAC 10g [※]
		Oracle RAC 11g [※]
Windows Server 2003(x86)	SP なし	MSCS
		VCS 4.1, 4.2, 4.3
		Oracle9i RAC [※]
		Oracle RAC 10g [※]
	SP1	MSCS
		VCS 4.3, 5.0
		Oracle RAC 10g [※]
		Oracle RAC 11g [※]
	SP2	MSCS
		VCS 4.3, 5.0
		Oracle RAC 10g [※]
		Oracle RAC 11g [※]
CLUSTERPRO		
Windows Server 2003 R2(x86)	SP なし	MSCS
		VCS 4.3, 5.0
		Oracle RAC 10g [※]
		Oracle RAC 11g [※]
	SP2	MSCS
		VCS 4.3, 5.0, 5.1
		Oracle9i RAC [※]
		Oracle RAC 10g [※]
		Oracle RAC 11g [※]
		CLUSTERPRO
Windows Server 2008(IPF)	SP なし	MSCS
	SP2	MSCS
Windows Server 2008 R2(IPF)	SP なし	MSCS
	SP1	MSCS
Windows Server 2008(x64)	SP なし	MSCS

OS	SP	クラスタソフトウェア名
		Oracle RAC 10g [※]
		Oracle RAC 11g [※]
		CLUSTERPRO
	SP2	MSCS
		Oracle RAC 11g [※]
		CLUSTERPRO
Windows Server 2008 R2(x64)	SP なし	MSCS
		VCS 5.1
		Oracle RAC 10g [※]
		Oracle RAC 11g [※]
		CLUSTERPRO
	SP1	MSCS
		Oracle RAC 10g [※]
		CLUSTERPRO
Windows Server 2008(x86)	SP なし	MSCS
		Oracle RAC 10g [※]
		CLUSTERPRO
	SP2	MSCS
		Oracle RAC 11g [※]
		CLUSTERPRO
Windows Server 2012(x64)	SP なし	MSCS

注※

Oracle RAC のバージョンについては、ソフトウェア添付資料を参照してください。

注意事項

- HDLM をクラスタ構成で使用する場合、そのクラスタを構成するすべてのノードには同じバージョンの HDLM をインストールしてください。異なるバージョンがインストールされている場合、クラスタが正常に動作しないおそれがあります。次に示すコマンドを実行して表示される「HDLM Version」および「Service Pack Version」が一致する場合、同じバージョンの HDLM になります。

```
dlnkmgr view -sys -sfunc
```

- VCS の DiskReservation エージェント機能は、サポートしていません。

3.1.4 HDLM がサポートするボリュームマネージャ

ボリュームマネージャを使用する場合の関連プログラムを次の表に示します。

表 3-6 ボリュームマネージャを使用する場合の関連プログラム

OS	関連プログラム
Windows Server 2003(IPF)	Veritas Storage Foundation for Windows 5.0
Windows Server 2003(x64)	Veritas Storage Foundation for Windows 5.0

OS	関連プログラム
Windows Server 2003(x86)	Veritas Storage Foundation for Windows 5.0
	Veritas Storage Foundation for Windows 5.1
Windows Server 2008 R2(x64)	Veritas Storage Foundation for Windows 5.1

3.1.5 HDLM がサポートする仮想環境

HDLM は、次に示す仮想環境をサポートします。

- BladeSymphony のブレードサーバ部に搭載されているサーバ論理分割機構の Virtage
- Windows Server 2008 Hyper-V
- Windows Server 2012 Hyper-V

3.1.6 メモリ所要量とディスク占有量

メモリ所要量とディスク占有量について説明します。

(1) メモリ所要量

ホストのメモリ所要量を次の表に示します。

表 3-7 ホストのメモリ所要量

HDLM GUI の使用	OS	メモリ所要量
使用していないとき	Windows	40MB
使用しているとき	Windows	65MB

(2) ディスク占有量

ホストのディスク占有量を次の表に示します。

表 3-8 ホストのディスク占有量

フォルダ	ディスク占有量
HDLM のインストール先フォルダ	<ul style="list-style-type: none"> • HDLM Core コンポーネントだけを使用する場合 10MB+pMB^{*1}+qMB^{*2}+1MB • HDLM GUI を使用しない場合 150MB+pMB^{*1}+qMB^{*2}+1MB • HDLM GUI を使用する場合 150MB+20MB+pMB^{*1}+qMB^{*2}+1MB

注※1

最大 30000MB で、ログファイルの設定に依存します。

p は、障害ログファイルサイズを s (デフォルト値は 9900)，障害ログファイル数を m (デフォルト値は 2) とすると、 $p = (s \times m) \div 1024$ (切り上げ) (単位：MB) として計算します。

注※2

最大 1000MB で、トレースファイルの設定に依存します。

q は、トレースファイルサイズを t (デフォルト値は 1000)，トレースファイル数を n (デフォルト値は 4) とすると、 $q = (t \times n) \div 1024$ (切り上げ) (単位：MB) として計算します。

3.1.7 HDLM がサポートする LU 数とパス数

HDLM がサポートする LU 数とパス数を次の表に示します。

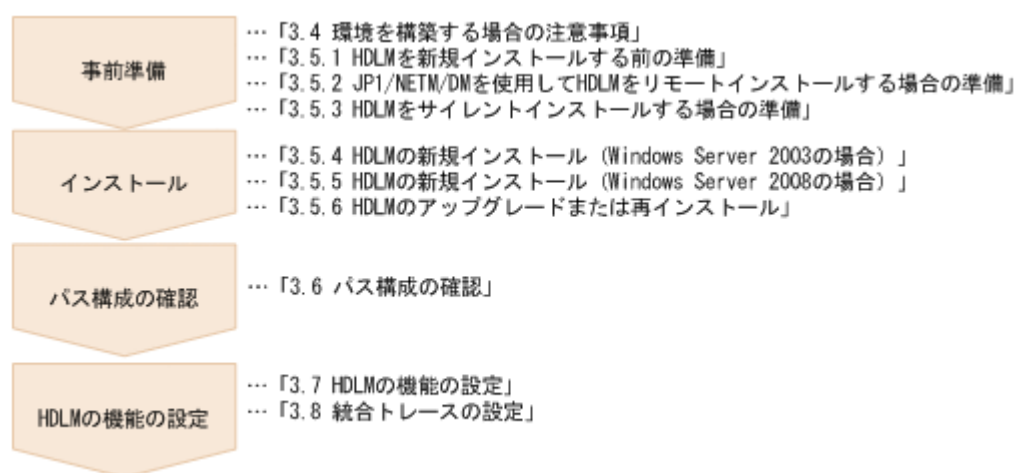
表 3-9 HDLM がサポートする LU 数とパス数

項目	サポートする数
LU 数	1~256
1LU 当たりのパス数	1~12
合計のパス数	1~3060

3.2 環境構築の流れ

次の流れに従って、HDLM を使用する環境を構築してください。

図 3-1 環境構築の流れ



3.3 HDLM のインストールの種別

HDLM の新規インストール、アップグレードインストール、移行、および再インストールについて説明します。

HDLM の新規インストール

HDLM がインストールされていないサーバに HDLM をインストールすることを、HDLM の新規インストールと呼びます。

HDLM のアップグレードインストール

すでにインストールされている古いバージョンの HDLM をアンインストールしないまま、新しいバージョンの HDLM をインストールすることを、HDLM のアップグレードインストールと呼びます。アップグレードインストールの対象となるバージョンは、HDLM05-50 以降です。HDLM05-50 より前のバージョンから新しいバージョンへアップグレードインストールすることはできません。

HDLM の移行

すでにインストールされている 05-40 以前の HDLM をアンインストールしてから、05-50 以降の HDLM を新規インストールすることを、HDLM の移行と呼びます。このとき、以前の HDLM の設定情報を引き継ぐことができます。

HDLM の再インストール

すでにインストールされている HDLM を修復するために、アンインストールしないまま再度同じバージョンの HDLM をインストールすることを、HDLM の再インストールと呼びます。

また、HDLM をインストールする場合、インストールする HDLM のプログラムを選択することができます。選択できる内容を次に示します。

- HDLM Core コンポーネント
HDLM GUI と Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントを除く HDLM のプログラムをインストールします。
- HDLM のすべてのコンポーネント
HDLM のプログラムすべてをインストールします。

3.4 環境を構築する場合の注意事項

ここでは、HDLM の環境を構築する場合の注意事項について説明します。

HDLM を運用する場合の注意事項については、「[4.1 HDLM を使用する場合の注意事項](#)」を参照してください。

3.4.1 HBA および HBA ドライバに関する注意事項

- Windows Server 2003 で HBA ドライバとして Storport Miniport ドライバを使用する場合は、HDLM のインストール前に Microsoft の Storport ドライバの QFE838894 以降、または Windows Server 2003 の SP1 以降をインストールしてください。
- 日立アドバンスドサーバ HA8000 シリーズに HDLM をインストールする場合は、HDLM のソフトウェア添付資料に記載された HBA ドライバを使用してください。最新のサポート状況については、サービス窓口または販売元にお問い合わせください。
- 複数の HBA を使用する場合は、同一種類のものを使用してください。また、HBA のファームウェアバージョンおよび HBA のドライバのバージョンも合わせてください。

3.4.2 ストレージシステムに関する注意事項

- ストレージシステムのベンダ ID およびプロダクト ID を変更しないでください。変更すると、HDLM がストレージシステムを認識できなくなります。
- ホストとストレージシステムをファイバチャネルスイッチを使用して接続した構成では、接続形態を Point To Point にしてください。接続形態を FC-AL(Fibre Channel Arbitrated Loop)にした場合、予期しないパス障害を検出することがあります。
- Windows が認識できる LUN は 0~255 の範囲です。したがって、ストレージシステムの管理ソフトウェアで LUN を設定するときも、0~255 の範囲で設定してください。

3.4.3 HDLM のバージョンに関する注意事項

- 05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、「[3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行](#)」の手順に従って HDLM をアンインストールしてから、HDLM を新規インストールしてください。
- 05-60 より前の HDLM のトレースファイルは、HDLM 05-60 以降では統合トレースファイルとトレースファイルに分割されます。統合トレースファイルには HDLM コマンドおよび GUI の動作ログが出力されます。トレースファイルには HDLM マネージャのトレース情報が出力されます。ファイルの出力先は次のように変更されます。

- 04-00 以前の HDLM から 05-60 以降の HDLM へ移行した場合

移行前のトレースファイル：

プログラムのインストール先ドライブ：`%Program Files%*\HITACHI\HNTRLib\%spool
%hntm%.log` (n はファイルの番号)

移行後の統合トレースファイル：

プログラムのインストール先ドライブ：`%Program Files%*\HITACHI\HNTRLib2\%spool
%hnt2n%.log` (n はファイルの番号)

移行後のトレースファイル：

プログラムのインストール先ドライブ：`%Program Files%\HITACHI
DynamicLinkManager\log\%hdlmtrm%.log` (n はファイルの番号)

下線部はインストール時に指定したフォルダです。

- 04-01～05-50 の HDLM から 05-60 以降の HDLM へ移行した場合、または 05-50 以降の HDLM からアップグレードインストールした場合

移行またはアップグレードインストール前のトレースファイル：

プログラムのインストール先ドライブ：`%Program Files%*\HITACHI\HNTRLib\%spool
%hntm%.log` (n はファイルの番号)

移行またはアップグレードインストール後の統合トレースファイル：

プログラムのインストール先ドライブ：`%Program Files%*\HITACHI\HNTRLib2\%spool
%hnt2n%.log` (n はファイルの番号)

移行またはアップグレードインストール後のトレースファイル：

プログラムのインストール先ドライブ：`%Program Files%\HITACHI
DynamicLinkManager\log\%hdlmtrm%.log` (n はファイルの番号)

下線部はインストール時に指定したフォルダです。

注※

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は、Program Files (x86) となります。

- 05-50 以降の HDLM のインストールは、ほかのアプリケーションが HDLM の管理対象である LU を使用中でないことを確認してから実行してください。
- 05-50 以降の HDLM を新規にインストールした場合、次に示す説明のイベントが発生してイベントログに出力されますが、システムおよび HDLM の動作上問題はありません。

説明

イベントプロパティが対象クラス "WMIEvent" が存在しないクエリ "select * from WMIEvent" を登録しようとしたためです。
クエリは無視されるためです。

- HDLM をクラスタ構成で使用する場合、そのクラスタを構成するすべてのノードには同じバージョンの HDLM をインストールしてください。異なるバージョンがインストールされている場合、クラスタが正常に動作しないおそれがあります。次に示すコマンドを実行して表示される「HDLM Version」および「Service Pack Version」が一致する場合、同じバージョンの HDLM になります。

```
dlnkmgr view -sys -sfunc
```

3.4.4 Windows に関する注意事項

- OS と HDLM は、ホストの内蔵ディスクにインストールすることを推奨します。HDLM の管理対象ディスクにインストールした場合、次の現象が発生するおそれがあります。
 - OS のクラッシュダンプや障害情報をディスクに格納できなくなることがあります。

- HDLM をアンインストールしたあとに、ファイルが削除されないことがあります。
- Windows に日本語名でログインすると、環境変数「TMP」に日本語が入ります。環境変数「TMP」に日本語（2 バイト文字）が含まれている場合、HDLM をインストールできません。日本語（2 バイト文字）を含まないフォルダを環境変数「TMP」にしてインストールしてください。
- Windows をインストールしたシステムディスクを、バックアップからリストアする場合は、シングルパス構成でリストアしてください。
リストアをしたあとに、HDLM が正常に動作していることを確認してから、マルチパス構成に変更してください。
- システム環境変数「Path」のサイズが 1024 バイト以上の環境では、HDLM マネージャを起動できないおそれがあります。HDLM マネージャを起動できなかった場合、次に示すメッセージが Windows のイベントログ（システム）に出力されます。

ソース：Service Control Manager

種類：エラー

イベント ID：7000

説明：DLManager サービスは次のエラーのため開始できませんでした：そのサービスは指定時間内に開始要求または制御要求に応答しませんでした。

HDLM マネージャを起動できなかった場合は、システム環境変数「Path」に HDLM が必要とする次のパスが 1024 バイト以内に収まるよう、不要なパスの文字列を削除してください。

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合

Windows のインストール先ドライブ:¥Program Files (x86)¥Common Files¥Hitachi

Windows のインストール先ドライブ:¥Program Files (x86)¥HDVM¥HBaseAgent¥bin

Windows のインストール先ドライブ:¥Program Files (x86)¥HDVM¥HBaseAgent¥util

¥bin

HDLM のインストール先フォルダ¥bin

HDLM のインストール先フォルダ¥lib

上記以外の Windows の場合

Windows のインストール先ドライブ:¥Program Files¥Common Files¥Hitachi

Windows のインストール先ドライブ:¥Program Files¥HDVM¥HBaseAgent¥bin

Windows のインストール先ドライブ:¥Program Files¥HDVM¥HBaseAgent¥util¥bin

HDLM のインストール先フォルダ¥bin

HDLM のインストール先フォルダ¥lib

Windows Server 2003 の SP1 および Windows Server 2003 R2（SP なし）の場合は、上記の方法以外に Microsoft 社が提供する修正プログラムを適用しても HDLM マネージャを起動できます。修正プログラムの入手方法および適用によるシステムへの影響については、Microsoft 社にお問い合わせください。

- HDLM はインストール中に Windows Installer サービスを使用します。したがって、HDLM をインストールするときは次に示す設定および確認をしてください。
 - a. Windows Installer サービスの [スタートアップの種類] は「手動」または「自動」に設定してください。
 - b. HDLM をインストールするときは、ほかのプログラムが Windows Installer サービスを使用していないことを確認してください。

Windows Installer サービスの [スタートアップの種類] を「無効」に設定した状態、またはほかのプログラムが Windows Installer サービスを使用している状態で HDLM をインストール

すると、次に示す KAPL09034-E メッセージが出力されてインストールに失敗するおそれがあります。

KAPL09034-E HDLM インストーラで内部エラーが発生しました。コード = -99 nnnnn

新規インストール時にこの現象が発生した場合

上記の a および b の状態になっているかどうかを確認してから、再度 HDLM をインストールしてください。

アップグレードまたは再インストールしようとしたときにこの現象が発生した場合

上記の a および b の状態になっているかどうかを確認してから、再度アップグレードまたは再インストールしてください。

アップグレードまたは再インストールに失敗しても、「アプリケーションの追加と削除」ウィンドウ上では HDLM が正常にインストールされたように見えます。しかし実際はアップグレードまたは再インストールに失敗しているので注意が必要です。

- 次に示すどちらかの条件を満たした状態で HDLM のインストールを実行した場合、Windows の「ディスクの管理」上のミラーディスクにエラーが表示されることがあります。
 - HDLM 管理対象デバイスにダイナミックディスクを使用したミラーディスクボリュームがある場合
 - dmaadmin サービスを使用するアプリケーションが実行中の場合
このエラーが発生しても、HDLM 管理対象デバイスのデータに影響しません。ホストを再起動したあと、Windows の「ディスクの管理」でディスクをアクティブ化するとエラーは表示されなくなります。このエラーが発生しないようにする場合は、HDLM をインストールする前に次のことを実行してください。
 - HDLM 管理対象デバイスにダイナミックディスクを使用したミラーディスクボリュームがある場合
ディスクの管理コンソールを閉じてください。
 - dmaadmin サービスを使用するアプリケーションを実行している場合
dmaadmin サービスを使用するアプリケーションを停止してください。
- Windows Server 2003(IPF)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(IPF)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 では、GPT (GUID Partition Table) を使用したブートディスク環境をサポートしていません。
- Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 では、HDLM のインストール先フォルダを「Program Files」以外のフォルダにすることを推奨します。
- HDLM をインストールする場合、HDLM のインストール先フォルダ、およびそのすべての親フォルダの名前は、次のすべての条件を満たすものにしてください。
 - OS で規定された予約名ではない。
OS で規定された予約名には、CON, AUX, COM1~COM9, LPT1~LPT9, PRN, NUL などがあります。
 - 次の文字によって構成される。
A~Z, a~z, 0~9, 「-」, 「_」, 「.」, 「@」, 半角スペース
 - 末尾が半角スペースではない。
 - 半角スペースが 2 文字以上続いていない。

これらの条件を満たさないフォルダを指定してインストールした場合、次の表に示す現象が発生するおそれがあります。その場合、それぞれに示す対処方法に従って HDLM を再インストールしてください。

表 3-10 条件を満たさないフォルダを指定して HDLM をインストールした場合に発生する現象および対処

発生する現象	対処
インストール中に内部エラーが発生して、インストールが中断される。	上記の条件を満たすフォルダを指定して再度インストールしてください。
インストールが正常に終了したあと、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行した場合に障害情報が収集できない。	HDLM をアンインストールしたあと、上記の条件を満たすフォルダを指定して再度インストールしてください。

- Windows Server 2008 および Windows Server 2012 で HDLM をインストールする場合は、アプリケーションから HDLM の管理対象ディスクにアクセスできないように、インストールする前に次の操作を行ってください。
 - ディスクを MSCS のリソースとして登録していない場合
Windows の「ディスクの管理」でディスクをオフラインにしてください。
 - ディスクを MSCS のリソースとして登録している場合
クラスタサービスを停止してください。
- Windows Server 2008 および Windows Server 2012 では、ユーザアカウント制御 (UAC) がサポートされています。このため、Administrator 以外のユーザで、次に示す HDLM をインストールまたはアンインストールするプログラムを実行する場合は、「管理者：コマンドプロンプト」で実行してください。
 - setup.exe[※]
 - installhdlm (installhdlm ユティリティ)
 - removehdlm (removehdlm ユティリティ)

注※

「管理者として実行」で実行することもできます。

- Windows Server 2008 で Hyper-V 機能を使用した場合、ゲスト OS 上では HDLM を使用できません。HDLM は、ホスト OS にインストールしてください。
また、ホスト OS に HDLM のインストールまたはアンインストールを実行する場合は、Hyper-V マネージャコンソールを終了してください。Hyper-V マネージャコンソールが起動している場合、HDLM のインストールまたはアンインストールが停止します。この場合、Hyper-V マネージャコンソールを終了することで、HDLM のインストールやアンインストールを続行できます。
- Windows Server 2008 で Hyper-V 機能を使用した場合、ゲスト OS のクラスタ環境は使用できません。
- Hyper-V 機能を使用した場合、ゲスト OS に HDLM 管理対象デバイスを物理ハードディスクとして割り当てていて、ホスト OS 上で HDLM を新規インストール、アップグレードインストール、またはアンインストールするときは、いったんゲスト OS に割り当てていた HDLM 管理対象デバイスの物理ハードディスクを解除してください。HDLM を新規インストール、アップグレードインストール、またはアンインストールしたあと、ゲスト OS に物理ハードディスクを再度割り当て直してください。

3.4.5 関連するソフトウェアに関する注意事項

- HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアはインストールしないでください。HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがホストにインストールされている場合は、HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアをアンインストールしてホストを再起動したあとに、HDLM をインストールしてください。

- Windows 版の HDLM と VMware 版の HDLM を、同一のホスト上で使用することはできません。
- HDLM は、ホストの OS に応じて次の MPIO ドライバを使用します。
 - Windows Server 2003 の場合

HDLM のインストール時に、HDLM の DVD に同梱された MPIO ドライバがインストールされます。MPIO ドライバは、mpio.sys、mpspfltr.sys、および mpdev.sys のファイルで構成されます。
 - Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合

HDLM の DVD に同梱された MPIO ドライバはインストールされないで、OS に同梱されている MPIO ドライバを使用します。
- OS が Windows Server 2003 で、HDLM に同梱された MPIO ドライバとバージョンの異なる MPIO ドライバがインストールされているホストに HDLM をインストールした場合、MPIO ドライバを上書きするかどうかを確認する KAPL09127-W のメッセージが表示されます。HDLM をアップグレードインストールする場合は、インストールを続行してください。HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされている場合は、インストールを中止しそのマルチパス管理ソフトウェアをアンインストールしてください。
- HDLM をインストールした場合に、KAPL09257-W または KAPL09258-E のメッセージが表示されることがあります。この場合、HDLM に同梱された MPIO ドライバよりも新しいバージョンの MPIO ドライバがホストにインストールされています。また、HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアをインストールした場合にも、MPIO ドライバがインストールされることがあります。インストールされている MPIO ドライバのセットアップ情報ファイルをシステムから削除したあとに、HDLM をインストールし直してください。MPIO ドライバのセットアップ情報は、mpio.inf ファイルと mpdev.inf ファイルに定義されています。これらの 2 つのファイルは、MPIO ドライバのインストール時に oemn.inf (n は任意の数字) という名称で Windows のインストール先フォルダ¥inf フォルダに登録されます。また、同じフォルダに 2 つの oemn.pnf ファイルが作成されます。

KAPL09257-W または KAPL09258-E のエラーメッセージが表示された場合、次の手順を実行して、これら 2 つの oemn.inf ファイルと 2 つの oemn.pnf ファイルを削除してください。

 - a. KAPL09257-W または KAPL09258-E のメッセージで示された、MPIO ドライバのバージョンを確認します。

次に示すメッセージの出力例では、「n.nn.nnnn.nnnn」(n は数字) が目的の MPIO ドライバのバージョンになります。

KAPL09257-W MPIO_{n.nn.nnnn.nnnn} がインストールされたシステムへのインストールはサポートしていません。
 - b. バージョン番号が記述されたセットアップ情報ファイル (拡張子が inf) を、Windows の検索機能を使って次に示すフォルダから検索します。

Windows のインストール先フォルダ¥inf

oemn.inf という、2 つのファイルが該当します。
 - c. 該当した oemn.inf ファイルとインストールされていたバージョンの MPIO ドライバの mpio.inf ファイルおよび mpdev.inf ファイルが同じファイルであることを確認します。新しいバージョンの HDLM がインストールされていた場合は、mpio.inf ファイルおよび mpdev.inf ファイルは新しいバージョンの HDLM の DVD に同梱されています。
 - d. 該当したセットアップ情報ファイルを、Windows のインストール先フォルダ¥inf フォルダから削除します。

また、該当したファイルと同じ名前で、拡張子が pnf のファイルも同様に削除してください。

なお、削除対象のセットアップ情報ファイルは、念のため別のフォルダにバックアップしておくことをお勧めします。

- HDLM を Windows Server 2008 または Windows Server 2012 にインストールしている場合は、サーバマネージャで「マルチパス I/O」機能を削除しないでください。
- ホストと Oracle RAC の投票ディスク (Voting Disk) を複数のパスで接続しているとき、それらのパスの一部で I/O タイムアウトが発生すると通常のパスと同様に HDLM はフェイルオーバー処理を実行します。

ただし、Oracle RAC の設定状態によっては、HDLM のフェイルオーバー処理が完了する前に Oracle RAC 側でノード障害が発生したと見なし、クラスタを再構成してしまうおそれがあります。

したがって、Oracle RAC の投票ディスクに接続したパスを HDLM が管理する場合、使用している Oracle RAC のバージョンに応じて、次に示す設定値を変更してください。

- Oracle RAC 10g 10.1.0.3.0 以降、または Oracle RAC 11g を使用している場合
ストレージシステムの種別に応じて、「MISSCOUNT」の値を変更してください。設定する値は、次に示す表に従って計算してください。算出した値以上に変更してください。

表 3-11 「MISSCOUNT」の計算式

ストレージシステム種別	「MISSCOUNT」に設定する値の計算式
<ul style="list-style-type: none"> • SANRISE2000 シリーズ • SANRISE9900V シリーズ • Hitachi USP シリーズ • Universal Storage Platform V/VM シリーズ • Virtual Storage Platform シリーズ • HUS VM 	投票ディスクへ接続するパスの数×60 秒
<ul style="list-style-type: none"> • Hitachi AMS2000/AMS/TMS/WMS/SMS シリーズ • HUS100 シリーズ • SANRISE9500V シリーズ 	投票ディスクへ接続するパスの数×30 秒

- Oracle RAC 10g 10.2.0.2.0 以降、または Oracle RAC 11g を使用している場合
上記の「MISSCOUNT」の値の変更に加え、「DISKTIMEOUT」の値も変更してください。「DISKTIMEOUT」に設定する値は、「MISSCOUNT」の値の変更と同様、ストレージシステムの種別に応じて異なります。設定する値は、次に示す表に従って計算してください。算出した値以上に変更してください。

表 3-12 「DISKTIMEOUT」の計算式

ストレージシステム種別	投票ディスクへ接続するパスの数	「DISKTIMEOUT」に設定する値の計算式
<ul style="list-style-type: none"> • SANRISE2000 シリーズ • SANRISE9900V シリーズ • Hitachi USP シリーズ • Universal Storage Platform V/VM シリーズ • Virtual Storage Platform シリーズ • HUS VM 	3 以下	「DISKTIMEOUT」の値を変更する必要はありません。
	4 以上	投票ディスクへ接続するパスの数×60 秒
<ul style="list-style-type: none"> • Hitachi AMS2000/AMS/TMS/WMS/SMS シリーズ • HUS100 シリーズ • SANRISE9500V シリーズ 	6 以下	「DISKTIMEOUT」の値を変更する必要はありません。
	7 以上	投票ディスクへ接続するパスの数×30 秒

「MISSCOUNT」および「DISKTIMEOUT」の変更方法については、Oracle サポートサービスを契約した会社へお問い合わせください。

なお、上記の構成から HDLM をアンインストールする場合、変更した「MISSCOUNT」や「DISKTIMEOUT」の設定値を元の値に戻す必要があるため、変更する前のそれぞれの設定値を控えておいてください。

- Oracle Cluster File System に Oracle RAC をインストールする構成はサポートしていません。
- ウイルスチェックプログラムなどの常駐型ソフトウェアが動作しているときに HDLM をインストールすると、正常に動作しないおそれがあります。HDLM をインストールする場合、常駐型ソフトウェアを含むすべてのソフトウェアを停止してから開始してください。

3.4.6 新規インストールおよびアップグレードインストールに関する注意事項

- HDLM をインストールする場合は、「3.5.4 HDLM の新規インストール (Windows Server 2003 の場合)」または「3.5.5 HDLM の新規インストール (Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合)」の中で指示されるまで、ホストとストレージシステムを 1 本のケーブルだけで接続してください。「3.5.4 HDLM の新規インストール (Windows Server 2003 の場合)」または「3.5.5 HDLM の新規インストール (Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合)」の中で指示されている個所以外でホストとストレージシステムが複数のパスで接続されている状態 (マルチパス構成) にしてホストを再起動すると、ディスクの内容が不正になるおそれがあります。

なお、Windows Server 2003 SP1 以降、Windows Server 2008、または Windows Server 2012 の場合は、マルチパス構成の状態ですべてアップグレードインストールまたは再インストールできます。

- 同じ LU に対し、FC-SAN と IP-SAN のパスが混在するマルチパス構成はサポートしていません。
- HDLM を新規インストールする場合、またはライセンスの有効期限が過ぎている状態でアップグレードインストールをするとき、ライセンスキーが必要です。HDLM のライセンスを更新する場合は、HDLM コマンドの `set -lic` オペレーションを実行します。ライセンスキーの期限は、ライセンスキーファイルに記述されているライセンスキーまたは入力したライセンスキーの種別によって設定されます。ライセンスキーの種別および `set` オペレーションについては、「6.6 set 動作環境を設定する」を参照してください。
- HDLM をインストールする場合、一時ファイルを作成するためシステムドライブに空き容量が 70MB 必要です。
- HDLM をインストールする前に、実行中のプログラムをすべて終了してください。
- HDLM のインストール先フォルダを選択したあとに別のインストール先フォルダを選択した場合、最後に選択したインストール先フォルダ以外のフォルダが作成される場合があります。最後に選択したインストール先フォルダ以外のフォルダは不要なので、削除してください。
- HDLM をリモートインストールする場合でも、インストール後はホストを再起動する必要があります。
- リモートデスクトップまたはターミナルクライアント経由のインストールをサポートします。ただし、その場合はコンソール接続セッションにしてください。
- HDLM のインストールは、環境に応じて数分から数十分の時間を必要とします。インストール時にプログレスバーが表示されている間は、インストール処理を中断しないでください。インストールに必要な時間の概算を次に示します。
5 秒×接続されているパス数
- HDLM のインストール中に KAPL09016-E メッセージが出力されて異常終了した場合、同じドライブにほかの OS にインストールされている HDLM があるかどうかを確認してください。

- ほかの OS の HDLM がインストールされている場合
インストールされている HDLM をアンインストールして、インストールプログラムを再実行してください。
- ほかの OS の HDLM がインストールされていない場合
次の手順に従って再度インストールを実行してください。
 - a. [エクスプローラ] で [ツール] - [フォルダ オプション] を選択します。
「フォルダ オプション」画面が表示されます。
 - b. [表示] タブをクリックして、[詳細設定] の [ファイルとフォルダの表示] の [すべてのファイルとフォルダを表示する] をチェック状態にします。
 - c. 次に示すフォルダを削除します。
OS のインストール先ドライブ:¥Program Files*¥InstallShield
¥InstallationInformation¥{DFF378A1-240E-11D5-8A43-0000E2382F13}

注※

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は、Program Files (x86)となります。

 - d. 手順 b で変更した [ファイルとフォルダの表示] の設定を変更前に戻します。
 - e. HDLM のインストールプログラムを再実行します。
- 05-00 以降の Device Manager エージェントがインストールされているホストに HDLM をインストールする場合、インストール中に次に示す Device Manager エージェントのコマンドを実行しないでください。
hbsasrv, HiScan, hdvmagt_account, hdvmagt_schedule, hldutil, TIC
- HDLM Core コンポーネントだけをインストールしたい場合は、サイレントインストールによって HDLM をインストールしてください。サイレントインストールについては、「[7.7 installhdlm HDLM インストールユティリティ](#)」を参照してください。
- すべての HDLM コンポーネントがインストールされているホストに対し、HDLM Core コンポーネントだけの構成になるよう HDLM をアップグレードインストール、または再インストールすることはできません。この場合は、いったん HDLM をアンインストールしてからサイレントインストールによって HDLM を新規インストールしてください。
- ほかの Hitachi Command Suite 製品と連携したい場合は、HDLM Core コンポーネントだけではなくすべての HDLM コンポーネントをインストールする必要があります。

3.4.7 移行またはアップグレードインストールに関する注意事項

次に示すどちらかの条件を満たした場合、Windows が管理するディスクの番号が移行またはアップグレードインストールする前から変更されるおそれがあります。

- Windows の管理するディスク番号が連続していない状態で、05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM に移行した場合
- 日立製 RAID Manager のコマンドデバイスを使用している状態で、05-70 以前の HDLM から 05-71 以降の HDLM に移行またはアップグレードインストールした場合

ディスク番号が変更され、かつそのディスクがアプリケーションに使用されている場合は、次に示すことを実施してください。

アプリケーションに使用されているディスク番号を変更できる場合

アプリケーションが使用するディスク番号を、変更後の番号に変更してください。

アプリケーションに使用されているディスク番号を変更できない場合

Windows が管理するディスクの番号を、移行またはアップグレードインストールする前に戻してください。方法については、Microsoft 社へお問い合わせください。

3.5 HDLM のインストール

初めに、インストール先のホストに、HDLM がすでにインストールされているかどうかを確認してください。HDLM がすでにインストールされているホストの場合、「3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール」または「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。

HDLM のインストールと同時に、Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリがインストールされます。Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリの統合トレース情報ファイルのファイルパスは、「プログラムのインストール先ドライブ:¥Program Files¥HITACHI ¥HNTRLib2¥spool¥hntr2n.log (n はファイルの番号)」です。

注※

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は、Program Files (x86)となります。

ブートディスクを HDLM の管理対象デバイスとする場合でも、ここで説明している手順に従ってインストールしてください。

3.5.1 HDLM を新規インストールする前の準備

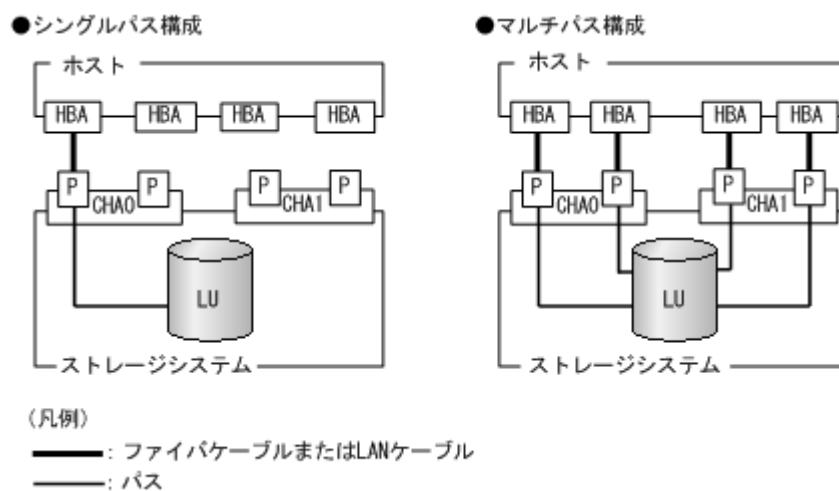
HDLM を新規インストールする前に必要な操作を次に説明します。

FC 接続の場合は、接続方式 (Fabric, AL など) を確認し、接続方式に合わせて設定してください。

1. ホストとストレージシステムを 1 本のケーブルだけで接続して、シングルパス構成にします。HDLM をインストールしない状態で、ホストとストレージシステムを複数のパスで接続 (マルチパス構成) すると、Windows の動作が不安定になるおそれがあります。HDLM をインストールするまでは、シングルパス構成にしてください。

シングルパス構成、およびマルチパス構成を次の図に示します。

図 3-2 シングルパス構成およびマルチパス構成



2. ストレージシステムを設定します。
LUを各ポートへ割り当ててください。
ストレージシステムの保守マニュアルに記載されている内容に従って、ストレージシステムの設定を変更してください。
3. HBAをホストに設置します。
使用するすべてのHBAを設置してください。
クラスタ構成にするホストには、同一メーカーの同一種類のHBAを設置してください。また、HBAのマイクロプログラムのバージョンも統一してください。
4. スイッチを設定します。
設定方法については、スイッチのマニュアルを参照してください。スイッチを使用しない場合、この操作は不要です。
5. HBAのBIOSを設定します。
パスの有無に関係なく、すべてのHBAについてBIOSを設定してください。
設定内容は、使用するトポロジーなどに依存します。BIOSの設定方法については、HBAのマニュアルを参照してください。
6. Windowsをインストールし、HDLM以外のドライバ類をインストールします。
各製品のマニュアルに従って、Windows、およびHDLM以外のドライバをインストールしてください。
7. HBAを設定します。
HBAのマニュアルを参照して、記載された事項を必ず設定してください。
8. IP-SANを使用する構成の場合、iSCSIイニシエータ（iSCSIソフトウェアまたはHBA）のインストールと設定をします。
設定方法については、iSCSIイニシエータのマニュアル、HBAのマニュアル、またはストレージシステムのマニュアルを参照してください。
9. LUを準備します。
使用するLUに対して、署名の書き込み、パーティションの作成、およびフォーマットを行ってください。シングルパス構成なので、すべてのLUに対して署名を書き込んでも問題ありません。
10. ホストを再起動します。
11. ホストの動作を確認します。

3.5.2 JP1/NETM/DM を使用して HDLM をリモートインストールする場合の準備

このソフトウェア製品は、JP1/NETM/DMのリモートインストールに適合した日立プログラムプロダクトです。JP1/NETM/DMを使用すると、分散している複数のホストに、一括してHDLMをリモートインストールできます。ここでは、HDLMをリモートインストールする場合の準備として、JP1/NETM/DMを使用したHDLMのパッケージング、HDLMの配布指令の作成、およびHDLMの配布指令の登録について説明します。HDLMの配布指令の実行（インストール）については、「[3.5.4 HDLMの新規インストール \(Windows Server 2003 の場合\)](#)」の「(1) クラスタ環境以外の場合」の手順に含めて説明します。

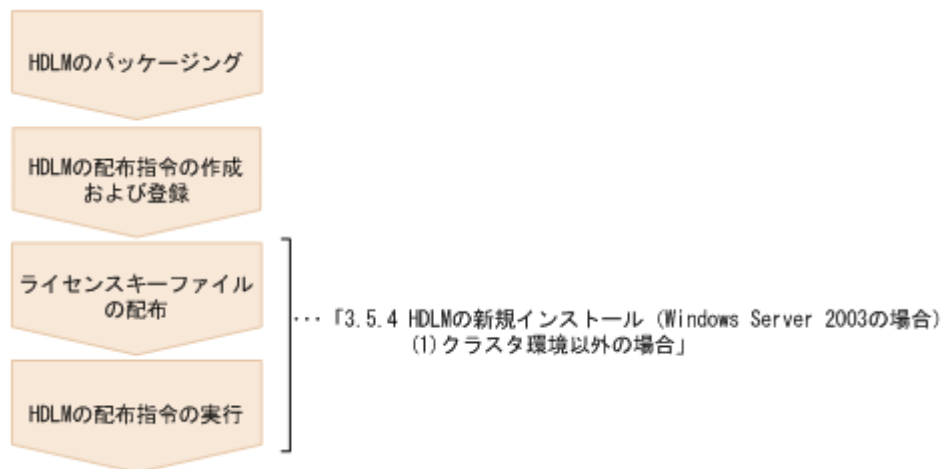
ここでは、操作対象のマシンのOSがWindowsの場合について説明します。

HDLMは、インストール先のホストにPUSH型でインストールされます。PULL型ではインストールできません。

(1) リモートインストールの流れ

次の図に示す流れに従って、HDLM をリモートインストールしてください。

図 3-3 リモートインストールの流れ



(2) 前提条件

JP1/NETM/DM を使用して HDLM をリモートインストールするための条件を示します。

- プログラム

HDLM をリモートインストールする環境を構築するためには、次の製品が必要です。

- JP1/NETM/DM Manager (Windows 版 07-00 以降)

配布管理システムに必要です。配布管理システムとは、ソフトウェアを配布先システムにインストールし、インストール状況やインストール先の状態を管理するシステムです。

- JP1/NETM/DM Client (07-00 以降)

資源登録システム、および HDLM をインストールするすべてのホストに必要です。資源登録システムとは、ソフトウェアを配布管理システムへ登録するシステムです。

JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client の詳細については、使用する JP1/NETM/DM のバージョンに応じて、次のマニュアルを参照してください。

バージョンが 07-00 の場合

- 「JP1/NETM/DM システム構築 (Windows(R)用)」
- 「JP1/NETM/DM システム運用 1 (Windows(R)用)」
- 「JP1/NETM/DM システム運用 2 (Windows(R)用)」

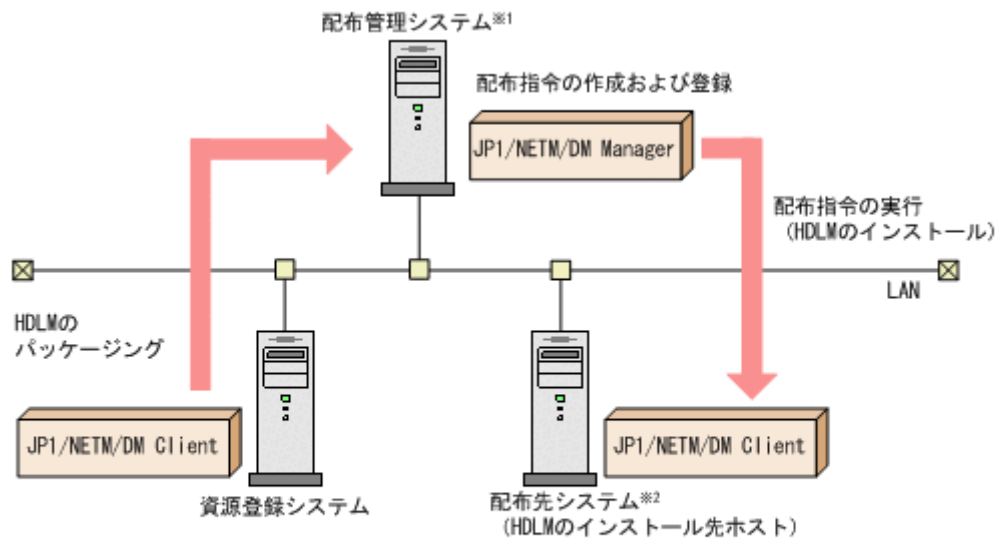
バージョンが 08-00 以降の場合

- 「JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R)用)」
- 「JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R)用)」
- 「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R)用)」
- 「JP1/NETM/DM 運用ガイド 2 (Windows(R)用)」

- システム構成

JP1/NETM/DM を使用して HDLM をリモートインストールする場合のシステム構成を次の図に示します。

図 3-4 JP1/NETM/DM を使用して HDLM をリモートインストールする場合のシステム構成



注※1 配布管理システムにJP1/NETM/DM Clientをインストールした場合、配布管理システムでHDLMのパッケージングができます。

注※2 配布先システムでもHDLMのパッケージングができます。

まず、資源登録システムから配布管理システムに HDLM を登録（パッケージング）します。次に配布管理システムで、HDLM のインストール先などを指定した配布指令を作成して実行管理ファイルに登録します。配布指令を実行すると、HDLM が配布先システムにインストールされます。

(3) HDLM のパッケージング

資源登録システムから配布管理システムへ HDLM を登録します。この操作は、資源登録システムで実行します。詳細については、使用する JP1/NETM/DM のバージョンに応じて、次のマニュアルを参照してください。

バージョンが 07-00 の場合

- 。「JP1/NETM/DM システム運用 1 (Windows(R)用)」

バージョンが 08-00 以降の場合

- 。「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R)用)」

(4) HDLM の配布指令の作成および登録

HDLM の配布指令を作成および登録します。この操作は配布管理システムで実行します。詳細については、使用する JP1/NETM/DM のバージョンに応じて、次のマニュアルを参照してください。

バージョンが 07-00 の場合

- 。「JP1/NETM/DM システム運用 1 (Windows(R)用)」

バージョンが 08-00 以降の場合

- 。「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R)用)」

ライセンスキーファイルの配布と、配布管理システムからの配布指令の実行は、「3.5.4 HDLM の新規インストール (Windows Server 2003 の場合)」の「(1) クラスタ環境以外の場合」で説明しているインストール手順に含まれています。手順に従って操作を進めてください。

3.5.3 HDLM をサイレントインストールする場合の準備

サイレントインストールとは、HDLM のインストール時に、ダイアログに対する応答や HDLM の機能の設定を省略することができるインストール方法です。ダイアログへの応答内容をあらかじめインストール情報設定ファイルに定義しておきます。サイレントインストールを使った処理の流れを、次に示します。

1. インストールに必要な情報を、インストール情報設定ファイルに定義します。
2. HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) を実行します。
3. ダイアログの応答や HDLM の機能の設定は、インストール情報設定ファイルの内容に従って自動的に行われます。
4. インストールが完了します。インストールの状況や結果について、ログが出力されます。

ここでは、次に示すサイレントインストールについて説明します。

- インストール情報設定ファイルの定義方法
- インストール時の注意事項

installhdlm ユティリティについては、「[7.7 installhdlm HDLM インストールユーティリティ](#)」を参照してください。

サイレントインストールの手順については、「[3.5.4 HDLM の新規インストール \(Windows Server 2003 の場合\)](#)」または「[3.5.5 HDLM の新規インストール \(Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合\)](#)」で説明します。

(1) インストール情報設定ファイルの定義

インストール情報設定ファイルには、インストール時に必要なライセンスキーファイル、インストール先フォルダ、およびそのほかの情報をあらかじめ定義しておきます。

HDLM では、インストール情報設定ファイルの編集を容易にするため、サンプルファイルを提供しています。このサンプルファイルは、DVD に同梱されています。

次に、インストール情報設定ファイルの編集方法を示します。

1. DVD に同梱されている、インストール情報設定ファイルのサンプルファイルを任意のフォルダにコピーします。

サンプルファイルの格納先を次に示します。

```
インストールDVDが入ったドライブ:¥HDLM_Windows¥DLMTools  
¥sample_installhdlm.ini
```

2. 手順 1 でコピーしたサンプルファイルをテキストエディタで編集し、インストール情報設定ファイルを作成します。

インストール設定情報ファイルに定義する内容は、「[7.7.3 インストール情報設定ファイルの定義内容](#)」を参照してください。

(2) インストール時の注意事項

- サイレントインストールを実行中は、installhdlm ユティリティを強制終了しないでください。[Ctrl] + [C] などによって、installhdlm ユティリティを強制終了した場合、HDLM のインストールは中止されません。インストール情報設定ファイルの restart キーに、y が指定されていた場合で、インストールが正常終了したときは、コンピュータが再起動されます。installhdlm ユティリティを強制終了した場合は、必ず installhdlm.log で、インストール結果を確認してください。
- installhdlm ユティリティの実行に必要なディスク容量を次に示します。

workdir キーに指定したフォルダ (workdir キーを指定しなかった場合は、環境変数 TMP または TEMP で指定したフォルダ) に、20KB の空き容量が必要です。

- インストール情報設定ファイルで定義できる HDLM の動作情報は、HDLM コマンドの set オペレーションを使用しても設定できます。この場合、「3.7 HDLM の機能の設定」を参照して、サイレントインストールの終了後に動作情報を設定してください。

インストール情報設定ファイルで定義できる HDLM の動作情報については、「7.7.3 インストール情報設定ファイルの定義内容」を参照してください。

HDLM コマンドの set オペレーションについては、「6.6 set 動作環境を設定する」を参照してください。

3.5.4 HDLM の新規インストール (Windows Server 2003 の場合)

(1) クラスタ環境以外の場合

ライセンスキーを用意してから、HDLM をインストールしてください。

- JP1/NETM/DM を使用して HDLM をリモートインストールする場合、HDLM をインストールするすべてのホストに対して手順 1 から手順 5 までを実行してから、手順 14 に進んでください。
- サイレントインストールする場合は、あらかじめインストールに必要な情報を定義したインストール情報設定ファイルを用意しておいてください。

- Windows に、Administrators グループのユーザでログオンします。
- Windows がインストールされたドライブの直下に、ライセンスキーファイルを格納します。HDLM をリモートインストールしない場合は、ライセンスキーファイルを使用しないで直接ライセンスキーを指定することもできます。

インストール先ドライブ: %hdlm_license

ライセンスキーファイルは、インストールが終了すると削除されます。

HDLM をリモートインストールしない場合は、手順 6 に進んでください。

- JP1/NETM/DM を使用して HDLM をリモートインストールする場合は、配布管理システムにログインします。
手順 4 および 5 は、配布管理システムの操作です。
- リモートインストールマネージャを起動します。
スタートメニューから [プログラム] - [JP1_NETM_DM Manager] - [リモートインストールマネージャ] を選択して起動します。
- [ジョブ定義] ウィンドウを開き、登録したジョブを選択すると、ジョブが反転表示されます。
[実行] - [ジョブの実行] を選択します (またはジョブの実行ボタンをクリックします)。
配布指令で指定したすべてのホストに HDLM がインストールされます。
インストールが終了したら手順 14 に進んでください。手順 14 以降の操作は、HDLM をインストールしたすべてのホストに対して実施してください。
- インストールを実行します。
 - サイレントインストールしない場合は、DVD をセットします。
表示されたウィンドウにある [Hitachi Dynamic Link Manager Software] の [for Windows] の横にある [Install] ボタンをクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、インストーラー (setup.exe) を直接実行してください。

HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09129-E のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。05-50 以降の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09173-W のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール」の手順に従ってください。メッセージが表示されない場合は、手順 7 へ進んでください。

- サイレントインストールする場合は、installhdlm ユティリティを実行します。
コマンドプロンプトから、次に示すコマンドを実行してください。
インストール DVD が入ったドライブ: %HDLM_Windows%\DLTools%\installhdlm -f インストール情報設定ファイル
HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09129-E のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。05-50 以降の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09183-I のメッセージが表示されたあと、アップグレードインストールまたは再インストールが実行されます。
インストール情報設定ファイルの restart キーで、n (再起動しない) を指定した場合は、手順 13 へ進んでください。
インストール情報設定ファイルの restart キーで、y (再起動する) を指定した場合は、手順 18 へ進んでください。
7. MPIO ドライバのバージョンのチェックとインストールが行われます。インストールしてよいかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされているかを確認してください。
- HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされている場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてインストールを中止し、そのマルチパス管理ソフトウェアをアンインストールしてください。そのあと、HDLM をインストールしてください。
 - HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされていない場合は、[次へ] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。
8. 画面に表示されるメッセージに従って、ライセンスキーファイルを指定、またはライセンスキーを入力します。
- 手順 2 でライセンスキーファイルを格納した場合、手順 2 で格納したライセンスキーファイルを指定してください。
 - ライセンスキーファイルを使用しない場合は、ライセンスキーを直接入力してください。
9. 画面に表示されるメッセージに従って、インストール先のフォルダを指定します。
HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey) が自動的に実行され、PRSV キーが生成されます。ただし、NIC が存在しない場合など、生成に失敗することがあります。PRSV キーが時刻情報だけで生成された場合、または生成に失敗した場合は、PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。
PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示された場合は、手順 10 へ進んでください。それ以外の場合は、手順 12 へ進んでください。
10. PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスの説明に従って、PRSV キーを入力してください。
PRSV キーは、HDLM の機能が正常に動作するために必要です。また、ほかのホストと値が重複しない必要があります。
11. KAPL09128-W のメッセージが表示された場合は、再度 PRSV キーの入力を求められますので、適切な PRSV キーを入力してください。
メッセージが表示されない場合は、次の手順に進んでください。
12. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。

- インストール中に次に示す文章で始まるダイアログが表示されて、かつ HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用する場合は、いったん HDLM のインストールを中止してください。そのあと、Microsoft の Storport ドライバの QFE838894 以降、または Windows Server 2003 の SP1 以降をインストールしてください。

Storport Miniport ドライバ使用時の注意事項

HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用の際は、必ずお読みください。
このシステムの Storport.sys (Microsoft (R) Storport ドライバ) のファイルバージョンは *n.n.nnnn.n* です。

HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用の際は、ファイルバージョン *n.n.nnnn.n* 以降の Storport.sys に更新してください。

- インストールが終了する前に、PRSV キーが登録されます。KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、手順 14 の記述に従って対処します。
- インストールが終了するとホストの再起動を求めるメッセージが表示されますが、再起動する必要はありません。
- 最後のインストール画面で、「Global Link Manager を使用して Windows ファイアウォールが有効となっているホストを管理する場合は、firewall_setup コマンドを実行しファイアウォールの例外登録を行なってください。」というメッセージが表示されることがあります。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理しない場合、対処する必要はありません。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合は、ファイアウォールの例外登録を実行してください。詳細については「[3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定](#)」を参照してください。

13. インストール結果の確認をします。

サイレントインストールした場合、インストール結果をコマンドプロンプトで確認してください。

14. インストールが終了したら、-v パラメタを指定して、dlmprsvkey ユティリティを実行します。

次に示すコマンドを実行してください。

HDLM のインストール先フォルダ¥bin¥dlmprsvkey -v

dlmprsvkey ユティリティの実行によって表示された PRSV キーが、SAN 内のほかのホストの PRSV キーと重複していないか確認してください。リモートインストールの場合、すべてのホストに PRSV キーが登録されているか確認してください。PRSV キーが重複している場合、PRSV キーが登録されていない場合、または KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、-r パラメタを指定して dlmprsvkey ユティリティを実行し、再度登録してください。PRSV キーが登録されていない場合、HDLM の機能が正常に動作しないことがあります。dlmprsvkey ユティリティの詳細については、「[7.4 dlmprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ](#)」を参照してください。ライセンスキーファイルを使用した場合、インストールが終了すると削除されます。削除に失敗した場合は KAPL09115-W のメッセージが表示されます。その場合はエクスプローラなどを使用して、手動で削除してください。

15. ホストをシャットダウンします。

手順 23 で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認するまでは、シングルパス構成のままにしてください。

16. ストレージシステムの設定を変更します。

ストレージシステムの保守マニュアルに記載されている内容に従って、ストレージシステムの設定を変更してください。

17. ホストを起動します。

18. Windows に、Administrators グループのユーザで再度ログオンします。

19. ログの確認、および PRSV キーの確認をします。

手順 14 を実行した場合、この手順は不要です。手順 20 に進んでください。

サイレントインストールした場合で、インストール情報設定ファイルの restart キーで、y (再起動する) を指定したときは、installhdlm.log に KAPL09181-I のメッセージが出力されていることを確認してください。ログについては、「3.5.3 HDLM をサイレントインストールする場合の準備」の「(2) インストール時の注意事項」および「7.7 installhdlm HDLM インストールユティリティ」の「7.7.4 ログファイルについて」を参照してください。

dlnprsvkey ユティリティの実行によって表示された PRSV キーが、SAN 内のほかのホストの PRSV キーと重複していないか確認してください。PRSV キーが重複している場合、PRSV キーが登録されていない場合、または KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、-r パラメータを指定して dlnprsvkey ユティリティを実行し、再度登録してください。PRSV キーが登録されていない場合、HDLM の機能が正常に動作しないことがあります。dlnprsvkey ユティリティの詳細については、「7.4 dlnprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ」を参照してください。ライセンスキーファイルを使用した場合、インストールが終了すると削除されます。削除に失敗した場合は KAPL09115-W のメッセージが表示されます。その場合はエクスプローラなどを使用して、手動で削除してください。

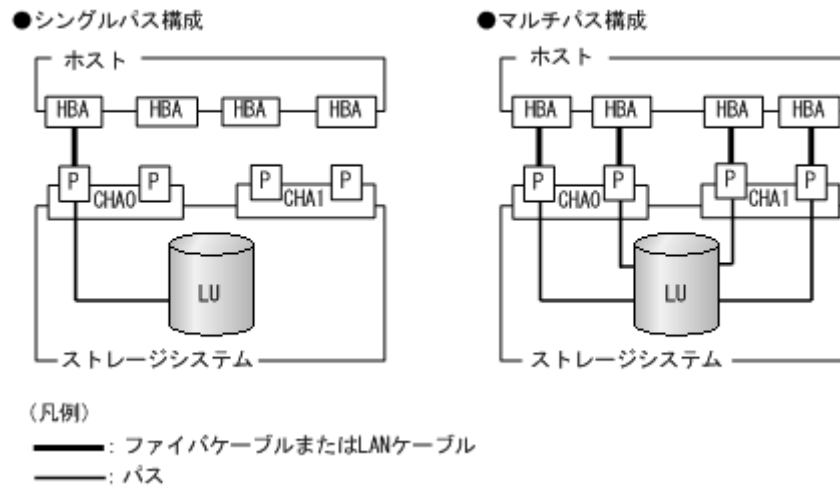
20. HDLM コマンドの view オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。

コマンドの実行例を、次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version        :
Load Balance                 : on(extended lio)
Support Cluster              : off
Elog Level                   : 3
Elog File Size (KB)         : 9900
Number Of Elog Files        : 2
Trace Level                  : 0
Trace File Size (KB)        : 1000
Number Of Trace Files       : 4
Path Health Checking        : on(30)
Auto Failback                : off
Remove LU                    : off
Intermittent Error Monitor   : off
Dynamic I/O Path Control    : off(10)
HDLM Manager Ver            WakeupTime
Alive      x.x.x-xx        yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver       WakeupTime      ElogMem Size
Alive      x.x.x-xx        yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver             WakeupTime
Alive      x.x.x-xx        yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

21. view オペレーションの実行結果からインストールされた HDLM のバージョンを確認します。
「HDLM Version」に「x.x.x-xx」が表示されていれば、正しいバージョンがインストールされています。
22. view オペレーションの実行結果からプログラムが正常に動作しているか確認します。
「HDLM Manager」, 「HDLM Alert Driver」, および「HDLM Driver」がすべて「Alive」であれば、プログラムが正常に動作しています。
23. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、シングルパス構成で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認します。
24. すべての HBA にケーブルを接続して、マルチパス構成に変更します。
シングルパス構成、およびマルチパス構成を次の図に示します。

図 3-5 シングルパス構成およびマルチパス構成



25. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、正常にマルチパス構成が構築できたかどうかを確認します。

(2) MSCS 環境の場合

HDLM をインストールしたあとに MSCS をインストールする場合と、MSCS をインストールしたあとに HDLM をインストールする場合に分けて説明します。

HDLM をインストールしたあとに MSCS をインストールする場合

1. すべてのホストをシャットダウンします。
2. クラスタシステムを構成するすべてのホストが完全にシャットダウンされていることを確認します。
3. ホストを 1 台ずつ起動します。
シングルパス構成で起動してください。
4. Windows に、Administrators グループのユーザでログオンします。
5. Windows がインストールされたドライブの直下に、ライセンスキーファイルを格納します。ライセンスキーファイルを使用しないで直接ライセンスキーを指定することもできます。

インストール先ドライブ: %hdlm_license

ライセンスキーファイルは、インストールが終了すると削除されます。

6. インストールを実行します。
 - サイレントインストールしない場合は、DVD をセットします。
表示されたウィンドウにある [Hitachi Dynamic Link Manager Software] の [for Windows] の横にある [Install] ボタンをクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、インストーラー (setup.exe) を直接実行してください。
 - HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09129-E のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。05-50 以降の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09173-W のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール」の手順に従ってください。メッセージが表示されない場合は、手順 7 へ進んでください。
 - サイレントインストールする場合は、installhdlm ユティリティを実行します。

コマンドプロンプトから、次に示すコマンドを実行してください。

インストール DVD が入ったドライブ:¥HDLM_Windows¥DLMTTools¥installhdlm -f インストール情報設定ファイル

インストール情報設定ファイルの restart キーで、n (再起動しない) を指定してください。

HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09129-E のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。05-50 以降の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09183-I のメッセージが表示されたあと、アップグレードインストールまたは再インストールが実行されます。

インストールが終了したら手順 13 へ進んでください。

7. MPIO ドライバのバージョンのチェックとインストールが行われます。インストールしてよいかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされているかを確認してください。
 - HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされている場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてインストールを中止し、そのマルチパス管理ソフトウェアをアンインストールしてください。そのあと、HDLM をインストールしてください。
 - HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされていない場合は、[次へ] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。
8. 画面に表示されるメッセージに従って、ライセンスキーファイルを指定、またはライセンスキーを入力します。
 - 手順 5 でライセンスキーファイルを格納した場合、手順 5 で格納したライセンスキーファイルを指定してください。
 - ライセンスキーファイルを使用しない場合は、ライセンスキーを直接入力してください。
9. 画面に表示されるメッセージに従って、インストール先のフォルダを指定します。

HDLM パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ (dlmprsvkey) が自動的に実行され、PRSV キーが生成されます。ただし、NIC が存在しない場合など、生成に失敗することがあります。PRSV キーが時刻情報だけで生成された場合、または生成に失敗した場合は、PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。

PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示された場合は、手順 10 へ進んでください。それ以外の場合は、手順 12 へ進んでください。
10. PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスの説明に従って、PRSV キーを入力してください。

PRSV キーは、HDLM の機能が正常に動作するために必要です。また、ほかのホストと値が重複しない必要があります。
11. KAPL09128-W のメッセージが表示された場合は、再度 PRSV キーの入力を求められますので、適切な PRSV キーを入力してください。

メッセージが表示されない場合は、次の手順に進んでください。
12. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。
 - インストール中に次に示す文章で始まるダイアログが表示されて、かつ HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用する場合は、いったん HDLM のインストールを中止してください。そのあと、Microsoft の Storport ドライバの QFE838894 以降、または Windows Server 2003 の SP1 以降をインストールしてください。

Storport Miniport ドライバ使用時の注意事項
HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用の際は、必ずお読みください。
このシステムの Storport.sys (Microsoft (R) Storport ドライバ) のファイルバージョンは n.n.nnnn.n です。
HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用の際は、ファイルバージョン n.n.nnnn.n 以降の Storport.sys に更新してください。

- インストールが終了する前に、PRSV キーが登録されます。KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、手順 14 の記述に従って対処します。
- インストールが終了するとホストの再起動を求めるメッセージが表示されますが、再起動する必要はありません。
- 最後のインストール画面で、「Global Link Manager を使用して Windows ファイアウォールが有効となっているホストを管理する場合は、firewall_setup コマンドを実行しファイアウォールの例外登録を行なってください。」というメッセージが表示されることがあります。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理しない場合、対処する必要はありません。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合は、ファイアウォールの例外登録を実行してください。詳細については「[3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定](#)」を参照してください。

13. インストール結果の確認をします。

サイレントインストールした場合、インストール結果をコマンドプロンプトで確認してください。

14. インストールが終了したら、-v パラメタを指定して、dlmprsvkey ユティリティを実行します。

次に示すコマンドを実行してください。

```
HDLM のインストール先フォルダ\bin\dlmprsvkey -v
```

dlmprsvkey ユティリティの実行によって表示された PRSV キーが、SAN 内のほかのホストの PRSV キーと重複していないか確認してください。PRSV キーが重複している場合、PRSV キーが登録されていない場合、または KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、-r パラメタを指定して dlmprsvkey ユティリティを実行し、再度登録してください。PRSV キーが登録されていない場合、HDLM の機能が正常に動作しないことがあります。dlmprsvkey ユティリティの詳細については、「[7.4 dlmprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ](#)」を参照してください。ライセンスキーファイルを使用した場合、インストールが終了すると削除されます。削除に失敗した場合は KAPL09115-W のメッセージが表示されます。その場合はエクスプローラなどを使用して、手動で削除してください。

15. ホストをシャットダウンします。

手順 23 で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認するまでは、シングルパス構成のままにしてください。

16. 手順 3 から手順 15 までを、クラスタシステムを構成するすべてのホストで実施します。

17. クラスタシステムを構成するすべてのホストが完全にシャットダウンされていることを確認します。

18. ホストを 1 台ずつ起動します。

19. Windows に、Administrators グループのユーザで再度ログオンします。

20. HDLM コマンドの view オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。

コマンドの実行例を、次に示します。

```
PROMPT>dlmkmgr view -sys
HDLM Version           : x.x.x-xx
Service Pack Version   :
Load Balance           : on(extended lio)
Support Cluster        : off
Elog Level              : 3
Elog File Size (KB)    : 9900
Number Of Elog Files   : 2
Trace Level            : 0
Trace File Size (KB)   : 1000
Number Of Trace Files  : 4
Path Health Checking   : on(30)
```

```

Auto Failback                : off
Remove LU                    : off
Intermittent Error Monitor   : off
Dynamic I/O Path Control     : off(10)
HDLM Manager Ver             WakeupTime
Alive      x.x.x-xx          yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver        WakeupTime          ElogMem Size
Alive      x.x.x-xx          yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver              WakeupTime
Alive      x.x.x-xx          yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent                    -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

21. view オペレーションの実行結果からインストールされた HDLM のバージョンを確認します。
「HDLM Version」に「x.x.x-xx」が表示されていれば、正しいバージョンがインストールされています。
22. view オペレーションの実行結果からプログラムが正常に動作しているか確認します。
「HDLM Manager」, 「HDLM Alert Driver」, および「HDLM Driver」がすべて「Alive」であれば、プログラムが正常に動作しています。
23. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、シングルパス構成で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認します。
24. すべての HBA にケーブルを接続して、マルチパス構成に変更します。
25. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、正常にマルチパス構成が構築できたかどうかを確認します。
26. ホストをシャットダウンします。
27. 手順 18 から手順 26 までを、クラスタシステムを構成するすべてのホストで実施します。
28. ホストを 1 台ずつ起動します。
29. MSCS をインストールします。
30. ホストをシャットダウンします。
31. ホストを 1 台ずつ起動します。
32. Windows に、Administrators グループのユーザで再度ログオンします。
33. HDLM コマンドの view オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。
次に示すコマンドの実行例のように、Support Cluster に on MSCS が表示されていることを確認してください。

```

PROMPT>dlnkmgr view -sys
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version        :
Load Balance                 : on(extended lio)
Support Cluster              : on MSCS
Elog Level                   : 3
Elog File Size (KB)         : 9900
Number Of Elog Files        : 2
Trace Level                  : 0
Trace File Size(KB)         : 1000
Number Of Trace Files       : 4
Path Health Checking         : on(30)
Auto Failback                : off
Remove LU                    : off
Intermittent Error Monitor   : off
Dynamic I/O Path Control     : off(10)
HDLM Manager Ver             WakeupTime
Alive      x.x.x-xx          yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver        WakeupTime          ElogMem Size
Alive      x.x.x-xx          yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128

```

```

HDLM Driver Ver           WakeupTime
Alive                     x.x.x-xx      yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent                -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd  hh:mm:ss
PROMPT>

```

MSCS をインストールしたあとに HDLM をインストールする場合

1. MSCS をインストールします。
2. ホストを再起動します。
3. Windows に、Administrators グループのユーザでログオンします。
4. Windows がインストールされたドライブの直下に、ライセンスキーファイルを格納します。ライセンスキーファイルを使用しないで直接ライセンスキーを指定することもできます。

インストール先ドライブ: %hdlm_license

ライセンスキーファイルは、インストールが終了すると削除されます。

5. インストールを実行します。
 - サイレントインストールしない場合は、DVD をセットします。
表示されたウィンドウにある [Hitachi Dynamic Link Manager Software] の [for Windows] の横にある [Install] ボタンをクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、インストーラー (setup.exe) を直接実行してください。
 - HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09129-E のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。05-50 以降の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09173-W のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール」の手順に従ってください。メッセージが表示されない場合は、手順 6 へ進んでください。
 - サイレントインストールする場合は、installhdlm ユティリティを実行します。
コマンドプロンプトから、次に示すコマンドを実行してください。
インストール DVD が入ったドライブ: %HDLM_Windows%DLMTTools%installhdlm -f インストール情報設定ファイル
インストール情報設定ファイルの restart キーで、n (再起動しない) を指定してください。
HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09129-E のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。05-50 以降の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09183-I のメッセージが表示されたあと、アップグレードインストールまたは再インストールが実行されます。
インストールが終了したら、手順 12 へ進んでください。
6. MPIO ドライバのバージョンのチェックとインストールが行われます。インストールしてよいかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされているかを確認してください。
 - HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされている場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてインストールを中止し、そのマルチパス管理ソフトウェアをアンインストールしてください。そのあと、HDLM をインストールしてください。
 - HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされていない場合は、[次へ] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。

7. 画面に表示されるメッセージに従って、ライセンスキーファイルを指定、またはライセンスキーを入力します。
 - 手順 4 でライセンスキーファイルを格納した場合、手順 4 で格納したライセンスキーファイルを指定してください。
 - ライセンスキーファイルを使用しない場合は、ライセンスキーを直接入力してください。
8. 画面に表示されるメッセージに従って、インストール先のフォルダを指定します。

パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ (dlmprsvkey) が自動的に実行され、PRSV キーが生成されます。ただし、NIC が存在しない場合など、生成に失敗することがあります。PRSV キーが時刻情報だけで生成された場合、または生成に失敗した場合は、PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。

PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示された場合は、手順 9 へ進んでください。それ以外の場合は、手順 11 へ進んでください。
9. PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスの説明に従って、PRSV キーを入力してください。

PRSV キーは、HDLM の機能が正常に動作するために必要です。また、ほかのホストと値が重複しない必要があります。
10. KAPL09128-W のメッセージが表示された場合は再度 PRSV キーの入力を求められますので、適切な PRSV キーを入力してください。

メッセージが表示されない場合は、次の手順に進んでください。
11. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。
 - インストール中に次に示す文章で始まるダイアログが表示されて、かつ HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用する場合は、いったん HDLM のインストールを中止してください。そのあと、Microsoft の Storport ドライバの QFE838894 以降、または Windows Server 2003 の SP1 以降をインストールしてください。

Storport Miniport ドライバ使用時の注意事項
HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用の際は、必ずお読みください。
このシステムの Storport.sys (Microsoft (R) Storport ドライバ) のファイルバージョンは *n.n.nnnn.n* です。
HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用の際は、ファイルバージョン *n.n.nnnn.n* 以降の Storport.sys に更新してください。
 - インストールが終了する前に、PRSV キーが登録されます。KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、手順 13 の記述に従って対処します。
 - インストールが終了するとホストの再起動を求めるメッセージが表示されますが、再起動する必要はありません。
 - 最後のインストール画面で、「Global Link Manager を使用して Windows ファイアウォールが有効となっているホストを管理する場合は、firewall_setup コマンドを実行しファイアウォールの例外登録を行なってください。」というメッセージが表示されることがあります。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理しない場合、対処する必要はありません。
Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合は、ファイアウォールの例外登録を実行してください。詳細については「[3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定](#)」を参照してください。
12. インストール結果の確認をします。

サイレントインストールした場合、インストール結果をコマンドプロンプトで確認してください。
13. インストールが終了したら、-v パラメタを指定して、dlmprsvkey ユティリティを実行します。

次に示すコマンドを実行してください。

HDLM のインストール先フォルダ¥bin¥dlmprsvkey -v

dlmprsvkey ユティリティの実行によって表示された PRSV キーが、SAN 内のほかのホストの PRSV キーと重複していないか確認してください。PRSV キーが重複している場合、PRSV キーが登録されていない場合、または KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、-r パラメータを指定して dlmprsvkey ユティリティを実行し、再度登録してください。PRSV キーが登録されていない場合、HDLM の機能が正常に動作しないことがあります。dlmprsvkey ユティリティの詳細については、「7.4 dlmprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ」を参照してください。ライセンスキーファイルを使用した場合、インストールが終了すると削除されます。削除に失敗した場合は KAPL09115-W のメッセージが表示されます。その場合はエクスプローラなどを使用して、手動で削除してください。

14. ホストをシャットダウンします。
手順 23 で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認するまでは、シングルパス構成のままにしてください。
15. 手順 1 から手順 14 までを、クラスタシステムを構成するすべてのホストで実施します。
16. クラスタシステムを構成するすべてのホストが完全にシャットダウンされていることを確認します。
17. ストレージシステムの設定を変更します。
ストレージシステムの保守マニュアルに記載されている内容に従って、ストレージシステムの設定を変更してください。
18. ホストを 1 台ずつ起動します。
19. Windows に、Administrators グループのユーザで再度ログオンします。
20. HDLM コマンドの view オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。
次に示すコマンドの実行例のように、Support Cluster に on MSCS が表示されていることを確認してください。

```
PROMPT>dlnmgr view -sys
HDLM Version           : x.x.x-xx
Service Pack Version   :
Load Balance           : on(extended lio)
Support Cluster        : on MSCS
Elog Level             : 3
Elog File Size (KB)    : 9900
Number Of Elog Files   : 2
Trace Level            : 0
Trace File Size (KB)   : 1000
Number Of Trace Files  : 4
Path Health Checking   : on(30)
Auto Failback          : off
Remove LU              : off
Intermittent Error Monitor : off
Dynamic I/O Path Control : off(10)
HDLM Manager Ver      WakeupTime
Alive x.x.x-xx        yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver WakeupTime      ElogMem Size
Alive x.x.x-xx        yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver       WakeupTime
Alive x.x.x-xx        yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

21. view オペレーションの実行結果からインストールされた HDLM のバージョンを確認します。
「HDLM Version」に「x.x.x-xx」が表示されていれば、正しいバージョンがインストールされています。
22. view オペレーションの実行結果からプログラムが正常に動作しているか確認します。

「HDLM Manager」, 「HDLM Alert Driver」, および「HDLM Driver」がすべて「Alive」であれば、プログラムが正常に動作しています。

23. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、シングルパス構成で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認します。
24. すべての HBA にケーブルを接続して、マルチパス構成に変更します。
25. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、正常にマルチパス構成が構築できたかどうかを確認します。

(3) VCS 環境の場合

1. ホストを 1 台ずつ起動します。
シングルパス構成で起動してください。
2. VCS 構成ウィザードを使って、クラスタを構成してください。
3. ホストを再起動します。
4. Windows に、Administrators グループのユーザでログオンします。
5. VCS を停止します。
6. Windows がインストールされたドライブの直下に、ライセンスキーファイルを格納します。ライセンスキーファイルを使用しないで直接ライセンスキーを指定することもできます。

インストール先ドライブ: %hdlm_license

ライセンスキーファイルは、インストールが終了すると削除されます。

7. インストールを実行します。
 - サイレントインストールしない場合は、DVD をセットします。
表示されたウィンドウにある [Hitachi Dynamic Link Manager Software] の [for Windows] の横にある [Install] ボタンをクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、インストーラー (setup.exe) を直接実行してください。
HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09129-E のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。
05-50 以降の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09173-W のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール」の手順に従ってください。メッセージが表示されない場合は、手順 8 へ進んでください。
 - サイレントインストールする場合は、installhdlm ユティリティを実行します。
コマンドプロンプトから、次に示すコマンドを実行してください。
インストール DVD が入ったドライブ: %HDLM_Windows%DLMTools%installhdlm -f インストール情報設定ファイル
インストール情報設定ファイルの restart キーで、n (再起動しない) を指定してください。
HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09129-E のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。
05-50 以降の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09183-I のメッセージが表示されたあと、アップグレードインストールまたは再インストールが実行されます。
インストールが終了したら手順 14 へ進んでください。

8. MPIO ドライバのバージョンのチェックとインストールが行われます。インストールしてよいかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされているかを確認してください。
 - HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされている場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてインストールを中止し、そのマルチパス管理ソフトウェアをアンインストールしてください。そのあと、HDLM をインストールしてください。
 - HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされていない場合は、[次へ] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。
9. 画面に表示されるメッセージに従って、ライセンスキーファイルを指定、またはライセンスキーを入力します。
 - 手順 6 でライセンスキーファイルを格納した場合、手順 6 で格納したライセンスキーファイルを指定してください。
 - ライセンスキーファイルを使用しない場合は、ライセンスキーを直接入力してください。
10. 画面に表示されるメッセージに従って、インストール先のフォルダを指定します。

パーシステントリザブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey) が自動的に実行され、PRSV キーが生成されます。ただし、NIC が存在しない場合など、生成に失敗することがあります。PRSV キーが時刻情報だけで生成された場合、または生成に失敗した場合は、PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。

PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示された場合は、手順 11 へ進んでください。それ以外の場合は、手順 13 へ進んでください。
11. PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスの説明に従って、PRSV キーを入力してください。

PRSV キーは、HDLM の機能が正常に動作するために必要です。また、ほかのホストと値が重複しない必要があります。
12. KAPL09128-W のメッセージが表示された場合は、再度 PRSV キーの入力を求められますので、適切な PRSV キーを入力してください。

メッセージが表示されない場合は、次の手順に進んでください。
13. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。
 - インストール中に次に示す文章で始まるダイアログが表示されて、かつ HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用する場合は、いったん HDLM のインストールを中止してください。そのあと、Microsoft の Storport ドライバの QFE838894 以降、または Windows Server 2003 の SP1 以降をインストールしてください。

Storport Miniport ドライバ使用時の注意事項
HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用の際は、必ずお読みください。
このシステムの Storport.sys (Microsoft (R) Storport ドライバ) のファイルバージョンは *n.n.nnnn.n* です。
HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用の際は、ファイルバージョン *n.n.nnnn.n* 以降の Storport.sys に更新してください。
 - インストールが終了する前に、PRSV キーが登録されます。KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、手順 15 の記述に従って対処します。
 - インストールが終了するとホストの再起動を求めるメッセージが表示されますが、再起動する必要はありません。
 - 最後のインストール画面で、「Global Link Manager を使用して Windows ファイアウォールが有効となっているホストを管理する場合は、firewall_setup コマンドを実行しファイアウォールの例外登録を行なってください。」というメッセージが表示されることがあります。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理しない場合、対処する必要はありません。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合は、ファイアウォールの例外登録を実行してください。詳細については「3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定」を参照してください。

14. インストール結果の確認をします。
サイレントインストールした場合、インストール結果をコマンドプロンプトで確認してください。
15. インストールが終了したら、`-v` パラメタを指定して、`dlnmprsvkey` ユティリティを実行します。
次に示すコマンドを実行してください。

```
HDLM のインストール先フォルダ¥bin¥dlnmprsvkey -v
```

`dlnmprsvkey` ユティリティの実行によって表示された PRSV キーが、SAN 内のほかのホストの PRSV キーと重複していないか確認してください。PRSV キーが重複している場合、PRSV キーが登録されていない場合、または `KAPL09131-W` のメッセージが表示された場合は、`-r` パラメタを指定して `dlnmprsvkey` ユティリティを実行し、再度登録してください。PRSV キーが登録されていない場合、HDLM の機能が正常に動作しないことがあります。`dlnmprsvkey` ユティリティの詳細については、「7.4 `dlnmprsvkey` HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ」を参照してください。ライセンスキーファイルを使用した場合、インストールが終了すると削除されます。削除に失敗した場合は `KAPL09115-W` のメッセージが表示されます。その場合はエクスプローラなどを使用して、手動で削除してください。
16. ホストをシャットダウンします。
手順 23 で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認するまでは、シングルパス構成のままにしてください。
17. ストレージシステムの設定を変更します。
ストレージシステムの保守マニュアルに記載されている内容に従って、ストレージシステムの設定を変更してください。
18. ホストを 1 台ずつ起動します。
19. Windows に、Administrators グループのユーザで再度ログオンします。
20. HDLM コマンドの `view` オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。
コマンドの実行例を、次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version        :
Load Balance                 : on(extended lio)
Support Cluster              : off
Elog Level                   : 3
Elog File Size (KB)         : 9900
Number Of Elog Files        : 2
Trace Level                  : 0
Trace File Size(KB)         : 1000
Number Of Trace Files       : 4
Path Health Checking        : on(30)
Auto Failback                : off
Remove LU                    : off
Intermittent Error Monitor   : off
Dynamic I/O Path Control    : off(10)
HDLM Manager Ver            WakeupTime
Alive      x.x.x-xx         yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver       WakeupTime      ElogMem Size
Alive      x.x.x-xx         yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver             WakeupTime
Alive      x.x.x-xx         yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
```

```
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>
```

VCSを使用している場合、「Support Cluster」には「off」と表示されます。しかし、クラスター対応機能は問題なく動作します。

21. view オペレーションの実行結果からインストールされた HDLM のバージョンを確認します。
「HDLM Version」に「x.x.x-xx」が表示されていれば、正しいバージョンがインストールされています。
22. view オペレーションの実行結果からプログラムが正常に動作しているか確認します。
「HDLM Manager」、「HDLM Alert Driver」、および「HDLM Driver」がすべて「Alive」であれば、プログラムが正常に動作しています。
23. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、シングルパス構成で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認します。
24. すべての HBA にケーブルを接続して、マルチパス構成に変更します。
25. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、正常にマルチパス構成が構築できたかどうかを確認します。

(4) MSCS 環境または VCS 環境以外の場合

1. すべてのホストをシャットダウンします。
2. クラスタシステムを構成するすべてのホストが完全にシャットダウンされていることを確認します。
3. ホストを 1 台ずつ起動します。
シングルパス構成で起動してください。
4. Windows に、Administrators グループのユーザでログオンします。
5. Windows がインストールされたドライブの直下に、ライセンスキーファイルを格納します。ライセンスキーファイルを使用しないで直接ライセンスキーを指定することもできます。

```
インストール先ドライブ:%hdlm_license
```

ライセンスキーファイルは、インストールが終了すると削除されます。

6. インストールを実行します。
 - サイレントインストールしない場合は、DVD をセットします。
表示されたウィンドウにある [Hitachi Dynamic Link Manager Software] の [for Windows] の横にある [Install] ボタンをクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、インストーラー (setup.exe) を直接実行してください。
HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09129-E のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。05-50 以降の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09173-W のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール」の手順に従ってください。メッセージが表示されない場合は、手順 7 へ進んでください。
 - サイレントインストールする場合は、installhdlm ユティリティを実行します。
コマンドプロンプトから、次に示すコマンドを実行してください。
インストール DVD が入ったドライブ:%HDLM_Windows%DLMTools%installhdlm -f インストール情報設定ファイル
インストール情報設定ファイルの restart キーで、n (再起動しない) を指定してください。

HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。05-40 以前の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09129-E のメッセージが表示されます。その場合は、「3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行」の手順に従ってください。05-50 以降の HDLM がインストールされている場合は、KAPL09183-I のメッセージが表示されたあと、アップグレードインストールまたは再インストールが実行されます。

インストールが終了したら手順 13 へ進んでください。

7. MPIO ドライバのバージョンのチェックとインストールが行われます。インストールしてよいかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされているかを確認してください。
 - HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされている場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてインストールを中止し、そのマルチパス管理ソフトウェアをアンインストールしてください。そのあと、HDLM をインストールしてください。
 - HDLM 以外のマルチパス管理ソフトウェアがインストールされていない場合は、[次へ] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。
8. 画面に表示されるメッセージに従って、ライセンスキーファイルを指定、またはライセンスキーを入力します。
 - 手順 5 でライセンスキーファイルを格納した場合、手順 5 で格納したライセンスキーファイルを指定してください。
 - ライセンスキーファイルを使用しない場合は、ライセンスキーを直接入力してください。
9. 画面に表示されるメッセージに従って、インストール先のフォルダを指定します。

パーシステントリザーブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey) が自動的に実行され、PRSV キーが生成されます。ただし、NIC が存在しない場合など、生成に失敗することがあります。PRSV キーが時刻情報だけで生成された場合、または生成に失敗した場合は、PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。

PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示された場合は、手順 10 へ進んでください。それ以外の場合は、手順 12 へ進んでください。
10. PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスの説明に従って、PRSV キーを入力してください。

PRSV キーは、HDLM の機能が正常に動作するために必要です。また、ほかのホストと値が重複しない必要があります。
11. KAPL09128-W のメッセージが表示された場合は、再度 PRSV キーの入力を求められますので、適切な PRSV キーを入力してください。

メッセージが表示されない場合は、次の手順に進んでください。
12. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。
 - インストール中に次に示す文章で始まるダイアログが表示されて、かつ HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用する場合は、いったん HDLM のインストールを中止してください。そのあと、Microsoft の Storport ドライバの QFE838894 以降、または Windows Server 2003 の SP1 以降をインストールしてください。

Storport Miniport ドライバ使用時の注意事項
HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用の際は、必ずお読みください。
このシステムの Storport.sys (Microsoft (R) Storport ドライバ) のファイルバージョンは *n.n.nnnn.n* です。
HBA ドライバに Storport Miniport ドライバを使用の際は、ファイルバージョン *n.n.nnnn.n* 以降の Storport.sys に更新してください。
 - インストールが終了する前に、PRSV キーが登録されます。KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、手順 14 の記述に従って対処します。
 - インストールが終了するとホストの再起動を求めるメッセージが表示されますが、再起動する必要はありません。

- 最後のインストール画面で、「Global Link Manager を使用して Windows ファイアウォールが有効となっているホストを管理する場合は、firewall_setup コマンドを実行しファイアウォールの例外登録を行なってください。」というメッセージが表示されることがあります。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理しない場合、対処する必要はありません。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合は、ファイアウォールの例外登録を実行してください。詳細については「[3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定](#)」を参照してください。

- インストール結果の確認をします。

サイレントインストールした場合、インストール結果をコマンドプロンプトで確認してください。

- インストールが終了したら、-v パラメタを指定して、dlmprsvkey ユティリティを実行します。

次に示すコマンドを実行してください。

```
HDLM のインストール先フォルダ¥bin¥dlmprsvkey -v
```

dlmprsvkey ユティリティの実行によって表示された PRSV キーが、SAN 内のほかのホストの PRSV キーと重複していないか確認してください。PRSV キーが重複している場合、PRSV キーが登録されていない場合、または KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、-r パラメタを指定して dlmprsvkey ユティリティを実行し、再度登録してください。PRSV キーが登録されていない場合、HDLM の機能が正常に動作しないことがあります。dlmprsvkey ユティリティの詳細については、「[7.4 dlmprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ](#)」を参照してください。ライセンスキーファイルを使用した場合、インストールが終了すると削除されます。削除に失敗した場合は KAPL09115-W のメッセージが表示されます。その場合はエクスプローラなどを使用して、手動で削除してください。

- ホストをシャットダウンします。

手順 23 で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認するまでは、シングルパス構成のままにしてください。

- 手順 3 から手順 15 までを、クラスタシステムを構成するすべてのホストで実施します。
- クラスタシステムを構成するすべてのホストが完全にシャットダウンされていることを確認します。
- ホストを 1 台ずつ起動します。
- Windows に、Administrators グループのユーザで再度ログオンします。
- HDLM コマンドの view オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。
コマンドの実行例を、次に示します。

```
PROMPT>dlmkmgr view -sys
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version       :
Load Balance                : on(extended lio)
Support Cluster             : off
Elog Level                  : 3
Elog File Size (KB)        : 9900
Number Of Elog Files       : 2
Trace Level                 : 0
Trace File Size(KB)        : 1000
Number Of Trace Files      : 4
Path Health Checking       : on(30)
Auto Failback               : off
Remove LU                  : off
Intermittent Error Monitor : off
Dynamic I/O Path Control   : off(10)
HDLM Manager Ver           WakeupTime
Alive x.x.x-xx            yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver      WakeupTime           ElogMem Size
```

```

Alive          x.x.x-xx      yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver      WakeupTime
Alive          x.x.x-xx      yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent      -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

21. view オペレーションの実行結果からインストールされた HDLM のバージョンを確認します。
「HDLM Version」に「x.x.x-xx」が表示されていれば、正しいバージョンがインストールされています。
22. view オペレーションの実行結果からプログラムが正常に動作しているか確認します。
「HDLM Manager」, 「HDLM Alert Driver」, および「HDLM Driver」がすべて「Alive」であれば、プログラムが正常に動作しています。
23. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、シングルパス構成で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認します。
24. すべての HBA にケーブルを接続して、マルチパス構成に変更します。
25. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、正常にマルチパス構成が構築できたかどうかを確認します。
26. ホストをシャットダウンします。
27. 手順 18 から手順 26 までを、クラスタシステムを構成するすべてのホストで実施します。
28. クラスタソフトウェアをインストール、および構成を設定します。
クラスタソフトウェアの設定に関する注意事項を次に示します。
 - Oracle RAC の場合、次に示す条件を満たすときは、Oracle RAC の設定を変更する必要があります。
 - Oracle RAC 10g の 10.1.0.3.0 以降、または Oracle RAC 11g を使用する
 - FC-SAN 環境でホストと投票ディスク (Voting Disk) を複数のパスで接続 (マルチパス構成) する

詳細については、「3.4 環境を構築する場合の注意事項」を参照してください。
 - CLUSTERPRO の場合、モニタリソースは「ディスク TUR 監視リソース」を使用してください。
29. HDLM コマンドの view オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。
コマンドの実行例を、次に示します。

```

PROMPT>dlnkmgr view -sys
HDLM Version          : x.x.x-xx
Service Pack Version  :
Load Balance          : on(extended lio)
Support Cluster       : off
Elog Level            : 3
Elog File Size (KB)   : 9900
Number Of Elog Files  : 2
Trace Level           : 0
Trace File Size (KB)  : 1000
Number Of Trace Files : 4
Path Health Checking  : on(30)
Auto Failback         : off
Remove LU             : off
Intermittent Error Monitor : off
Dynamic I/O Path Control : off(10)
HDLM Manager Ver      WakeupTime
Alive          x.x.x-xx      yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver WakeupTime      ElogMem Size
Alive          x.x.x-xx      yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver      WakeupTime

```

```
Alive          x.x.x-xx    yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent     -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

クラスタソフトウェアを使用している場合、「Support Cluster」には「off」と表示されます。しかし、クラスタ対応機能は問題なく動作します。

3.5.5 HDLM の新規インストール (Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合)

注意事項

Windows Server 2008 および Windows Server 2012 で Server Core 環境を適用している場合は、サイレントインストールしてください。

(1) クラスタ環境以外の場合

ライセンスキーを用意してから、HDLM をインストールしてください。

サイレントインストールする場合は、あらかじめインストールに必要な情報を定義したインストール情報設定ファイルを用意しておいてください。

1. Windows に、Administrator ユーザでログオンします。
2. Windows がインストールされたドライブの直下に、ライセンスキーファイルを格納します。

インストール先ドライブ: %hdlm_license

ライセンスキーファイルは、インストールが終了すると削除されます。

3. インストールを実行します。
 - サイレントインストールしない場合は、DVD をセットします。
表示されたウィンドウにある [Hitachi Dynamic Link Manager Software] の [for Windows] の横にある [Install] ボタンをクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、インストーラー (setup.exe) を直接実行してください。
HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。KAPL09173-W のメッセージが表示された場合は、「3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール」の手順に従ってください。
メッセージが表示されない場合は、次の手順に進んでください。
 - サイレントインストールする場合は、installhdlm ユティリティを実行します。
コマンドプロンプトから、次に示すコマンドを実行してください。
インストール DVD が入ったドライブ: %HDLM_Windows%DLMTools%installhdlm -f インストール情報設定ファイル
HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。KAPL09183-I のメッセージが表示された場合は、再インストールが実行されます
インストール情報設定ファイルの restart キーで、n (再起動しない) を指定した場合は、手順 8 へ進んでください。
インストール情報設定ファイルの restart キーで、y (再起動する) を指定した場合は、手順 13 へ進んでください。
4. 画面に表示されるメッセージに従って、ライセンスキーファイルを指定、またはライセンスキーを入力します。

- 手順 2 でライセンスキーファイルを格納した場合、手順 2 で格納したライセンスキーファイルを指定してください。
 - ライセンスキーファイルを使用しない場合は、ライセンスキーを直接入力してください。
5. 画面に表示されるメッセージに従って、インストール先のフォルダを指定します。
 パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ (dlmprsvkey) が自動的に実行され、PRSV キーが生成されます。ただし、NIC が存在しない場合など、生成に失敗することがあります。PRSV キーが時刻情報だけで生成された場合、または生成に失敗した場合は、PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。
 PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示された場合は、手順 6 へ進んでください。それ以外の場合は、手順 7 へ進んでください。
6. PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスの説明に従って、PRSV キーを入力してください。
 PRSV キーは、HDLM の機能が正常に動作するために必要です。また、ほかのホストと値が重複しない必要があります。
 KAPL09128-W メッセージが表示された場合は、再度 PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。再度この手順を行ってください。
7. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。
- インストールが終了する前に、PRSV キーが登録されます。KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、手順 9 の記述に従って対処します。
 - インストールが終了するとホストの再起動を求めるメッセージが表示されますが、再起動する必要はありません。
 - 最後のインストール画面で、「Global Link Manager を使用して Windows ファイアウォールが有効となっているホストを管理する場合は、firewall_setup コマンドを実行しファイアウォールの例外登録を行なってください。」というメッセージが表示されることがあります。
 Global Link Manager を使用して HDLM を管理しない場合、対処する必要はありません。
 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合は、ファイアウォールの例外登録を実行してください。詳細については「[3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定](#)」を参照してください。
8. インストール結果の確認をします。
 サイレントインストールした場合、インストール結果をコマンドプロンプトで確認してください。
9. インストールが終了したら、-v パラメータを指定して、dlmprsvkey ユティリティを実行します。
 次に示すコマンドを実行してください。
 HDLM のインストール先フォルダ¥bin¥dlmprsvkey -v
 dlmprsvkey ユティリティの実行によって表示された PRSV キーが、SAN 内のほかのホストの PRSV キーと重複していないか確認してください。PRSV キーが重複している場合、PRSV キーが登録されていない場合、または KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、-r パラメータを指定して dlmprsvkey ユティリティを実行し、再度登録してください。PRSV キーが登録されていない場合、HDLM の機能が正常に動作しないことがあります。dlmprsvkey ユティリティの詳細については、「[7.4 dlmprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ](#)」を参照してください。ライセンスキーファイルを使用した場合、インストールが終了すると削除されます。削除に失敗した場合は KAPL09115-W のメッセージが表示されます。その場合はエクスペローラなどを使用して、手動で削除してください。
10. ホストをシャットダウンします。

手順 18 で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認するまでは、シングルパス構成のままにしてください。

11. ストレージシステムの設定を変更します。
ストレージシステムの保守マニュアルに記載されている内容に従って、ストレージシステムの設定を変更してください。
12. ホストを起動します。
13. Windows に、Administrator ユーザで再度ログオンします。
14. ログの確認、および PRSV キーの確認をします。

手順 9 を実行した場合、この手順は不要です。手順 15 に進んでください。

サイレントインストールした場合で、インストール情報設定ファイルの restart キーで、y (再起動する) を指定したときは、installhdlm.log に KAPL09181-I のメッセージが出力されていることを確認してください。ログについては、「3.5.3 HDLM をサイレントインストールする場合の準備」の「(2) インストール時の注意事項」および「7.7 installhdlm HDLM インストールユティリティ」の「7.7.4 ログファイルについて」を参照してください。

dlnprsvkey ユティリティの実行によって表示された PRSV キーが、SAN 内のほかのホストの PRSV キーと重複していないか確認してください。PRSV キーが重複している場合、PRSV キーが登録されていない場合、または KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、-r パラメータを指定して dlnprsvkey ユティリティを実行し、再度登録してください。PRSV キーが登録されていない場合、HDLM の機能が正常に動作しないことがあります。dlnprsvkey ユティリティの詳細については、「7.4 dlnprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ」を参照してください。ライセンスキーファイルを使用した場合、インストールが終了すると削除されます。削除に失敗した場合は KAPL09115-W のメッセージが表示されます。その場合はエクスプローラなどを使用して、手動で削除してください。

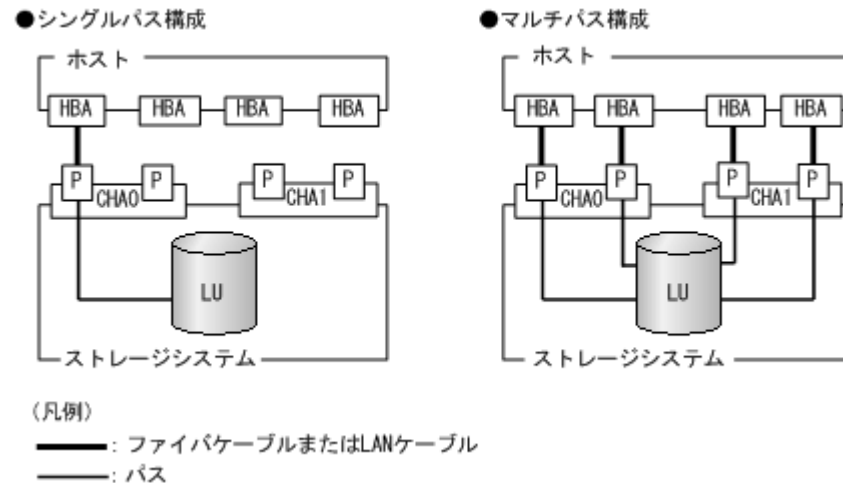
15. HDLM コマンドの view オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。
コマンドの実行例を、次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version        :
Load Balance                 : on(extended lio)
Support Cluster              : off
Elog Level                   : 3
Elog File Size (KB)         : 9900
Number Of Elog Files        : 2
Trace Level                  : 0
Trace File Size(KB)         : 1000
Number Of Trace Files       : 4
Path Health Checking        : on(30)
Auto Failback                : off
Remove LU                   : off
Intermittent Error Monitor  : off
Dynamic I/O Path Control    : off(10)
HDLM Manager Ver            WakeupTime
Alive x.x.x-xx              yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver       WakeupTime      ElogMem Size
Alive x.x.x-xx              yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver             WakeupTime
Alive x.x.x-xx              yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

16. view オペレーションの実行結果からインストールされた HDLM のバージョンを確認します。
「HDLM Version」に「x.x.x-xx」が表示されていれば、正しいバージョンがインストールされています。

17. view オペレーションの実行結果からプログラムが正常に動作しているか確認します。
「HDLM Manager」, 「HDLM Alert Driver」, および「HDLM Driver」がすべて「Alive」であれば、プログラムが正常に動作しています。
18. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、シングルパス構成で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認します。
19. すべての HBA にケーブルを接続して、マルチパス構成に変更します。
シングルパス構成、およびマルチパス構成を次の図に示します。

図 3-6 シングルパス構成およびマルチパス構成



20. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、正常にマルチパス構成が構築できたかどうかを確認します。

(2) MSCS 環境の場合

HDLM をインストールしたあとに MSCS をインストールする場合と、MSCS をインストールしたあとに HDLM をインストールする場合に分けて説明します。

HDLM をインストールしたあとに MSCS をインストールする場合

1. すべてのホストをシャットダウンします。
2. クラスタシステムを構成するすべてのホストが完全にシャットダウンされていることを確認します。
3. ホストを 1 台ずつ起動します。
シングルパス構成で起動してください。
4. Windows に、Administrators ユーザでログオンします。
5. Windows がインストールされたドライブの直下に、ライセンスキーファイルを格納します。ライセンスキーファイルを使用しないで直接ライセンスキーを指定することもできます。

インストール先ドライブ: %hdlm_license

ライセンスキーファイルは、インストールが終了すると削除されます。

6. インストールを実行します。
 - サイレントインストールしない場合は、DVD をセットします。
表示されたウィンドウにある [Hitachi Dynamic Link Manager Software] の [for Windows] の横にある [Install] ボタンをクリックします。

ウィンドウが表示されない場合は、インストーラー (setup.exe) を直接実行してください。

HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。KAPL09173-W のメッセージが表示された場合は、「3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール」の手順に従ってください。

メッセージが表示されない場合は、次の手順に進んでください。

- サイレントインストールする場合は、installhdlm ユティリティを実行します。

コマンドプロンプトから、次に示すコマンドを実行してください。

インストール DVD が入ったドライブ: %HDLM_Windows%\DLMTools%\installhdlm -f インストール情報設定ファイル

インストール情報設定ファイルの restart キーで、n (再起動しない) を指定してください。

HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。KAPL09183-I のメッセージが表示された場合は、再インストールが実行されます。

インストールが終了したら、手順 11 へ進んでください。

7. 画面に表示されるメッセージに従って、ライセンスキーファイルを指定、またはライセンスキーを入力します。

- 手順 5 でライセンスキーファイルを格納した場合、手順 5 で格納したライセンスキーファイルを指定してください。
- ライセンスキーファイルを使用しない場合は、ライセンスキーを直接入力してください。

8. 画面に表示されるメッセージに従って、インストール先のフォルダを指定します。

パーシステントリザーブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey) が自動的に実行され、PRSV キーが生成されます。ただし、NIC が存在しない場合など、生成に失敗することがあります。PRSV キーが時刻情報だけで生成された場合、または生成に失敗した場合は、PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。

PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示された場合は、手順 9 へ進んでください。それ以外の場合は、手順 10 へ進んでください。

9. PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスの説明に従って、PRSV キーを入力してください。

PRSV キーは、HDLM の機能が正常に動作するために必要です。また、ほかのホストと値が重複しない必要があります。

KAPL09128-W メッセージが表示された場合は、再度 PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。再度この手順を行ってください。

10. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。

- インストールが終了する前に、PRSV キーが登録されます。KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、手順 12 の記述に従って対処します。
- インストールが終了するとホストの再起動を求めるメッセージが表示されますが、再起動する必要はありません。
- 最後のインストール画面で、「Global Link Manager を使用して Windows ファイアウォールが有効となっているホストを管理する場合は、firewall_setup コマンドを実行しファイアウォールの例外登録を行なってください。」というメッセージが表示されることがあります。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理しない場合、対処する必要はありません。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合は、ファイアウォールの例外登録を実行してください。詳細については「3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定」を参照してください。

11. インストール結果の確認をします。

サイレントインストールした場合、インストール結果をコマンドプロンプトで確認してください。

12. インストールが終了したら、`-v` パラメタを指定して、`dlmprsvkey` ユティリティを実行します。

次に示すコマンドを実行してください。

```
HDLM のインストール先フォルダ¥bin¥dlmprsvkey -v
```

`dlmprsvkey` ユティリティの実行によって表示された PRSV キーが、SAN 内のほかのホスト PRSV キーと重複していないか確認してください。PRSV キーが重複している場合、PRSV キーが登録されていない場合、または `KAPL09131-W` のメッセージが表示された場合は、`-r` パラメタを指定して `dlmprsvkey` ユティリティを実行し、再度登録してください。PRSV キーが登録されていない場合、HDLM の機能が正常に動作しないことがあります。`dlmprsvkey` ユティリティの詳細については、「7.4 `dlmprsvkey` HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ」を参照してください。ライセンスキーファイルを使用した場合、インストールが終了すると削除されます。削除に失敗した場合は `KAPL09115-W` のメッセージが表示されます。その場合はエクスプローラなどを使用して、手動で削除してください。

13. ホストをシャットダウンします。

手順 21 で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認するまでは、シングルパス構成のままにしてください。

14. 手順 3 から手順 13 までを、クラスタシステムを構成するすべてのホストで実施します。

15. クラスタシステムを構成するすべてのホストが完全にシャットダウンされていることを確認します。

16. ホストを 1 台ずつ起動します。

17. Windows に、Administrator ユーザで再度ログオンします。

18. HDLM コマンドの `view` オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。

コマンドの実行例を、次に示します。

```
PROMPT>dlmkmgr view -sys
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version       :
Load Balance                : on(extended lio)
Support Cluster             : off
Elog Level                  : 3
Elog File Size (KB)        : 9900
Number Of Elog Files       : 2
Trace Level                 : 0
Trace File Size (KB)       : 1000
Number Of Trace Files      : 4
Path Health Checking       : on(30)
Auto Failback               : off
Remove LU                   : off
Intermittent Error Monitor : off
Dynamic I/O Path Control   : off(10)
HDLM Manager Ver          WakeupTime
Alive x.x.x-xx            yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver     WakeupTime      ElogMem Size
Alive x.x.x-xx            yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver           WakeupTime
Alive x.x.x-xx            yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

19. `view` オペレーションの実行結果からインストールされた HDLM のバージョンを確認します。「HDLM Version」に「x.x.x-xx」が表示されていれば、正しいバージョンがインストールされています。

20. view オペレーションの実行結果からプログラムが正常に動作しているか確認します。
「HDLM Manager」, 「HDLM Alert Driver」, および「HDLM Driver」がすべて「Alive」であれば、プログラムが正常に動作しています。
21. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、シングルパス構成で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認します。
22. すべての HBA にケーブルを接続して、マルチパス構成に変更します。
23. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、正常にマルチパス構成が構築できたかどうかを確認します。
24. ホストをシャットダウンします。
25. 手順 16 から手順 24 までを、クラスタシステムを構成するすべてのホストで実施します。
26. ホストを 1 台ずつ起動します。
27. MSCS をインストールします。
28. ホストをシャットダウンします。
29. ホストを 1 台ずつ起動します。
30. Windows に、Administrator ユーザで再度ログオンします。
31. HDLM コマンドの view オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。
次に示すコマンドの実行例のように、Support Cluster に on MSCS が表示されていることを確認してください。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version        :
Load Balance                 : on(extended lio)
Support Cluster              : on MSCS
Elog Level                   : 3
Elog File Size (KB)         : 9900
Number Of Elog Files         : 2
Trace Level                  : 0
Trace File Size(KB)         : 1000
Number Of Trace Files       : 4
Path Health Checking         : on(30)
Auto Failback                : off
Remove LU                    : off
Intermittent Error Monitor   : off
Dynamic I/O Path Control    : off(10)
HDLM Manager Ver            WakeupTime
Alive      x.x.x-xx         yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver       WakeupTime      ElogMem Size
Alive      x.x.x-xx         yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver             WakeupTime
Alive      x.x.x-xx         yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

MSCS をインストールしたあとに HDLM をインストールする場合

1. MSCS をインストールします。
2. ホストを再起動します。
3. Windows に、Administrator のユーザでログオンします。
4. Windows がインストールされたドライブの直下に、ライセンスキーファイルを格納します。ライセンスキーファイルを使用しないで直接ライセンスキーを指定することもできます。

インストール先ドライブ: %hdlm_license

ライセンスキーファイルは、インストールが終了すると削除されます。

5. インストールを実行します。
 - サイレントインストールしない場合は、DVD をセットします。
表示されたウィンドウにある [Hitachi Dynamic Link Manager Software] の [for Windows] の横にある [Install] ボタンをクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、インストーラー (setup.exe) を直接実行してください。
HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。KAPL09173-W のメッセージが表示された場合は、「3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール」の手順に従ってください。
メッセージが表示されない場合は、次の手順に進んでください。
 - サイレントインストールする場合は、installhdlm ユティリティを実行します。
コマンドプロンプトから、次に示すコマンドを実行してください。
インストール DVD が入ったドライブ: %HDLM_Windows%DLMTTools%installhdlm -f インストール情報設定ファイル
インストール情報設定ファイルの restart キーで、n (再起動しない) を指定してください。
HDLM がすでにインストールされているかチェックされます。KAPL09183-I のメッセージが表示された場合は、再インストールが実行されます。
インストールが終了したら、手順 10 へ進んでください。
6. 画面に表示されるメッセージに従って、ライセンスキーファイルを指定、またはライセンスキーを入力します。
 - 手順 4 でライセンスキーファイルを格納した場合、手順 4 で格納したライセンスキーファイルを指定してください。
 - ライセンスキーファイルを使用しない場合は、ライセンスキーを直接入力してください。
7. 画面に表示されるメッセージに従って、インストール先のフォルダを指定します。
パーシステントリザーブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey) が自動的に実行され、PRSV キーが生成されます。ただし、NIC が存在しない場合など、生成に失敗することがあります。
PRSV キーが時刻情報だけで生成された場合、または生成に失敗した場合は、PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。
PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示された場合は、手順 8 へ進んでください。
それ以外の場合は、手順 9 へ進んでください。
8. PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスの説明に従って、PRSV キーを入力してください。
PRSV キーは、HDLM の機能が正常に動作するために必要です。また、ほかのホストと値が重複しない必要があります。
KAPL09128-W メッセージが表示された場合は、再度 PRSV キーの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。再度この手順を行ってください。
9. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。
 - インストールが終了する前に、PRSV キーが登録されます。KAPL09131-W のメッセージが表示された場合は、手順 11 の記述に従って対処します。
 - インストールが終了するとホストの再起動を求めるメッセージが表示されますが、再起動する必要はありません。

- 最後のインストール画面で、「Global Link Manager を使用して Windows ファイアウォールが有効となっているホストを管理する場合は、`firewall_setup` コマンドを実行しファイアウォールの例外登録を行なってください。」というメッセージが表示されることがあります。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理しない場合、対処する必要はありません。

Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合は、ファイアウォールの例外登録を実行してください。詳細については「[3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定](#)」を参照してください。

- インストール結果の確認をします。

サイレントインストールした場合、インストール結果をコマンドプロンプトで確認してください。

- インストールが終了したら、`-v` パラメタを指定して、`dlnprsvkey` ユティリティを実行します。

次に示すコマンドを実行してください。

```
HDLM のインストール先フォルダ¥bin¥dlnprsvkey -v
```

`dlnprsvkey` ユティリティの実行によって表示された PRSV キーが、SAN 内のほかのホストの PRSV キーと重複していないか確認してください。PRSV キーが重複している場合、PRSV キーが登録されていない場合、または `KAPL09131-W` のメッセージが表示された場合は、`-r` パラメタを指定して `dlnprsvkey` ユティリティを実行し、再度登録してください。PRSV キーが登録されていない場合、HDLM の機能が正常に動作しないことがあります。`dlnprsvkey` ユティリティの詳細については、「[7.4 dlnprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ](#)」を参照してください。ライセンスキーファイルを使用した場合、インストールが終了すると削除されます。削除に失敗した場合は `KAPL09115-W` のメッセージが表示されます。その場合はエクスプローラなどを使用して、手動で削除してください。

- ホストをシャットダウンします。

手順 21 で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認するまでは、シングルパス構成のままにしてください。

- 手順 1 から手順 12 までを、クラスタシステムを構成するすべてのホストで実施します。

- クラスタシステムを構成するすべてのホストが完全にシャットダウンされていることを確認します。

- ストレージシステムの設定を変更します。

ストレージシステムの保守マニュアルに記載されている内容に従って、ストレージシステムの設定を変更してください。

- ホストを 1 台ずつ起動します。

- Windows に、Administrator ユーザで再度ログオンします。

- HDLM コマンドの `view` オペレーションを実行して、各プログラムの状態を表示します。

次に示すコマンドの実行例のように、Support Cluster に on MSCS が表示されていることを確認してください。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version       :
Load Balance                : on(extended lio)
Support Cluster             : on MSCS
Elog Level                  : 3
Elog File Size (KB)        : 9900
Number Of Elog Files        : 2
Trace Level                 : 0
Trace File Size (KB)       : 1000
Number Of Trace Files       : 4
Path Health Checking        : on(30)
```

```

Auto Failback                : off
Remove LU                    : off
Intermittent Error Monitor   : off
Dynamic I/O Path Control     : off(10)
HDLM Manager Ver             WakeupTime
Alive      x.x.x-xx          yyyy/mm/dd hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver        WakeupTime          ElogMem Size
Alive      x.x.x-xx          yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver              WakeupTime
Alive      x.x.x-xx          yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent                    -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

19. view オペレーションの実行結果からインストールされた HDLM のバージョンを確認します。
「HDLM Version」に「x.x.x-xx」が表示されていれば、正しいバージョンがインストールされています。
20. view オペレーションの実行結果からプログラムが正常に動作しているか確認します。
「HDLM Manager」, 「HDLM Alert Driver」, および「HDLM Driver」がすべて「Alive」であれば、プログラムが正常に動作しています。
21. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、シングルパス構成で HDLM を正常にインストールできたかどうかを確認します。
22. すべての HBA にケーブルを接続して、マルチパス構成に変更します。
23. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認し、正常にマルチパス構成が構築できたかどうかを確認します。

3.5.6 HDLM のアップグレードまたは再インストール

アップグレードインストールは、05-50以降の HDLM だけ実行できます。05-40以前の HDLM から05-50以降の HDLM へ移行する場合は、「3.5.7 05-40以前の HDLM から05-50以降の HDLM への移行」を参照してください。

アップグレードまたは再インストールは、次に示す手順を除いて新規インストールと同じ手順です。

- HDLM パス状態確認ユーティリティ (dlmchkpath) の実行
インストールプログラム (setup.exe) が起動すると、dlmchkpath ユティリティが自動的に実行されます。dlmchkpath ユティリティは、シングルパス構成になっているかどうかを判定します。Windows Server 2003 (SP なし) で、警告ダイアログボックスが表示された場合は、シングルパス構成に変更してから再度アップグレードまたは再インストールを実行します。ただし、リモートインストール、またはサイレントインストールを使用したインストールの場合、かつマルチパス構成と判定された場合は、警告ダイアログボックスを表示しないでアップグレードまたは再インストールを終了します。
dlmchkpath ユティリティの詳細については、「7.5 dlmchkpath HDLM パス状態確認ユーティリティ」を参照してください。
- ライセンスキーの入力
新規インストールしたときに入力したライセンスキーの種別と期限が表示されます。ライセンスキーの満了日を過ぎている場合は、新規インストールと同じ手順です。
- PRSV キーチェック
適切な PRSV キーがある場合は、インストール終了後に PRSV キーが重複しているか確認する手順は必要ありません。
- HDLM のアップグレードまたは再インストールだけを実行する場合は、ストレージシステムの設定を変更する必要はありません。ストレージシステムの追加またはパスの構成変更など、シ

システムの構成を変更したことに伴い、HDLM のアップグレードまたは再インストールをする場合には、適宜設定の見直しをしてください。

- Windows Server 2003 で、HDLM 6.3 以降からアップグレードする場合、すでに同じバージョンの MPIO ドライバがインストールされているため、MPIO ドライバを上書きしないことを確認する KAPL09281-I のメッセージが表示されます。MPIO ドライバを修復するために上書きする場合は、[MPIO ドライバを再インストールする] チェックボックスを ON にしてください。

注意事項

HDLM Core コンポーネントがインストールされているホストに対して、すべての HDLM コンポーネントをインストールしたい場合は、サイレントインストールを使用してください。サイレントインストールを使用しないで HDLM をインストールした場合は、以前の環境と同様に HDLM Core コンポーネントだけがインストールされます。サイレントインストールについては、「7.7 installhdlm HDLM インストールユティリティ」を参照してください。

3.5.7 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行

1. 次に示すファイルを、HDLM のインストール先フォルダ以外の任意の場所にコピーします。
dlmmgr.xml は HDLM マネージャが動作するために必要な情報を設定したファイルです。
dlmwebagent.properties は Global Link Manager と連携するために必要な情報を設定したファイルです。
dlmwebagent.properties は 05-02 以降の HDLM にだけあります。05-91 以降の HDLM に移行する場合は、dlmwebagent.properties をコピーする必要はありません。

HDLM のインストール先フォルダ¥config¥dlmmgr.xml
HDLM のインストール先フォルダ¥config¥dlmwebagent.properties

2. アンインストールするバージョンの HDLM のマニュアルを参照して、HDLM をアンインストールしてください。
HDLM05-40 をアンインストールした場合は、ホストを再起動する前に、HDLM ドライバのセットアップ情報ファイルをシステムから削除する必要があるため、手順 3 へ進んでください。それ以外の場合は、手順 4 へ進んでください。
3. 次の条件をすべて満たすセットアップ情報ファイル（拡張子が inf）を検索します。
 - ファイルが次に示すフォルダに格納されている。
Windows のインストール先フォルダ¥inf
 - ファイル内に、「dlmfdrv.sys」というドライバファイル名が記述されている。
 - ファイル名が oemn.inf (n は数字) となっている。条件をすべて満たすセットアップ情報ファイルが存在した場合、それらのファイルを削除してください。また、同じ名称で拡張子が pnf のファイル (oemn.pnf) もあわせて削除してください。
誤ったファイルを削除するとホストが正しく動作しなくなるおそれがあります。削除する前に条件をすべて満たしているかよく確認してください。
4. 「3.5 HDLM のインストール」を参照して、HDLM を新規インストールしてください。
5. 手順 1 でコピーしたファイルを、次に示す場所にコピーして上書きします。

HDLM のインストール先フォルダ¥config¥dlmmgr.xml
HDLM のインストール先フォルダ¥config¥dlmwebagent.properties

6. 手順 1 でコピーしたファイルを削除します。
7. ホストを再起動します。

注意事項

05-40 以前の HDLM が使用されていた環境に 05-50 以降の HDLM をインストールした場合、「デバイスマネージャ」画面に [プラグアンドプレイではないドライバ] として「DLMAAlertDriver」が表示されます。「DLMAAlertDriver」は、次に示す手順で削除できます。なお、「DLMAAlertDriver」を削除しなくても HDLM の動作には影響ありません。

- a. 「デバイスマネージャ」画面で [表示] - [非表示のデバイスの表示] を選択します。
- b. [表示] - [デバイス接続別] を選択します。
- c. [プラグアンドプレイではないドライバ] を選択して、「DLMAAlertDriver」を表示します。
- d. 「DLMAAlertDriver」を削除します。
- e. システムを再起動します。

3.5.8 JRE のインストール

HDLM は、Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントに同梱されている JRE (Oracle 社製 JRE 5.0_11 (32bit)) を使用して、HDLM GUI を起動します。

HDLM では、Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントに同梱されていないバージョンの JRE を使用して、HDLM GUI を起動することもできます。使用できる JRE を次に示します。

- Windows Server 2003 の場合
 - Oracle 社製 JRE 1.4.2_13 (32bit)
 - Oracle 社製 JRE 5.0_10 (32bit)
 - Oracle 社製 JRE 6.0_04 (32bit)
 - Oracle 社製 JRE 6.0_17 (32bit)
- Windows Server 2008 の場合
 - Oracle 社製 JRE 6.0_17 (32bit)
 - Oracle 社製 JRE 7.0_01 (32bit)

JRE のインストール手順について、次に説明します。

JRE 7.0_01 を使用する場合は、JRE をインストールする前に「HDLM のインストール先フォルダ ¥jre_user」にコピーされているすべての JRE の構成ファイルを削除してください。

1. Oracle 社のホームページから JRE をダウンロードします。
2. ダウンロードした JRE を、HDLM がインストールされているホストにインストールします。
「HDLM のインストール先フォルダ ¥jre_user」に JRE を直接インストールしないでください。
「HDLM のインストール先フォルダ ¥jre_user」に JRE をインストールした場合は、いったん JRE をアンインストールしてください。それから、ほかのフォルダを指定して JRE を再インストールしてください。
例えば、JRE 6.0_04 をインストールした場合、"C:¥Program Files¥Java¥jre1.6.0_04"が作成されます。
3. 次に示すフォルダに JRE のインストール先フォルダを含めたすべての構成ファイルをコピーしてください。

HDLM のインストール先フォルダ ¥jre_user

JRE 6.0_04 を使用する場合は、次に示すフォルダ構成になります。

```
HDLM のインストール先フォルダ¥jre_user
  ¥jre1.6.0_04※
    ¥bin
    ¥lib
```

注※

使用する JRE のバージョンによって、フォルダ名は次のとおりとなります。

JRE 1.4.2_13 を使用する場合：j2re1.4.2_13

JRE 5.0_10 を使用する場合：jre1.5_10

JRE 6.0_17 を使用する場合：jre6

JRE 7.0_01 を使用する場合：jre7

例えば、HDLM のインストール先フォルダが"C:¥Program Files¥HITACHI¥DynamicLinkManager"で JRE 6.0_04 を使用する場合は、コピー後のフォルダ構成は次のようになります。

```
C:¥Program Files¥HITACHI¥DynamicLinkManager¥jre_user¥jre1.6.0_04
  ¥bin
  ¥lib
```

JRE をインストールしたあとに、HDLM GUI が起動することを確認してください。

注意事項

- HDLM をアンインストールすると、「HDLM のインストール先フォルダ¥jre_user」は削除されます。
- Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントがシステムにインストールされている 32bit の Java を使用するように設定している場合は、HDLM は、設定されている Java を使用して、HDLM GUI を起動します。

3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定

ホストの OS が Windows の場合、Windows ファイアウォールが有効のとき、Global Link Manager を使用して HDLM を管理するには、Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントで使用する次のポートをファイアウォールに例外登録する必要があります。

- server.agent.port プロパティに設定されたポート（デフォルト：24041/tcp）
- server.http.port プロパティに設定されたポート（デフォルト：24042/tcp）
- server.http.localPort プロパティに設定されたポート（デフォルト：24043/tcp）

Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントで使用するポートについては、マニュアル「Hitachi Command Suite Global Link Manager Software 導入・設定ガイド」を参照してください。

例外登録の手順について、次に説明します。

1. Administrator ユーザでログオンします。
2. firewall_setup コマンドを実行します。
3. コマンドが成功したことを示す次のメッセージが表示されることを確認してください。
The command ended successfully.

(1) firewall_setup コマンドについて

firewall_setup は、ホストの OS が Windows の場合に、Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントで使用するポートをファイアウォールの例外として登録するためのコマンドです。

firewall_setup コマンドのデフォルトの格納場所は、Device Manager エージェントのインストールの有無によって、次のとおりとなります。

- Device Manager エージェントがインストールされている場合

```
プログラムのインストール先ドライブ: %Program Files%\Hitachi\HDVM\HBaseAgent\bin\firewall_setup.bat
```

- Device Manager エージェントがインストールされていない場合

```
プログラムのインストール先ドライブ: %Program Files%\HDVM\HBaseAgent\bin\firewall_setup.bat
```

注※

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は、Program Files (x86)となります。

firewall_setup コマンドの構文を次の表に示します。

表 3-13 firewall_setup コマンドの構文

項目	説明
構文	firewall_setup {-set -unset}
機能	Windows 環境で、Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントで使用する次のポートをファイアウォールの例外として登録します。 <ul style="list-style-type: none">• server.agent.port プロパティに設定されたポート (デフォルト: 24041/tcp)• server.http.port プロパティに設定されたポート (デフォルト: 24042/tcp)• server.http.localPort プロパティに設定されたポート (デフォルト: 24043/tcp) Administrators グループのユーザで、このコマンドを実行してください。特に、OS が Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の場合、管理者として起動したコマンドプロンプト上で実行してください。
オプション	-set ファイアウォールの例外登録をする場合に指定します。 -unset ファイアウォールの例外登録の設定を解除する場合に指定します。

注意事項

Windows では、Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントのコマンドがインストールされるフォルダが自動的に環境変数 Path に追加されます。このため、コマンドを実行するとき、コマンドが格納されているフォルダにカレントフォルダを移動する必要はありません。

3.6 パス構成の確認

ロードバランスやフェイルオーバーなどの HDLM の機能は、1 つの HDLM 管理対象デバイスに対して複数の稼働状態のパスがあるときにだけ使用できます。HDLM のインストール後、およびハードウェア構成の変更後には、パスの構成や状態を確認してください。

パス情報は、HDLM コマンドの view オペレーション、HDLM GUI のパス管理ウィンドウのパスリストビューで確認できます。パスリストビューについては「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。

HDLM コマンドの view オペレーションでパス情報を確認する手順について、次に説明します。view オペレーションの詳細については、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

-path パラメタを指定して出力した情報を確認する

次に示すコマンドを実行します。

dlnmgr view -path > リダイレクト先のファイル
リダイレクト先のファイルを開いて、次のことを確認します。

- パスがアクセスする LU があるか
パスは「PathName」で特定できます。パスがアクセスする LU は「DskName」と「iLU」の組み合わせで特定できます。
- パスはすべて Online 状態か
「PathStatus」が「Online」であることを確認してください。Online 状態ではないパスが存在する場合は、「Reduced」と表示されます。
- 同じ LU にアクセスするパスが経由する CHA ポート（「ChaPort」）と HBA ポート（「PathName」に表示されたホストポート番号およびバス番号）の組み合わせが異なっているか（マルチパス構成の場合）
「PathName」のうち、左端の番号がホストポート番号です。ホストポート番号の右側にあるピリオドから 2 番目のピリオドまでの番号が、バス番号です。
- 物理的な HBA のポートの数だけ、異なるホストポート番号/バス番号があるか（マルチパス構成の場合）

マルチパス構成を構築できなかった場合は、次に示す手順を実行します。

1. Windows の「デバイスマネージャ」画面で [ディスクドライブ] を選択して、[ハードウェア変更のスキャン] を実行してください。
2. Windows の「ディスクの管理」画面で [ディスクの再スキャン] を実行してください。

3.7 HDLM の機能の設定

HDLM には、ロードバランス、自動フェイルバック、障害ログの採取、監査ログの採取などの機能があります。これらの機能は、HDLM コマンドの set オペレーション、HDLM GUI のオプションウィンドウで設定できます。ここでは、HDLM コマンドの set オペレーションで、HDLM の機能を設定する手順を説明します。オプションウィンドウについては、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。

注意事項

- Windows Server 2008 および Windows Server 2012 では、ユーザアカウント制御（UAC）がサポートされています。このため、HDLM コマンドは、次のどれかの手段で実行してください。
 - Administrator ユーザで実行する。
 - Administrator ユーザ以外で HDLM コマンドを実行する場合、「管理者：コマンドプロンプト」で実行する。
- Server Core 環境に HDLM をインストールしている場合は、HDLM GUI を使用できません。HDLM コマンドの set オペレーションを使用して、HDLM の機能を設定してください。

3.7.1 変更前の設定内容の確認

HDLM コマンドの view オペレーションを使って変更前の設定内容を確認する方法について説明します。

次のコマンドを実行して現在の設定内容を確認してください。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -sfunc
HDLM Version           : x.x.x-xx
Service Pack Version   :
Load Balance           : on(extended lio)
Support Cluster        : off
Elog Level             : 3
Elog File Size(KB)     : 9900
Number Of Elog Files   : 2
Trace Level            : 0
Trace File Size(KB)    : 1000
Number Of Trace Files  : 4
Path Health Checking   : on(30)
Auto Failback          : off
Remove LU              : off
Intermittent Error Monitor : off
Dynamic I/O Path Control : off(10)
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

監査ログの現在の設定内容を確認する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -audlog
Audit Log              : off
Audit Log Category     : -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

3.7.2 機能の設定

HDLM で設定できる各機能について次の表にまとめています。各機能の詳細は「(1) ロードバランスの設定」以降を参照してください。

各機能の設定値には、デフォルト値と推奨値があります。HDLM GUI のオプションウィンドウ、または HDLM コマンドの set オペレーションで機能を設定しない場合、機能の設定値にはデフォルト値が適用されます。推奨値は、機能を設定する場合の目安となる値です。

表 3-14 各機能のデフォルト値と推奨値

機能	デフォルト値	推奨値
ロードバランス	on アルゴリズムは拡張最少 I/O 数	on アルゴリズムの推奨値は運用環境によって異なります。
バスヘルスチェック	on チェック間隔 30 (分)	on チェック間隔の推奨値は運用環境によって異なります。
自動フェイルバック	off	off
間欠障害監視	off	off
ダイナミック I/O パスコントロール※	off チェック間隔 10 (分)	off チェック間隔の推奨値は運用環境によって異なります。

機能	デフォルト値	推奨値
LU の動的削除	off	off
障害ログ採取レベル	3 : Information レベル以上の障害情報を採取	3 : Information レベル以上の障害情報を採取
トレースレベル	0 : トレースを出力しない	0 : トレースを出力しない
障害ログファイルサイズ	9900 (KB)	9900 (KB)
障害ログファイル数	2	2
トレースファイルサイズ	1000 (KB)	1000 (KB)
トレースファイル数	4	4
監査ログ採取	off	推奨値は運用環境によって異なります。 監査ログを採取したい場合「on」を設定してください。

注※

ストレージシステムが Hitachi AMS2000 シリーズ、Hitachi SMS シリーズ、または HUS100 シリーズを使用している場合にだけ適用されます。

(1) ロードバランスの設定

ロードバランス機能を使用するかどうかを設定します。

- set オペレーションでの設定方法
ロードバランスを設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr set -lb on -lbtype exlio
```

ロードバランスを使用する場合は、「on」を、使用しない場合は「off」を指定します。「on」を指定した場合、-lbtype オプションのあとに、次に示すアルゴリズムを指定します。

- ラウンドロビンの場合は「rr」
- 拡張ラウンドロビンの場合は「exrr」
- 最少 I/O 数の場合は「lio」
- 拡張最少 I/O 数の場合は「exlio」
- 最少ブロック数の場合は「lbk」
- 拡張最少ブロック数の場合は「exlbk」

-lbtype で設定したアルゴリズムは、-lb off を指定してロードバランス機能を無効にしても、記憶されています。そのため、再度ロードバランス機能を有効にし、アルゴリズムを指定しなかった場合、記憶されているアルゴリズムでロードバランスが実行されます。

(2) パスヘルスチェックの設定

パスヘルスチェック機能を使用するかどうかを設定します。

- set オペレーションでの設定方法
パスヘルスチェックを設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr set -pchk on -intvl 10
```

パスヘルスチェックを使用する場合は、「on」を、使用しない場合は「off」を指定します。「on」を指定した場合、-intvl パラメタでチェック間隔を指定できます。チェック間隔を指定しない場合は、前回指定した設定値になります。例えば、チェック間隔を 15 分に設定して実行したあ

と、パスヘルスチェックに「off」を設定して実行します。このあと、再度チェック間隔を指定しないでパスヘルスチェックに「on」を設定して実行した場合、前回指定した設定値の15分を再び使用します。

(3) 自動フェイルバックの設定

自動フェイルバック機能を使用するかどうかを設定します。

間欠障害監視を使用して「障害発生回数」が「2」以上の場合、次の条件が満たされている必要があります。

間欠障害の障害監視時間 >=
自動フェイルバックのチェック間隔×間欠障害監視で指定する障害発生回数

この条件が満たされない場合はエラーとなり、KAPL01080-W のメッセージが表示されます。

エラーになった場合は、自動フェイルバックのチェック間隔、間欠障害の監視時間、または間欠障害監視で指定する障害発生回数のどれかを変更してください。障害発生回数に「1」を指定した場合、上記の条件を満たす必要はありません。

- set オペレーションでの設定方法
自動フェイルバックを設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr set -afb on -intvl 10
```

自動フェイルバックを使用する場合は「on」を、使用しない場合は「off」を指定します。「on」を指定した場合、-intvl パラメータでパスの状態をチェックする間隔を指定できます。チェック間隔を指定しない場合は、前回指定した設定値になります。例えば、チェック間隔を5分に設定して実行したあと、自動フェイルバックに「off」を設定して実行します。このあと、再度チェック間隔を指定しないで自動フェイルバックに「on」を設定して実行した場合、前回指定した設定値の5分を再び使用します。

(4) 間欠障害監視の設定

間欠障害監視は、自動フェイルバック機能を使用しているときだけ設定できます。間欠障害が発生したときのI/O性能の低下を防ぐため、自動フェイルバックを使用する場合は、間欠障害を監視することをお勧めします。

間欠障害監視を使用した場合、「障害監視時間」および「障害発生回数」で、間欠障害と見なす条件を指定できます。障害監視時間のデフォルト値は「30」、障害発生回数のデフォルト値は「3」です。

間欠障害の監視が開始されてから指定した時間（分）が経過するまでの間に、指定した回数の障害が発生した場合に、該当するパスに間欠障害が発生していると見なします。間欠障害が発生していると見なされたパスは、自動フェイルバックの対象外になります。なお、間欠障害の監視は、自動フェイルバックによってパスが障害から回復した時点で開始されます。監視は、パスごとに実施されます。

「障害発生回数」に「2」以上の値を指定した場合、「(3) 自動フェイルバックの設定」に示す条件が満たされている必要があるので、参照してください。

パスが間欠障害と見なされているかどうかは、HDLM コマンドの view オペレーションの実行結果で確認できます。

- set オペレーションでの設定方法
間欠障害監視を設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr set -iem on -intvl 20 -iemnum 2
```

間欠障害を監視する場合は「on」を、監視しない場合は「off」を指定します。「on」を指定した場合、-intv1 パラメタおよび-iemnum パラメタで、間欠障害と見なす条件を指定できます。-intv1 パラメタでは障害監視時間を、-iemnum パラメタでは障害発生回数を指定します。条件の指定を省略すると、30 分以内に 3 回以上障害が発生した場合に間欠障害と見なします。

(5) ダイナミック I/O パスコントロールの設定

I/O 性能の低下を防ぐため、ストレージシステム側で行われるコントローラ切り替えに追従して、HDLM の出力先コントローラを動的に切り替えます。

ダイナミック I/O パスコントロール機能はストレージシステム単位または LU 単位に設定できます。また、ストレージシステム側で行われるコントローラ切り替えを追従するに当たり、切り替え情報を見直しするチェック間隔も設定できます。

ダイナミック I/O パスコントロール機能を設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr set -dpc on -pathid 000001 -lu
dlnkmgr set -dpcintvl 10
```

ダイナミック I/O パスコントロール機能を有効にする場合は「on」を、無効にする場合は「off」を指定します。-pathid パラメタでは LU または、ストレージシステムに接続されているパス ID を指定します。-dpcintvl パラメタでは、ストレージシステム側で行われるコントローラ切り替え情報を見直しチェック間隔を、分単位で指定します。

(6) LU の動的削除の設定

LU の動的削除機能を使用するかどうかを設定します。

LU の動的削除の詳細については、「[4.7.2 LU を動的に削除する](#)」を参照してください。

LU の動的削除の設定値とその説明を次の表に示します。

表 3-15 LU の動的削除の設定値

set オペレーションでの設定値	説明
off	LU に対するすべてのパスで障害が発生した場合、すべてのパスが切断された場合、および LU が削除された場合にも、HDLM の管理対象から LU は削除されません。パスは Offline(E)および Online(E)の状態となります。これは、05-01 以前の HDLM と同等の動作です。 LU の動的削除を使用しないで、05-01 以前の HDLM と同等の機能を使用したい場合は、off を設定することをお勧めします。
on	LU に対するすべてのパスが切断された場合、HDLM の管理対象から LU を削除します。ただし、切断されているパスの中に Offline(C)を含むパスがある場合は、HDLM の管理対象から LU は削除しません。 削除された LU は、物理的な障害を修復して、ディスクの再スキャンをすることで復旧します。
on -force	LU に対するすべてのパスが切断された場合、Offline(C)を含むパスがあるときも、HDLM の管理対象から LU を削除します。 削除された LU は、物理的な障害を修復して、ディスクの再スキャンをすることで復旧します。

- set オペレーションでの設定方法
LU の動的削除を設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr set -rmlu on -force
```


LU の動的削除を使用する場合は、「on」を指定します。LU の動的削除を使用しない場合は、「off」を指定します。「on」を指定した場合、-force パラメタで動的削除の条件を指定できません。

(7) 障害ログ採取レベルの設定

障害ログ (HDLM マネージャのログ (dlmmgr[1-16].log)) を採取するレベルを設定します。

障害ログには、HDLM マネージャのログ (dlmmgr[1-16].log)、HDLM GUI のログ (dlmgui[1-2].log) があります。障害ログ採取レベルの設定値とその説明を次の表に示します。

表 3-16 障害ログ採取レベルの設定値

設定値	説明
0	障害ログを採取しません。
1	Error レベル以上の障害情報を採取します。
2	Warning レベル以上の障害情報を採取します。
3	Information レベル以上の障害情報を採取します。
4	Information レベル (保守情報も含む) 以上の障害情報を採取します。

障害が発生したときは、障害ログ採取レベルに「1」以上を設定してログを採取します。設定値が大きいほど出力される情報量が多くなります。ログの出力量が多いと、古い障害ログファイルが新しい情報で上書きされるまでの時間が短くなります。

- set オペレーションでの設定方法
障害ログ採取レベルを設定する例を、次に示します。

```
dlmkmgr set -ellv 2
```

障害ログを採取するレベルを数字で指定します。

(8) トレースレベルの設定

トレースを出力するレベルを設定します。

トレースレベルを設定できるトレースファイルは、hdlmtr[1-64].log です。

トレースレベルの設定値とその説明を次の表に示します。

表 3-17 トレースレベルの設定値

設定値	説明
0	トレースを出力しません。
1	エラー情報だけ出力します。
2	プログラムの動作概略を出力します。
3	プログラムの動作詳細を出力します。
4	すべての情報を出力します。

障害が発生したときは、トレースレベルに「1」以上を設定してトレース情報を採取します。設定値が大きいほど出力される情報量が多くなります。トレース情報の出力量が多いと、古いトレースファイルが新しい情報で上書きされるまでの時間が短くなります。

通常の運用では、トレースレベルに「0」を設定することを推奨します。必要以上にトレースレベルの設定値を大きくすると、HDLM の処理性能が低下したり、障害の要因分析に必要なトレース情報が上書きされたりするおそれがあります。

- set オペレーションでの設定方法
トレースレベルを設定する例を、次に示します。

```
dlmkmgr set -systflv 1
```

トレースの出力レベルを数字で指定します。

(9) 障害ログファイルサイズの設定

障害ログファイルのサイズを設定します。

ログファイルには、HDLM マネージャのログ (dlmmgr[1-16].log)、HDLM GUI (dlmgui[1-2].log) のログがあります。

障害ログファイルサイズには、キロバイト単位で 100~2000000 の値を指定します。ただし、HDLM GUI のログの場合、ファイルサイズの有効範囲は 100~9900 です。9901 以上を指定した場合は 9900KB になります。HDLM マネージャのログには指定値が反映されます。

各障害ログファイルが設定サイズに達すると、最も古い障害ログファイルから順に新しいログ情報が上書きされます。障害ログファイル数の指定と合わせて、採取できる障害ログの合計サイズの最大値は 32000000KB (約 30GB) です。

- set オペレーションでの設定方法
障害ログファイルサイズを設定する例を、次に示します。

```
dlmkmgr set -elfs 1000
```

障害ログファイルのサイズを、キロバイト単位で指定します。

(10) 障害ログファイル数の設定

障害ログのファイル数を設定します。

障害ログファイルには、HDLM マネージャのログ (dlmmgr[1-16].log)、HDLM GUI のログ (dlmgui[1-2].log) があります。このうち、オプションウィンドウ、set オペレーションでファイル数を設定できるのは、HDLM マネージャのログ (dlmmgr[1-16].log) だけです。HDLM GUI のログ (dlmgui[1-2].log) のログファイル数は、固定で「2」です。障害ログファイル数 (HDLM マネージャのログファイル数) には、2~16 の値を指定します。障害ログファイルサイズの指定と合わせて、採取できる障害ログの合計サイズの最大値は 32000000KB (約 30GB) です。

- set オペレーションでの設定方法
障害ログファイル数を設定する例を、次に示します。

```
dlmkmgr set -elfn 5
```

障害ログファイルの数を数字で指定します。

(11) トレースファイルサイズの設定

トレースファイルのサイズを設定します。

ファイルサイズを設定できるトレースファイルは、hdlmtr[1-64].log です。トレースファイルは固定長です。したがって、書き込まれるトレース情報が設定したファイルサイズに満たない場合でも、出力されるトレースファイル1つ当たりのファイルサイズは常に固定です。

トレースファイルサイズには、キロバイト単位で 100~16000 の値を指定します。設定されている値よりも小さい値を指定した場合、実行を確認する KAPL01097-W のメッセージが表示されてト

トレースファイルはいったん削除されます。すべてのトレースファイルにトレースが書き込まれると、最も古いトレースファイルに新しいトレースが上書きされます。

トレースファイル数の指定と合わせて、採取できるトレースの合計サイズの最大値は 1024000KB です。

- set オペレーションでの設定方法

トレースファイルサイズを設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr set -systfs 2000
```

トレースファイルのサイズをキロバイト単位で指定します。

(12) トレースファイル数の設定

トレースファイルの数を設定します。

ファイル数を設定できるトレースファイルは、hdlmtr[1-64].log です。

トレースファイル数には、2～64 の値を指定します。設定されている値よりも小さい値を指定した場合、実行を確認する KAPL01097-W のメッセージが表示されてトレースファイルはいったん削除されます。

トレースファイルサイズの指定と合わせて、採取できるトレースの合計サイズの最大値は 1024000KB です。

- set オペレーションでの設定方法

トレースファイル数を設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr set -systfn 10
```

トレースファイルの数を数字で指定します。

(13) 監査ログ採取の設定

監査ログを採取するかどうか設定します。

監査ログを採取する場合には、監査ログ採取レベルおよび監査ログ種別を設定します。

監査ログの採取レベルの設定値とその説明を次の表に示します。監査ログ採取レベルは重要度 (Severity) で設定します。デフォルトの設定値は「6」です。

表 3-18 監査ログ採取レベルの設定値

設定値 (重要度)	説明
0	Error レベルの監査ログを採取します。
1	
2	
3	
4	Error, および Warning レベルの監査ログを採取します。
5	
6	Error, Warning, および Information レベルの監査ログを採取します。
7	

監査ログ種別の設定値とその説明を次の表に示します。デフォルトの設定値は「all」です。

表 3-19 監査ログ種別の設定値

設定値	説明
ss	StartStop の監査ログ事象を採取します。
a	Authentication の監査ログ事象を採取します。
ca	ConfigurationAccess の監査ログ事象を採取します。
all	StartStop, Authentication, および ConfigurationAccess の監査ログ事象を採取します。

監査ログ採取を設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr set -audlog on -audlv 6 -category all
```

監査ログを採取する場合は「on」を、採取しない場合は「off」を指定します。「on」を指定した場合、-audlv パラメタで監査ログ採取レベルを、-category パラメタで監査ログ種別を指定できます。

3.7.3 変更後の設定の確認

HDLM コマンドの set オペレーションを使って設定した内容を確認する方法について説明します。

変更後の HDLM の機能設定情報を表示します。実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -sfunc
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version        :
Load Balance                 : on(extended lio)
Support Cluster              : off
Elog Level                   : 2
Elog File Size(KB)           : 1000
Number Of Elog Files         : 5
Trace Level                  : 1
Trace File Size(KB)          : 2000
Number Of Trace Files        : 10
Path Health Checking         : on(10)
Auto Failback                : on(10)
Remove LU                    : on
Intermittent Error Monitor   : on(2/20)
Dynamic I/O Path Control     : off(10)
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

監査ログ採取を設定した場合は、次のコマンドで確認してください。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -audlog
Audit Log                    : on(6)
Audit Log Category           : all
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

3.8 統合トレースの設定

HDLM を使用している場合、HDLM コマンドおよび GUI の動作ログは、Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLlib2) の統合トレース情報ファイル (プログラムのインストール先ドライブ:%Program Files*\HITACHI\HNTRLlib2\spool\hnr2n.log (n はファイルの番号)) に出力されます。

注※

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は, Program Files (x86)となります。

統合トレース情報の出力量が多い場合, 情報が短時間で削除されてしまうことがあります。また, 一度に出力される統合トレース情報が多い場合, 一部がバッファに取り込まれないで, 統合トレースファイルに保存されないことがあります。必要な情報を保存しておくために, Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリの設定を変更して, 統合トレースファイルの容量, およびバッファの容量を増やしてください。増加量はシステムへの負荷を考慮して決めてください。

統合トレースファイルの設定のデフォルト値と推奨値を次の表に示します。

表 3-20 統合トレースファイルの設定のデフォルト値と推奨値

設定		デフォルト値	推奨値
統合トレースファイルのサイズ		256 (KB)	4096 (KB)
統合トレースファイルの数		4	8
監視間隔当たりのバッファサイズ	監視間隔	10 (秒)	5 (秒)
	バッファサイズ	64 (KB)	256 (KB)
監視間隔当たりのメッセージの出力件数	監視間隔	0 (秒)	0 (秒)
	メッセージ出力件数	0 (件)	0 (件)

Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2) がすでにインストールされていた場合, 設定値は引き継がれます。設定を変更する場合は, HDLM 以外のプログラムでの使用状況を考慮して変更してください。また, Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib) がすでにインストールされていた場合は, 設定値は引き継がれません。

次に設定手順を示します。

1. [エクスプローラ] で, 次に示すファイルをダブルクリックします。

```
プログラムのインストール先ドライブ:¥Program Files*¥HITACHI¥HNTRLib2¥bin  
¥hntr2ut12.exe
```

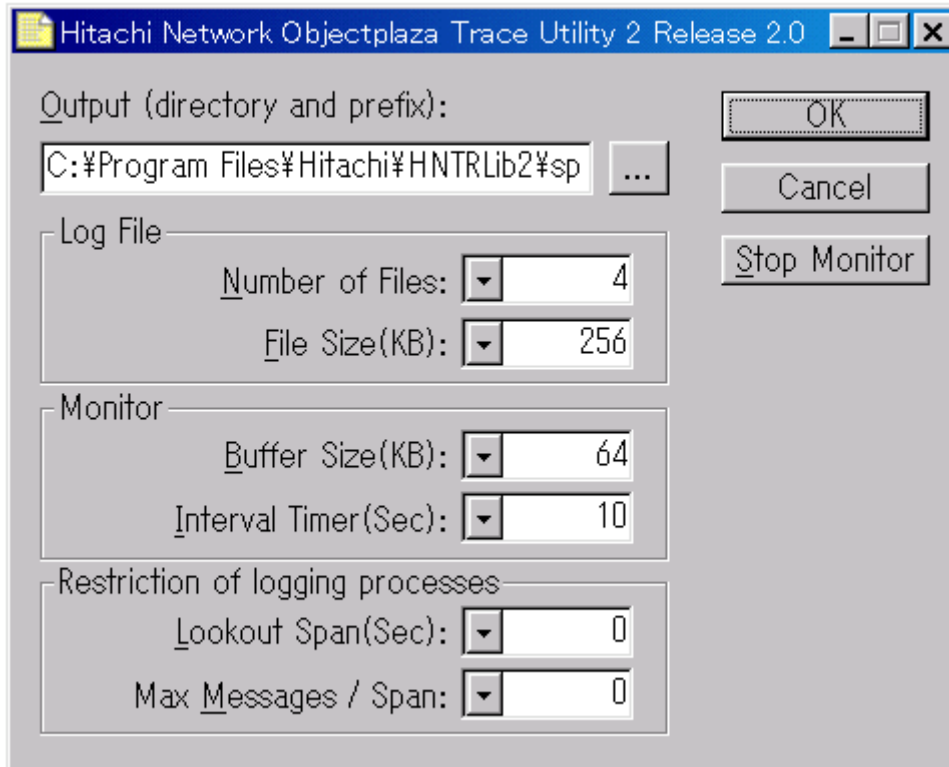
Server Core 環境の場合は, コマンドプロンプトで hntr2ut12.exe を実行してください。

注※

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は, Program Files(x86)となります。

次に示すダイアログボックスが表示されます。

図 3-7 Hitachi Network Objectplaza Trace Utility 2 Release 2.0 ダイアログボックス



2. [Number of Files] で、統合トレースファイルの数を変更します。
デフォルトは 4 です。設定値の範囲は 1～16 です。
ここで設定した値は、プログラムのインストール先ドライブ:¥Program Files¥HITACHI ¥HNTRLib2¥spool¥Hntr2n.log の「n」の部分に反映されます。
3. [File Size(KB)] で、統合トレースファイルのサイズを変更します。
デフォルトは 256 (KB) です。設定値の範囲は 8～8192 です。[Buffer Size(KB)] での設定値以上の値を設定してください。
4. [Buffer Size(KB)] で、バッファサイズを変更します。
監視サイクル当たりのバッファサイズを変更します。
デフォルトは 64 (KB) です。設定値の範囲は 8～2048 です。[File Size(KB)] での設定値以下の値を設定してください。
5. [Interval Timer(Sec)] で、監視サイクルを短くします。
デフォルトは 10 (秒) です。設定値の範囲は 1～300 です。
6. [Lookout Span(Sec)] で、統合トレースファイルに出力されるメッセージの出力件数を監視する時間間隔を指定します。
デフォルトは 0 (秒) です。設定値の範囲は 0～3600 です。
0 を指定した場合、[Max Messages / Span] の設定値は無視され、メッセージの出力件数は調節されません。
7. [Max Messages / Span] で、[Lookout Span(Sec)] で指定した監視間隔で統合トレースファイルに出力するメッセージの最大件数を指定します。
デフォルトは 0 (件) です。設定値の範囲は 0～500 です。
0 を指定した場合、メッセージの出力件数は調節されません。
また、[Lookout Span(Sec)] に 0 を指定した場合、[Max Messages / Span] の設定値は無視され、メッセージの出力件数は調節されません。
8. 設定を変更したら、[OK] ボタンをクリックします。

ダイアログボックスが閉じます。

9. Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリを使用しているすべての日立プログラムプロダクトを終了するか、またはホストを再起動します。
ホストを再起動する場合、手順 10 の操作は不要です。
10. Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリの設定を有効にするために、HDLM マネージャと Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリのサービスを再起動します。
コントロールパネルの [管理ツール] - [サービス] からサービスウィンドウを開きます。
サービスの一覧で [DLMMManager] を選択し、[操作] メニューの [再起動] を選択してサービスを再起動します。
続いて、サービスの一覧で [Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor 2] を選択し、[操作] メニューの [再起動] を選択してサービスを再起動します。

3.9 HDLM の設定解除

HDLM をインストールする前の環境に戻すための作業について説明します。

3.9.1 HDLM をアンインストールする前の準備

- HDLM がインストールされているホストの内容をテープなどにバックアップしてください。また、必要に応じて、HDLM 管理対象のデバイスの内容をテープなどにバックアップしてください。
- firewall_setup コマンドを使用してファイアウォールへの例外を登録している場合は、ファイアウォールへの例外登録を解除します。ただし、HDLM をアンインストールしたあと、ほかの Hitachi Command Suite 製品を使ってそのホストを管理しないことを確認してください。
firewall_setup コマンドの詳細については、「[3.5.9 Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定](#)」の「(1) firewall_setup コマンドについて」を参照してください。

3.9.2 HDLM をアンインストールする場合の注意

HDLM をアンインストールする場合、次の点に注意してください。

- HDLM のアンインストールは、環境に応じて数分から数十分の時間を必要とします。アンインストール時にプログレスバーが表示されている間は、アンインストール処理を中断しないでください。アンインストールに必要な時間の概算を次に示します。

1 秒×接続されていたパス数※

注※

アンインストール時には必ずシングルパス構成にしておく必要がありますが、シングルパス構成に変更する処理時間は、アンインストール時間には反映されません。アンインストール時間は、ユーザ環境で増設できるパスの上限値に依存します。このため、概算にはユーザ環境で増設できるパスの上限値を使用してください。

- 05-50 以降の HDLM のアンインストールは、ほかのアプリケーションが、HDLM の管理対象である LU を使用中でないことを確認したあとに実行してください。
- 05-00 以降の HDLM のアンインストール時に、Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2) もアンインストールされます。ただし、HDLM 以外のプログラムが Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリを使用している場合は、HDLM だけがアンインストールされます。Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2) をアンインストールするときは、各プログラムのマニュアルや添付資料を参照し

て確認して、HDLM 以外のプログラムが使用していない場合にだけアンインストールしてください。HNTRLib2 のアンインストールについては「3.9.4 Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2) のアンインストール」を参照してください。

- 05-00 以降の Device Manager エージェントがインストールされているホストから HDLM をアンインストールする場合、アンインストール中に次に示す Device Manager エージェントのコマンドを実行しないでください。また、次に示す Device Manager エージェントのコマンドを実行中に、HDLM をアンインストールしないでください。

hbsasrv, HiScan, hdvmagt_account, hdvmagt_schedule, hldutil, TIC

- ホストのデータ実行防止 (DEP) 機能が有効になっている場合、次に示す手順を実行してください。
 - [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] を選択します。[システム] をダブルクリックします。
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
 - [詳細設定] タブを選択します。[パフォーマンス] の下にある [設定] ボタンをクリックします。
[パフォーマンス オプション] 画面が表示されます。
 - [データ実行防止] タブを選択します。
 - [java] のチェックボックスのチェックを外します。
 - [OK] ボタンをクリックします。

HDLM GUI で使用する Java 実行環境が、データ実行防止 (DEP) 機能の対象となります。

- ウイルスチェックプログラムなどの常駐型ソフトウェアが動作しているときに HDLM をアンインストールすると、正常に動作しないおそれがあります。HDLM をアンインストールする場合、常駐型ソフトウェアを含むすべてのソフトウェアを停止してから開始してください。
- HDLM アンインストールユーティリティ (removehdlm) を実行する場合、-w パラメタに指定したフォルダ (-w パラメタを指定しなかったときは、環境変数 TMP または TEMP で指定したフォルダ) に、20KB の空き容量が必要です。

3.9.3 HDLM のアンインストール

HDLM をアンインストールしたあと、次に示すファイルが削除されないで残ることがあります。手順に従ってホストを再起動すると削除されます。

HDLM のインストール先フォルダ¥DLMTools¥perfhdlm¥provhdlm.dll

HDLM のインストール先フォルダ¥lib¥libdlm.dll

HDLM のインストール先フォルダ¥lib¥hdlmhcc60.dll

HDLM のインストール先フォルダのデフォルトは Windows のインストール先フォルダ:

¥Program Files¥*¥HITACHI¥DynamicLinkManager です。

注※

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は、Program Files (x86)となります。

HDLM をアンインストールする方法を、次に示します。

(1) クラスタ環境以外の場合

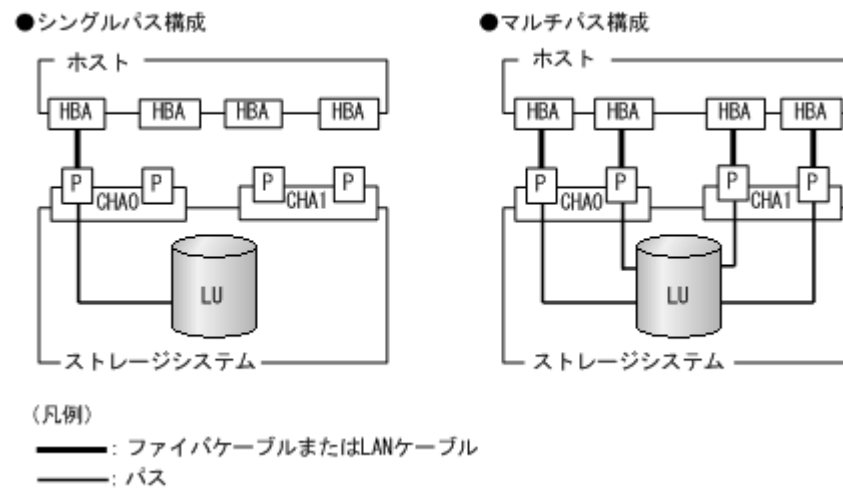
- Windows にログオンします。
Administrators グループのユーザでログオンしてください。

2. HDLM の管理対象パスを使用しているプロセス、およびサービスをすべて停止します。
DBMS などの、各種アプリケーションのプロセスおよびサービスが、HDLM の管理対象パスを使用している場合、それらをすべて停止します。
3. 複数のパスがストレージシステムに接続している場合は、パスを 1 本にしてシングルパス構成にします。

アンインストール後、ホストとストレージシステムが複数のパスで接続されている状態（マルチパス構成）でホストを起動すると、ディスクの内容が不正になるおそれがあります。

シングルパス構成、およびマルチパス構成を次の図に示します。

図 3-8 シングルパス構成およびマルチパス構成



4. アンインストールプログラムを起動します。

Windows Server 2003 の場合

コントロールパネルの [プログラムの追加と削除] を起動し、[プログラムの変更と削除] を選択します。プログラムの一覧から「Dynamic Link Manager」を選択して、[変更と削除] ボタンをクリックします。

Windows Server 2008 (Windows Server 2008 R2 を除く) の場合

コントロールパネルの [プログラムと機能] を起動します。プログラムの一覧から「Dynamic Link Manager」を選択して、[アンインストール] ボタンをクリックします。ただし、Server Core 環境の場合は、「Server Core 環境の場合」を参照してください。

Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2012 の場合

コントロールパネルの [プログラムのアンインストール] を起動します。プログラムの一覧から「Dynamic Link Manager」を選択して、[アンインストール] ボタンをクリックします。ただし、Server Core 環境の場合は、「Server Core 環境の場合」を参照してください。

Server Core 環境の場合

HDLM アンインストールユーティリティ (removehdlm) を実行します。

removehdlm ユティリティは、コマンドプロンプトで実行してください。removehdlm ユティリティについては、「7.8 removehdlm HDLM アンインストールユーティリティ」を参照してください。

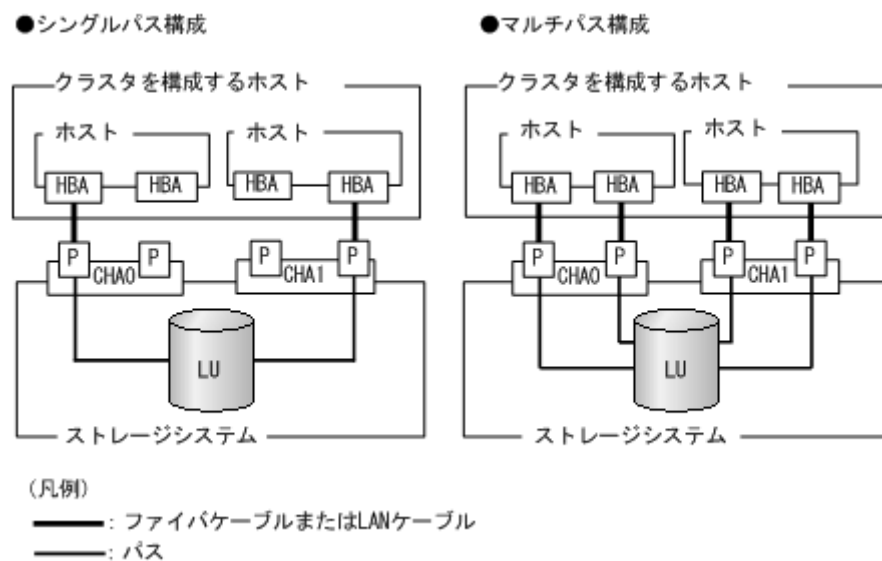
5. HDLM パス状態管理ユーティリティ (dlmchkpath) が自動的に実行されます。警告ダイアログボックスが表示された場合は、次に示す手順に従って対処します。

- アンインストールを中止して、シングルパス構成に変更してから再度アンインストールを実行します。dlmchkpath ユティリティの詳細については、「7.5 dlmchkpath HDLM パス状態確認ユティリティ」を参照してください。
 - 警告ダイアログボックスが表示されない場合は、次の手順に進んでください。
6. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。
KAPL09005-E のメッセージが出力された場合は、「4.5.2 HDLM マネージャの停止」の手順に従って、HDLM マネージャを停止してください。HDLM マネージャを停止したあと、再度アンインストールプログラムを起動してください。
 7. アンインストールが終了すると、再起動するかどうかを問い合わせるダイアログが表示されます。
「はい」をクリックして、ホストを再起動してください。

(2) MSCS または VCS を使用している場合

1. Windows にログオンします。
Administrators グループのユーザでログオンしてください。
2. HDLM の管理対象パスを使用しているプロセス、およびサービスをすべて停止します。
DBMS などの各種アプリケーションのプロセスおよびサービスが HDLM の管理対象パスを使用している場合、それらをすべて停止します。
3. クラスタを構成するすべてのホストで MSCS または VCS を停止します。
次に示す手順は、MSCS の場合です。
[管理ツール] - [サービス] を起動し、サービスの一覧で [Cluster Service] を右クリックします。それから、[操作] メニューの [停止] をクリックしてサービスを停止します。
再起動を求めるメッセージが表示されますが、ここでは [いいえ(N)] を選択してください。
4. 複数のパスがストレージシステムに接続している場合は、パスを 1 本にしてシングルパス構成にします。
アンインストール後、ホストとストレージシステムが複数のパスで接続されている状態（マルチパス構成）でホストを起動すると、ディスクの内容が不正になるおそれがあります。
シングルパス構成、およびマルチパス構成を次の図に示します。

図 3-9 シングルパス構成およびマルチパス構成



5. アンインストールプログラムを起動します。

Windows Server 2003 の場合

コントロールパネルの [プログラムの追加と削除] を起動し、[プログラムの変更と削除] を選択します。プログラムの一覧から「Dynamic Link Manager」を選択して、[変更と削除] ボタンをクリックします。

Windows Server 2008 (Windows Server 2008 R2 を除く) の場合

コントロールパネルの [プログラムと機能] を起動します。プログラムの一覧から「Dynamic Link Manager」を選択して、[アンインストール] ボタンをクリックします。ただし、Server Core 環境の場合は、「Server Core 環境の場合」を参照してください。

Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2012 の場合

コントロールパネルの [プログラムのアンインストール] を起動します。プログラムの一覧から「Dynamic Link Manager」を選択して、[アンインストール] ボタンをクリックします。ただし、Server Core 環境の場合は、「Server Core 環境の場合」を参照してください。

Server Core 環境の場合

HDLM アンインストールユーティリティ (removehdlm) を実行します。

removehdlm ユティリティは、コマンドプロンプトで実行してください。removehdlm ユティリティについては、「[7.8 removehdlm HDLM アンインストールユーティリティ](#)」を参照してください。

6. HDLM パス状態管理ユーティリティ (dlmchkpath) が自動的に実行されます。警告ダイアログボックスが表示された場合は、次に示す手順に従って対処します。
 - アンインストールを中止して、シングルパス構成に変更してから再度アンインストールを実行します。dlmchkpath ユティリティの詳細については、「[7.5 dlmchkpath HDLM パス状態確認ユーティリティ](#)」を参照してください。
 - 警告ダイアログボックスが表示されない場合は、次の手順に進んでください。
7. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。

クラスタを構成するすべてのホストから、HDLM をアンインストールしてください。

KAPL09005-E のメッセージが出力された場合は、「[4.5.2 HDLM マネージャの停止](#)」の手順に従って、HDLM マネージャを停止してください。HDLM マネージャを停止したあと、再度アンインストールプログラムを起動してください。
8. アンインストール終了後、クラスタを構成するすべてのホストの電源を OFF にします。
9. すべてのホストの電源が OFF になっていること、シングルパス構成になっていることを確認します。
10. クラスタを構成するホストを、1 台ずつ起動します。

(3) Oracle RAC を使用している場合

1. Windows に、Administrators グループのユーザでログオンします。
2. HDLM をアンインストールするホストの Oracle RAC インスタンスを停止します。
3. 複数のパスがストレージシステムに接続している場合は、パスを 1 本にしてシングルパス構成にします。

アンインストール後、ホストとストレージシステムが複数のパスで接続されている状態 (マルチパス構成) でホストを起動すると、ディスクの内容が不正になるおそれがあります。

シングルパス構成、およびマルチパス構成については、「[図 3-9 シングルパス構成およびマルチパス構成](#)」を参照してください。
4. アンインストールプログラムを起動します。

コントロールパネルの [プログラムの追加と削除] を起動し、[プログラムの変更と削除] を選択します。プログラムの一覧から「Dynamic Link Manager」を選択して、[変更と削除] ボタンをクリックします。

5. HDLM パス状態管理ユーティリティ (d1mchkpath) が自動的に実行されます。警告ダイアログボックスが表示された場合は、次に示す手順に従って対処します。
 - アンインストールを中止して、シングルパス構成に変更してから再度アンインストールを実行します。d1mchkpath ユティリティの詳細については、「7.5 d1mchkpath HDLM パス状態確認ユーティリティ」を参照してください。
 - 警告ダイアログボックスが表示されない場合は、次の手順に進んでください。
6. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。

KAPL09005-E のメッセージが出力された場合は、「4.5.2 HDLM マネージャの停止」の手順に従って、HDLM マネージャを停止してください。HDLM マネージャを停止したあと、再度アンインストールプログラムを起動してください。
7. アンインストール終了後、ホストを再起動します。
8. ホストの Oracle RAC インスタンスを開始します。
9. 手順 1 から手順 8 までを、クラスタシステムを構成するすべてのホストで実施します。
10. Oracle RAC 10g の 10.1.0.3.0 以降、または Oracle RAC 11g を使用している場合は、投票ディスクの I/O タイムアウトのしきい値である「MISSCOUNT」および「DISKTIMEOUT」を、HDLM をインストールする前の値に戻す必要があります。

「MISSCOUNT」および「DISKTIMEOUT」を設定する方法については、Oracle サポートサービスを契約した会社へお問い合わせください。

3.9.4 Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2) のアンインストール

HDLM のアンインストール時に KAPL09019-E または KAPL09020-E のメッセージが出力された場合は、次に示す手順で HNTRLib2 をアンインストールしてください。

1. Administrators グループのユーザで Windows にログオンします。

HDLM のアンインストール時に KAPL09019-E のメッセージが出力された場合は、手順 2 へ進んでください。

HDLM のアンインストール時に KAPL09020-E のメッセージが出力された場合は、手順 3 へ進んでください。
2. 次に示すコマンド^{※1}を実行して、HNTRLib2 を含むプログラムプロダクトの登録を解除します。

```
"C:¥Program Files¥¥HITACHI¥HNTRLib2¥bin¥hntr2cancel.exe" "JP1/HiCommand Dynamic Link Manager"
```
3. 次に示すコマンド^{※1}を実行して、HNTRLib2 を使用しているプログラムを確認します。

```
"C:¥Program Files¥¥HITACHI¥HNTRLib2¥bin¥hntr2getname.exe"
```

HNTRLib2 を使用しているプログラム名が表示された場合、HDLM 以外のプログラムで HNTRLib2 が使用されています。この場合は HNTRLib2 を削除しないでください。残りの手順は不要です。

HNTRLib2 を使用しているプログラム名が表示されなかった場合は、次の手順に進んでください。
4. 次に示すコマンド^{※1}を実行して、HNTRLib2 をアンインストールします。

```
"C:¥Program Files¥¥HITACHI¥HNTRLib2¥unsetup¥unsetup.exe"
```
5. HNTRLib2 のアンインストールが終了したら、ホストを再起動します。

注※1

Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合は、「管理者：コマンドプロンプト」で実行してください。

注※2

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は, Program Files (x86) となります。

注意事項

- ほかのプログラムが HNTRLib2 を使用している場合, KAPL09026-I のメッセージが出力され, HNTRLib2 はアンインストールされません。
HDLM 以外のプログラムが HNTRLib2 を使用していないのに, アンインストールできない場合は, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
- HNTRLib2 でログの出力先をデフォルト以外に設定していた場合, HNTRLib2 のアンインストール時にログファイルが削除されません。HNTRLib2 をアンインストールしたあとで, ログファイルを削除してください。
- Windows Server 2003(x86)の場合は, HDLM をアンインストールしても HNTRLib2 の共通ライブラリである「hntr2t.dll」ファイルが削除されません。「hntr2t.dll」ファイルがあってもアプリケーションの動作には影響しません。「hntr2t.dll」ファイルを削除する場合は, 次に示す手順に従ってください。
 - a. レジストリエディタ (regedit.exe) を起動して, 次に示すレジストリキーが存在しないことを確認します。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥COMMON_DLL¥HNTRLIB2
上記のレジストリキーがある場合は, 「hntr2t.dll」ファイルを使用しているアプリケーションがあります。その場合は「hntr2t.dll」ファイルを削除しないでください。
 - b. 次に示すレジストリの値に設定されているフォルダを開きます。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥COMMON_DLL¥PathName¥Path00
デフォルトは C:¥Program Files¥Common Files¥Hitachi です。
 - c. 開いたフォルダに「hntr2t.dll」ファイルがあり, かつ「hntr2sys.dll」ファイルと「hntr2tj.dll」ファイルが存在しないことを確認してから, 「hntr2t.dll」ファイルを削除します。

3.9.5 パーシステントリザーブの解除

HDLM をアンインストールしたあと, LU にパーシステントリザーブが残った場合, HDLM パーシステントリザーブ解除ユーティリティ (dlmpr) を使って解除します。ただし, マニュアルに記載された手順に従って HDLM をアンインストールした場合は, LU にパーシステントリザーブは残りません。

パーシステントリザーブを解除する手順については, 「7.3 dlmpr HDLM パーシステントリザーブ解除ユーティリティ」を参照してください。

注意事項

- 次に示す状態で HDLM をアンインストールすると, LU にパーシステントリザーブが残ります。「3.9.3 HDLM のアンインストール」の「(2) MSCS または VCS を使用している場合」に示す手順に従って HDLM をアンインストールしてください。

- ・ MSCS または VCS が稼働状態
- ・ ホストからケーブルを取り外した状態
- このユティリティは、次に示す条件を満たしているとき実行できます。
 - ・ HDLM がアンインストールされている
 - ・ クラスタシステムのサービスおよびドライバが停止している

HDLM の運用

この章では、HDLM の運用方法について説明します。運用方法には、HDLM の操作方法、HDLM マネージャの操作方法および運用環境の構成変更が含まれます。

- 4.1 HDLM を使用する場合の注意事項
- 4.2 HDLM GUI を使用した HDLM の運用
- 4.3 コマンドを使用した HDLM の運用
- 4.4 Windows の管理ツール（パフォーマンス）を使用してパス情報を確認する
- 4.5 HDLM マネージャの起動と停止
- 4.6 HDLM の常駐プロセス
- 4.7 HDLM 運用環境の構成変更

4.1 HDLM を使用する場合の注意事項

運用時の注意事項を説明します。

4.1.1 ストレージ管理プログラム使用時の注意事項

ストレージシステムのベンダ ID およびプロダクト ID を変更しないでください。変更すると、HDLM がストレージシステムを認識できなくなります。

4.1.2 Windows のアップグレード時の注意事項

Windows のアップグレードや再インストール、または Windows Server 2003 の SP をインストールする場合は、あらかじめ HDLM をアンインストールしておいてください。HDLM をインストールしたまま OS のアップグレードや再インストールをした場合、HDLM の動作に関連する OS のデバイスドライバが更新されるため、HDLM が正常にパスを管理できなくなるおそれがあります。

なお、Windows Server 2008 の SP をインストールする場合には、事前の HDLM アンインストールは不要です。

4.1.3 MSCS 環境での注意事項

(1) パスの本数が実際より少なく表示される現象について

パスを表示した場合、パスの本数が実際より少なく表示されることがあります。これは一方のホストが LU を占有するため、ほかのホストから LU 内のデバイス情報を取得できないためです。LU 内のデバイス情報が参照できるようになるとすべてのパスが表示されるようになります。

(2) MSCS 環境で発生するシステムイベントについて

待機系ノードを起動したとき、または待機系ノードでパスが障害から回復したときに、次に示すイベントが発生してシステムイベントログへ出力されますが、運用上の問題はありません。

```
ソース:mpio  
イベント ID:20  
説明:A Path Verification request to a device on ¥Device¥MPIODiskn that is controlled by Hdml Device-Specific Module has failed. This may indicate a Path Failure.
```

このイベントは、MPIO がディスクを初期化するためにディスクを確認したとき、主系ノードが LU を占有して待機系ノードが LU を使用できないと発生します。

4.1.4 Symantec Backup Exec for Windows, Veritas NetBackup の Intelligent Disaster Recovery 機能を使用する場合の注意事項

Symantec Backup Exec for Windows, Veritas NetBackup の Intelligent Disaster Recovery 機能を使用すると、次に示す現象が発生するおそれがあります。

- すべてのパスに障害が発生したあと、一部またはすべてのパスが Windows に認識されると、ディスク番号がホスト起動時から変更されることがあります。この場合、ホストを再起動すると元のディスク番号に戻ります。Symantec Backup Exec for Windows または Veritas NetBackup の Intelligent Disaster Recovery 機能は、ディスク番号を元に戻したあとに使用してください。
- Windows Server 2003 のシステムをリストアすると、エラーメッセージ「STOP:c0000135」を表示してシステムが停止します。その場合は、ホストを再起動してください。また、Windows

Management Instrumentation 情報の復元に失敗するので、HDLM のパフォーマンスモニタが使用できなくなるおそれがあります。その場合は、HDLM を再インストールしてください。

4.1.5 Windows Server 2008 および Windows Server 2012 を使用する場 合の注意事項

Windows Server 2008 および Windows Server 2012 では、ユーザアカウント制御 (UAC) がサポートされています。Windows Server 2008 および Windows Server 2012 で HDLM が提供する機能 (HDLM コマンド、ユティリティおよび HDLM GUI など) は、次のどれかの手段で実行してください。

- Administrator ユーザで HDLM の機能を実行する。
- Administrator ユーザ以外のユーザで HDLM コマンドまたはユティリティを実行する場合は、[管理者 : コマンドプロンプト] で実行する。
- Administrator ユーザ以外のユーザで HDLM GUI または障害情報の取得を実行する場合は、[管理者として実行] で実行する。

上記の方法以外で HDLM の機能を実行すると、管理者権限を確認するダイアログボックスが表示されます。適宜ダイアログボックスに応答してから、HDLM の機能を実行してください。

4.2 HDLM GUI を使用した HDLM の運用

この章では、HDLM GUI のウィンドウを操作する手順について説明します。各ウィンドウに表示される項目については、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。

4.2.1 HDLM GUI を使用する場合の注意事項

ここでは、HDLM GUI のウィンドウを使用する場合の注意事項を説明します。必ずお読みください。

- HDLM GUI は、画面解像度を XGA で起動したマシン上で起動してください。画面解像度を VGA で起動したマシン上では、HDLM GUI を起動できません。
- 画面の表示色の設定は、フルカラーにしてください。表示色の設定を 256 色にしている場合は、HDLM GUI を起動したときに HDLM GUI の表示色の色合を正しく再現できません。
- Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の Server Core 環境に HDLM をインストールした場合は、HDLM GUI を使用できません。
- 05-80 より前の HDLM を使用していたときに複製した HDLM GUI のショートカットは使用できません。新たに HDLM GUI のショートカットを再作成してください。

4.2.2 GUI ヘルプを参照する

ここでは、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照する手順について説明します。

1. Windows にログオンします。
Administrators グループのユーザでログオンしてください。
2. [スタート] - [プログラム] - [Dynamic Link Manager] - [HDLM GUI] を選択します。
パス管理ウィンドウのパスリストビューが表示されます。

Windows Server 2008 または Windows Server 2012 で Administrator 以外のユーザでログオンした場合は、「管理者として実行」で実行してください。

3. [ヘルプ] ボタンをクリックします。

ヘルプウィンドウ (Web ブラウザ) が起動し、ヘルプウィンドウに「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」が表示されます。

4.3 コマンドを使用した HDLM の運用

この節では、HDLM コマンドで、HDLM の機能を使用する手順について説明します。各コマンドについては、「6. コマンドリファレンス」を参照してください。

4.3.1 コマンドを使用する場合の注意事項

- Administrators グループのユーザで、HDLM コマンドを実行してください。
なお、Windows Server 2008 および Windows Server 2012 では、ユーザアカウント制御 (UAC) がサポートされています。このため、HDLM コマンドは、次のどちらかの手段で実行してください。
 - Administrator ユーザで HDLM コマンドを実行する。
 - Administrator ユーザ以外で HDLM コマンドを実行する場合は、「管理者: コマンドプロンプト」で実行する。

上記以外の方法で HDLM コマンドを実行すると、管理者権限を要求されることがあります。管理者権限を要求された場合、ダイアログボックスが表示されますので、これに回答してください。

- パラメタで指定する値にスペースが含まれる場合には、値全体を「"」(引用符) で囲ってください。
- ダイナミックディスクへの I/O の負荷が高いときに view オペレーションを実行すると、応答に時間が掛かることがあります。

4.3.2 パスの情報を参照する

HDLM コマンドでパスの情報を参照する手順について説明します。

パスの情報を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに `-path` パラメタを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr view -path
```

指定したホストデバイスにアクセスするパスの情報だけを参照する場合は、HDLM コマンドの view オペレーションに `-path -hdev` パラメタを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr view -path -hdev f
Paths:000002 OnlinePaths:000002
PathStatus IO-Count IO-Errors
Online      1486      0

PathID PathName                               DskName          iLU  ChaPort
Status Type IO-Count IO-Errors DNum HDevName
000000 0004.0001.0000000000000000.0001 HITACHI .DF600F .0051 0005 0A
Online Own      1427      0 0 F
000003 0005.0001.0000000000000007A.0001 HITACHI .DF600F .0051 0005 1A
Online Non      59      0 0 F
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

表示される項目と説明については、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

4.3.3 パスの状態を変更する

パスの状態を変更する手順について、次に説明します。

(1) パスの状態を Online 状態にする場合

1. 現在のパスの状態を確認します。

パスを HBA ポート単位, CHA ポート単位, パス単位, または HBA ポート WWN 単位で Online 状態にする場合は、パス名またはパス管理 PATH_ID を確認してください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr view -path
```

2. パスの状態を Online 状態にするには、HDLM コマンドの online オペレーションを実行します。

Online 状態にするパスは、HBA ポート単位, CHA ポート単位, パス単位, または HBA ポート WWN 単位で指定できます。パスの指定については、「6.5 online パスを稼働状態にする」を参照してください。

例えば、特定の HBA ポートを通るすべてのパスを Online 状態にする場合は、HDLM コマンドの online オペレーションに -hba パラメータを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr online -hba 1.1
KAPL01057-I 指定された HBA を通る全てのパスを Online にします。よろしいですか?
[y/n] :y
KAPL01061-I 3本のパスを Online にしました。失敗したパス = 0本。オペレーション名
= online
PROMPT>
```

3. 変更したパスの状態を確認します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr view -path
```

(2) パスの状態を Offline(C)状態にする場合

1. 現在のパスの状態を確認します。

パスを HBA ポート単位, CHA ポート単位, パス単位, または HBA ポート WWN 単位で Offline(C)状態にする場合は、パス名またはパス管理 PATH_ID を確認してください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr view -path
```

2. パスの状態を Offline(C)状態にするには、HDLM コマンドの offline オペレーションを実行します。

Offline(C)状態にするパスは、HBA ポート単位、CHA ポート単位、パス単位、または HBA ポート WWN 単位で指定できます。パスの指定については、「6.4 offline パスを閉塞状態にする」を参照してください。

例えば、特定の HBA ポートを通るすべてのパスを Offline(C)状態にする場合は、HDLM コマンドの offline オペレーションに -hba パラメタを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr offline -hba 1.1
KAPL01055-I 指定された HBA を通る全てのパスを Offline (C)にします。よろしいですか? [y/n] :y
KAPL01056-I 指定された HBA を通る全てのパスが Offline (C)になってもよい場合は y を入力してください。そうでない場合は n を入力してください。 [y/n] :y
KAPL01061-I 3 本のパスを Offline (C)にしました。失敗したパス = 0 本。オペレーション名 = offline
PROMPT>
```

3. 変更したパスの状態を確認します。
コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr view -path
```

4.3.4 LU の情報を参照する

HDLM コマンドで LU の情報を参照する手順について説明します。

LU の情報を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに -lu パラメタを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr view -lu
Product      : 9500V
SerialNumber  : 3679
LUs          : 3

iLU  HDevName PathID Status
0110 G          000002 Online
      000008 Online
0111 F          000001 Online
      000007 Online
0112 E          000000 Online
      000006 Online

Product      : 9970/9980
SerialNumber  : 15001
LUs          : 3

iLU  HDevName PathID Status
0580 J          000005 Online
      000011 Online
0585 I          000004 Online
      000010 Online
058A H          000003 Online
      000009 Online
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyymm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

表示される項目と説明については、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

4.3.5 パスの統計情報を初期値にする

HDLM が管理するすべてのパスについて、統計情報 (I/O 回数, および I/O 障害回数) の値を初期値 (0) にする手順について説明します。

この手順は、I/O 回数や I/O 障害回数を初期値 (0) にした時点から、I/O や I/O 障害が何回発生するかを調査したい場合に役立ちます。

1. 現在のパスの状態を確認します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr view -path
```

2. HDLM が管理する、すべてのパスの統計情報 (I/O 回数, I/O 障害回数) の値を初期値にするには、HDLM コマンドの clear オペレーションに -pdst パラメータを指定して実行します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr clear -pdst
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = clear。よろしいですか? [y/n] : y
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = clear, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

3. パスの統計情報が初期値になったかどうかを確認します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr view -path
```

4.3.6 動作環境を参照または設定する

HDLM の動作環境を参照、または設定する手順について説明します。

(1) 動作環境を参照する

動作環境を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに -sys -sfunc パラメータを指定して実行します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -sfunc
HDLM Version : x.x.x-xx
Service Pack Version :
Load Balance : on(extended lio)
Support Cluster : off
Elog Level : 3
Elog File Size(KB) : 9900
Number Of Elog Files : 2
Trace Level : 0
Trace File Size(KB) : 1000
Number Of Trace Files : 4
Path Health Checking : on(30)
Auto Failback : off
Remove LU : on
Intermittent Error Monitor : off
Dynamic I/O Path Control : off(10)
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

監査ログの動作環境を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに `-sys -audlog` パラメタを指定して実行します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -audlog
Audit Log                : off
Audit Log Category      : -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

表示される項目と説明については、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

(2) 動作環境を設定する

HDLM の動作環境を設定するには、HDLM コマンドの set オペレーションを実行します。HDLM コマンドの set オペレーションで次の機能を設定できます。

- ロードバランス機能
- パスヘルスチェック機能
- 自動フェイルバック機能
- 間欠障害監視機能
- ダイナミック I/O パスコントロール機能
- LU の動的削除機能
- 障害ログ採取レベル
- トレースレベル
- 障害ログファイルサイズ
- 障害ログファイル数
- トレースファイルサイズ
- トレースファイル数
- 監査ログ採取
- ロードバランスの同一パス使用回数
- 拡張ロードバランスの同一パス使用回数

各機能の設定については、「[6.6 set 動作環境を設定する](#)」を参照してください。

例えば、障害ログ採取レベルを設定する場合は、HDLM コマンドの set オペレーションに `-ellv` パラメタを指定して実行します。確認メッセージに対して、コマンドを実行する場合は「y」を、実行しない場合は「n」を入力してください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr set -ellv 1
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set. よろしいですか?
[y/n] : y
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = set, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

設定した内容が反映されているかどうか確認するには、「[\(1\) 動作環境を参照する](#)」の手順を実行してください。

4.3.7 ライセンス情報を参照する

ライセンス情報を参照する手順について説明します。

ライセンス情報を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに `-sys -lic` パラメタを指定して実行します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -lic
License Type Expiration
Permanent      -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

表示される項目と説明については、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

4.3.8 ライセンスを更新する

ライセンスを更新する手順について説明します。

ライセンスを更新するには、HDLM コマンドの set オペレーションに `-lic` パラメタを指定して実行します。確認メッセージに対して、コマンドを実行する場合は「y」を、実行しない場合は「n」を入力してください。ライセンスキーファイルがない場合は、ライセンスキーの入力を求めるメッセージが表示されます。ライセンスキーの入力を求めるメッセージに対して、ライセンスキーを入力してください。

注意事項

HDLM コマンドの set オペレーションに `-lic` パラメタを指定してライセンスのインストールを実行する場合は、必ず単独で実行してください。HDLM コマンドの set オペレーションに `-lic` パラメタを含む HDLM コマンドを複数同時に実行しないでください。複数同時に実行した場合、次のメッセージを出力して HDLM が異常終了することがあります。

```
KAPL01075-E HDLM 内で重大エラーが発生しました。システム環境が不正です。
```

このメッセージが出力された場合は、HDLM コマンドの view オペレーションに `-sys -lic` パラメタを指定して実行し、ライセンスが正しくインストールされているかを確認してください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr set -lic
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。よろしいですか? [y/n] : y
KAPL01071-I 永久ライセンスがインストールされました。
PROMPT>
```

4.3.9 HDLM のバージョン情報を参照する

HDLM のバージョン情報を参照する手順について、次に説明します。

HDLM のバージョン情報を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに `-sys` パラメタを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys
HDLM Version           : x.x.x-xx
Service Pack Version   :
Load Balance           : on(extended lio)
Support Cluster        : off
Elog Level             : 3
```

```

Elog File Size (KB)          : 9900
Number Of Elog Files        : 2
Trace Level                 : 0
Trace File Size (KB)       : 1000
Number Of Trace Files      : 4
Path Health Checking       : on (30)
Auto Failback              : off
Remove LU                  : on
Intermittent Error Monitor : off
Dynamic I/O Path Control   : off (10)
HDLM Manager Ver           WakeupTime
Alive      x.x.x-xx        yyyy/mm/dd  hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver     WakeupTime           ElogMem Size
Alive      x.x.x-xx        yyyy/mm/dd  hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver          WakeupTime
Alive      x.x.x-xx        yyyy/mm/dd  hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent                -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd  hh:mm:ss
PROMPT>

```

「HDLM Version」に表示されているバージョンが HDLM のバージョンです。

4.3.10 HDLM のコンポーネント情報を参照する

HDLM のコンポーネント情報を参照する手順について、次に説明します。

HDLM のコンポーネント情報を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに `-sys` パラメタを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```

PROMPT>dlnkmgr view -sys
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version       :
Load Balance               : on (extended lio)
Support Cluster            : off
Elog Level                 : 3
Elog File Size (KB)       : 9900
Number Of Elog Files      : 2
Trace Level                : 0
Trace File Size (KB)     : 1000
Number Of Trace Files     : 4
Path Health Checking      : on (30)
Auto Failback             : off
Remove LU                 : on
Intermittent Error Monitor : off
Dynamic I/O Path Control   : off (10)
HDLM Manager Ver           WakeupTime
Alive      x.x.x-xx        yyyy/mm/dd  hh:mm:ss
HDLM Alert Driver Ver     WakeupTime           ElogMem Size
Alive      x.x.x-xx        yyyy/mm/dd  hh:mm:ss 128
HDLM Driver Ver          WakeupTime
Alive      x.x.x-xx        yyyy/mm/dd  hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent                -
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd  hh:mm:ss
PROMPT>

```

表示される項目のうち、「HDLM Manager」、「HDLM Alert Driver」、および「HDLM Driver」が HDLM のコンポーネント情報です。

また、HDLM のコンポーネントごとに情報を参照できます。HDLM コマンドの view オペレーションに `-sys` パラメタと後続パラメタを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```

dlnkmgr view -sys -msrv
dlnkmgr view -sys -adrv
dlnkmgr view -sys -pdrv

```


4.4 Windows の管理ツール（パフォーマンス）を使用してパス情報を確認する

HDLM パフォーマンスモニタは、Windows の管理ツールの「パフォーマンス」を使用して、パス情報を表示します。

注意事項

- Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は、Windows の管理ツールを使ってパス情報を確認する機能をサポートしていません。
- HDLM パフォーマンスモニタでエラーが発生した場合は、エラーが発生したあとのパフォーマンス情報は取得されません。パフォーマンス情報の取得を再開するには、ホストを再起動してください。

HDLM で提供しているカウンタを追加する手順を、次に示します。

- [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] を選択します。[管理ツール] をダブルクリックします。[パフォーマンス] をダブルクリックします。

管理コンソール画面が表示されます。

- システム モニタの詳細表示ウィンドウ領域を右クリックし、[カウンタの追加] を選択します。

カウンタの追加画面が表示されます。

- パフォーマンスオブジェクト、カウンタ、およびインスタンスを選択します。

[パフォーマンスオブジェクト] は「HDLM」を選択します。

画面左下にあるリストボックスから、監視するカウンタを選択します。すべてのカウンタを監視するには、「すべてのカウンタ」をクリックします。選択できるカウンタを、「表 4-1 カウンタの一覧」に示します。

画面右下にあるリストボックスから、監視するインスタンスを選択します。すべてのインスタンスと合計値を監視するには、「すべてのインスタンス」をクリックします。リストボックスに表示されるインスタンスの選択項目について、「表 4-2 インスタンスの選択項目」に説明します。

- [追加] ボタンをクリックします。

パス情報の監視を開始します。

表 4-1 カウンタの一覧

カウンタ名称	説明
Avg.Disk Bytes/Transfer	1 回の操作中にディスク間で転送されたバイト数の平均値です。
Avg.Disk Bytes/Read	1 回の操作中にディスクから転送されたバイト数の平均値です。
Avg.Disk Bytes/Write	1 回の操作中にディスクに転送されたバイト数の平均値です。
Disk Bytes/Sec	書き込みまたは読み取り操作中にディスク間で 1 秒間に転送されるデータ量です。
Disk Read Bytes/Sec	読み取り操作中にディスクから 1 秒間に転送されるデータ量です。
Disk Write Bytes/Sec	書き込み操作中にディスクから 1 秒間に転送されるデータ量です。

表 4-2 インスタンスの選択項目

選択項目※	説明
_Total	選択すると、各インスタンスの合計値を表示します。
パス ID ディスク番号 ドライブレター	選択すると、選択したパスのインスタンスを表示します。パスごとに次の値を表示します。パス ID で昇順にソートした順序で表示されます。

選択項目※	説明
	<ul style="list-style-type: none"> パス ID パス管理 PATH_ID を表示します。HDLM コマンドの view -path オペレーションを実行したときに表示される PathID と同じ値です。 ディスク番号 Windows の「ディスクの管理」画面で表示される、ディスクのディスク番号を表示します。ディスク番号の取得に失敗した場合は「-」が表示されます。 ドライブレター Windows のドライブレターを表示します。HDLM コマンドの view -path オペレーションを実行したときに表示される HDevName と同じ値です。ダイナミックディスクを使用している場合、またはドライブレターが割り当てられていない場合は、「-」が表示されます。

注※

HDLM が管理する LU が存在しない場合、「<No Instances>」と表示されます。

4.5 HDLM マネージャの起動と停止

HDLM のプログラムに障害が発生した場合などに、HDLM マネージャを手動で起動、または停止して対処することがあります。

4.5.1 HDLM マネージャの起動

HDLM マネージャは、インストール時に Windows のサービスとして登録され、スタートアップの種類が [自動] に設定されます。このため、Windows を起動すると HDLM マネージャが自動的に起動されます。

HDLM マネージャが停止している場合には、次の操作によって起動できます。

Administrators グループのユーザでログオンし、コントロールパネルの [管理ツール] から [サービス] を起動します。Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合は、Administrator ユーザでログオンし、コントロールパネルの [管理ツール] から [サービス] を起動します。サービスの一覧で「DLManager」をダブルクリックして、[開始] ボタンをクリックします。

HDLM マネージャが起動しているかどうかは、次に示す HDLM コマンドの view オペレーションで確認してください。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -msrv
HDLM Manager Ver          WakeupTime
Alive      x.x.x-xx      yyyy/mm/dd  hh:mm:ss
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd  hh:mm:ss
PROMPT>
```

「HDLM Manager」が「Alive」であれば、マネージャが起動しています。

4.5.2 HDLM マネージャの停止

HDLM をアンインストールする場合や、HDLM がすでにインストールされている状態でアップグレードまたは再インストールする場合、HDLM マネージャは自動的に停止されます。

HDLM マネージャが自動的に停止されない場合は、次の操作によって停止できます。

Administrators グループのユーザでログオンし、コントロールパネルの [管理ツール] から [サービス] を起動します。Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合は、Administrator ユーザでログオンし、コントロールパネルの [管理ツール] から [サービス] を起動します。サービスの一覧で「DLMManager」をダブルクリックして、[停止] ボタンをクリックします。

HDLM マネージャが停止しているかどうかは、次に示す HDLM コマンドの view オペレーションを実行して確認してください。

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -msrv
HDLM Manager Ver      WakeupTime
Dead
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

「HDLM Manager」が「Dead」であれば、マネージャが停止しています。

4.6 HDLM の常駐プロセス

HDLM の常駐プロセスを次の表に示します。システムの運用で HDLM のプロセスを監視する必要がある場合は、次のプロセスを指定してください。

表 4-3 HDLM の常駐プロセス一覧

プロセス名	サービス名	説明
dlnmgr.exe	DLMManager	HDLM マネージャのプロセス
hbsa_service.exe	HBsA Service	Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントのプロセス※
hntr2mon.exe hntr2srv.exe	Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor 2	Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2) のプロセス

注※

HDLM と Global Link Manager を連携させない場合は、このプロセスを監視する必要はありません。

HDLM Core コンポーネントだけをインストールした場合、このプロセスは存在しません。

4.7 HDLM 運用環境の構成変更

この節では、LU およびパスの構成変更について説明します。

Windows のプラグアンドプレイ機能を使用して、HDLM がインストールされているホストの稼働中に LU およびパスを追加したり、削除したりできます。これを動的再構成と呼びます。

4.7.1 追加した LU およびパスを HDLM の管理対象にする

追加した LU およびパスを HDLM の管理対象にする手順を説明します。

この追加した LU を HDLM の管理対象にする手順は、ストレージの増設に伴う LU 追加および既設のストレージに対する LU 追加のどちらの場合でも同じになります。

LU を新規に追加する場合、HDLM が正常に新規 LU を認識できたかどうかを確認するまでは、シングルパス構成のままにしてください。

追加した LU に対しては、署名の書き込み、パーティションの作成、およびフォーマットを行ってください。

(1) 追加した LU を HDLM の管理対象にする

MSCS を使用していない場合

- LU を追加します。
使用するストレージシステムによっては、ストレージシステムの再起動が必要です。各ストレージシステムのマニュアルに従って作業してください。
- [ディスクの管理] を起動します。
- LU がディスク管理の画面に表示されていない場合は、次に示す手順を実行すると LU が管理対象のデバイスとして追加されます。
 - Windows の「デバイスマネージャ」画面で [ディスクドライブ] を選択して、[ハードウェア変更のスキャン] を実行してください。
 - Windows の「ディスクの管理」画面で [ディスクの再スキャン] を実行してください。
- dlnkmgr view -path コマンド、または HDLM GUI で、PathID が追加されていることを確認します。

LU の追加をコマンドで確認する例を次に示します。HDLM GUI については、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。

図 4-1 LU の追加をコマンドで確認する例

LUの追加前

```

/PROGRAM>dlnkgr view -path
Paths:000002 OnlinePaths:000002
PathStatus IO-Count IO-Errors
Online 1486 0

PathID PathName DskName iLU ChaPort Status Type IO-Count IO-Errors DNum HDevName
000000 0004.0001.0000000000000000.0001 HITACHI .DF600F .0051 0010 0A Online Own 1427 0 0 F
000001 0005.0001.0000000000000007A.0001 HITACHI .DF600F .0051 0011 1A Online Non 59 0 0 D
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
/PROGRAM>

```

LUの追加後

```

/PROGRAM>dlnkgr view -path
Paths:000003 OnlinePaths:000003
PathStatus IO-Count IO-Errors
Online 1609 0

PathID PathName DskName iLU ChaPort Status Type IO-Count IO-Errors DNum HDevName
000000 0004.0001.0000000000000000.0001 HITACHI .DF600F .0051 0010 0A Online Own 1427 0 0 F
000001 0005.0001.0000000000000007A.0001 HITACHI .DF600F .0051 0011 1A Online Non 59 0 0 D
000002 0006.0001.0000000000000007A.0001 HITACHI .DF600F .0051 0020 1A Online Non 123 0 0 -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
/PROGRAM>

```

↑
追加されたLUの情報

- 新規 LU に対して、署名の書き込み、パーティションの作成、およびフォーマットを行います。

注意事項

PathID は、番号の小さい順に、空いている番号に追加されます。このため、いったんパスを削除して、もう一度追加したときは、削除する前の PathID と異なる番号になることがあります（以前の番号に戻るとは限りません）。

MSCS を使用している場合

1. LU を追加します。
2. ノード B を停止します。
3. ノード A で「MSCS を使用していない場合」に示す手順を実行します。
4. ノード A を停止してから、ノード B を起動します。
5. ノード B で「MSCS を使用していない場合」に示す手順を実行します。
パーティションを作成するとき、手順 3. でノード A に割り当てたドライブレターと同じドライブレターを割り当ててください。
6. ノード B を停止してから、ノード A を起動します。
7. ノード A で新規 LU を MSCS に登録、設定します。
8. ノード B を起動します。

(2) 追加したパスを確認する

HDLM がインストールされているホストの稼働中に、既存の LU に対してケーブルを新たに増設するなどによってパスを追加できます。

パスを追加しただけで、LU の追加がない場合は、ディスクの管理上の表示は変わりません。

追加したパスは、HDLM コマンドの view オペレーション、または HDLM GUI で確認できます。パスの追加をコマンドで確認する例を次に示します。HDLM GUI でパスの追加を確認する例については、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。

図 4-2 パスの追加をコマンドで確認する例

パスの追加前

```
FROMP>dlmgr view -path
Paths:000002 OnlinePaths:000002
PathStatus IO-Count IO-Errors
Online 1486 0

PathID PathName DskName iLU ChaPort Status Type IO-Count IO-Errors DNum HDevName
000000 0004.0001.0000000000000000.0001 HITACHI_DF600F_0051 0010 1A Online Own 1427 0 0 F
000001 0005.0001.000000000000007A.0001 HITACHI_DF600F_0051 0011 1A Online Non 59 0 0 D
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
FROMP>
```

パスの追加後

```
FROMP>dlmgr view -path
Paths:000003 OnlinePaths:000003
PathStatus IO-Count IO-Errors
Online 1609 0

PathID PathName DskName iLU ChaPort Status Type IO-Count IO-Errors DNum HDevName
000000 0004.0001.0000000000000000.0001 HITACHI_DF600F_0051 0010 1A Online Own 1427 0 0 F
000001 0005.0001.000000000000007A.0001 HITACHI_DF600F_0051 0011 1A Online Non 59 0 0 D
000002 0006.0001.000000000000007A.0001 HITACHI_DF600F_0051 0010 0A Online Non 123 0 0 F
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
FROMP>
```

追加されたパスの情報

注意事項

- PathID は、番号の小さい順に、空いている番号に追加されます。このため、いったんパスを削除して、もう一度追加したときは、削除する前の PathID と異なる番号になることがあります（以前の番号に戻るとは限りません）。
- Windows に一度も認識されていないパスを、はじめて LU に追加した場合、次に示すメッセージが出力されることがあります。

- KAPL08019-E および KAPL08022-E
- KAPL05301-E

これは、Windows の動作による現象で、障害ではありません。

4.7.2 LU を動的に削除する

LU の動的削除とは、LU に接続されているすべてのパスが切断された場合に、HDLM の管理対象から LU を自動的に削除する機能です。

LU の動的削除は、HDLM コマンドの `set` オペレーションで `-rmlu on` パラメタを指定することで設定できます。または、HDLM GUI のオプションウィンドウで設定できます。`set` オペレーションについては、「3.7.2 機能の設定」を参照してください。オプションウィンドウについては、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。

(1) LU が動的に削除される条件

LU に接続されていたすべてのパスが切断された場合に、LU が削除されます。「すべてのパスが切断された場合」とは、HLU が削除された状態のことです。

HDLM コマンドの `set` オペレーションで LU の動的削除を使用する場合、設定値によって次に示す違いがあります。

- `-rmlu on` パラメタを指定した場合は、切断されているパスの中に **Offline(C)**を含むパスがあるとき、HDLM の管理対象から LU を削除しません。
- `-rmlu on -force` パラメタを指定した場合は、切断されているパスの中に **Offline(C)**を含むパスがあるときも、HDLM の管理対象から LU を削除します。

(2) LU またはパスが動的に削除されていることを確認する

LU の動的削除によって LU またはパスが削除されていることを確認するための操作を、ユーザが意識的に LU またはパスを削除したときと、すべてのパスが切断されたために LU またはパスが削除されるときとに分けて説明します。

ユーザが意識的に LU またはパスを削除したとき

LU またはパスが正しく削除されていることを、ディスクアドミニストレータ、および HDLM コマンドまたは HDLM GUI で確認します。

パスの切断によって LU またはパスが削除されたとき

パスの切断によって LU またはパスが削除されると、HDLM は、KAPL05301-E のメッセージをイベントログに出力します。

注意事項

LU の動的削除機能を使用して HDLM の管理対象から LU が削除された場合、イベントログへ KAPL08022-E メッセージが出力されないことがあります。HDLM の管理対象から LU が削除された場合は、KAPL05301-E メッセージの内容でパスの情報を確認してください。

KAPL05301-E の表示例を次に示します。

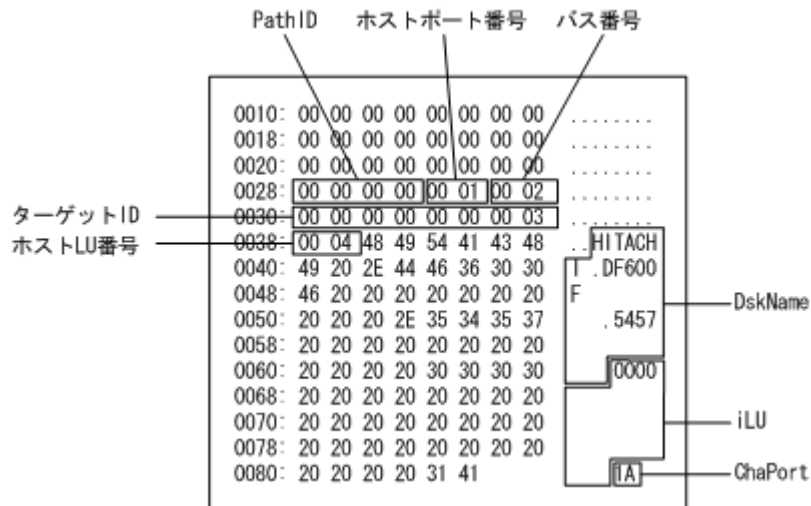
図 4-3 KAPL05301-E の表示例



イベントビューアのデータには削除されたバスの情報が「PathID PathName DskName iLU ChaPort」の形式で表示されます。

KAPL05301-E メッセージに出力されるデータの例を次に示します。

図 4-4 KAPL05301-E メッセージに出力されるデータの例



KAPL05301-E メッセージに表示されるバス情報の項目とその説明を次の表に示します。

表 4-4 KAPL05301-E メッセージに表示されるバス情報の項目と説明

項目	説明
PathID	バス管理 PATH_ID です。

項目	説明
ホストポート番号	パス名 (PathName) を構成する項目です。
バス番号	
ターゲット ID	
ホスト LU 番号	
DskName	ストレージシステム名です。ストレージシステム名は、ベンダ ID、プロダクト ID、およびシリアル番号が、ピリオドで区切った文字列で表示されます。
iLU	ストレージシステム内の LU 番号が、16 進数で表示されます。
ChaPort	CHA ポート番号です。

パス情報の内容から、どの LU が削除されたのかを明確にし、パス障害に対処してください。パス障害への対処方法については「[5.3 パス障害時の対処](#)」を参照してください。

(3) 削除された LU またはパスを復旧する

削除された LU は、物理的な障害を修復してから次に示すことを実行すると、復旧します。パス障害の場合は、パス障害の原因を取り除いたあとに次に示すことを実行すると、復旧します。ただし、次に示すことを実行しなくても自動的に復旧する場合があります。

- Windows の「デバイスマネージャ」画面で [ディスクドライブ] を選択して、[ハードウェア変更のスキャン] を実行。
- Windows の「ディスクの管理」画面で [ディスクの再スキャン] を実行。

トラブルシューティング

この章では、まず HDLM の障害情報を確認する方法について説明します。そのあとで、HDLM に障害が発生した場合の対処方法について説明します。対処方法は、パスの障害、HDLM のプログラムの障害、およびこれら以外が原因の障害の場合に分けて説明します。障害情報の確認および対処方法は、HDLM コマンドを使用した方法で説明しています。HDLM GUI を使用した方法については、「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照してください。

- 5.1 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を使った障害情報の収集
- 5.2 メッセージでの障害情報の確認
- 5.3 パス障害時の対処
- 5.4 プログラム障害時の対処
- 5.5 パスやプログラム以外の障害時の対処

5.1 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を使った障害情報の収集

エラーが発生した場合、直ちに DLMgetras ユティリティを実行して障害情報を収集してください。DLMgetras ユティリティの実行前にマシンを再起動すると、障害情報が削除されてしまい、情報を収集できなくなるおそれがあります。

DLMgetras ユティリティで収集できる障害情報、および DLMgetras ユティリティについては、「7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ」を参照してください。

5.2 メッセージでの障害情報の確認

パスの障害は、イベントログに出力される KAPL08xxx のメッセージから確認できます。

パスについての詳細な情報を得たい場合は、メッセージの情報を基に view オペレーションの実行結果を確認してください。

view オペレーションについては、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

次にメッセージの例を示します。

- パスに障害が発生したときに出力されるメッセージ

```
KAPL08022-E パスの異常が発生しました。ErrorCode = aa....aa, PathID = bb...bb, PathName = cc...cc.dd...dd.ee...ee.ff...ff, DNum = gg...gg, HDevName = hh...hh
```

```
KAPL08019-E パス (aa....aa) が障害 (bb...bb) を検知しました。(cc...cc)
```

- LU に対する Online 状態のパスがなくなったときに出力されるメッセージ

```
KAPL08026-E LU への全てのパスで障害が発生しています。PathID =aa...aa
```

- LU の動的削除機能を使用している場合に、LU に対する Online 状態のパスがなくなったときに出力されるメッセージ

```
KAPL05301-E パスを削除しました。削除されたパスに対応するホストストレージシステム間のパス接続状態を確認してください。パス接続状態に問題が無い場合、DLMgetras ユティリティを実行して、障害情報を購入元会社または保守会社に連絡してください。
```

注意事項

- Windows に一度も認識されていないパスを、はじめて LU に追加した場合、次に示すメッセージが出力されることがあります。
 - KAPL08019-E および KAPL08022-E
 - KAPL05301-Eこれは、Windows の動作による現象で、障害ではありません。
- LU の動的削除機能を使用して HDLM の管理対象から LU が削除された場合、イベントログへ KAPL08022-E メッセージが出力されないことがあります。HDLM の管理対象から LU が削除された場合は、KAPL05301-E メッセージの内容でパスの情報を確認してください。

メッセージの各項目について説明します。

KAPL05301-E メッセージの詳細については、「[4.7.2 LU を動的に削除する](#)」の「[\(2\) LU またはパスが動的に削除されていることを確認する](#)」に記載されている、「パスの切断によって LU またはパスが削除されたとき」を参照してください。

ErrorCode

Windows がパスの障害を検出したときのエラー番号を示します。

Windows のプラグ アンド プレイ機能によって、SCSI デバイスが Windows から削除されたパスが閉塞状態になった場合は、エラー番号が 0x00000000 となります。この場合、自動フェイルバック機能を使用しなくても、パスが回復して SCSI デバイスが Windows に認識されたときに、自動的にパスが稼働状態になります。

PathID

パスに付けられた ID で、パス管理 PATH_ID と呼びます。ホストの再起動時に割り当てられます。

これは、パス管理ウィンドウのパスリストビューで表示されるパス ID と同じです。

また、コマンドの view オペレーションで表示される「PathID」と同じです。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

PathName

パスを表す項目で、パス名と呼びます。システムの構成を変更する場合やハードウェアを交換する場合は、パス名を参照して影響を受けるパスを確認してください。

次に示す 4 つの項目をピリオドで区切ったものが、パス名として表示されます。

- ホストポート番号 (16 進数)
- バス番号 (16 進数)
- ターゲット ID (16 進数)
- ホスト LU 番号 (16 進数)

パス名は、コマンドの view オペレーションで表示される「PathName」と同じです。パス名の詳細については、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を確認してください。

DNum

Dev 番号です。

LU 全体を示す Dev として「0」が表示されます。これは view オペレーションで表示される「DNum」と同じです。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

HDevName

ホストデバイス名です。

ドライブレターが表示されます。ドライブレターが割り当てられていない場合は、「-」(ハイフン)が表示されます。

これは view オペレーションで表示される「HDevName」と同じです。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

5.3 パス障害時の対処

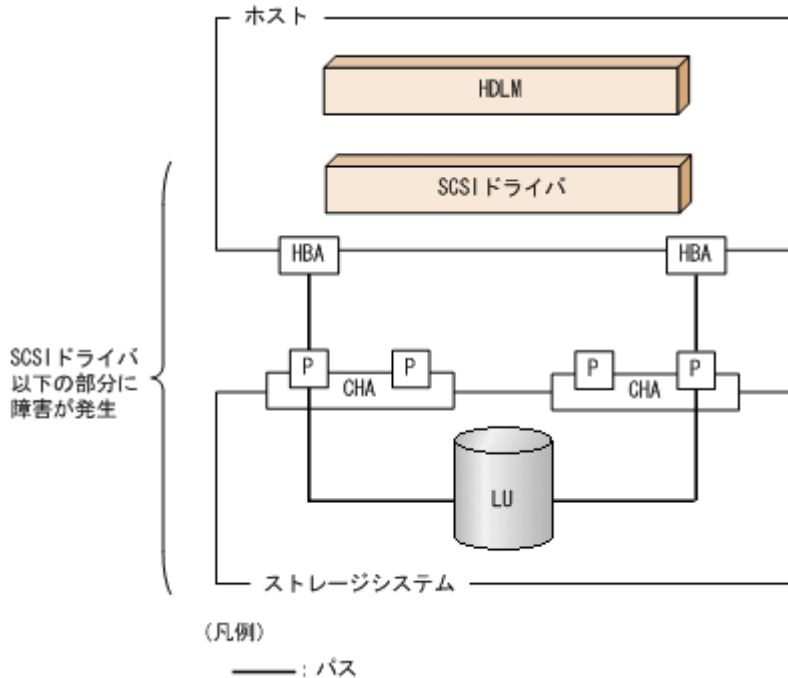
HDLM でパスの障害を検出した場合、直ちにその障害に対処して、パスを復旧してください。

パスの障害は、I/O が発行されたとき、または Windows のプラグ アンド プレイ機能がパスの断線などを検出したときにチェックされます。ノンオーナーパスなど、通常 I/O が発行されないパスがある場合、パスヘルスチェック機能を有効にして、I/O の有無に関わらず、障害を検出できるように

してください。パスヘルスチェック機能の詳細については「2.9 パスヘルスチェックによる障害検出」を参照してください。

HDLM は、パスの障害を検知した場合、パスのフェイルオーバをするとともに、KAPL08022-E のメッセージを出力します。このメッセージが出力された場合、次の図に示す、パスを構成する部分に障害が発生しています。

図 5-1 KAPL08022-E が出力される場合の障害箇所



KAPL08022-E のメッセージが出力された場合の対処手順を次の図に示します。

図 5-2 パス障害時の対処手順



HDLM コマンドを使用してパス障害に対処する手順を次に説明します。

5.3.1 メッセージの監視

ホストのイベントログに出力されるメッセージを監視します。KAPL08022-E のメッセージが出力された場合、そのメッセージの内容を参照して、障害が発生したパスを確認してください。メッセージ内容については「5.2 メッセージでの障害情報の確認」を参照してください。

なお、LU へのすべてのパスに障害が発生している場合は、KAPL08022-E のメッセージのほかに、KAPL08026-E のメッセージが表示されます。

また、LU の動的削除機能を使用している場合に、すべてのパスが削除されたときは、KAPL05301-E のメッセージが表示されます。

5.3.2 パス情報の取得

パスの情報を取得します。

次のコマンドを実行してください。

```
dlmkmgr view -path -iem -hbaportwwn > pathinfo.txt
```

pathinfo.txt はリダイレクト先のファイル名です。ファイル名は環境に合わせて決めてください。

5.3.3 障害パスの抽出

取得したパス情報を確認して、障害パスを探します。「Status」が「Offline(E)」または「Online(E)」のパスが障害パスです。

5.3.4 障害発生ハードウェアの絞り込み

障害パスの「DskName」、「iLU」、「ChaPort」、および「HBAPortWWN」を確認して、障害が発生した可能性があるハードウェアを絞り込みます。「DskName」、「iLU」、および「ChaPort」は、ストレージシステムの管理プログラムで参照して、物理的に特定してください。

5.3.5 障害個所の特定・ハードウェアへの障害対処

Windows、およびハードウェアの管理ツールなどで障害個所を特定して、障害に対処します。パスに障害が発生した場合、ホストのイベントログには HDLM が出力するエラーメッセージのほかに、障害が発生したパスの情報が出力されます。

ハードウェアの保守については、ハードウェアの購入元会社、または保守契約があれば保守会社に連絡してください。

5.3.6 パスを稼働状態に変更

障害回復後、障害のために閉塞状態になったパスを HDLM コマンドの online オペレーションで稼働状態にします。online オペレーションについては、「6.5 online パスを稼働状態にする」を参照してください。次のコマンドを実行してください。

```
dlmkmgr online
```

このコマンドを実行すると、すべての閉塞状態のパスが稼働状態になります。

障害が原因で稼働状態にできないパスがあった場合は、KAPL01039-W のメッセージが表示されます。稼働状態にできないパスを無視して処理を継続する場合は「y」を、処理を中断する場合は「n」を入力してください。

稼働状態にできないパスについては、再度状態を確認し、障害回復のための対処をしてください。

注意事項

すべてのパスに障害が発生したあと、一部またはすべてのパスが Windows に認識されると、ディスク番号がホスト起動時から変更されることがあります。この場合、ホストを再起動すると元のディスク番号に戻ります。Symantec Backup Exec for Windows または Veritas NetBackup の Intelligent Disaster Recovery 機能は、ディスク番号を元に戻したあとに使用してください。

5.4 プログラム障害時の対処

HDLM のプログラムで障害が発生した場合の対処について説明します。対処手順を次の図に示します。

図 5-3 プログラム障害時の対処手順



HDLM コマンドを使用してプログラム障害に対処する手順を次に説明します。

5.4.1 メッセージの監視

ホストのイベントログに出力されるメッセージを監視します。HDLM のプログラムで障害が発生すると、KAPL08xxx 以外のメッセージがイベントログに出力されます。メッセージの内容を参照して、メッセージのレベルが「E」（Error レベル）以上の場合、対処が必要です。

5.4.2 プログラム情報の取得

HDLM の購入元会社、または保守会社に連絡する情報を取得します。

HDLM 障害情報収集ユーティリティ（DLMgetras）を使用して、障害情報を収集してください。DLMgetras ユティリティで収集できる情報、および DLMgetras ユティリティについては、「[7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ](#)」を参照してください。

DLMgetras ユティリティが収集する情報の中には、ホストの再起動時にクリアされるものがあります。障害発生時は DLMgetras ユティリティを速やかに実行してください。

HDLM GUI に障害が発生した場合は、障害発生時のスクリーンショットを採取してください。

5.4.3 プログラム障害への対処

「8. メッセージ」を参照して対処してください。

対処しても同じエラーが発生する場合は、HDLM コマンドの view オペレーションで HDLM のプログラムの状態を確認して、エラーに対処します。view オペレーションについては、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

次に示すコマンドを実行します。

```
dlmkmgr view -sys
```

コマンド実行後、KAPL01012-E のメッセージが出力された場合

次に、KAPL01012-E のメッセージを示します。

```
KAPL01012-E HDLM マネージャとの接続に失敗しました。オペレーション名 = view
```

この場合、HDLM マネージャを起動します。

HDLM マネージャの起動方法については、「4.5.1 HDLM マネージャの起動」を参照してください。

コマンド実行後、KAPL01013-E のメッセージが出力された場合

次に、KAPL01013-E のメッセージを示します。

```
KAPL01013-E HDLM コマンド内部処理で障害が発生しました。オペレーション名 = view, 詳細 = aa...aa
```

aa...aa には、文字列が表示されます。この場合、ホストを再起動します。

対処しても同じエラーが発生する場合は、「5.4.4 HDLM の購入元会社、または保守会社に連絡」に進んでください。

5.4.4 HDLM の購入元会社、または保守会社に連絡

エラーが解決されない場合、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) で取得した情報を、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。

5.5 パスやプログラム以外の障害時の対処

HDLM に関連すると思われる障害の原因が、パスでもプログラムでもない場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して、情報を収集してください。そのあとで、取得した情報を、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティで収集できる情報、および DLMgetras ユティリティについては、「7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ」を参照してください。

コマンドリファレンス

この章では、HDLM で使用するコマンドについて説明します。

- 6.1 コマンド概要
- 6.2 clear パスの統計情報を初期値にする
- 6.3 help オペレーションの形式を表示する
- 6.4 offline パスを閉塞状態にする
- 6.5 online パスを稼働状態にする
- 6.6 set 動作環境を設定する
- 6.7 view 情報を表示する
- 6.8 delete パスを動的に削除する

6.1 コマンド概要

ここでは、HDLM で使用するコマンドの入力形式、およびオペレーションについて説明します。

コマンドの入力形式

コマンドの入力形式を次に示します。

```
dlmkmgr オペレーション名 [パラメタ [パラメタ値]]
```

dlmkmgr : コマンド名

オペレーション名 : dlmkmgr に続けて入力する操作の種類

パラメタ : オペレーションによって必要になる値

パラメタ値 : パラメタによって必要になる値

HDLM コマンドのオペレーション

HDLM コマンドのオペレーション、およびその機能を「表 6-1 HDLM コマンドのオペレーション一覧」に示します。

表 6-1 HDLM コマンドのオペレーション一覧

オペレーション	機能
clear	HDLM システムが管理する、すべてのパスの統計情報 (I/O 回数, I/O 障害回数) の値を初期値 (0) にします。詳細については、「6.2」を参照してください。
help	HDLM で使用するオペレーションの形式が表示されます。詳細については、「6.3」を参照してください。
offline	稼働状態のパスを閉塞状態にします。詳細については、「6.4」を参照してください。
online	閉塞状態のパスを稼働状態にします。詳細については、「6.5」を参照してください。
set	HDLM の動作環境を設定します。詳細については、「6.6」を参照してください。
view	HDLM のプログラム情報、パス情報、および LU 情報が表示されます。詳細については、「6.7」を参照してください。
delete	パスを HDLM の管理対象から動的に削除します。詳細については、「6.8」を参照してください。

注意事項

- Windows Server 2003 の場合は、Administrators グループのユーザで、コマンドを実行してください。
Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合は、「4.1.5 Windows Server 2008 および Windows Server 2012 を使用する場合の注意事項」を参照してください。
- パラメタで指定する値にスペースが含まれる場合には、値全体を「"」（引用符）で囲ってください。

6.2 clear パスの統計情報を初期値にする

HDLM システムが管理する、すべてのパスの統計情報 (I/O 回数, I/O 障害回数) の値を初期値 (0) にします。

6.2.1 形式

(1) パスの統計情報を初期値 (0) にする場合

```
dlnkmgr clear -pdst [-s]
```

(2) clear オペレーションの形式を表示する場合

```
dlnkmgr clear -help
```

6.2.2 パラメタ

(1) パスの統計情報を初期値 (0) にする場合

-pdst

HDLM が管理する、すべてのパスの統計情報 (I/O 回数, I/O 障害回数) の値を初期値にします。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr clear -pdst
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = clear。よろしい
ですか? [y/n] : y
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = clear, 終
了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

-s

コマンド実行の確認メッセージを表示しないで実行します。シェルスクリプトやバッチファイルでコマンドを実行する場合など、確認メッセージへの入力を省略したいときに指定します。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr clear -pdst -s
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = clear, 終
了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

(2) clear オペレーションの形式を表示する場合

-help

clear オペレーションの形式が表示されます。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr clear -help
clear:
  Format
    dlnkmgr clear -pdst [-s]
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = clear, 終
了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

6.3 help オペレーションの形式を表示する

HDLM コマンド、および HDLM コマンドの各オペレーションの形式が表示されます。

6.3.1 形式

```
dlnkmgr help [オペレーション名] [オペレーション名] ...
```

6.3.2 パラメタ

オペレーション名

形式を知りたいオペレーション名を指定します。

オペレーション名は、複数指定できます。複数のオペレーション名を指定した場合、指定した順に形式が表示されます。

指定できるオペレーション名は、次に示すどれかです。

- clear
- help
- offline
- online
- set
- view
- delete

オペレーション名を省略すると、HDLM コマンドで使用できる、すべてのオペレーション名が表示されます。

使用例

使用例 1

HDLM コマンドで使用できるすべてのオペレーション名を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr help
dlnkmgr:
  Format
    dlnkmgr { clear | help | offline | online | set | view | delete }
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = help, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

使用例 2

複数のオペレーションの形式を表示する場合

「AutoPATH_ID」はパス管理 PATH_ID を示します。

```
PROMPT>dlnkmgr help online offline help
online:
  Format
    dlnkmgr online [-path] [-s]
    dlnkmgr online [-path] -hba HBAPortNumber.BusNumber [-s]
    dlnkmgr online [-path] -cha -pathid AutoPATH_ID [-s]
    dlnkmgr online [-path] [-pathid AutoPATH_ID] [-s]
    dlnkmgr online [-path] [-hbaportwwn HBA_Port_WWN
    [-tid Target_ID -hlun Host_LUN]] [-s]
  Valid value
    AutoPATH_ID    { 000000 - 999999 } (Decimal)
    Host_LUN       { 0000 - FFFF } (Hexadecimal)
```

```

offline:
  Format
  dlnkmgr offline [-path] -hba HBAPortNumber.BusNumber [-s]
  dlnkmgr offline [-path] -cha -pathid AutoPATH_ID [-s]
  dlnkmgr offline [-path] -pathid AutoPATH_ID [-s]
  dlnkmgr offline [-path] -hbaportwwn HBA_Port_WWN
                                [-tid Target_ID -hlun Host_LUN] [-s]

  Valid value
  AutoPATH_ID    { 000000 - 999999 }(Decimal)
  Host_LUN       { 0000 - FFFF }(Hexadecimal)
help:
  Format
  dlnkmgr help { clear | offline | online | set | view | delete }
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = help, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

使用例 3

help オペレーションで指定できるオペレーション名を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr help help
help:
  Format
  dlnkmgr help { clear | offline | online | set | view | delete }
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = help, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

6.4 offline パスを閉塞状態にする

稼働状態のパスを閉塞状態にします。HBA ポート単位、CHA ポート単位、パス単位、または HBA ポート WWN 単位で、閉塞状態にするパスを指定します。

各 LU にアクセスする最後のパスは閉塞状態にできません。

多くのパスを閉塞状態にすると、障害発生時にパスを切り替えられなくなることがあります。パスを閉塞状態にする前に、view オペレーションでパスの稼働状態を確認してください。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

クラスタ構成の場合、リザーブ処理中に offline オペレーションを実行すると、offline 処理は、リザーブ処理が完了するまで実行待ち状態 (Online(P)、Online(EP)、または Offline(P)) になります。

6.4.1 形式

(1) パスを閉塞状態にする場合

```

dlnkmgr offline
  [-path]
  {-hba ホストポート番号.バス番号
  |-cha -pathid パス管理 PATH_ID
  |-pathid パス管理 PATH_ID
  |-hbaportwwn HBA ポート WWN [-tid ターゲット ID -hlun ホスト LU 番号]}
  [-s]

```

(2) offline オペレーションの形式を表示する場合

```
dlnkmgr offline -help
```

6.4.2 パラメタ

(1) パスを閉塞状態にする場合

-path

HDLM が管理しているパスを操作することを指定します。

offline オペレーションの対象物はパスだけなので、この指定は省略できます。

-hba, -cha, -pathid, または-hbaportwwn パラメタで、閉塞状態にするパスを必ず指定します。

-hba ホストポート番号.バス番号

HBA ポート単位でパスを閉塞状態にする場合に指定します。指定した番号の HBA ポートを通るすべてのパスを閉塞状態にします。

view オペレーションで表示されるパス名のうち、ホストポート番号、バス番号をピリオドで区切って指定します。view オペレーションについては、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。ホストポート番号、およびバス番号の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます。ただし、ホストポート番号、またはバス番号「0000」を指定する場合は、「0000」または「0」を指定してください。

使用例

コマンド実行の確認をして、特定の HBA ポート（ホストポート番号「0001」、バス番号「0001」）を通るすべてのパスを閉塞状態にする場合

```
PROMPT>dlnkmgr offline -hba 1.1
KAPL01055-I 指定された HBA を通る全てのパスを Offline (C) にします。よろしいですか? [y/n] :y
KAPL01056-I 指定された HBA を通る全てのパスが Offline (C) になってもよい場合は y を入力してください。そうでない場合は n を入力してください。 [y/n] :y
KAPL01061-I 3 本のパスを Offline (C) にしました。失敗したパス = 0 本。オペレーション名 = offline
PROMPT>
```

-cha -pathid パス管理 PATH_ID

CHA ポート単位でパスを閉塞状態にする場合に指定します。-pathid パラメタで指定したパスが経由している CHA ポートを通る、すべてのパスを閉塞状態にします。

view オペレーションで表示される、現在のパス管理 PATH_ID を指定してください。view オペレーションについては、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。パス管理 PATH_ID の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます（000001 と 1 は同値です）。ただし、パス管理 PATH_ID 「000000」を指定する場合は、「000000」または「0」を指定してください。

パス管理 PATH_ID は、ホストの再起動時に新しく割り当てられます。必ず view オペレーションを実行して、閉塞状態にするパスの現在のパス管理 PATH_ID を確認してから、offline オペレーションを実行してください。

使用例

コマンド実行の確認をして、CHA ポート「0A」を通るすべてのパスを閉塞状態にする場合（パス管理 PATH_ID 「000001」が CHA ポート「0A」を通っているとき）

```
PROMPT>dlnkmgr offline -cha -pathid 000001
KAPL01055-I 指定された CHA port を通る全てのパスを Offline (C) にします。よろしいですか? [y/n] :y
KAPL01056-I 指定された CHA port を通る全てのパスが Offline (C) になってもよい
```

場合は y を入力してください。そうでない場合は n を入力してください。 [y/n] :y
KAPL01061-I 2本のパスを Offline (C) にしました。失敗したパス = 0本。オペ
レーション名 = offline
PROMPT>

-pathid パス管理 *PATH_ID*

単一のパスを閉塞状態にする場合に指定します。

view オペレーションで表示される、現在のパス管理 *PATH_ID* を指定します。view オペレーションについては、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。パス管理 *PATH_ID* の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます (000001 と 1 は同値です)。ただし、パス管理 *PATH_ID* 「000000」を指定する場合は、「000000」または「0」を指定してください。

パス管理 *PATH_ID* は、ホストの再起動時に新しく割り当てられます。必ず view オペレーションを実行して、閉塞状態にするパスの現在のパス管理 *PATH_ID* を確認してから、offline オペレーションを実行してください。

-hbaportwwn *HBA* ポート *WWN* [-tid ターゲット *ID* -hlun ホスト *LU* 番号]

HBA ポート *WWN* で指定した *HBA* ポートに接続されている、パスを閉塞状態にする場合に指定します。-tid パラメータおよび -hlun パラメータを指定しない場合は、指定した *HBA* ポート *WWN* を通るすべてのパスを閉塞状態にします。指定できるパラメータ値は 1 つだけです。

HBA ポート *WWN* には、HBAPortWWN を指定します。英字の大文字、小文字は区別されません。

ターゲット *ID* には、PathName からターゲット *ID* に該当する値を指定します。ターゲット *ID* の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます (0000000000000001 と 1 は同値です)。英字の大文字、小文字は区別されません。

ホスト *LU* 番号には、PathName からホスト *LU* 番号に該当する値を指定します。ホスト *LU* 番号の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます (0001 と 1 は同値です)。

HBAPortWWN および PathName は、次に示す view オペレーションを実行すると表示されます。

```
dlnkmgr view -path -hbaportwwn
```

view オペレーションを実行して *HBA* ポート *WWN* およびパス名を表示する方法については、「6.7.2 パラメータ」の「(2) パス情報を表示する場合」を参照してください。

使用例

コマンド実行の確認をして、*HBA* ポート *WWN* 「10000000C93213BA」、ターゲット *ID* 「0000000000000001」、およびホスト *LU* 番号「0000」を通るパスを閉塞状態にする場合

```
PROMPT>dlnkmgr offline -path -hbaportwwn 10000000C93213BA -tid 1 -  
hlun 0  
KAPL01052-I 指定されたパスを Offline (C) にします。よろしいですか? [y/n]:y  
KAPL01053-I 指定されたパスが Offline (C) になってもよい場合は y を入力してくだ  
さい。そうでない場合は n を入力してください。 [y/n]:y  
KAPL01061-I 1本のパスを Offline (C) にしました。失敗したパス = 0本。オペ  
レーション名 = offline  
PROMPT>
```

-s

コマンド実行の確認メッセージを表示しないで実行します。シェルスクリプトやバッチファイルでコマンドを実行する場合など、確認メッセージへの入力を省略したいときに指定します。

使用例

コマンド実行の確認をしないで、パス管理 *PATH_ID* 「000001」のパスを閉塞状態にする場合

```
PROMPT>dlnkmgr offline -pathid 1 -s
KAPL01061-I 1本のパスをOffline(C)にしました。失敗したパス = 0本。オペレーション名 = offline
PROMPT>
```

(2) offline オペレーションの形式を表示する場合

-help

offline オペレーションの形式が表示されます。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr offline -help
offline:
Format
dlnkmgr offline [-path] -hba HBAPortNumber.BusNumber [-s]
dlnkmgr offline [-path] -cha -pathid AutoPATH_ID [-s]
dlnkmgr offline [-path] -pathid AutoPATH_ID [-s]
dlnkmgr offline [-path] -hbaportwn HBA_Port_WWN
                                     [-tid Target_ID -hlun Host_LUN] [-s]

Valid value
AutoPATH_ID      { 000000 - 999999 }(Decimal)
Host_LUN         { 0000 - FFFF }(Hexadecimal)
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = offline,
終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

参考

HDLM コマンドの view オペレーションと Windows のコマンドを組み合わせると、特定の HBA ポート、または CHA ポートで、パスの情報を絞り込んで表示できます。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

HBA ポート単位、または CHA ポート単位でパスを閉塞状態にする前に、次のコマンドを実行して、閉塞状態にするパスの情報を確認することをお勧めします。

例 1

特定の HBA ポート（ホストポート番号「0004」、バス番号「0001」）を通るすべてのパスを確認する場合

```
dlnkmgr view -path | find "0004.0001"
指定した HBA ポートを通るパスの情報だけが表示されます。
```

例 2

SANRISE9500V シリーズの CHA ポート「0A」を通るすべてのパスを確認する場合

```
dlnkmgr view -path -stname | find "9500V" | find "0A"
```

指定した CHA ポートを通るパスの情報だけが表示されます。

注意事項

LU の動的削除機能を使用している場合には、パス障害などによってパスが削除された状態になっていることがあります。このときは、パスの状態を変更しようとしてもエラーになります。状態を変更しようとしていたパスが削除されていることを確認し、パス障害に対処してください。詳細については「[4.7.2 LU を動的に削除する](#)」を参照してください。

6.5 online パスを稼働状態にする

閉塞状態のパスを稼働状態にします。稼働状態にするパスは、HBA ポート単位、CHA ポート単位、パス単位、または HBA ポート WWN 単位で指定できます。

6.5.1 形式

(1) パスを稼働状態にする場合

```
dlnkmgr online
[-path]
[-hba ホストポート番号.バス番号]
|-cha -pathid パス管理 PATH_ID
|-pathid パス管理 PATH_ID
|-hbaportwwn HBA ポート WWN [-tid ターゲット ID -hlun ホスト LU 番号]]
[-s]
```

(2) online オペレーションの形式を表示する場合

```
dlnkmgr online -help
```

6.5.2 パラメタ

(1) パスを稼働状態にする場合

-path

HDLM が管理しているパスを操作することを指定します。

online オペレーションの対象物はパスだけなので、この指定は省略できます。

-hba、**-cha**、**-pathid**、または**-hbaportwwn** パラメタで、稼働状態にするパスを指定できます。これらのパラメタを省略した場合は、すべての閉塞状態のパスを稼働状態にします。稼働状態にできないパスがあった場合、処理を継続するかどうかを確認するメッセージが表示されます。稼働状態にできなかったパスを閉塞状態のままにして処理を継続する場合は「y」を、処理を中断する場合は「n」を入力してください。

-hba ホストポート番号.バス番号

HBA ポート単位でパスを稼働状態にする場合に指定します。指定した番号の HBA ポートを通るすべてのパスを稼働状態にします。

view オペレーションで表示されるパス名のうち、ホストポート番号、バス番号をピリオドで区切って指定します。view オペレーションについては、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。ホストポート番号、およびバス番号の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます。ただし、ホストポート番号、またはバス番号「0000」を指定する場合は、「0000」または「0」を指定してください。

使用例

コマンド実行の確認をして、特定の HBA ポート（ホストポート番号「0001」、バス番号「0001」）を通るすべてのパスを稼働状態にする場合

```
PROMPT>dlnkmgr online -hba 1.1
KAPL01057-I 指定された HBA を通る全てのパスを Online にします。よろしいですか? [y/n] :y
KAPL01061-I 3 本のパスを Online にしました。失敗したパス = 0 本。オペレーション名 = online
PROMPT>
```

-cha -pathid パス管理 *PATH_ID*

CHA ポート単位でパスを稼働状態にする場合に指定します。-pathid パラメタで指定したパスが経過している CHA ポートを通る、すべてのパスを稼働状態にします。

view オペレーションで表示される、現在のパス管理 *PATH_ID* を指定します。view オペレーションについては、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。パス管理 *PATH_ID* の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます (000001 と 1 は同値です)。ただし、パス管理 *PATH_ID* 「000000」を指定する場合は、「000000」または「0」を指定してください。

パス管理 *PATH_ID* は、ホストの再起動時に新しく割り当てられます。必ず view オペレーションを実行して、稼働状態にするパスの現在のパス管理 *PATH_ID* を確認してから、online オペレーションを実行してください。

使用例

コマンド実行の確認をして、CHA ポート「0A」を通るすべてのパスを稼働状態にする場合 (パス管理 *PATH_ID* 「000002」が CHA ポート「0A」を通っているとき)

```
PROMPT>dlnkmgr online -cha -pathid 000002
KAPL01057-I 指定された CHA port を通る全てのパスを Online にします。よろしい
ですか? [y/n] :y
KAPL01061-I 2本のパスを Online にしました。失敗したパス = 0本。オペレー
ション名 = online
PROMPT>
```

-pathid パス管理 *PATH_ID*

単一のパスを稼働状態にする場合に指定します。

view オペレーションで表示される、現在のパス管理 *PATH_ID* を指定します。view オペレーションについては、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。パス管理 *PATH_ID* の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます (000001 と 1 は同値です)。ただし、パス管理 *PATH_ID* 「000000」を指定する場合は、「000000」または「0」を指定してください。

パス管理 *PATH_ID* は、ホストの再起動時に新しく割り当てられます。必ず view オペレーションを実行して、稼働状態にするパスの現在のパス管理 *PATH_ID* を確認してから、online オペレーションを実行してください。

-hbaportwwn *HBA* ポート *WWN* [-tid ターゲット *ID* -hlun ホスト *LU* 番号]

HBA ポート *WWN* で指定した HBA ポートに接続されているパスを稼働状態にする場合に指定します。-tid パラメタおよび -hlun パラメタを指定しない場合は、指定した HBA ポート *WWN* を通るすべてのパスを稼働状態にします。指定できるパラメタ値は 1 つだけです。

HBA ポート *WWN* には、HBAPortWWN を指定します。英字の大文字、小文字は区別されません。

ターゲット *ID* には、PathName からターゲット *ID* に該当する値を指定します。ターゲット *ID* の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます (0000000000000001 と 1 は同値です)。英字の大文字、小文字は区別されません。

ホスト *LU* 番号には、PathName からホスト *LU* 番号に該当する値を指定します。ホスト *LU* 番号の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます (0001 と 1 は同値です)。

HBAPortWWN および PathName は、次に示す view オペレーションを実行すると表示されま

```
dlnkmgr view -path -hbaportwwn
```

view オペレーションを実行して HBA ポート *WWN* およびパス名を表示する方法については、「6.7.2 パラメタ」の「(2) パス情報を表示する場合」を参照してください。

使用例

コマンド実行の確認をして、HBA ポート WWN 「10000000C93213BA」、ターゲット ID 「0000000000000001」、およびホスト LU 番号 「0000」 を通るパスを稼働状態にする場合

```
PROMPT>dlnkmgr online -path -hbaportwwn 10000000C93213BA -tid 1 -
hlun 0
KAPL01050-I 指定されたパスを Online にします。よろしいですか? [y/n]:y
KAPL01061-I 1 本のパスを Online にしました。失敗したパス = 0 本。オペレー
ション名 = online
PROMPT>
```

-s

コマンド実行の確認メッセージを表示しないで実行します。シェルスクリプトやバッチファイルでコマンドを実行する場合など、確認メッセージへの入力を省略したいときに指定します。

使用例

コマンド実行の確認をしないで、パス管理 PATH_ID 「000002」 のパスを稼働状態にする場合

```
PROMPT>dlnkmgr online -pathid 2 -s
KAPL01061-I 1 本のパスを Online にしました。失敗したパス = 0 本。オペレー
ション名 = online
PROMPT>
```

(2) online オペレーションの形式を表示する場合

-help

online オペレーションの形式が表示されます。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr online -help
online:
  Format
    dlnkmgr online [-path] [-s]
    dlnkmgr online [-path] -hba HBAPortNumber.BusNumber [-s]
    dlnkmgr online [-path] -cha -pathid AutoPATH_ID [-s]
    dlnkmgr online [-path] [-pathid AutoPATH_ID] [-s]
    dlnkmgr online [-path] [-hbaportwwn HBA_Port_WWN
    [-tid Target_ID -hlun Host_LUN]] [-s]

  Valid value
    AutoPATH_ID      { 000000 - 999999 } (Decimal)
    Host_LUN         { 0000 - FFFF } (Hexadecimal)
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = online, 終
了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

参考

HDLM コマンドの view オペレーションと Windows のコマンドを組み合わせると、特定の HBA ポート、または CHA ポートで、パスの情報を絞り込んで表示できます。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

HBA ポート単位、または CHA ポート単位でパスを稼働状態にする前に、次のコマンドを実行して、稼働状態にするパスの情報を確認することをお勧めします。

例 1

特定の HBA ポート（ホストポート番号 「0004」、パス番号 「0001」）を通るすべてのパスを確認する場合

```
dlnkmgr view -path | find "0004.0001"
```

指定した HBA ポートを通るパスの情報だけが表示されます。

例 2

SANRISE9500V シリーズの CHA ポート「0A」を通るすべてのパスを確認する場合

```
dlnkmgr view -path -stname | find "9500V" | find "0A"
```

指定した CHA ポートを通るパスの情報だけが表示されます。

注意事項

LU の動的削除機能を使用している場合には、パス障害などによってパスが削除された状態になっていることがあります。このときは、パスの状態を変更しようとしてもエラーになります。状態を変更しようとしていたパスが削除されていることを確認し、パス障害に対処してください。詳細については「4.7.2 LU を動的に削除する」を参照してください。

6.6 set 動作環境を設定する

HDLM の動作環境を設定します。

6.6.1 形式

(1) HDLM の動作環境を設定する場合

```
dlnkmgr set {-lb {on [-lbtype {rr|exrr|lio|exlio|lbk|exlbk}]|off}  
  |-ellv 障害ログ採取レベル  
  |-elfs 障害ログファイルサイズ  
  |-elfn 障害ログファイル数  
  |-systflv トレースレベル  
  |-systfs トレースファイルサイズ  
  |-systfn トレースファイル数  
  |-pchk {on [-intvl チェック間隔]|off}  
  |-afb {on [-intvl チェック間隔]|off}  
  |-iem {on [-intvl 障害監視時間] [-iemnum 障害発生回数]|off}  
  |-lic  
  |-rmlu {on [-force]|off}  
  |-audlog {on [-audlv 監査ログ採取レベル] [-category [[ss] [a] [ca] |  
all]]|off}  
  |-lbpathusetimes 同一パス使用回数  
  |-expathusetimes 同一パス使用回数  
  |-dpc {on|off} [-pathid パス ID -lu|-pathid パス ID -storage]  
  |-dpcintvl チェック間隔  
}  
[-s]
```

(2) set オペレーションの形式を表示する場合

```
dlnkmgr set -help
```

6.6.2 パラメタ

(1) HDLM の動作環境を設定する場合

各設定のデフォルト値と推奨値を次の表に示します。set オペレーションで設定値を変更した場合、その値は直ちに有効になります。

表 6-2 各設定のデフォルト値と推奨値

項目名	デフォルト値	推奨値
ロードバランス	on アルゴリズムは拡張最少 I/O 数	on アルゴリズムの推奨値は運用環境によって異なります。
障害ログ採取レベル	3: Information レベル以上の障害情報を採取	3: Information レベル以上の障害情報を採取
障害ログファイルサイズ	9900 (KB)	9900 (KB)
障害ログファイル数	2	2
トレースレベル	0: トレースを出力しない	0: トレースを出力しない
トレースファイルサイズ	1000 (KB)	1000 (KB)
トレースファイル数	4	4
パスヘルスチェック	on チェック間隔: 30 分	on チェック間隔の推奨値は運用環境によって異なります。
自動フェイルバック	off	off
間欠障害監視	off	off
LU の動的削除	off	off
監査ログ採取	off	推奨値は運用環境によって異なります。 監査ログを採取したい場合「on」を設定してください。
ロードバランスの同一パス使用回数	1	推奨値は運用環境によって異なります。
拡張ロードバランスの同一パス使用回数	100	推奨値は運用環境によって異なります。
ダイナミック I/O パスコントロール※	off チェック間隔: 10 分	off チェック間隔の推奨値は運用環境によって異なります。

注※

ストレージシステムが Hitachi AMS2000 シリーズ, Hitachi SMS シリーズ, または HUS100 シリーズを使用している場合にだけ適用されます。

```
-lb {on [-lbtype {rr|exrr|lio|exlio|lbc|exlbc}]|off}
```

ロードバランス機能を有効, または無効にします。

on: 有効

off: 無効

```
-lbtype {rr|exrr|lio|exlio|lbc|exlbc}
```

ロードバランスのアルゴリズムを選択します。

rr: ラウンドロビン

exrr: 拡張ラウンドロビン

lio: 最少 I/O 数

exlio : 拡張最少 I/O 数

lbc : 最少ブロック数

exlbc : 拡張最少ブロック数

-lotype で設定したアルゴリズムは、-lb off を指定してロードバランス機能を無効にしても、記憶されています。そのため、再度ロードバランス機能を有効にし、アルゴリズムを指定しなかった場合、記憶されているアルゴリズムでロードバランスが実行されま

-ellv 障害ログ採取レベル

障害ログとして採取する障害情報のレベルを設定します。

障害ログ採取レベルを設定できるログファイルは、次のとおりです。

HDLM マネージャのログ

dlmmgr[1-16].log

HDLM GUI のログ

dlmgui[1-2].log

障害ログ採取レベルの設定値とその説明を「表 6-3 障害ログ採取レベルの設定値」に示します。なお、障害が発生したときは、障害ログ採取レベルに「1」以上を選択してログを採取します。

表 6-3 障害ログ採取レベルの設定値

設定値	説明
0	障害ログを採取しません。
1	Error レベル以上の障害情報を採取します。
2	Warning レベル以上の障害情報を採取します。
3	Information レベル以上の障害情報を採取します。
4	Information レベル（保守情報も含む）以上の障害情報を採取します。

設定値が大きいほど出力されるログの量が多くなります。ログの出力量が多い場合、古い障害ログファイルに上書きされるまでの時間が短くなります。

使用例

```
PROMPT>dlmkmgr set -ellv 1
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。よろしいで
すか? [y/n] : y
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = set, 終了時
刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

-elfs 障害ログファイルサイズ

障害ログファイルのサイズをキロバイト単位で設定します。100~2000000 の値を指定しま

す。ファイルサイズを設定できるログファイルは、HDLM マネージャのログ

(dlmmgr[1-16].log) および HDLM GUI のログ (dlmgui[1-2].log) です。ただし、

HDLM GUI のログの場合、ファイルサイズの有効範囲は 100~9900 です。9901 以上を指定

した場合は 9900KB になります。HDLM マネージャのログには指定値が反映されます。障害

ログファイル数の指定と合わせて、採取できる障害ログの合計サイズの最大値は 32000000KB (約 30GB) です。

-elfn 障害ログファイル数

障害ログファイルの数を設定します。2～16の値を指定します。障害ログファイルサイズの指定と合わせて、採取できる障害ログの合計サイズの最大値は32000000KB（約30GB）です。ファイル数を設定できるログファイルは、HDLM マネージャのログ（hdlmgr[1-16].log）だけです。HDLM GUI のログ（hdlgui[1-2].log）のログファイル数は、固定で「2」です。

-systflv トレースレベル

トレースの出力レベルを設定します。トレースレベルを設定できるトレースファイルは、hdlmtr[1-64].log です。トレースレベルの設定値とその説明を「表 6-4 トレースレベルの設定値」に示します。なお、障害が発生したときは、トレースレベルに「1」以上を選択してログを採取します。

表 6-4 トレースレベルの設定値

設定値	説明
0	トレースを出力しません。
1	エラー情報だけ出力します。
2	プログラムの動作概略を出力します。
3	プログラムの動作詳細を出力します。
4	すべての情報を出力します。

設定値が大きいくほど出力されるログの量が多くなります。ログの出力量が多い場合、古い障害ログファイルに上書きされるまでの時間が短くなります。

-systfs トレースファイルサイズ

トレースファイルのサイズをキロバイト単位で設定します。100～16000の値を指定します。トレースファイル数の指定と合わせて、採取できるトレースの合計サイズの最大値は1024000KBです。なお、設定されている値よりも小さい値を指定した場合、実行を確認するKAPL01097-Wのメッセージが表示されてトレースファイルはいったん削除されます。ファイルサイズを設定できるトレースファイルは、hdlmtr[1-64].logです。トレースファイルは固定長です。したがって、書き込まれるトレース情報が設定したファイルサイズに満たない場合でも、出力されるトレースファイル1つ当たりのファイルサイズは常に固定です。すべてのトレースファイルにトレースが書き込まれると、いちばん古いトレースファイルから順に新しいトレースが上書きされます。

-systfn トレースファイル数

トレースファイルの数を設定します。2～64の値を指定します。トレースファイルサイズの指定と合わせて、採取できるトレースの合計サイズの最大値は1024000KBです。なお、設定されている値よりも小さい値を指定した場合、実行を確認するKAPL01097-Wのメッセージが表示されてトレースファイルはいったん削除されます。ファイル数を設定できるトレースファイルは、hdlmtr[1-64].logです。

-pchk {on [-intvl チェック間隔]|off}

パスヘルスチェック機能を有効、または無効にします。

on : 有効

off : 無効

パスヘルスチェックの対象となるのは、「Online」状態のパスです。待機系ホストや、SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズのストレージシステムに接続しているホストでは、I/O が発行されないパスの障害を検出するために、パスヘルスチェック機能を有効にすることをお勧めします。「on」を指定した場合、パスヘルスチェックのチェック間隔を、後続パラメタで指定します。チェック間隔の指定を省略した場合、チェック間隔は次のとおりになります。

- これまでにチェック間隔を一度も指定していない場合
30分間隔（デフォルトの設定）になります。
- これまでにチェック間隔を指定している場合
前回指定したチェック間隔になります。

パスヘルスチェックのチェック間隔を指定する後続パラメタの形式を、次に示します。

-intvl チェック間隔

パスヘルスチェックのチェック間隔を、分単位で指定します。使用している環境に合わせて1~1440の値を指定します。チェック間隔を変更した場合、変更後のチェック間隔が直ちに有効になります。チェック間隔を短くした場合、前回のパスヘルスチェックの実行終了時から、すでに変更後のチェック間隔を経過しているときには、直ちにパスヘルスチェックが始まります。このパラメタで設定したチェック間隔は、-pchk offを指定してパスヘルスチェック機能を無効にしても、記憶されています。そのため、再度パスヘルスチェック機能を有効にし、チェック間隔を指定しなかった場合、記憶されているチェック間隔でパスヘルスチェックが実行されます。

-afb {on [-intvl チェック間隔]|off}

障害パスの自動フェイルバック機能を有効、または無効にします。

on : 有効

off : 無効

自動フェイルバック機能を有効にすると、保守作業などのためにユーザが意識的に障害状態にしていたパスが、自動的に稼働状態になってしまうことがあります。また、ストレージやパスで間欠障害が発生した場合、パスの状態が、閉塞状態と稼働状態を繰り返すため、I/Oの性能が低下することがあります。

自動フェイルバックの対象となるのは、障害が発生してKAPL08022-Eのメッセージが出力されたパス、およびHDLMマネージャの起動時に障害となっているパスです。間欠障害が発生したときのI/O性能の低下を防ぐため、自動フェイルバックを有効にする場合は、間欠障害監視を有効にすることをお勧めします。間欠障害監視は、自動フェイルバックが有効なときにだけ設定できます。自動フェイルバックと間欠障害監視の設定の関係については、「表 6-5 自動フェイルバックおよび間欠障害監視の設定状況と、実行できる操作の関係」を参照してください。

「on」を指定した場合、パスの状態を確認するチェック間隔を後続パラメタで指定します。チェック間隔の指定を省略した場合、チェック間隔は次のとおりになります。

- これまでにチェック間隔を一度も指定していない場合
1分間隔（デフォルトの設定）になります。
- これまでにチェック間隔を指定している場合
前回指定したチェック間隔になります。

パスの状態確認のチェック間隔を指定する後続パラメタの形式を、次に示します。

-intvl チェック間隔

パスの状態確認の終了から、次のパスの状態確認を開始するまでのチェック間隔を、分単位で指定します。1~1440の値を指定します。デフォルト値は「1」です。システムの運用方法に合わせて設定してください。

間欠障害監視の設定が「on」で障害発生回数が「2」以上の場合、次の条件が満たされている必要があります。

間欠障害の障害監視時間 >=
自動フェイルバックのチェック間隔×間欠障害監視で指定する障害発生回数

この条件が満たされない場合は KAPL01080-W エラーになります。エラーになった場合は、自動フェイルバックのチェック間隔、間欠障害の監視時間、または間欠障害監視で指定する障害発生回数のどれかを変更してください。

障害発生回数に「1」を指定した場合、上記の条件を満たす必要はありません。

チェック間隔を変更した場合、変更後のチェック間隔が直ちに有効になります。チェック間隔を短くした場合、前回のパスの状態確認が終了したときから、すでに変更後のチェック間隔を経過しているときには、直ちにパスの状態確認が始まります。

このパラメタで設定したチェック間隔は、-afb off を指定して自動フェイルバック機能を無効にしても、記憶されています。そのため、再度自動フェイルバック機能を有効にし、チェック間隔を指定しなかった場合、記憶されているチェック間隔でパスの状態確認が実行されます。

HDLM 03-00, または 03-01 から 05-00 以降に更新した場合の自動フェイルバックのデフォルト

HDLM 03-00, または 03-01 がインストールされていて、-pchk パラメタに on が設定されている環境にアップグレードインストールした場合、-afb パラメタには on が設定されたものと仮定されます。-intvl のパラメタ値は、-pchk パラメタのチェック間隔と同じになります。

-iem {on [-intvl 障害監視時間] [-iemnum 障害発生回数] |off}

間欠障害監視を有効、または無効にします。

on : 有効

off : 無効

間欠障害監視は、自動フェイルバックが「on」のときにだけ設定できます。間欠障害が発生したときの I/O 性能の低下を防ぐため、自動フェイルバックを有効にする場合は、間欠障害監視を有効にすることをお勧めします。「on」を指定した場合、障害監視時間および障害発生回数を、後続パラメタで指定します。間欠障害の監視が開始されてから指定した時間が経過するまでの間に、指定した回数の障害が発生した場合に、該当するパスに間欠障害が発生していると見なします。間欠障害が発生していると見なされたパスは、自動フェイルバックの対象外になります。間欠障害監視は、パスごとに実施されます。また、間欠障害監視は、自動フェイルバックによってパスが障害から回復した時点から開始されます。

障害監視時間または障害発生回数の指定を省略した場合、それぞれの値は次のとおりになります。

- これまでに障害監視時間または障害発生回数を一度も指定していない場合
障害監視時間は 30 分、障害発生回数は 3 回になります。
- これまでに障害監視時間または障害発生回数を指定している場合
前回指定した値になります。

障害監視時間と障害発生回数の設定値は障害発生回数が「2」以上の場合、次の条件を満たしている必要があります。

間欠障害の障害監視時間 >=
自動フェイルバックのチェック間隔×間欠障害監視で指定する障害発生回数

この条件が満たされない場合は KAPL01080-W エラーになります。エラーになった場合は、自動フェイルバックのチェック間隔、間欠障害の監視時間、または間欠障害監視で指定する障害発生回数のどれかを変更してください。

障害発生回数が「1」の場合、上記の条件を満たす必要はありません。

間欠障害の監視時間と障害の発生回数を指定する後続パラメタの形式を、次に示します。

-intvl 障害監視時間

間欠障害の監視時間を分単位で指定します。1～1440 の値を指定します。デフォルト値は「30」です。

間欠障害の監視中に障害監視時間を変更した場合、変更前までにカウントされた障害発生回数、および監視を開始してから経過した時間が 0 に初期化されます。そして、変更後の設定で監視が開始されます。間欠障害の監視時間外に障害監視時間を変更した場合、次に自動フェイルバックが成功した時点から、変更後の障害監視時間が有効になります。監視時間外は障害発生回数はカウントされていないため、回数の変更はありません。

このパラメタで設定した障害監視時間は、-iem off を指定して間欠障害監視を無効にしても記憶されています。そのため、再度間欠障害監視を有効にし、障害監視時間を指定しなかった場合、記憶されている障害監視時間で間欠障害監視が実行されます。

-iemnum 障害発生回数

障害の発生回数を指定します。1～99 の値を指定します。デフォルト値は「3」です。

間欠障害の監視中に障害発生回数を変更した場合、変更前までにカウントされた障害発生回数、および監視を開始してから経過した時間が 0 に初期化されます。そして、変更後の設定で監視が開始されます。間欠障害の監視時間外に障害発生回数を変更した場合、次に自動フェイルバックが成功した時点から変更後の障害発生回数が有効になります。監視時間外は障害発生回数はカウントされていないため、回数の変更はありません。

このパラメタで設定した障害発生回数は、-iem off を指定して間欠障害監視を無効にしても、記憶されています。そのため、再度、間欠障害監視を有効にし、障害発生回数を指定しなかった場合、記憶されている障害発生回数で間欠障害監視が実行されます。

間欠障害の監視中に set -iem on オペレーションを実行した場合、障害監視時間または障害発生回数を変更していなくても、それまでにカウントされた障害発生回数、および監視を開始してから経過した時間が初期化されます。間欠障害監視は継続されます。

間欠障害監視を「on」に設定しているときに、自動フェイルバックを「off」に設定すると、間欠障害監視は無効になります。ただし、view -sys オペレーションで HDLM の機能の設定情報を表示した場合、間欠障害監視 (Intermittent Error Monitor) の設定は「on」と表示されます。再度自動フェイルバックを「on」に設定すると、間欠障害監視が有効になります。

自動フェイルバックおよび間欠障害監視について実行できる操作は、それらの機能の設定状況に依存します。自動フェイルバックおよび間欠障害監視の設定状況と、それらの機能について実行できる操作の関係を、次の表に示します。

表 6-5 自動フェイルバックおよび間欠障害監視の設定状況と、実行できる操作の関係

設定状況		実行できる操作	操作の結果
AFB	IEM		
on	on	AFB を「on」にする	AFB と IEM の動作には変化なし
		AFB の設定値を変更する	AFB は変更後の設定で動作する※1
		AFB を「off」にする	<ul style="list-style-type: none"> AFB および IEM が無効になる カウントされた障害発生回数、監視経過時間、および自動フェイルバック対象外の情報が初期化される
		IEM を「on」にする	<ul style="list-style-type: none"> 間欠障害監視中のパスは、カウントされた障害発生回数と監視経過時間が「0」に初期化され、改めて間欠障害監視が開始される 間欠障害監視時間外のパスは、変化なし
		IEM の設定値を変更する	<ul style="list-style-type: none"> 間欠障害監視中のパスは、カウントされた障害発生回数と監視経過時間が「0」に初期化され、変更後の監視条件に従って、改めて間欠障害監視が開始される※1

設定状況		実行できる操作	操作の結果
AFB	IEM		
			<ul style="list-style-type: none"> 間欠障害監視時間外のバスは障害発生後、自動フェイルバックによって回復したときから設定値が有効となる
		IEMを「off」にする	<ul style="list-style-type: none"> IEMが無効になる カウントされた障害発生回数、監視経過時間、および自動フェイルバック対象外の情報が初期化される
	off	AFBを「on」にする	AFBとIEMの動作には変化なし
		AFBの設定値を変更する	AFBは変更後の設定で動作する
		AFBを「off」にする	AFBが無効になる
		IEMを「on」にする	IEMが有効になる※1
	off	on※2	AFBを「on」にする
AFBを「off」にする			AFBとIEMの動作には変化なし
off		AFBを「on」にする	AFBが有効になる
		AFBを「off」にする	AFBとIEMの動作には変化なし

(凡例)

AFB：自動フェイルバック

IEM：間欠障害監視

注※1

自動フェイルバックのチェック間隔の設定値と間欠障害監視の設定値の条件を満たさない場合、KAPL01080-W エラーになります。KAPL01080-W エラーとなった場合は間欠障害監視状態に変化はありません。

注※2

自動フェイルバックの設定が「off」なので、間欠障害監視は無効です。

使用例

間欠障害監視を有効にする場合

```
PROMPT>dlnkmgr set -iem on -intvl 20 -iemnum 2
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。よろしいですか? [y/n] : y
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = set, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

-lic

ライセンスを更新する場合に指定します。ライセンスは、ライセンスキーまたはライセンスキーファイルで提供されます。ライセンスキーファイルは、ライセンスキーを格納したファイルです。

ライセンスキーファイルを使用する場合

ライセンスキーファイルを、Windows がインストールされたドライブの直下に「hdlm_license」という名称で格納してから、set -lic オペレーションを実行します。ライセンスキーファイルに記述されているライセンスキーの種別に応じて、ライセンスキーが登録された旨のメッセージが出力されます。一時または非常ライセンスの場合は、期限満了日も表示されます (KAPL01071-I, KAPL01072-I)。

ライセンスキーファイルを使用しない場合

set -lic オペレーションを実行すると、ユーザにライセンスキーの入力を求める KAPL01068-I のメッセージが出力されます。それに対して、ライセンスキーを入力します。入力したライセンスキーの種別に応じて、ライセンスキーが登録された旨のメッセージが表示されます。一時または非常ライセンスの場合は、期限満了日も表示されます (KAPL01071-I, KAPL01072-I)。

ライセンスキーの種別を次の表に示します。

表 6-6 ライセンスキー種別

種類	説明
永久ライセンスキー	永久的な製品の使用を可能とするためのライセンスキーです。
一時ライセンスキー※	ユーザが製品の評価などを行う場合に使用するライセンスキーです。期間には、「120」(120 日間)が、インストール時に設定されます。一時ライセンスキーは再利用できません。
非常ライセンスキー	永久ライセンスキー発行が間に合わない場合などに、一時的に使用するライセンスキーです。期間には「30」(30 日間)が、インストール時に設定されます。非常ライセンスキーは再利用できません。

注※

一時ライセンスキーは、set オペレーションでインストールできません。

使用例 1

ライセンスキーを更新する場合 (ライセンスキーファイルがあるとき)

```
PROMPT>dlnkmgr set -lic
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。よろしいですか? [y/n] : y
KAPL01071-I 永久ライセンスがインストールされました。
PROMPT>
```

使用例 2

ライセンスキーを更新する場合 (ライセンスキーファイルがないとき)

```
PROMPT>dlnkmgr set -lic
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。よろしいですか? [y/n] : y
KAPL01083-I ライセンスキーファイルがありません。ファイル名 = Windows のインストール先ドライブ:%hdlm_license
KAPL01068-I ライセンスキーを入力して下さい:*****
KAPL01071-I 永久ライセンスがインストールされました。
PROMPT>
```

-rmlu { on [-force] | off }

LU の動的削除機能を有効, または無効にします。

on : 有効

off : 無効

LU の動的削除機能の動作を指定する後続パラメタの形式を, 次に示します。

-force

LU に対するすべてのパスが切断された場合, Offline(C)を含むパスがあるときも, HDLM の管理対象から LU を削除します。

LU の動的削除機能の詳細については, 「4.7.2 LU を動的に削除する」を参照してください。

LU の動的削除機能の設定値とその説明を次の表に示します。

表 6-7 LU の動的削除機能の設定値

設定値	説明
off	LU に対するすべてのパスで障害が発生した場合、すべてのパスが切断された場合、および LU が削除された場合にも、HDLM の管理対象から LU は削除されません。パスは Offline(E)および Online(E)の状態となります。これは、05-01 以前の HDLM と同等の動作です。 LU の動的削除機能を使用しないで、05-01 以前の HDLM と同等の機能を使用したい場合は、off を設定することをお勧めします。
on	LU に対するすべてのパスが切断された場合、HDLM の管理対象から LU を削除します。ただし、切断されているパスの中に Offline(C)を含むパスがある場合は、HDLM の管理対象から LU は削除しません。 削除された LU は、物理的な障害を修復して、ディスクの再スキャンをすることで復旧します。
on -force	LU に対するすべてのパスが切断された場合、Offline(C)を含むパスがあるときも、HDLM の管理対象から LU を削除します。削除された LU は、物理的な障害を修復して、ディスクの再スキャンをすることで復旧します。

-audlog {on [-audlv 監査ログ採取レベル] [-category [[ss] [a] [ca]|all]]|off}

監査ログの採取を指定します。

on : 採取する

off : 採取しない

-audlv 監査ログ採取レベル

監査ログとして採取する重要度 (Severity) のレベルを設定します。設定値を次の表に示します。デフォルトの設定値は「6」です。

表 6-8 監査ログ採取レベルの設定値

設定値 (重要度)	説明
0	Error レベルの監査ログを採取します。
1	
2	
3	
4	Error, および Warning レベルの監査ログを採取します。
5	
6	Error, Warning, および Information レベルの監査ログを採取します。
7	

-category [[ss] [a] [ca]|all]

監査ログとして採取する種別を設定します。設定値を次の表に示します。デフォルトの設定値は「all」です。-category を指定して設定値を省略した場合は「all」が指定されたものと見なされます。

表 6-9 監査ログ種別の設定値

設定値	説明
ss	StartStop の監査ログ事象を採取します。
a	Authentication の監査ログ事象を採取します。
ca	ConfigurationAccess の監査ログ事象を採取します。

設定値	説明
all	StartStop, Authentication, および ConfigurationAccess の監査ログ事象を採取します。

-lbpathusetimes 同一パス使用回数

ロードバランスのアルゴリズムに、ラウンドロビン (rr), 最少 I/O 数 (lio), または最少ブロック数 (lbk) を適用する場合、I/O に同一のパスを使用する回数を指定します。

10 進数で 0~999999 の値を指定できます。デフォルトの設定値は「1」です。0 を指定すると、ロードバランス機能を無効にした場合と同じです。

-expathusetimes 同一パス使用回数

ロードバランスのアルゴリズムに、拡張ラウンドロビン (exrr), 拡張最少 I/O 数 (exlio), または拡張最少ブロック数 (exlbk) を適用する場合、シーケンシャル I/O に同一のパスを使用する回数を指定します。

10 進数で 0~999999 の値を指定できます。デフォルトの設定値は「100」です。0 を指定すると、シーケンシャル I/O が続く間は同一パスを使い続けます。

-dpc {on|off} [-pathid パス ID -lu | -pathid パス ID -storage]

ストレージシステム単位または LU 単位でダイナミック I/O パスコントロール機能を有効、または無効にします。デフォルト値は「off」です。

on : 有効

off : 無効

-pathid パス ID -lu

ダイナミック I/O パスコントロール機能の有効または無効を LU 単位に設定します。目的の LU に接続されているパス ID のうちどれか 1 つを指定します。

-pathid パス ID -storage

ダイナミック I/O パスコントロール機能の有効または無効をストレージシステム単位に設定します。目的のストレージシステムに接続されているパス ID のうちどれか 1 つを指定します。

-pathid パラメタを指定しない場合は、システム単位の設定となり、ストレージシステム単位または LU 単位の設定はクリアされます。

-dpcintvl チェック間隔

ダイナミック I/O パスコントロール機能の、ストレージシステム側で行われるコントローラ切り替え情報を見直すチェック間隔を、分単位で指定します。1~1440 の値を指定します。デフォルト値は「10」です。

-s

コマンド実行の確認メッセージを表示しないで実行します。シェルスクリプトやバッチファイルでコマンドを実行する場合など、確認メッセージへの入力を省略したいときに指定します。

(2) set オペレーションの形式を表示する場合

-help

set オペレーションの形式が表示されます。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr set -help
```

```

set:
  Format
    dlncmgr set { -lb on [ -lbtype { rr | exrr | lio | exlio | lbk |
exlbnk } ]
        | -lb off
        | -ellv ElogLevel
        | -elfs ElogFileSize
        | -elfn Number-Of-ElogFiles
        | -systflv TraceLevel
        | -systfs TraceFileSize
        | -systfn Number-Of-TraceFiles
        | -pchk on [ -intvl Interval-Time ]
        | -pchk off
        | -afb on [ -intvl Interval-Time ]
        | -afb off
        | -iem on
          [ -intvl Error-Monitor-Interval ]
          [ -iemnum Number-Of-Times ]
        | -iem off
        | -lic
        | -rmlu on [ -force ]
        | -rmlu off
        | -audlog on
          [ -audlv AudlogLevel ]
          [ -category Category-Value ]
        | -audlog off
        | -lbpathusetimes Number-Of-PathUseTimes
        | -expathusetimes Number-Of-ExPathUseTimes
        | -dpc { on | off } [-pathid AutoPATH_ID { -lu | -
storage } ]
        | -dpcintvl Dpc-Interval
        }
[-s]

Valid value
  ElogLevel           { 0 | 1 | 2 | 3 | 4 } (Default Value 3)
  ElogFileSize        { 100 - 2000000 } (KB) (Default Value 9900)
  Number-Of-ElogFiles { 2 - 16 } (Files) (Default Value 2)
  TraceLevel          { 0 | 1 | 2 | 3 | 4 } (Default Value 0)
  TraceFileSize       { 100 - 16000 } (KB) (Default Value 1000)
  Number-Of-TraceFiles { 2 - 64 } (Files) (Default Value 4)
  Interval-Time       { 1 - 1440 } (Minute) (Default Value 30)
  (pchk)
  Interval-Time       { 1 - 1440 } (Minute) (Default Value 1)
  (afb)
  Error-Monitor-Interval { 1 - 1440 } (Minute) (Default Value 30)
  Number-Of-Times      { 1 - 99 } (Times) (Default Value 3)
  AudlogLevel          { 0 - 7 } (Default Value 6)
  Category-Value       { [ss] [a] [ca] |
                        all } (Default Value all)
  Number-Of-PathUseTimes { 0 - 999999 } (Times) (Default Value 1)
  Number-Of-ExPathUseTimes { 0 - 999999 } (Times) (Default Value 100)
  AutoPATH_ID          { 000000 - 999999 } (Decimal)
  Dpc-Interval         { 1 - 1440 } (Minute) (Default Value 10)
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = set, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

6.7 view 情報を表示する

HDLM のプログラム情報、パス情報、および LU 情報を表示します。ダイナミックディスクへの I/O の負荷が高いときに view オペレーションを実行すると、応答に時間が掛かることがあります。

6.7.1 形式

(1) プログラム情報を表示する場合

```
dlncmgr view -sys
```

```
[-sfunc|-msrv|-adv|-pdrv|-lic|-audlog|-lbpathusetimes|-  
expathusetimes]  
[-t]
```

(2) パス情報を表示する場合

パス情報表示

```
dlnkmgr view -path  
[-hdev ホストデバイス名]  
[-stname]  
[-iem]  
[-srt {pn|lu|cp}]  
[-hbaportwnn]  
[-t]
```

パス情報表示（表示項目を選択する場合）

```
dlnkmgr view -path -item  
[pn] [dn] [lu] [cp] [type] [ic] [ie] [dnu] [hd] [iep] [hbaportwnn]  
[vid]  
[-hdev ホストデバイス名]  
[-stname]  
[-srt {pn|lu|cp}]  
[-t]
```

パス情報の概略表示

```
dlnkmgr view -path -c  
[-stname]  
[-srt {lu|cp}]  
[-t]
```

(3) LU 情報を表示する場合

LU 情報表示

```
dlnkmgr view -lu  
[-hdev ホストデバイス名|-pathid パス管理 PATH_ID]  
[-t]
```

LU 情報表示（表示項目を追加する場合）

```
dlnkmgr view -lu -item  
[ [slpr] [pn] [cp] [clpr] [type] [ic] [ie] [dnu] [iep] [dpc] [vid]  
[all] ]  
[-hdev ホストデバイス名|-pathid パス管理 PATH_ID]  
[-t]
```

LU 情報の概略表示

```
dlnkmgr view -lu -c
```


[-t]

LU情報の概略表示（表示項目を追加する場合）

```
dlmkmgr view -lu -c -item  
[slpr]  
[-t]
```

(4) view オペレーションの形式を表示する場合

```
dlmkmgr view -help
```

6.7.2 パラメタ

ここでは、view オペレーションのパラメタを次の順に説明します。

- (1) プログラム情報を表示する場合
- (2) パス情報を表示する場合
- (3) LU情報を表示する場合
- (4) view オペレーションの形式を表示する場合

(1) プログラム情報を表示する場合

```
-sys [-sfunc|-msrv|-adrv|-pdrv|-lic|-audlog|-lbpashtimes|-  
expashtimes]
```

HDLM のプログラム情報が表示されます。

後続パラメタで、情報を表示する対象を指定します。後続パラメタを省略した場合は、監査ログ採取の設定情報、ロードバランスの同一パス使用回数、および拡張ロードバランスの同一パス使用回数を除くすべてのプログラム情報が表示されます。指定するパラメタ、表示される情報、表示される項目、およびその説明を「表 6-10 プログラム情報の表示項目」に示します。

-t

各情報の項目名を表示しません。

表 6-10 プログラム情報の表示項目

パラメタおよび表示される情報	表示項目	説明
-sfunc HDLM の機能設定 情報	HDLM Version	HDLM のバージョン番号です。
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Service Pack Version	HDLM の SP バージョン番号です。SP がインストールされていない場合は、空白です。
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Load Balance	ロードバランス機能の設定状態です。 <ul style="list-style-type: none">• 設定状態 on : 有効 off : 無効• アルゴリズム 設定状態が on の場合, on のあとの()にロードバランスのアルゴリズムを表示します。 rr : ラウンドロビン extended rr : 拡張ラウンドロビン lio : 最少 I/O 数

パラメタおよび表示される情報	表示項目	説明
		extended lio : 拡張最少 I/O 数 lbk : 最少ブロック数 extended lbk : 拡張最少ブロック数
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Support Cluster	クラスタ対応機能の設定状態※, およびクラスタサーバの種類です。 <ul style="list-style-type: none"> on MSCS : クラスタサーバに MSCS を使用している off : クラスタサーバに MSCS 以外のクラスタソフトウェアを使用しているか, またはクラスタ環境ではない
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Elog Level	障害ログ採取レベルです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 : 障害ログを採取しない 1 : Error レベル以上の障害情報を採取する 2 : Warning レベル以上の障害情報を採取する 3 : Information レベル以上の障害情報を採取する 4 : Information レベル (保守情報も含む) 以上の障害情報を採取する
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Elog File Size(KB)	障害ログファイルのサイズです。単位は「キロバイト」です。
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Number Of Elog Files	障害ログファイル数です。
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Trace Level	トレースの出力レベルです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 : トレースを出力しない 1 : エラー情報だけ出力する 2 : プログラムの動作概略を出力する 3 : プログラムの動作詳細を出力する 4 : すべての情報を出力する
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Trace File Size(KB)	トレースファイルのサイズです。単位は「キロバイト」です。
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Number Of Trace Files	トレースファイル数です。
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Path Health Checking	パスヘルスチェック機能の設定状態です。 <ul style="list-style-type: none"> 設定状態 on : 有効 off : 無効 チェック間隔 設定状態が on の場合, on のあとの() にパスヘルスチェックを実行するチェック間隔を表示します。単位は「分」です。
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Auto Failback	自動フェイルバック機能の設定状態です。 <ul style="list-style-type: none"> 設定状態 on : 有効 off : 無効 チェック間隔 設定状態が on の場合, on のあとの() に, パスの状態を確認するチェック間隔を表示します。単位は「分」です。
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Remove LU	LU の動的削除機能の設定状態です。 on : 有効 off : 無効
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Intermittent Error Monitor	間欠障害監視の設定状態です。 <ul style="list-style-type: none"> 設定状態 on : 有効 off : 無効

パラメタおよび表示される情報	表示項目	説明
		<p>自動フェイルバックが「off」の場合、間欠障害監視に「on」が表示されていても、監視は無効です。自動フェイルバックが「on」になったときに間欠障害監視が有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害監視時間および障害発生回数 <p>設定状態が on の場合、on のあとの()に、設定した障害監視時間および障害発生回数が、「障害発生回数 / 障害監視時間」の形式で表示されます。単位は「回」と「分」です。</p>
-sfunc HDLM の機能設定 情報	Dynamic I/O Path Control	<p>ダイナミック I/O バスコントロール機能の設定状態です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定状態 on : 有効 off : 無効 チェック間隔 <p>設定状態のあとの()に、ストレージシステム側で行われるコントローラ切り替え情報を見直すチェック間隔を表示します。単位は「分」です。</p> <p>ストレージシステム単位または LU 単位ごとに異なる設定をしていた場合は、チェック間隔の()のあとに「*」が付加されます。</p>
-msrv HDLM マネージャ の情報	HDLM Manager	<p>HDLM マネージャの状態です。 Alive : 正常 Dead : 停止</p>
	Ver	HDLM マネージャのバージョン番号です。
	WakeupTime	HDLM マネージャの起動時刻です。
-adrv HDLM アラートド ライバの情報	HDLM Alert Driver	<p>HDLM アラートドライバの状態です。 Alive : 正常 Dead : 停止</p>
	Ver	HDLM アラートドライバのバージョン番号です。
	WakeupTime	HDLM アラートドライバの起動時刻です。
	ElogMem Size	HDLM アラートドライバの障害ログメモリのサイズです。単位は「キロバイト」です。
-pdrv HDLM ドライバの 情報	HDLM Driver	<p>HDLM ドライバの状態です。 Alive : 正常 Dead : 停止</p>
	Ver	HDLM ドライバのバージョン番号です。
	WakeupTime	HDLM ドライバの起動時刻です。
-lic HDLM のライセン ス情報	License Type	<p>ライセンスの種別です。</p> <ul style="list-style-type: none"> Permanent : 永久ライセンス Temporary : 一時ライセンス Emergency : 非常ライセンス
	Expiration	<p>ライセンスの期限です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 永久ライセンスの場合 : - 一時ライセンスまたは非常ライセンスの場合 : ライセンスの期限が <code>yyyy/mm/dd(n days after)</code> の形式で表示されます。ライセンスの期限まで <i>n</i> 日ある場合に <code>view -sys -lic</code> オペレーションを実行したときは、「(n days after)」と表示されます。 <p>ライセンス期限の満了日 (2006年08月21日) まであと100日ある場合の表示例</p> <p>Expiration 2006/08/21(100days after)</p>
-audlog 監査ログ採取の設定 情報	Audit Log	<p>監査ログ採取の設定状態です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定状態 on : 採取する off : 採取しない 監査ログ採取レベル

パラメータおよび表示される情報	表示項目	説明
		設定状態が on の場合、on のあとの()に、設定した採取レベルが表示されます。採取レベルは重要度 (Severity) を示し、0~7 で表示されます。
-audlog 監査ログ採取の設定情報	Audit Log Category	監査ログの出力対象となっている種別を表示します。種別を表す文字列が「,」で区切って表示されます。 ss : StartStop a : Authentication ca : ConfigurationAccess 上記のすべての種別が設定されている場合は「all」が表示されます。 監査ログ採取をしない設定の場合は「-」が表示されます。
-lbpatusetimes ロードバランスの同一パス使用回数	Times Same Path Was Used	ロードバランスのアルゴリズムに、ラウンドロビン (rr), 最少 I/O 数 (lio), または最少ブロック数 (lbk) を適用する場合、I/O に同一のパスを使用する回数です。 Global Link Manager を使用して LU 単位で同一パス使用回数を設定している場合は、値のあとに「*」が付きます。
-expathusetimes 拡張ロードバランスの同一パス使用回数	Times Same ExPath Was Used	ロードバランスのアルゴリズムに、拡張ラウンドロビン (exrr), 拡張最少 I/O 数 (exlio), または拡張最少ブロック数 (exlbk) を適用する場合、シーケンシャル I/O に同一のパスを使用する回数です。 Global Link Manager を使用して LU 単位で同一パス使用回数を設定している場合は、値のあとに「*」が付きます。

注※

HDLM は、HDLM マネージャ起動時に自動的にクラスタ構成を認識します。

使用例

使用例 1

HDLM の機能設定情報を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -sfunc
HDLM Version                : x.x.x-xx
Service Pack Version        :
Load Balance                 : on(extended lio)
Support Cluster              : off
Elog Level                   : 3
Elog File Size(KB)          : 9900
Number Of Elog Files        : 2
Trace Level                  : 0
Trace File Size(KB)         : 1000
Number Of Trace Files       : 4
Path Health Checking         : on(30)
Auto Failback                : off
Remove LU                   : on
Intermittent Error Monitor   : off
Dynamic I/O Path Control    : off(10)
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

使用例 2

HDLM マネージャの情報を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -msrv
HDLM Manager Ver            WakeupTime
Alive x.x.x-xx yyyy/mm/dd hh:mm:ss
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻
```

```
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>
```

使用例 3

HDLM アラートドライバの情報を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -adrv  
HDLM Alert Driver Ver      WakeupTime      ElogMem Size  
Alive      x.x.x-xx      yyyy/mm/dd hh:mm:ss 128  
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻  
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>
```

使用例 4

HDLM ドライバの情報を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -pdrv  
HDLM Driver Ver      WakeupTime  
Alive      x.x.x-xx      yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻  
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>
```

使用例 5

HDLM のライセンス情報を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -lic  
License Type Expiration  
Permanent      -  
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻  
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>
```

使用例 6

監査ログの設定情報を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -audlog  
Audit Log      : off  
Audit Log Category      : -  
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻  
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>
```

使用例 7

ロードバランスの同一パス使用回数を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -lbpathusetimes  
Times Same Path Was Used      : 1  
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻  
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>
```

使用例 8

拡張ロードバランスの同一パス使用回数を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -expathusetimes  
Times Same ExPath Was Used      : 100  
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻  
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>
```

(2) パス情報を表示する場合

パス情報を表示する場合、-path パラメタと同時に-item パラメタや-c パラメタを指定すると、項目を選択して表示したり、パス情報の概略を表示したりできます。ここでは、それぞれのパラメタの説明をしたあとに、パス情報の表示項目を説明します。

パス情報表示

-path

-path パラメタと同時に、-c パラメタ、-item パラメタのどちらも指定しない場合、表示項目の短縮や選択を行わないで、HDLM が管理するパスの情報が表示されます。後続パラメタで表示するパスを絞り込んだり (-hdev)、パスの情報をソートしたり (-srt) できます。-hdev パラメタ、および-srt パラメタを省略した場合は、すべてのパスの情報がパス管理 PATH_ID 順に表示されます。

各表示項目の内容については、「表 6-12 パス情報の表示項目」を参照してください。

-path パラメタを指定した場合に表示されるパス管理 PATH_ID (PathID) は、ホスト起動時のパス検出の順番によって変わります。このため、パスを特定する場合は、必ずパス名 (PathName) を使用してください。

後続パラメタの形式を次に示します。

-hdev ホストデバイス名

指定したホストデバイスにアクセスするパスの情報だけが表示されます。

ホストデバイス名をドライブレターで指定します。ドライブレターが割り当てられていない場合、指定はできません。英字の大文字、小文字は区別されます。KAPL01064-W または KAPL01013-E のメッセージを出力して終了した場合は、それぞれのメッセージの対処に従ってください。

-stname

プロダクト ID にストレージシステムのモデル ID が表示されます。指定しない場合は、プロダクト ID、またはエミュレーションタイプが表示されます。

プロダクト ID の表示内容については、「表 6-14 プロダクト ID の表示内容」を参照してください。

-iem

パス情報の項目に IEP が追加され、間欠障害に関する情報が表示されます。

-srt {pn|lu|cp}

パス情報が、指定したキーで昇順にソートして表示されます。

パス情報は、ストレージシステム名 (DskName) を第 1 キー、-srt パラメタで指定した項目を第 2 キー、パス管理 PATH_ID を第 3 キーとしてソートされます。第 2 キーとして指定できる項目は、パス名 (pn)、ストレージシステム内の LU 番号 (lu)、または CHA ポート番号 (cp) です。

-srt パラメタを省略した場合、パス情報はパス管理 PATH_ID 順に表示されます。

-hbaportwnn

ストレージシステムと接続している HBA のポート WWN 情報が表示されます。

-t

各情報の項目名が非表示になります。

使用例

ホストデバイス「f」にアクセスするパス情報を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr view -path -hdev f
Paths:000002 OnlinePaths:000002
PathStatus IO-Count IO-Errors
Online      1486      0

PathID PathName          DskName          iLU  ChaPort
Status Type IO-Count  IO-Errors DNum HDevName
000000 0004.0001.0000000000000000.0001 HITACHI .DF600F .0051 0005 0A
Online Own      1427      0 0 F
000003 0005.0001.000000000000007A.0001 HITACHI .DF600F .0051 0005 1A
Online Non      59        0 0 F
KAPLO1001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>

```

パス情報表示（表示項目を選択する場合）

-path -item

-path パラメタと同時に-item パラメタを指定した場合、HDLM が管理するパスの情報のうち、-item のパラメタ値で指定した項目だけを表示します。

-item パラメタでパラメタ値を何も指定しないで実行した場合、PathID と Status だけが表示されます。

-item パラメタで選択できる表示項目と、-item パラメタの後続に指定するパラメタ値との対応を次の表に示します。

表 6-11 -path -item パラメタで選択できる表示項目と指定する後続パラメタ

選択できる表示項目	後続パラメタ
PathID※	なし
PathName	pn
DskName	dn
iLU	lu
ChaPort	cp
Status※	なし
Type	type
IO-Count	ic
IO-Errors	ie
DNum	dnu
HDevName	hd
IEP	iep
HBAPortWWN	hbaportwwn
Physical-DskName	vid
Physical-iLU	vid
Physical-ChaPort	vid

注※

PathID と Status は常に表示される項目なので、パラメタ値の指定は不要です。

また、後続パラメタで表示するパスを絞り込んだり（-hdev）、情報をソートしたり（-srt）できます。-hdev パラメタおよび-srt パラメタを省略した場合は、すべてのパスの情報がパス管理 PATH_ID 順に表示されます。

後続パラメタの形式を次に示します。

-hdev ホストデバイス名

指定したホストデバイスにアクセスするパスの情報だけが表示されます。

ホストデバイス名をドライブレターで指定します。ドライブレターが割り当てられていない場合、指定はできません。英字の大文字、小文字は区別されます。このパラメタを指定した場合、-item パラメタの値に hd を指定しなくても、HDevName が表示されます。KAPL01064-W または KAPL01013-E のメッセージを出力して終了した場合は、それぞれのメッセージの対処に従ってください。

-stname

プロダクト ID にストレージシステムのモデル ID が表示されます。指定しない場合は、プロダクト ID、またはエミュレーションタイプが表示されます。

プロダクト ID の表示内容については、「表 6-14 プロダクト ID の表示内容」を参照してください。

このパラメタを指定した場合、-item パラメタの値に dn を指定しなくても、DskName が表示されます。

-srt {pn|lu|cp}

パス情報が、指定したキーで昇順にソートして表示されます。

パス情報は、ストレージシステム名 (DskName) を第 1 キー、-srt パラメタで指定した項目を第 2 キー、パス管理 PATH_ID を第 3 キーとしてソートされます。第 2 キーとして指定できる項目は、パス名 (pn)、ストレージシステム内の LU 番号 (lu)、または CHA ポート番号 (cp) です。

-srt パラメタを省略した場合、パス情報はパス管理 PATH_ID 順に表示されます。このパラメタを指定した場合、-item パラメタで指定しなくても、ソートのキー項目が、パス情報として表示されます。

-t

各情報の項目名が非表示になります。

使用例

パス情報の表示項目のうち IO-Count を選択して、LU で昇順にソートして表示する場合

```
PRCMP>dlknmgr view -path -item ic -srt lu -stname
Paths:000010 OnlinePaths:000010
PathStatus IO-Count IO-Errors
Online 500 0

PathID DskName .SANRISE9500V .0123 iLU Status IO-Count
000003 HITACHI .SANRISE9500V .0123 0180 Online 400
000009 HITACHI .SANRISE9500V .0123 0180 Online 420
000004 HITACHI .SANRISE9500V .0123 0181 Online 410
000010 HITACHI .SANRISE9500V .0123 0181 Online 399
000005 HITACHI .SANRISE9500V .0123 0182 Online 405
000011 HITACHI .SANRISE9500V .0123 0182 Online 405
000000 HITACHI .USP_V .0014050 000050 Online 1005
000006 HITACHI .USP_V .0014050 000050 Online 897
000001 HITACHI .USP_V .0014050 000051 Online 0
000007 HITACHI .USP_V .0014050 000051 Online 0
000002 HITACHI .USP_V .0014050 000052 Online 0
000008 HITACHI .USP_V .0014050 000052 Online 0
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PRCMP>
```

パス情報の概略表示

-path -c

-path パラメタと同時に-c パラメタを指定した場合、HDLM が管理するパスの情報のうち PathID, DskName, iLU, CP, Status, Type だけを表示します。表示内容を短縮して1つのパスの情報が1行で表示されます。

各表示項目の内容については、「表 6-12 パス情報の表示項目」を参照してください。

DskName に表示できるプロダクト ID は、10 文字以下です。プロダクト ID の文字数が 11 文字以上の場合、プロダクト ID の 8 文字目以降は短縮形 (...) で表示されます。

後続パラメタの形式を次に示します。

-stname

プロダクト ID にストレージシステムのモデル ID が表示されます。指定しない場合は、プロダクト ID、またはエミュレーションタイプが表示されます。

プロダクト ID の表示内容については、「表 6-14 プロダクト ID の表示内容」を参照してください。

-srt {lu|cp}

パス情報が、指定したキーで昇順にソートして表示されます。

パス情報は、ストレージシステム名 (DskName) を第 1 キー、-srt パラメタで指定した項目を第 2 キー、パス管理 PATH_ID を第 3 キーとしてソートされます。第 2 キーとして指定できる項目は、ストレージシステム内の LU 番号 (lu)、または CHA ポート番号 (cp) です。-srt パラメタを省略した場合、パス情報はパス管理 PATH_ID 順に表示されます。

-t

各情報の項目名が非表示になります。

使用例

パス情報の概略を iLU の順番に表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -path -c -srt lu
Paths:000012 OnlinePaths:000012
PathStatus IO-Count IO-Errors
Online      1616      0

PathID DskName          iLU      CP Status      Type
000000 HITACHI .DF600F .0051    0005    0A Online     Own
000003 HITACHI .DF600F .0051    0005    1A Online     Non
000001 HITACHI .DF600F .0051    0014    0A Online     Non
000004 HITACHI .DF600F .0051    0014    1A Online     Own
000002 HITACHI .DF600F .0051    0015    0A Online     Non
000005 HITACHI .DF600F .0051    0015    1A Online     Own
000006 HITACHI .OPEN-3 .15001   0005    1E Online     Own
000009 HITACHI .OPEN-3 .15001   0005    2F Online     Own
000007 HITACHI .OPEN-3 .15001   0015    1E Online     Own
000010 HITACHI .OPEN-3 .15001   0015    2F Online     Own
000008 HITACHI .OPEN-3 .15001   0020    1E Online     Own
000011 HITACHI .OPEN-3 .15001   0020    2F Online     Own
KAPLO1001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

パス情報の表示項目

パス情報の表示項目とその説明を「表 6-12 パス情報の表示項目」に示します。表の見出しについて、次に説明します。

- 概略表示しない場合：-path または -path -item パラメタを指定した場合を示します。
- 概略表示する場合：-path -c パラメタを指定した場合を示します。

表 6-12 パス情報の表示項目

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
Paths		表示対象のパスの総数が、10 進数で表示されます。
OnlinePaths		表示対象のパスのうち、稼働状態のパスの数が 10 進数で表示されます。「Paths」の数と「OnlinePaths」の数と同じであれば、すべてのパスが稼働状態です。「OnlinePaths」の数の方が少ない場合、閉塞状態のパスがあります。閉塞状態のパスを確認し、障害が発生していれば対処してください。
PathStatus		表示対象のパスの状態です。 <ul style="list-style-type: none"> Online : すべてのパスを使用できる Reduced : 使用できないパスがある Reduced と表示されている場合、障害が発生しているパスがあるおそれがあります。確認して、障害が発生しているパスがあれば対処してください。
IO-Count		表示対象のすべてのパスの I/O 回数の合計数が、10 進数で表示されます。表示できる最大値は、 $2^{32}-1$ (4294967295) です。最大値を超えた場合、0 から再カウントします。
IO-Errors		表示対象のすべてのパスの I/O 障害回数の合計数が、10 進数で表示されます。表示できる最大値は、 $2^{32}-1$ (4294967295) です。最大値を超えた場合、0 から再カウントします。
PathID		パス管理 PATH_ID が、10 進数で表示されます。 ホストの再起動時に割り当てられます。
PathName ^{※1}	—	パスを表す項目で、パス名と呼びます。システムの構成を変更する場合やハードウェアを交換する場合は、パス名を参照して影響を受けるパスを確認してください。次に示す 4 つの項目をピリオドで区切ったものが、パス名として表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ホストポート番号 (16 進数) パス番号 (16 進数) ターゲット ID (16 進数) ホスト LU 番号 (16 進数) パス名を構成する項目と、各項目の Windows での表現については、「表 6-13」を参照してください。
DskName ^{※1}	DskName	ストレージシステム名です。この名前で、パスがアクセスするストレージシステムを特定できます。 次に示す 3 つの項目をピリオドで区切ったものが、ストレージシステム名として表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ベンダ ID (表示例: HITACHI) : ストレージシステムのベンダ名 プロダクト ID (表示例: DF600F) : ストレージシステムのプロダクト ID, エミュレーションタイプ, またはモデル ID 詳細については、「表 6-14」を参照してください。 シリアル番号 (表示例: 0051) : ストレージシステムのシリアル番号 これらの情報をストレージシステムの管理プログラムで参照すると、物理的にストレージシステムを特定できます。
iLU ^{※1}	iLU	ストレージシステム内の LU 番号が表示されます。 この番号とストレージシステム名(「DskName」に表示)を組み合わせると、パスがアクセスする LU を特定できます。 <ul style="list-style-type: none"> SANRISE2000 シリーズ, SANRISE9900V シリーズ, Hitachi NSC55, Hitachi Universal Storage Platform 100, Hitachi Universal Storage Platform 600, Hitachi Universal Storage Platform 1100, または HUS VM の場合

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
		<p>16進数で表示されます。iLUの先頭2文字はCU (Control Unit) 番号を示し、後ろ2文字はCU内の内部LU番号を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • H10000/H12000, XP10000/XP12000, P9500, SVS, または VP9500 の場合 <p>16進数で表示されます。iLUの先頭3文字はCU (Control Unit) 番号を示し、後ろ2文字はCU内の内部LU番号を示します。CU番号の先頭1文字目は「0」の値が入ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SANRISE9500V シリーズ, Hitachi AMS2000/AMS/TMS/WMS/SMS シリーズ, または HUS100 シリーズの場合 <p>10進数で表示されます。iLU全体がストレージシステム内の内部LU番号になります。iLUをストレージシステムの管理プログラムで参照すると、物理的にLUを特定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Universal Storage Platform V/VM シリーズ, または Hitachi Virtual Storage Platform の場合 <p>16進数で表示されます。iLUの先頭2文字は論理DKC (Disk Controller) 番号を示し、真ん中2文字はCU (Control Unit) 番号を示し、後ろ2文字はCU内の内部LU番号を示します。</p>
ChaPort ^{※1}	CP	CHAポート番号です。この番号でストレージシステムに搭載されているCHAポートを特定できます。この番号をストレージシステムの管理プログラムで参照すると、物理的にCHAポートを特定できます。
Status		<p>パスの状態です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Online : 稼働状態 • Offline(C) : コマンド, HDLM GUI のパス管理ウィンドウでのオフライン操作による閉塞状態 • Offline(E) : 障害による閉塞状態 • Online(E) : 障害が発生している状態 (1つのLUにアクセスするパスのうち、稼働状態 (Online) のパスがない場合、パスの1つが Online(E)になります) • Online(P) : Online のパスに対する offline 実行待ち状態^{※2} • Offline(P) : Offline(E)のパスに対する offline 実行待ち状態^{※2} • Online(EP) : Online(E)のパスに対する offline 実行待ち状態^{※2} <p>Offline(E)または Online(E)のパスについては対処が必要です。「5.3」を参照して対処してください。</p>
Type ^{※1}	Type	<p>パスの属性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Own : オーナパス • Non : ノンオーナパス <p>SANRISE2000 シリーズ, SANRISE9900V シリーズ, Hitachi USP シリーズ, Universal Storage Platform V/VM シリーズ, Virtual Storage Platform シリーズ, Hitachi AMS2000 シリーズ^{※3}, Hitachi SMS シリーズ^{※3}, HUS100 シリーズ^{※3}, または HUS VM に接続している場合、すべてのパスがオーナパスです。</p>
IO-Count ^{※1}	—	<p>パスの I/O 回数の合計数が、10進数で表示されます。表示できる最大値は、$2^{32}-1$ (4294967295) です。最大値を超えた場合、0から再カウントします。</p> <p>IO-Count を 0 にしたい場合は、HDLM コマンドの clear オペレーションを実行してください。clear オペレーションを実行すると、I/O 障害回数 (IO-Errors) も 0 にクリアされます。clear オペレーションの詳細については、「6.2」を参照してください。</p>
IO-Errors ^{※1}	—	<p>パスの I/O 障害回数の合計数が、10進数で表示されます。表示できる最大値は、$2^{32}-1$ (4294967295) です。最大値を超えた場合、0から再カウントします。</p> <p>IO-Errors を 0 にしたい場合は、HDLM コマンドの clear オペレーションを実行してください。clear オペレーションを実行すると、I/O</p>

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
		回数 (IO-Count) も 0 にクリアされます。clear オペレーションの詳細については、「6.2」を参照してください。
DNum ^{※1}	—	LU 全体を示す Dev として「0」が表示されます。
HDevName ^{※1} ^{※4}	—	ホストデバイス名です。ドライブレターが表示されます。ドライブレターが割り当てられていない場合は、「-」(ハイフン)が表示されます。DNum に「0」が表示されていても、HDevName にドライブレターが表示されます。これは、その LU 内に含まれる Dev 中の 1Dev のドライブレターです。
IEP ^{※1}	—	間欠障害に関する情報が表示されます。この項目は、-iem パラメータを指定した場合、または-item パラメータに iep を指定した場合だけ表示されます。1 本のバスにつき、次のどれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • - 間欠障害の監視が無効、または間欠障害の監視時間外 (バスの状態は Online(E), Offline(C), または Offline(E)) • 0 以上の数値 間欠障害の監視中に発生した障害の回数 (バスの状態は Online(E), Offline(E) または Online) • * 間欠障害が発生 (自動フェイルバックの対象外) (バスの状態は Online, Online(E), または Offline(E))
HBAPortWWN ^{※1}	—	ストレージシステムと接続している HBA のポート WWN 情報が 16 桁の 16 進数で表示されます。この項目は、-hbaportwwn パラメータを指定した場合、または-item パラメータに hbaportwwn を指定した場合だけ表示されます。 なお、iSCSI インタフェースの場合は「-」(ハイフン)が表示されます。
Physical-DskName	—	仮想 ID を使用して移行したバスの場合、移行先のバスが接続しているストレージシステム名が表示されます。 次に示す 3 つの項目をピリオドで区切ったものが、ストレージシステム名として表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ベンダ ID : ストレージシステムのベンダ名 • プロダクト ID : ストレージシステムのプロダクト ID, エミュレーションタイプ, またはモデル ID 詳細については、「表 6-14」を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • シリアル番号 : ストレージシステムのシリアル番号 仮想 ID を使用していない場合「-」(ハイフン)が表示されます。
Physical-iLU	—	仮想 ID を使用して移行したバスの場合、移行先のバスが接続しているストレージシステム内での LU 番号が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • HUS VM の場合 16 進数で表示されます。iLU の先頭 2 文字は CU (Control Unit) 番号を示し、後ろ 2 文字は CU 内の内部 LU 番号を示します。 • Hitachi Virtual Storage Platform の場合 16 進数で表示されます。iLU の先頭 2 文字は論理 DKC (Disk Controller) 番号を示し、真ん中 2 文字は CU (Control Unit) 番号を示し、後ろ 2 文字は CU 内の内部 LU 番号を示します。 仮想 ID を使用していない場合「-」(ハイフン)が表示されます。
Physical-ChaPort	—	仮想 ID を使用して移行したバスの場合、移行先のバスが接続している CHA ポート番号が表示されます。 仮想 ID を使用していない場合「-」(ハイフン)が表示されます。

(凡例)

— : 表示されない項目

注^{※1}

-path -item パラメタの場合、パラメタ値に指定したときだけ表示されます。

注※2

クラスタ構成の場合、リザーブ処理中に要求された offline 処理は、リザーブ処理が完了するまで実行待ち状態になります。

注※3

ダイナミック I/O パスコントロール機能を無効にしているときに対象になります。

注※4

ダイナミックディスクのボリュームに割り当てたドライブレターは表示されません。

表 6-13 パス名を構成する項目

項目	Windows での表現
ホストポート番号 (16 進数) (表示例: 0004, 0005)	SCSI Port 番号
バス番号 (表示例: 0001)	SCSI Bus 番号
ターゲット ID (表示例: 0000000000000000, 0000000000000007A)	Target Id
ホスト LU 番号 (表示例: 0001)	Logical Unit Id, または LUN

パス名は、次に示す情報に対応しています。

- ・ [コンピュータの管理] で表示される情報
- ・ 次のレジストリの情報
`HKEY_LOCAL_MACHINE\HARDWARE\DEVICEMAP\Scsi`

注意事項

FC を使用する場合、SCSI のターゲット ID は、HBA の設定に従います。ターゲット ID を知る必要がある場合には、HBA のマニュアルなどを参照してください。

表 6-14 プロダクト ID の表示内容

ストレージシステム	-stname パラメタ 指定なし	表示内容	
		-stname パラメタ指定時 (下記のモデル ID を表示)	
		概略表示しない場合	概略表示する場合
Hitachi AMS2000 シリーズ	プロダクト ID※	AMS	AMS
HUS100 シリーズ	プロダクト ID※	HUS100	HUS100
SANRISE9500V シリーズ	プロダクト ID※	SANRISE 9500V	9500V
Hitachi AMS シリーズ	プロダクト ID※	SANRISE_AMS	AMS
Hitachi TMS シリーズ	プロダクト ID※	SANRISE_AMS	AMS
Hitachi WMS シリーズ	プロダクト ID※	SANRISE_WMS	WMS
Hitachi SMS シリーズ	プロダクト ID※	SMS	SMS
H20000	エミュレーションタイプ ※	H20000	H20000
H24000	エミュレーションタイプ ※	H24000	H24000
SANRISE2000 シリーズ	エミュレーションタイプ ※	SANRISE2000	2000

ストレージシステム	表示内容		
	-stname パラメタ 指定なし	-stname パラメタ指定時 (下記のモデル ID を表示)	
		概略表示しない場合	概略表示する場合
SANRISE9900V シリーズ	エミュレーションタイプ ※	SANRISE 9900V	9900V
SANRISE H48	エミュレーションタイプ ※	SANRISE H48	H48
SANRISE H128	エミュレーションタイプ ※	SANRISE H128	H128
SANRISE H512	エミュレーションタイプ ※	SANRISE H512	H512
SANRISE H1024	エミュレーションタイプ ※	SANRISE H1024	H1024
H10000	エミュレーションタイプ ※	SANRISE H10000	H10000
H12000	エミュレーションタイプ ※	SANRISE H12000	H12000
<ul style="list-style-type: none"> • Hitachi NSC55 • Hitachi Universal Storage Platform 100 • Hitachi Universal Storage Platform 600 • Hitachi Universal Storage Platform 1100 	エミュレーションタイプ ※	SANRISE_USP	USP
SVS	エミュレーションタイプ ※	SVS	SVS
<ul style="list-style-type: none"> • Hitachi Universal Storage Platform V • Hitachi Universal Storage Platform V/VM 	エミュレーションタイプ ※	USP_V	USP_V
Hitachi Virtual Storage Platform	エミュレーションタイプ ※	VSP	VSP
HUS VM	エミュレーションタイプ ※	HUS_VM	HUS_VM
VP9500	エミュレーションタイプ ※	VP9500	VP9500
P9500	エミュレーションタイプ ※	P9500	P9500
XP128	エミュレーションタイプ ※	XP128	XP128
XP1024	エミュレーションタイプ ※	XP1024	XP1024
XP10000	エミュレーションタイプ ※	XP10000	XP10000
XP12000	エミュレーションタイプ ※	XP12000	XP12000
XP20000	エミュレーションタイプ ※	XP20000	XP20000

ストレージシステム	表示内容		
	-stname パラメタ 指定なし	-stname パラメタ指定時（下記のモデル ID を表示）	
		概略表示しない場合	概略表示する場合
XP24000	エミュレーションタイプ ※	XP24000	XP24000

注※

- -path -c パラメタで概略表示した場合、文字数が 11 文字以上のときは、8 文字目以降が短縮形 (...) で表示されます。
- コマンドデバイスの場合、プロダクト ID またはエミュレーションタイプのあとに「-CM」が表示されます。（表示例：DF600F-CM）

(3) LU 情報を表示する場合

LU 情報を表示する場合、-lu パラメタと同時に-item パラメタや-c パラメタ、-c -item パラメタを指定すると、項目を追加して表示したり、LU 情報の概略を表示したりできます。ここでは、それぞれのパラメタの説明をしたあとに、LU 情報の表示項目を説明します。

LU 情報表示

-lu

-lu パラメタと同時に-c パラメタまたは-item パラメタのどちらも指定しない場合、HDL M が認識している LU の情報が表示されます。iLU をキーとして、その iLU の構成情報が LU ごとに表示されます。後続パラメタ (-hdev または-pathid) で、表示する LU の情報を絞り込むことができます。-hdev パラメタまたは-pathid パラメタを指定しない場合は、HDL M が認識しているすべての LU の情報が表示されます。

各表示項目の内容については、「表 6-17 LU 情報の表示項目」を参照してください。

後続パラメタの形式を次に示します。

-hdev ホストデバイス名

指定したホストデバイス名に対応する LU の情報だけが表示されます。

ホストデバイス名をドライブレターで指定します。ドライブレターが割り当てられていない場合、指定はできません。英字の大文字、小文字は区別されます。KAPL01064-W または KAPL01013-E のメッセージを出力して終了した場合は、それぞれのメッセージの対処に従ってください。

-pathid パス管理 PATH_ID

指定したパス管理 PATH_ID を持つパスがアクセスする LU の情報だけが表示されます。

-t

各情報の項目名が非表示になります。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr view -lu
Product      : SANRISE 9500V
SerialNumber : 3679
LUs          : 3

iLU  HDevName PathID Status
0110 G          000002 Online
      000008 Online
0111 F          000001 Online
      000007 Online
0112 E          000000 Online
```

```

000006 Online

Product      : SANRISE 9900V
SerialNumber : 15001
LUs          : 3

iLU  HDevName PathID Status
0580 J          000005 Online
          000011 Online
0585 I          000004 Online
          000010 Online
058A H          000003 Online
          000009 Online
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了
時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

LU 情報表示（表示項目を追加する場合）

-lu -item

-item で指定した項目が-lu の表示項目に追加して表示されます。

-item パラメタでパラメタ値を何も指定しない場合、またはパラメタ値に all を指定した場合、DPC、Physical-Product、Physical-SerialNumber、Physical-iLU、および Physical-ChaPort を除く追加できる項目がすべて表示されます。

-item パラメタで追加できる表示項目と、-item パラメタの後続に指定するパラメタ値との対応を次の表に示します。

表 6-15 -lu -item パラメタで追加できる表示項目と指定する後続パラメタ

追加できる表示項目	後続パラメタ
SLPR	slpr
PathName	pn
ChaPort	cp
CLPR	clpr
Type	type
IO-Count	ic
IO-Errors	ie
DNum	dnu
IEP	iep
DPC	dpc
Physical-Product	vid
Physical-SerialNumber	vid
Physical-iLU	vid
Physical-ChaPort	vid
すべての項目	all

後続パラメタ (-hdev または -pathid) で、表示する LU の情報を絞り込むことができます。-hdev パラメタまたは -pathid パラメタを指定しない場合は、HDLM が認識しているすべての LU の情報が表示されます。

各表示項目の内容については、「表 6-17 LU 情報の表示項目」を参照してください。

後続パラメタの形式を次に示します。

-hdev ホストデバイス名

指定したホストデバイス名に対応する LU の情報だけが表示されます。

ホストデバイス名をドライブレターで指定します。ドライブレターが割り当てられていない場合、指定はできません。英字の大文字、小文字は区別されます。KAPL01064-W または KAPL01013-E のメッセージを出力して終了した場合は、それぞれのメッセージの対処に従ってください。

-pathid パス管理 PATH_ID

指定したパス管理 PATH_ID を持つパスがアクセスする LU の情報だけが表示されます。

-t

各情報の項目名が非表示になります。

使用例 1

LU 情報の表示項目に、SLPR, PathName, ChaPort, CLPR, Type, IO-Count, IO-Errors, DNum, および IEP を追加して表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -lu -item
Product      : SANRISE_USP
SerialNumber : 0014050
LUs          : 3
```

iLU	SLPR	HDevName	PathID	PathName	ChaPort	CLPR	Status	Type	IO-Count	IO-Errors
0110	1 E		000000	0002.0000.0000000000000000.0000	0A	2	Online	Own	4	0
	0 0		000003	0003.0000.0000000000000001.0000	0B	2	Online	Own	4	0
	0 0									
0111	1 F		000001	0002.0000.0000000000000000.0001	0A	2	Online	Own	4	0
	0 0		000004	0003.0000.0000000000000001.0001	0B	2	Online	Own	4	0
	0 0									
0112	1 G		000002	0002.0000.0000000000000000.0002	0A	2	Online	Own	4	0
	0 0		000005	0003.0000.0000000000000001.0002	0B	2	Online	Own	4	0
	0 0									

```
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

使用例 2

Hitachi AMS2000 シリーズ, Hitachi SMS シリーズ, または HUS100 シリーズを使用している場合で、LU 情報の表示項目に DPC を追加して表示するとき

```
PROMPT>dlnkmgr view -lu -item dpc
Product      : HUS100
SerialNumber : 9203008
LUs          : 3
Dynamic I/O Path Control : on*
```

iLU	HDevName	DPC	PathID	Status
000006	E	on	000000	Online
			000003	Online
000007	F	off	000001	Online
			000004	Online
000008	G	on	000002	Online
			000005	Online

```
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

LU 情報の概略表示

-lu -c

-lu パラメタと同時に -c パラメタを指定した場合、LU の構成情報の概略が 1 行で表示されます。各 LU に対して、認識されているパスの総数および稼働状態のパスの本数も表示されま

す。-c パラメタを指定する場合、-hdev パラメタまたは-pathid パラメタを同時に指定できません。

各表示項目の内容については、「表 6-17 LU 情報の表示項目」を参照してください。

-t

各情報の項目名が非表示になります。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr view -lu -c
Product      S/N  LUs  iLU  HDevName Paths  OnlinePaths
SANRISE 9500V 3679  3 0110 G          2          2
           0111 F          2          2
           0112 E          2          2
SANRISE 9900V 15001 3 0580 J          2          2
           0585 I          2          2
           058A H          2          2
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了
時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

LU 情報の概略表示（表示項目を追加する場合）

-lu -c -item

-item で指定した項目が-lu -c の表示項目に追加して表示されます。

-item パラメタでパラメタ値を何も指定しない場合、追加できる項目がすべて表示されます。各表示項目の内容については、「表 6-17 LU 情報の表示項目」を参照してください。

-item パラメタで追加できる表示項目と、-item パラメタの後続に指定するパラメタ値との対応を次の表に示します。

表 6-16 -lu -c -item パラメタで追加できる表示項目と指定する後続パラメタ

追加できる表示項目	後続パラメタ
SLPR	slpr

後続パラメタの形式を次に示します。

-t

各情報の項目名が非表示になります。

使用例

LU 情報の概略表示項目に、SLPR を追加して表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -lu -c -item
Product      S/N  LUs  iLU  SLPR HDevName Paths  OnlinePaths
SANRISE 9500V 3679  3 0150 - H          2          2
           0151 - I          2          2
           0152 - J          2          2
SANRISE_USP 0014050 3 0110 1 E          2          2
           0111 1 F          2          2
           0112 1 G          2          2
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

LU 情報の表示項目

LU 情報を表示する場合に、表示される項目とその説明を「表 6-17 LU 情報の表示項目」に示します。見出しについて、次に説明します。

- 概略表示しない場合：-lu または-lu -item パラメタを指定した場合を示します。

- ・ 概略表示する場合：-lu -c または -lu -c -item パラメタを指定した場合は示します。

表 6-17 LU 情報の表示項目

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
Product		ストレージシステムのモデル ID です。
SerialNumber	S/N	ストレージシステムのシリアル番号です。
LUs		ストレージシステム内の LU のうち、HDLM 管理下の LU の総数です。
Dynamic I/O Path Control	—	<p>ストレージシステム単位にダイナミック I/O パスコントロール機能の設定情報が表示されます。</p> <p>on：ダイナミック I/O パスコントロール機能の設定が有効に設定されています。</p> <p>off：ダイナミック I/O パスコントロール機能の設定が無効に設定されています。</p> <p>-：ダイナミック I/O パスコントロール機能をサポートしていません。ストレージシステム単位の設定と異なる設定の LU が含まれる場合、表示された「on」または「off」のあとに「*」が付加されます。</p>
iLU		<p>ストレージシステム内の LU 番号が表示されます。</p> <p>この番号とストレージシステム名（「DskName」に表示）を組み合わせると、パスがアクセスする LU を特定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SANRISE2000 シリーズ、SANRISE9900V シリーズ、または Hitachi NSC55、Hitachi Universal Storage Platform 100、Hitachi Universal Storage Platform 600、Hitachi Universal Storage Platform 1100、または HUS VM の場合 16 進数で表示されます。iLU の先頭 2 文字は CU（Control Unit）番号を示し、後ろ 2 文字は CU 内の内部 LU 番号を示します。 ・ H10000/H12000、XP10000/XP12000、P9500、SVS、または VP9500 の場合 16 進数で表示されます。iLU の先頭 3 文字は CU（Control Unit）番号を示し、後ろ 2 文字は CU 内の内部 LU 番号を示します。CU 番号の先頭 1 文字目は「0」の値が入ります。 ・ SANRISE9500V シリーズ、Hitachi AMS2000/AMS/TMS/WMS/SMS シリーズ、または HUS100 シリーズの場合 10 進数で表示されます。iLU 全体がストレージシステム内の内部 LU 番号になります。iLU をストレージシステムの管理プログラムで参照すると、物理的に LU を特定できます。 ・ Universal Storage Platform V/VM シリーズ、または Hitachi Virtual Storage Platform の場合 16 進数で表示されます。iLU の先頭 2 文字は論理 DKC（Disk Controller）番号を示し、真ん中 2 文字は CU（Control Unit）番号を示し、後ろ 2 文字は CU 内の内部 LU 番号を示します。
SLPR※1	SLPR※2	LU が属する SLPR の番号が 0 から 31 までの 10 進数で表示されます。ストレージ論理分割機能がサポートされていないストレージシステム内の LU が表示対象の場合は「-」（ハイフン）が表示されます。
HDevName※1※3	—	ホストデバイス名です。ドライブレターが表示されます。ドライブレターが割り当てられていない場合は、「-」（ハイフン）が表示されます。DNum に「0」が表示されていても、HDevName にドライブレターが表示されます。これは、その LU 内に含まれる Dev 中の 1Dev のドライブレターです。
DPC	—	<p>LU 単位にダイナミック I/O パスコントロール機能の設定情報が表示されます。</p> <p>on：ダイナミック I/O パスコントロール機能の設定が有効に設定されています。</p>

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
		<p>off : ダイナミック I/O パスコントロール機能の設定が無効に設定されています。</p> <p>- : ダイナミック I/O パスコントロール機能をサポートしていません。</p>
PathID	—	パス管理 PATH_ID が、10 進数で表示されます。ホストの再起動時に割り当てられます。
PathName ^{※1}	—	<p>パスを表す項目で、パス名と呼びます。システムの構成を変更する場合やハードウェアを交換する場合は、パス名を参照して影響を受けるパスを確認してください。次に示す 4 つの項目をピリオドで区切ったものが、パス名として表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホストポート番号 (16 進数) ・ バス番号 (16 進数) ・ ターゲット ID (16 進数) ・ ホスト LU 番号 (16 進数) <p>パス名を構成する項目と、各項目の Windows での表現については、「表 6-13」を参照してください。</p>
ChaPort ^{※1}	—	CHA ポート番号です。この番号でストレージシステムに搭載されている CHA ポートを特定できます。この番号をストレージシステムの管理プログラムで参照すると、物理的に CHA ポートを特定できます。
CLPR ^{※1}	—	<p>CHA ポートが属する CLPR の番号が 0 から 31 までの 10 進数で表示されます。ただし、次に示すものが表示対象の場合は「-」(ハイフン)が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャッシュ論理分割機能がサポートされていないストレージシステムに搭載されている CHA ポート ・ Hitachi AMS2000/AMS/TMS/WMS/SMS シリーズの Copy-on-write Snapshot の Snapshot イメージに接続するパス
Status	—	<p>パスの状態です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Online : 稼働状態 ・ Offline(C) : コマンド、HDLM GUI のパス管理ウィンドウでのオフライン操作による閉塞状態 ・ Offline(E) : 障害による閉塞状態 ・ Online(E) : 障害が発生している状態 (1 つの LU にアクセスするパスのうち、稼働状態 (Online) のパスがない場合、パスの 1 つが Online(E)になります) ・ Offline(P) : Offline(E)のパスに対する offline 実行待ち状態^{※4} ・ Online(P) : Online のパスに対する offline 実行待ち状態^{※4} ・ Online(EP) : Online(E)のパスに対する offline 実行待ち状態^{※4} <p>Offline(E)または Online(E)のパスについては対処が必要です。「5.3」を参照して対処してください。</p>
Type ^{※1}	—	<p>パスの属性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Own : オーナパス ・ Non : ノンオーナパス <p>SANRISE2000 シリーズ, SANRISE9900V シリーズ, Hitachi USP シリーズ, Universal Storage Platform V/VM シリーズ, Virtual Storage Platform シリーズ, Hitachi AMS2000 シリーズ^{※5}, Hitachi SMS シリーズ^{※5}, HUS100 シリーズ^{※5}, または HUS VM に接続している場合、すべてのパスがオーナパスです。</p>
IO-Count ^{※1}	—	<p>パスの I/O 回数の合計数が、10 進数で表示されます。表示できる最大値は、$2^{32}-1$ (4294967295) です。最大値を超えた場合、0 から再カウントします。IO-Count を 0 にしたい場合は、HDLM コマンドの clear オペレーションを実行してください。clear オペレーションを実行すると、I/O 障害回数 (IO-Errors) も 0 にクリアされます。clear オペレーションの詳細については、「6.2」を参照してください。</p>

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
IO-Errors ^{※1}	—	バスの I/O 障害回数の合計数が、10 進数で表示されます。表示できる最大値は、 $2^{32}-1$ (4294967295) です。最大値を超えた場合、0 から再カウントします。IO-Errors を 0 にしたい場合は、HDLM コマンドの clear オペレーションを実行してください。clear オペレーションを実行すると、I/O 回数 (IO-Count) も 0 にクリアされます。clear オペレーションの詳細については、「6.2」を参照してください。
DNum ^{※1}	—	LU 全体を示す Dev として「0」が表示されます。
IEP ^{※1}	—	表示対象のバスが、間欠障害と見なされ、自動フェイルバックの対象外になっているかどうか、表示されます。1 本のバスにつき、次のどれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ - : 間欠障害の監視が無効、または間欠障害の監視時間外 ・ 0 以上の数値 : 間欠障害の監視時間内に発生した障害の回数 ・ * : 間欠障害発生 (自動フェイルバックの対象外)
Physical-Product	—	仮想 ID を使用して移行したバスの場合、移行先のバスが接続しているストレージシステムのモデル ID が表示されます。仮想 ID を使用していない場合「-」(ハイフン) が表示されます。
Physical-SerialNumber	—	仮想 ID を使用して移行したバスの場合、移行先のバスが接続しているストレージシステムのシリアル番号が表示されます。仮想 ID を使用していない場合「-」(ハイフン) が表示されます。
Physical-iLU	—	仮想 ID を使用して移行したバスの場合、移行先のバスが接続しているストレージシステム内での LU 番号が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ HUS VM の場合 16 進数で表示されます。iLU の先頭 2 文字は CU (Control Unit) 番号を示し、後ろ 2 文字は CU 内の内部 LU 番号を示します。 ・ Hitachi Virtual Storage Platform の場合 16 進数で表示されます。iLU の先頭 2 文字は論理 DKC (Disk Controller) 番号を示し、真ん中 2 文字は CU (Control Unit) 番号を示し、後ろ 2 文字は CU 内の内部 LU 番号を示します。 仮想 ID を使用していない場合「-」(ハイフン) が表示されます。
Physical-ChaPort	—	仮想 ID を使用して移行したバスの場合、移行先のバスが接続している CHA ポート番号が表示されます。仮想 ID を使用していない場合「-」(ハイフン) が表示されます。
—	Paths	表示対象の LU に対して、認識されているバスの総数が、10 進数で表示されます。
—	OnlinePaths	表示対象のバスのうち、稼働状態のバスの数が 10 進数で表示されます。「Paths」の数と「OnlinePaths」の数と同じであれば、すべてのバスが稼働状態です。「OnlinePaths」の数の方が少ない場合、閉塞状態のバスがあります。閉塞状態のバスを確認し、障害が発生していれば対処してください。

(凡例)

— : 表示されない項目

注※1

-lu -item パラメータを使用してパラメータ値に表示項目もしくは a11 を指定した場合、またはパラメータ値に何も指定しなかった場合だけ表示されます。

注※2

-lu -c -item パラメータを使用してパラメータ値に表示項目を指定した場合、またはパラメータ値に何も指定しなかった場合だけ表示されます。

注※3

ダイナミックディスクのボリュームに割り当てたドライブレターは表示されません。

注※4

クラスタ構成の場合、リザーブ処理中に要求された **offline** 処理は、リザーブ処理が完了するまで実行待ち状態になります。

注※5

ダイナミック I/O パスコントロール機能を無効にしているときに対象になります。

(4) view オペレーションの形式を表示する場合

-help

view オペレーションの形式が表示されます。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr view -help
view:
  Format
    dlnkmgr view -sys [ -sfunc | -msrv | -adrv | -pdrv | -lic | -audlog
  | -lbpatusetimes | -expathusetimes ] [-t]
    dlnkmgr view -path [ -hdev HostDeviceName ] [-stname] [-iem]
                                     [-srt {pn | lu | cp}] [-
hbaportwn] [-t]
    dlnkmgr view -path
                                     -item [pn] [dn] [lu] [cp] [type] [ic] [ie] [dnu]
                                               [hd] [iep] [hbaportwn]
[vid]
                                     [-hdev HostDeviceName] [-stname] [-srt {pn | lu | cp}]
[-t]
    dlnkmgr view -path -c [-stname] [-srt {lu | cp}] [-t]
    dlnkmgr view -lu [ -hdev HostDeviceName | -pathid AutoPATH_ID ] [-t]
    dlnkmgr view -lu
                                     -item [ [slpr] [pn] [cp] [clpr] [type]
                                               [ic] [ie] [dnu] [iep] [dpc] [vid] | all ]
                                               [ -hdev HostDeviceName | -pathid
AutoPATH_ID ] [-t]
    dlnkmgr view -lu -c [-t]
    dlnkmgr view -lu -c -item [slpr] [-t]
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 =
yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

6.8 delete パスを動的に削除する

Offline(C)状態かつ切断されているパスを一括して HDLM 管理対象から削除します。このコマンドは、既存のパスへの影響なしに動的に実行できます。

6.8.1 形式

(1) パスを動的に削除する場合

```
dlnkmgr delete -path [-s]
```

(2) delete オペレーションの形式を表示する場合

```
dlnkmgr delete -help
```

6.8.2 パラメタ

(1) パスを動的に削除する場合

`-path`

HDLM が管理しているパスを操作することを指定します。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr delete -path
KAPL01161-I パス構成変更を実行します。よろしいですか? [y/n] :y
KAPL01165-I パスを削除しました。パス ID = 00010, ストレージ =
HITACHI.HUS100.9100163, iLU = 0030
      :
KAPL01164-I 2 パスを削除しました。終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
```

`-s`

コマンド実行の確認メッセージを表示しないで実行します。シェルスクリプトやバッチファイルでコマンドを実行する場合など、確認メッセージへの入力を省略したいときに指定します。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr delete -path -s
KAPL01165-I パスを削除しました。パス ID = 00010, ストレージ =
HITACHI.HUS100.9100163, iLU = 0030
      :
KAPL01164-I 2 パスを削除しました。終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
```

注意事項

コマンド実行前に、HDLM の管理対象から除外するパスが、OS から削除されている必要があります。

(2) delete オペレーションの形式を表示する場合

`-help`

`delete` オペレーションの形式が表示されます。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr delete -help
delete:
  Format
  dlnkmgr delete -path [-s]
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = help, 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
```


ユティリティリファレンス

この章では、HDLM で使用するユティリティについて説明します。

- 7.1 ユティリティ概要
- 7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ
- 7.3 dlmpr HDLM パーシステントリザーブ解除ユティリティ
- 7.4 dlmprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ
- 7.5 dlmchkpath HDLM パス状態確認ユティリティ
- 7.6 dlmhostinfo HDLM インストール情報確認ユティリティ
- 7.7 installhdlm HDLM インストールユティリティ
- 7.8 removehdlm HDLM アンインストールユティリティ

7.1 ユティリティ概要

HDLM は、次に示すユティリティを提供します。

- **HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras)**
障害発生時に、HDLM の購入元会社、または保守会社に連絡する必要がある情報を持つファイルを収集します。DLMgetras ユティリティについては、「[7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ](#)」を参照してください。
- **HDLM パーシステントリザーブ解除ユティリティ (dlmpr)**
アンインストールした後に残るパーシステントリザーブを解除します。dlmpr ユティリティについては、「[7.3 dlmpr HDLM パーシステントリザーブ解除ユティリティ](#)」を参照してください。
- **HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey)**
PRSV キーを登録、表示します。dlmprsvkey ユティリティについては、「[7.4 dlmprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ](#)」を参照してください。
- **HDLM パス状態確認ユティリティ (dlmchkpath)**
パスがシングル構成かどうかをチェックします。dlmchkpath ユティリティについては、「[7.5 dlmchkpath HDLM パス状態確認ユティリティ](#)」を参照してください。
- **HDLM インストール情報確認ユティリティ (dlmhostinfo)**
HDLM インストール情報を表示、またはファイルに出力します。dlmhostinfo ユティリティについては、「[7.6 dlmhostinfo HDLM インストール情報確認ユティリティ](#)」を参照してください。
- **HDLM インストールユティリティ (installhdlm)**
HDLM の新規インストール、アップグレードインストールまたは再インストールする場合に、サイレントインストールを実行できます。また、インストール時に設定した情報を表示できません。installhdlm ユティリティについては、「[7.7 installhdlm HDLM インストールユティリティ](#)」を参照してください。
- **HDLM アンインストールユティリティ (removehdlm)**
HDLM をアンインストールする場合に、サイレントアンインストールを実行できます。removehdlm ユティリティについては、「[7.8 removehdlm HDLM アンインストールユティリティ](#)」を参照してください。

注意事項

Windows Server 2003 の場合は、Administrators グループのユーザで、ユティリティを実行してください。

Windows Server 2008 および Windows Server 2012 でユティリティを実行する場合は、「[4.1.5 Windows Server 2008 および Windows Server 2012 を使用する場合の注意事項](#)」を参照してください。

7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ

HDLM で発生した障害の解析に必要な障害ログ、統合トレースファイル、トレースファイル、定義ファイル、OS などの情報を収集します。

なお、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) が収集する情報には、ホストの再起動時に消去されてしまうものもあります。障害発生時は、速やかにこのユティリティを実行してください。

このユティリティの格納場所を次に示します。

HDLM のインストール先フォルダ¥bin

および

インストール DVD が入ったドライブ:¥HDLM_Windows¥DLMTTools※

注※

インストール DVD と同じバージョンの HDLM がインストールされている環境で使用してください。

7.2.1 形式

(1) コマンドプロンプトから HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行する場合

```
DLMgetras {[収集情報出力先フォルダ] [-eventlogtime 年/月/日 | -eventlogsize  
{all |最大ファイル長}] | -h}
```

ユーティリティ名には次のように小文字 (dlmgetras) も使用できます。

```
dlmgetras {[収集情報出力先フォルダ] [-eventlogtime 年/月/日 | -eventlogsize  
{all |最大ファイル長}] | -h}
```

(2) Windows の [スタート] メニューから HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行する場合

Windows の [スタート] メニュー - [プログラム] - [Dynamic Link Manager] - [HDLM 障害情報収集]

「Windows のインストール先ドライブ:¥hdlmtemp」は、[HDLM 障害情報収集] のプロパティの「リンク先」から変更できます。

7.2.2 パラメタ

パラメタは、コマンドプロンプトから HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行した場合だけ指定できます。

収集情報出力先フォルダ

HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) で収集した情報の出力先フォルダを指定します。指定したフォルダ内に、「表 7-1 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) が収集する障害情報の一覧」に示す出力先フォルダが生成され、各種情報が収集されます。

-eventlogtime 年月日

アプリケーション、システム、およびセキュリティのイベントログのそれぞれについて、年月日で指定した日の 0 時 0 分以降のログを取得します。日付は、yyyy/mm/dd の形式で指定します。

-eventlogsize {all |最大ファイル長}

all

すべてのアプリケーション、システム、およびセキュリティのイベントログを取得します。

最大ファイル長

アプリケーション、システム、およびセキュリティのイベントログのそれぞれについて、最新のものから最大ファイル長で指定したサイズになるまでログを取得します。指定する最大ファイル長の単位は MB です。指定できる値は、1 から 4096 までです。

-h

DLMgetras ユティリティの形式を表示します。

注意事項

- -eventlogsize {all |最大ファイル長} と -eventlogtime 年/月/日 は同時に指定できません。
- -eventlogsize {all |最大ファイル長} または -eventlogtime 年月日 を指定しない場合は、最大 8MB のイベントログを取得します。

7.2.3 収集される障害情報

HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) 実行時に障害情報収集先フォルダ内に収集される障害情報の一覧を次の表に示します。

表 7-1 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) が収集する障害情報の一覧

収集したファイルを格納するフォルダ※1	ファイル	説明
収集情報出力先フォルダの直下	getrasn.log	DLMgetras ユティリティ実行時のログファイル
収集情報出力先フォルダ¥HDLM のインストール先ドライブ_¥Program Files¥HITACHI ¥DynamicLinkManager¥※2	hdlmservicepack	HDLM の SP バージョン番号
	hdlmversion	HDLM のバージョン番号
収集情報出力先フォルダ¥HDLM のインストール先ドライブ_¥Program Files¥HITACHI ¥DynamicLinkManager¥log¥※2	dlimmgrn.log	HDLM マネージャのログ (ドライブのログを含む)
	hcmdslicense2.log	ライセンス更新時のログ
	hdlmtrn.log	トレースファイル
	hs_err_pidnnnn.log	Java 実行ログ (nnnn はプロセス ID)
収集情報出力先フォルダ¥Windows が導入されているフォルダ (%SystemRoot%) ※3	setupact.log setupapi.log setuperr.log setupapi.app.log¥※4 setupapi.dev.log¥※4 setupapi.offline.log¥※4	Windows のログ
収集情報出力先フォルダ¥HDLM のインストール先ドライブ_¥Program Files¥HITACHI ¥DynamicLinkManager¥log¥mmap¥※2	Hdlmtr.mmm	トレース管理ファイル
収集情報出力先フォルダ¥HDLM のインストール先ドライブ_¥Program Files¥HITACHI ¥DynamicLinkManager¥log¥※2	dmlmgui1.log dmlmgui2.log	HDLM GUI のログ
	dmlmgui_launcher1.log dmlmgui_launcher2.log	
	dmlmwebgui_setup.log	
	dmlmwebagent [1-N] .log¥※5	Hitachi Command Suite 共通エージェント

収集したファイルを格納するフォルダ※1	ファイル	説明
		コンポーネントのログ
	installhdlm.log	サイレントインストーラのログ
収集情報出力先フォルダ¥HDLMのインストール先ドライブ ¥Program Files¥HITACHI¥DynamicLinkManager¥config※2	dmgui_version	HDLM GUI のバージョンおよびビルド番号
	dmmgr.xml	HDLM の設定ファイル
	dmlwebagent.properties	Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントの設定ファイル
収集情報出力先フォルダ¥Windowsのインストール先ドライブ¥Windows¥Cluster	cluster.log	MSCS のログ
収集情報出力先フォルダ¥Volume Managerのインストール先ドライブ ¥Program Files¥VERITAS¥Volume Manager M.N¥logs※6	logs 以下のすべてのファイル	Volume Manager のログ
収集情報出力先フォルダ¥VCSのインストール先ドライブ ¥Program Files¥VERITAS¥Cluster Server¥log	log 以下のすべてのファイル	VCS のログ
Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリのユーティリティで指定した統合トレースファイル出力先フォルダ。デフォルトは、収集情報出力先フォルダ¥インストール先ドライブ ¥Program Files¥HITACHI¥HNTRLlib2¥spool	hntm.log※8	統合トレースファイル (HNTRLlib2)
Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリのユーティリティで指定した統合トレースファイル出力先フォルダ。デフォルトは、収集情報出力先フォルダ¥インストール先ドライブ ¥Program Files¥HITACHI¥HNTRLlib¥spool	hntr[1-16].log	HDLM04-00 以前を使用していたときに出力された統合トレースファイル (HNTRLlib)
収集情報出力先フォルダ¥getrasinfo	application-list.txt	インストール情報の一覧
	Cluster-reg.txt	クラスタのレジストリ情報
	cluster-sys.txt	MSCS 情報
	dirHdlmRoot.txt	HDLM のインストール先フォルダの下にある、すべてのフォルダおよびファイルの一覧
	dirSystemRoot.txt	Windows のインストール先フォルダの下にある、すべてのフォルダおよびファイルの一覧
	dml_iscsims.txt※9	iSCSI の情報
	dml-reg.txt	HDLM のレジストリの内容

収集したファイルを格納するフォルダ※1	ファイル	説明
	dlmemorytraces.txt	HDLM のメモリ トレース情報
	dlmmgr-lic.txt	dlkmgr view -sys -lic の内 容
	dlmmgr-lu.txt	dlkmgr view -lu -item pn cp type ic ie dnu slpr clpr dpc vid の内容
	dlmmgr-lu-all.txt	dlkmgr view -lu -item all の内容
	dlmmgr-path.txt	dlkmgr view -path の内容
	dlmmgr-path-iem.txt	dlkmgr view -path -iem の 内容
	dlmmgr-sys.txt	システム情報, SCSI ポートごと のドライバ情報
	driverquery.txt	ドライバの詳細情 報の一覧およびド ライバのデジタル 署名情報の一覧
	evApplication.evt※10 evApplication.log※10 wevApplication.evtx※4 wevApplication.txt※4	イベントローグア プリケーション
	evSecurity.evt※10 evSecurity.log※10 wevSecurity.evtx※4 wevSecurity.txt※4	イベントローグセ キュリティ
	evSystem.evt※10 evSystem.log※10 wevSystem.evtx※4 wevSystem.txt※4	イベントローグシ ステム
	wevSetup.evtx※4 wevSetup.txt※4	イベントローグ セットアップ
	HBA-reg.txt	HBA のレジスト リ設定情報
	hdlmdsm-status.txt	HDLM ドライバ 情報
	hntrlib-reg.txt	HNTRLib のレジ ストリの内容
	hyper-v.txt	Hyper-V 関連の WMI クラスイン スタンス

収集したファイルを格納するフォルダ※1	ファイル	説明
	hyperv-haadm.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	hyperv-itegadm.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	hyperv-synfcadm.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	hyperv-synnicadm.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	hyperv-synstoradm.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	hyperv-synstorope.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	hyperv-vmmsadm.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	hyperv-vmmsnet.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	hyperv-vmmsope.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	hyperv-vmmsstor.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	hyperv-wkadm.txt	Hyper-V 関連の Windows イベント ログ
	iscsi-reg.txt	iscsi のレジストリ情報
	Localhost_Cluster.log※4	MSCS のログ
	mpio-list.txt	MPIO の情報
	mpio-reg.txt	MPIO のレジストリ情報
	path_environ.log	環境変数「Path」の情報
	sysdll.exe.txt	HDLM, HNTRLib2, 日立共通ディレクトリおよびシステムディレクトリにインストールされた実行形式ファイルのバージョン情報, PE (Portable

収集したファイルを格納するフォルダ※1	ファイル	説明
		Executable) 形式ファイルのタイムスタンプ, 最終更新日付, ファイルサイズの情報を格納
	wevFCDiag.txt	Windows イベントログの内容
	wevFCOper.txt	Windows イベントログの内容
	wevFCMgrA.txt	Windows イベントログの内容
	win_dep.log	DEP の設定情報
	winmsd.txt	Windows システム情報
収集情報出力先フォルダ¥hbsainfo	hbsainfo 以下のすべてのファイル※11	HDLM 以外の Hitachi Command Suite 製品の障害情報
収集情報出力先フォルダ¥%SystemDrive%	hdlminst.log	HDLM のインストールログ

注※1

それぞれの障害情報収集先フォルダは、DLMgetras ユティリティ実行時にユーザが指定した収集情報出力先フォルダ内に作成されます。

収集情報出力先フォルダの指定をしないで、コマンドプロンプトから DLMgetras ユティリティを実行した場合、または Windows の [スタート] メニューから DLMgetras ユティリティを実行した場合のデフォルトの収集情報出力先フォルダは、「Windows のインストール先ドライブ:¥hdlmtemp¥hdlmgetras_nn」です。nn は 00~99 の数字です。

注※2

下線部はインストール時に指定したフォルダです。

注※3

Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合は、%SystemRoot%¥inff¥にあるファイルも取得します。

注※4

Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合だけ取得できます。

注※5

N の値は、dlmwebagent.properties ファイルの設定に依存します。デフォルト値は「2」です。

注※6

M.N は VxVM または VxVM を含む Veritas Storage Foundation for Windows のバージョンを示します。例えば、5.0 は Veritas Storage Foundation for Windows 5.0 を示します。

注※7

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は、Program Files (x86)となります。

注※8

実際のファイル名は、Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリのユティリティの「Output (directory and prefix)」に指定した名前「2」のあとにファイルの番号が付きます。例えば、デフォルトの場合は hntr21.log～hntr216.log となります。名前の「2」はファイルの番号を表すものではないので、ご注意ください。

注※9

iSCSI ソフトウェアがインストールされている場合だけ取得できます。

注※10

Windows Server 2003 の場合だけ取得できます。

注※11

収集対象の Hitachi Command Suite 製品を使用している場合だけ取得できます。

7.3 dlmpr HDLM パーシステントリザーブ解除ユティリティ

アンインストールしたあとに残るパーシステントリザーブを解除します。ただし、マニュアルに記載された手順に従ってアンインストールした場合には、パーシステントリザーブは残りません。このユティリティは次の場所に格納されます。

インストール DVD が入ったドライブ:¥HDLM_Windows¥DLMTools

注意事項

このユティリティは、次に示す条件を満たしているとき実行できます。

- HDLM がアンインストールされている
- クラスタシステムのサービスおよびドライバが停止している

7.3.1 形式

```
dlmpr {-c| -d| -h}
```

7.3.2 パラメタ

-c

HDLM の管理対象の LU に設定されたパスと、パーシステントリザーブの情報を一覧表示します。パス ID を指定すると、そのパスのパーシステントリザーブを解除します。

-d

HDLM の管理対象の LU に設定されたパスと、パーシステントリザーブの情報を一覧表示します。

-h

dlmpr ユティリティの形式を表示します。

なし

dlmpr ユティリティの概要を表示します。

(1) MSCS 環境で dlmpr ユティリティを実行する手順

1. MSCS を構成しているホストのうち、一台だけ起動します。
2. [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] を選択します。[管理ツール] をダブルクリックします。[コンピュータの管理] をダブルクリックします。
コンピュータの管理画面が表示されます。
3. コンピュータの管理画面から [サービスとアプリケーション] を選択し、[サービス] をダブルクリックします。サービスの一覧が表示されます。サービスの一覧から [Cluster Service] を選択し、右クリックして [プロパティ] を選択します。[全般] タブの [スタートアップの種類 (E):] コンボボックスで [無効] を選択して OK ボタンを押します。
4. コンピュータの管理画面から [デバイスマネージャ] を選択します。[表示] メニューから [非表示のデバイスの表示(w)] を選択します。右画面の [プラグアンドプレイではないドライバ] から [Cluster Disk Driver] または [クラスタディスクドライバ] を選択し、右クリックして [無効] を選択します。「このデバイスを無効にすると機能しなくなります。このデバイスを無効にしますか?」というメッセージが表示されるので、[はい(Y)] を選択します。
再起動を求めるメッセージが表示されるので、[はい(Y)] を選択してください。再起動し、クラスタディスクドライバが無効になります。
5. dlmpr -d を実行します。

HDLM パーシステントリザーブ解除ユティリティ (dlmpr) の実行例を、次に示します。
KeyCount が 0 以外のパスは、パーシステントリザーブが残っていることを示します。

```
PROMPT>dlmpr -d
PathID PathName                               KeyCount ReservedKey
Type
000000 0001.0000.0000000000000000.0000        1 200000E08B1059EC
ExclusiveAccessRegistrantOnly
000001 0001.0000.0000000000000000.0001        1 200000E08B1059EC
ExclusiveAccessRegistrantOnly
KAPL10640-I HDLM パーシステントリザーブ解除ユティリティ (dlmpr) が正常終了しました。
PROMPT>
```

6. dlmpr -c を実行します。
表示された一覧の中で KeyCount が 0 でないパス ID を入力します。確認メッセージが 2 回表示されるので、それぞれ確認して [y] を入力してください。パーシステントリザーブが解除されます。すべてのパスの KeyCount が 0 になるまで繰り返します。dlmpr ユティリティの実行例を、次に示します。

```
PROMPT>dlmpr -c
PathID PathName                               KeyCount ReservedKey
Type
000000 0001.0000.0000000000000000.0000        1 200000E08B1059EC
ExclusiveAccessRegistrantOnly
000001 0001.0000.0000000000000000.0001        1 200000E08B1059EC
ExclusiveAccessRegistrantOnly
KAPL10655-I Persistent Reservation 情報をクリアする LU の PathID を指定してください(x で中止):0
KAPL10656-I PathID = 0 の Persistent Reservation 情報をクリアします。よろしいですか? [y/n]:y
KAPL10657-I 処理を続行した場合、指定した LU の排他が解除されます。他のサーバなどから指定 LU にアクセスしていないことを確認してください。処理を続行しますか? [y/n]:y
KAPL10658-I PathID = 0 の Persistent Reservation 情報をクリアしました。
KAPL10640-I HDLM パーシステントリザーブ解除ユティリティ (dlmpr) が正常終了しました
PROMPT>
```

7. [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] を選択します。[管理ツール] をダブルクリックします。[コンピュータの管理] をダブルクリックします。
コンピュータの管理画面が表示されます。

8. コンピュータの管理画面から [サービスとアプリケーション] を選択し, [サービス] をダブルクリックします。サービスの一覧が表示されます。サービスの一覧から [Cluster Service] を選択し, 右クリックして [プロパティ] を選択します。[全般] タブの [スタートアップの種類 (E):] コンボボックスで [自動] を選択して OK ボタンを押します。
9. コンピュータの管理画面から [デバイスマネージャ] を選択します。[表示] メニューから [非表示のデバイスの表示(w)] を選択します。右画面にある [プラグアンドプレイではないドライバ] から [Cluster Disk Driver] または [クラスタディスクドライバ] を選択し, 右クリックして [有効] を選択します。
再起動を求めるメッセージが表示されるので, [はい(Y)] を選択してください。再起動し, クラスタディスクドライバが有効になります。
10. MSCS が正しく起動されたことを確認します。
11. MSCS を構成しているほかのホストを起動します。

(2) VCS 環境で dlmpr ユティリティを実行する手順

1. VCS を構成しているホストのうち, 一台だけ起動します。
2. VCS を停止します。
3. `dlmpr -d` を実行します。
4. `dlmpr -c` を実行します。
5. 表示された一覧の中で KeyCount が 0 でないパス ID を入力します。確認メッセージが 2 回表示されるので, 確認して [y] を入力してください。パーシステントリザーブが解除されます。すべてのパスの KeyCount が 0 になるまで繰り返します。
6. VCS を再開します。
7. VCS を構成しているほかのホストを起動します。

7.4 dlmprsvkey HDLM パーシステントリザーブキー登録 ユティリティ

HDLM のホストに PRSV キーを登録, または表示します。PRSV キーは HDLM の機能が正常に動作するために必要です。このユティリティは, HDLM をインストールするときは自動的に実行されます。登録した PRSV キーは, ホストを再起動したあとから有効になります。このユティリティの格納場所を次に示します。

HDLM のインストール先フォルダ¥bin

7.4.1 形式

```
dlmprsvkey {-r [ユーザが指定する PRSV キー] [-s] | -v | -h}
```

7.4.2 パラメタ

`-r [ユーザが指定する PRSV キー] [-s]`

ホストに PRSV キーを登録する場合, 指定します。

ユーザが指定する PRSV キー

16 進数表記で最大 16 桁の英数字を指定できます。

- ユーザが指定する PRSV キーを省略した場合, または HDLM をインストールするときに自動的に実行された場合

HDLM パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ (dlmprsvkey) が NIC の MAC アドレスと、dlmprsvkey ユティリティを実行した時刻の情報を使用して、PRSV キーを生成します。NIC の MAC アドレスを取得できなかった場合、dlmprsvkey ユティリティを実行した時刻の情報を使用して PRSV キーを生成します。

- ユーザが指定する PRSV キーを指定した場合
16 桁に満たない値を指定する場合、入力された値の左側を 0 で満たして 16 桁にします。指定する値は、次に示す条件を満たしている必要があります。
 - SAN 内のホスト固有の値。
 - 指定できる値は、半角の数字、a~f、または A~F の英字です。すべて 0 で指定することはできません。

使用例

PRSV キーを指定しないでホストに登録する例

```
PROMPT>dlmprsvkey -r
KAPL12104-I PRSV キー登録オペレーションを開始します。よろしいですか (y/n)?
Y
KAPL12106-I PRSV キーの登録に成功しました。PRSV キー = 0123456789abcdef
PROMPT>
```

PRSV キーを指定してホストに登録する例

```
PROMPT>dlmprsvkey -r 0123456789abcdef
KAPL12104-I PRSV キー登録オペレーションを開始します。よろしいですか (y/n)?
Y
KAPL12106-I PRSV キーの登録に成功しました。PRSV キー = 0123456789abcdef
PROMPT>
```

-s

dlmprsvkey ユティリティの実行時に確認メッセージを表示しない場合に、指定します。

-v

登録された PRSV キーを表示する場合に指定します。

使用例

```
PROMPT>dlmprsvkey -v
KAPL12116-I 登録済みの PRSV キーを表示します。PRSV キー =
0123456789ABCDEF
PROMPT>
```

-h

dlmprsvkey ユティリティの形式を表示します。

パラメタを指定しない場合は、警告メッセージを表示します。

7.5 dlmchkpath HDLM パス状態確認ユーティリティ

インストール、アンインストール時にマルチパス構成になっているとディスクの内容が不正になる場合があるため、シングルパス構成になっていることを HDLM パス状態確認ユーティリティ (dlmchkpath) を使って確認します。dlmchkpath ユティリティは、アップグレードインストール、再インストール、またはアンインストールするとき自動的に実行されます。シングルパス構成の場合、何も表示しないでアップグレードインストール、再インストール、またはアンインストールを続行します。マルチパス構成の場合、警告ダイアログボックスを表示します。

ただし、次に示すインストール方法で、マルチパスと判定された場合は、警告ダイアログボックスを表示しないでインストールを終了します。

- ・ リモートアップグレードインストール
- ・ リモート再インストール
- ・ サイレントインストールを使用したアップグレードインストール
- ・ サイレントインストールを使用した再インストール

手動で `dmlchkpath` ユティリティを実行した場合は、「7.5.2 パラメタ」の使用例に示すメッセージを表示します。このユティリティの格納場所を次に示します。

HDLM のインストール先フォルダ¥bin

7.5.1 形式

```
dmlchkpath {-singleconnect | -h}
```

7.5.2 パラメタ

`-singleconnect`

HDLM 管理対象の LU とホストを接続するパスが 1 本かどうかをチェックします。

使用例

シングルパス構成と判定された場合の例

```
PROMPT>dmlchkpath -singleconnect
KAPL12401-I HDLM の管理対象のすべての LU はシングルパス構成です。
PROMPT>
```

マルチパス構成と判定された場合の例

```
PROMPT>dmlchkpath -singleconnect
KAPL12402-W iLU(0100)はマルチパス構成です。 PathID = 0,3
KAPL12402-W iLU(0101)はマルチパス構成です。 PathID = 1,4
KAPL12402-W iLU(0102)はマルチパス構成です。 PathID = 5,2
PROMPT>
```

マルチパス構成と判定された場合に `view` オペレーションを実行したときの例を、次に示します。`view` オペレーションの詳細については、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

```
PROMPT>dlnkmgr view -path -c
Paths:000006 OnlinePaths:000006
PathStatus IO-Count IO-Errors
Online      152579      30
```

PathID	DskName		iLU	CP
Status	Type			
000000	HITACHI .DF600F	.5455	0100	0C
Online	Own			
000001	HITACHI .DF600F	.5455	0101	0C
Online	Own			
000002	HITACHI .DF600F	.5455	0102	0C
Online	Non			
000003	HITACHI .DF600F	.5455	0100	1C
Online	Non			
000004	HITACHI .DF600F	.5455	0101	1C
Online	Non			
000005	HITACHI .DF600F	.5455	0102	1C
Online	Own			

```
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

-h

d1mchkpath ユティリティの形式を表示します。

パラメタを表示しない場合は、警告メッセージを表示します。

7.6 d1mhostinfo HDLM インストール情報確認ユティリティ

HDLM のインストール情報として、インストール先フォルダとバージョンをコマンドプロンプトに表示、またはファイルに出力します。HDLM がインストールされていない場合、インストール情報は出力されません。

このユティリティの格納場所を次に示します。

HDLM のインストール先フォルダ¥bin

および

インストール DVD が入ったドライブ:¥HDLM_Windows¥DLMTTools※

注※

インストール DVD と同じバージョンの HDLM がインストールされている環境で使用してください。

7.6.1 形式

d1mhostinfo [-output インストール情報ファイル | -h]

7.6.2 パラメタ

-output インストール情報ファイル

指定したファイルにインストール情報が出力されます。指定したファイルが存在する場合、インストール情報は出力されません。

使用例

-output パラメタを指定する場合

```
PROMPT>d1mhostinfo -output インストール情報ファイル
KAPL13801-I HDLM インストール情報確認ユティリティが正常終了しました。
PROMPT>
```

[インストール情報ファイルの内容]

```
"installDirectory","C:¥Program Files¥Hitachi¥DynamicLinkManager"
"version","x.x.x-xx"
```

-h

d1mhostinfo ユティリティの形式を表示します。

なし

インストール情報を表示します。

使用例

-output パラメタを指定しない場合

```
PROMPT>d1mhostinfo
"installDirectory","C:¥Program Files¥Hitachi¥DynamicLinkManager"
"version","x.x.x-xx"
```

KAPL13801-I HDLM インストール情報確認ユーティリティが正常終了しました。
PROMPT>

インストール情報として出力する項目を次の表に示します。

表 7-2 インストール情報

項目名	値
installDirectory	HDLM のインストール先フォルダ
version	インストールされている HDLM のバージョン※

注※

HDLM コマンドの view オペレーションに `-sys` を指定して実行したときに、「HDLM Version」に表示されるバージョンが出力されます。ただし、Service Pack がインストールされている場合は、「Service Pack Version」に表示されるバージョンが出力されます。

項目名と値は、それぞれ「"」（引用符）で囲まれ、1 行のコンマ区切りで出力されます（CSV 形式）。

インストール情報が正常に出力された場合、`dmlmhostinfo` ユティリティの終了コードとして、環境変数「`ERRORLEVEL`」に 0 が設定されます。インストール情報が出力されなかった場合は、-1 が設定されます。

7.7 installhdlm HDLM インストールユーティリティ

HDLM の新規インストール、アップグレードインストールまたは再インストールする場合に、サイレントインストールを実行できます。応答処理や HDLM の機能の設定の内容は、あらかじめインストール情報設定ファイルに定義しておきます。

また、このユーティリティを使ってインストール時に設定した情報をあとから確認できます。

サイレントインストールを実行する場合の、ユーティリティの格納場所を次に示します。

インストール DVD が入ったドライブ:¥HDLM_Windows¥DLMTools

インストール時に設定した情報を表示する場合の、ユーティリティの格納場所を次に示します。

HDLM のインストール先フォルダ¥bin

サイレントインストールの手順については、「[3.5.4 HDLM の新規インストール \(Windows Server 2003 の場合\)](#)」または、「[3.5.5 HDLM の新規インストール \(Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合\)](#)」を参照してください。

7.7.1 形式

```
installhdlm {-f インストール情報設定ファイル名 [-c ]| -v| -h}
```

7.7.2 パラメタ

-f インストール情報設定ファイル名

インストールに必要な情報を設定します。

インストール情報設定ファイルについては、「[7.7.3 インストール情報設定ファイルの定義内容](#)」を参照してください。

-c

インストールを実行しないで、インストール情報設定ファイルの定義内容、ライセンスなどをチェックします。

-v

インストール時に設定した情報を表示します。

サイレントインストール機能を使用しないでインストールをした場合は、ダイアログなどで指定した情報が表示されます。

使用例

```
PROMPT>installhdlm -v
installldir=C:\Program Files\HITACHI\DynamicLinkManager
HDLM_core=n
PROMPT>
```

各表示項目の内容については、「表 7-3 セクション[INSTALLATION_SETTINGS]のキー」を参照してください。

-h

installhdlm ユティリティの形式を表示します。

7.7.3 インストール情報設定ファイルの定義内容

インストール情報設定ファイルで定義する内容について、次に示します。

インストール情報設定ファイルの設定方法については、「3.5.3 HDLM をサイレントインストールする場合の準備」を参照してください。

セクション[INSTALLATION_SETTINGS]

installhdlm ユティリティの動作情報を定義します。なお、「表 7-3 セクション [INSTALLATION_SETTINGS]のキー」に示した項目以外の定義は変更しないでください。

セクション [INSTALLATION_SETTINGS] で定義するキーの一覧を次の表に示します。

表 7-3 セクション[INSTALLATION_SETTINGS]のキー

キー名	説明	定義の要否		指定できる長さ※1
		新規インストール	アップグレードインストールまたは再インストール	
installfile_location	インストール DVD が入ったドライブの絶対パス名称を指定します。指定しない場合は、次のフォルダを使用します。 インストール DVD が入ったドライブ： ¥HDLM_Windows¥	省略可	省略可	100
workdir	インストール中のログ情報、および作業用のファイルを出力するフォルダを、絶対パス名称で指定します。※2※3 指定しない場合は、環境変数 TMP または TEMP で定義されているフォルダを使用します。	省略可	省略可	100
licensekeyfile	ホストに格納されているライセンスキーファイル名を、絶対パス名称で指定します ※2※3。指定しない場合は、次に示すライセンスキーファイルを使用します。	省略可※4	省略可※4	100

キー名	説明	定義の要否		指定できる長さ※1
		新規インストール	アップグレードインストールまたは再インストール	
	Windows のインストール先ドライブ: ¥hdlm_license			
installdir	HDLM のインストール先フォルダを、絶対パス名称で指定します。※2※3 指定しない場合は、次に示すフォルダを使用します。 Windows のインストール先ドライブ: ¥Program Files¥HITACHI ¥DynamicLinkManager※5	省略可	不要	100
HDLM_core※6	インストールする HDLM のコンポーネントを、次の値で指定します。 y: HDLM Core コンポーネントだけをインストールします。HDLM GUI と Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントはインストールされません。 n: すべての HDLM コンポーネントをインストールします (デフォルト)。	省略可	省略可	1
restart	インストール終了後に、ホストの再起動を行うかどうかを、次の値で指定します。※2 y: 再起動します。 n: 再起動しません (デフォルト)。 クラスタ環境の場合、y (再起動する) は指定しないでください。	省略可	省略可	1

(凡例)

省略可: キーまたは設定値を指定しない場合は、デフォルト値が適用されます。

不要: キーまたは設定値の指定は不要です。キーまたは設定値を指定していても無視されます。

注※1

最大値を超える場合は、エラーとなります。

注※2

定義できる内容以外を指定した場合は、エラーとなります。

注※3

指定した値が空白を含む場合でも、その値を「"」で囲む必要はありません。

注※4

HDLM を新規インストールする場合、またはライセンスの有効期限が過ぎている状態でアップグレードインストールする場合は、ライセンスキーファイルを用意してください。

注※5

Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 の場合は、次のようになります。

Windows のインストール先ドライブ:¥Program Files (x86)¥HITACHI
¥DynamicLinkManager

注※6

- すべての HDLM コンポーネントがインストールされているホストに対し、HDLM_core キーに「y」を指定して HDLM をアップグレードインストール、および再インストールすることはできません。この場合は、HDLM をアンインストールしてから新規インストールしてください。
- HDLM Core コンポーネントだけがインストールされた HDLM に対してすべての HDLM コンポーネントをインストールしたい場合は、HDLM_core キーに「n」を指定してください。

セクション[ENVIRONMENT_SETTINGS]

HDLM の動作情報を定義します。このセクションは省略できます。このセクションの定義を省略した場合、次のようになります。

- ・ 新規インストールの場合は、次の「表 7-4 セクション[ENVIRONMENT_SETTINGS]のキー」に示す各キーのデフォルト値が適用されます。
- ・ アップグレードまたは再インストールの場合は、以前の HDLM の設定情報が引き継がれます。

なお、「表 7-4 セクション[ENVIRONMENT_SETTINGS]のキー」に示した項目以外の定義は変更しないでください。

セクション[ENVIRONMENT_SETTINGS]で定義するキーの一覧を次の表に示します。

表 7-4 セクション[ENVIRONMENT_SETTINGS]のキー

キー名※1	説明※2	定義の要否		指定できる長さ※3
		新規インストール	アップグレードインストールまたは再インストール	
load_balance	ロードバランス機能を有効、または無効にするかを、次の値で指定します。 on: 有効 (デフォルト) off: 無効	省略可	省略可	3
load_balance_type	ロードバランス機能のアルゴリズムを、次の値で指定します。 rr: ラウンドロビン exrr: 拡張ラウンドロビン lio: 最少 I/O 数 exlio: 拡張最少 I/O 数 (デフォルト) lbk: 最少ブロック数 exlbk: 拡張最少ブロック数	省略可	省略可	5
load_balance_same_path_use_times	ロードバランスのアルゴリズムに、ラウンドロビン (rr)、最少 I/O 数 (lio)、または最少ブロック数 (lbk) を適用する場合、I/O に同一のパスを使用する回数を指定します。回数は、「0~999999」の値を設定できます。デフォルトは「1」です。0 を指定した場合、ロードバランス機能を無効にしたときと同じです。	省略可	省略可	6
lbex_usetimes_limit	ロードバランスのアルゴリズムに、拡張ラウンドロビン (exrr)、拡張最少 I/O 数 (exlio)、または拡張最少ブロック数 (exlbk) を適用する場合、シーケンシャル I/O に同一のパスを使用する回数を指定します。	省略可	省略可	6

キー名※1	説明※2	定義の要否		指定できる長さ※3
		新規インストール	アップグレードインストールまたは再インストール	
	回数は、「0～999999」の値を設定できます。デフォルトは「100」です。 0を指定した場合、無制限（パスを切り替えない）となります。			
error_log_level	障害ログとして採取する障害情報のレベルを設定します。 レベルは、「0～4」が設定できます。デフォルトは「3」です。	省略可	省略可	1
error_log_size	障害ログファイル (dlmmgr[1-16].log) のサイズを KB 単位で指定します。 サイズは、「100～2000000」の値を設定できます。デフォルトは「0」です。	省略可	省略可	7
error_log_number	障害ログファイル (dlmmgr[1-16].log) の数を設定します。 ファイル数は、「2～16」の値を設定できます。デフォルトは「2」です。	省略可	省略可	2
trace_level	トレースの出力レベルを設定します。 レベルは、「0～4」が設定できます。デフォルトは「0」です。	省略可	省略可	1
trace_file_size	トレースファイル (hdlmtr[1-64].log) のサイズを KB 単位で設定します。 サイズは、「100～16000」の値を設定できます。デフォルトは「1000」です。	省略可	省略可	5
trace_file_number	トレースファイル (hdlmtr[1-64].log) の数を設定します。 ファイル数は、「2～64」の値を設定できます。デフォルトは「4」です。	省略可	省略可	2
path_health_check	パスヘルスチェック機能を有効、または無効にするかを、次の値で指定します。 on：有効（デフォルト） off：無効	省略可	省略可	3
path_health_check_interval	パスヘルスチェックのチェック間隔を、分単位で指定します。 チェック間隔は、「1～1440」の値を設定できます。デフォルトは「30」です。	省略可	省略可	4
auto_failback	障害パスの自動フェイルバック機能を有効、または無効にするかを、次の値で指定します。 on：有効 off：無効（デフォルト）	省略可	省略可	3
auto_failback_interval	パスの状態確認の終了から、次のパスの状態確認を開始するまでのチェック間隔を、分単位で指定します。 チェック間隔は、「1～1440」の値を設定できます。デフォルトは「1」です。	省略可	省略可	4
intermittent_error_monitor※4※5	間欠障害監視を有効、または無効にするかを、次の値で指定します。 on：有効	省略可	省略可	3

キー名※1	説明※2	定義の要否		指定できる長さ※3
		新規インストール	アップグレードインストールまたは再インストール	
	off: 無効 (デフォルト)			
intermittent_error_monitor_interval※5	間欠障害監視時間を分単位で指定します。チェック間隔は、「1~1440」の値を設定できます。デフォルトは「30」です。	省略可	省略可	4
intermittent_error_monitor_number※5	間欠障害と見なす障害の発生回数を指定します。発生回数は、「1~99」の値を設定できます。デフォルトは「3」です。	省略可	省略可	2
dynamic_io_path_control	ダイナミック I/O パスコントロール機能を有効、または無効にするかを次の値で指定します。なお、この機能を設定するとストレージシステム単位または LU 単位の設定はクリアされます。 on: 有効 off: 無効 (デフォルト)	省略可	省略可	3
dynamic_io_path_control_interval※6	ダイナミック I/O パスコントロール機能の、ストレージシステム側で行われるコントローラ切り替え情報の見直しチェック間隔を、分単位で指定します。チェック間隔は、「1~1440」の値を設定できます。デフォルトは「10」です。	省略可	省略可	4
remove_lu	LU の動的削除機能を有効、または無効にするかを、次の値で設定します。 on: 有効 off: 無効 (デフォルト)。	省略可	省略可	3
remove_lu_force	LU に対するすべてのパスが切断された場合、Offline(C)を含むパスがあるときも、HDLM の管理対象から LU を削除するかを、次の値で指定します。※2 on: LU を削除する off: LU を削除しない (デフォルト)	省略可	省略可	3

(凡例)

省略可:

- ・ 新規インストールの場合
キーまたは設定値を指定しない場合、デフォルト値が適用されます。
- ・ アップグレードインストールまたは再インストールの場合
キーまたは設定値を指定しない場合、以前の HDLM の設定情報が引き継がれます。

注※1

アップグレードまたは再インストールする場合にキーが指定されていないときは、設定値が引き継がれます。

注※2

定義できる内容以外を指定した場合は、エラーとなります。

設定する機能の詳細については、「6.6 set 動作環境を設定する」を参照してください。

注※3

最大値を超える場合は、エラーとなります。

注※4

次に示す場合だけ、キーを指定できます。

- 新規インストールの場合
インストール情報設定ファイルの `auto_failback` キーに「on」を指定している。
- アップグレードインストールまたは再インストールの場合
インストール情報設定ファイルの `auto_failback` キーに「on」を指定しているか、またはインストール前の設定で、自動フェイルバック機能を有効にしている。

注※5

間欠障害監視を有効にする場合は、`auto_failback` キー、および `auto_failback_interval` キーのあとに指定してください。

注※6

ダイナミック I/O パスコントロール機能の有効または、無効に関わらずチェック間隔を設定できます。

インストール情報設定ファイルの編集例を、次に示します。

```
[INSTALLATION_SETTINGS]
installfile_location=
workdir=
licensekeyfile=C:\%temp%\hdlm_license
installdir=D:\Program Files\HITACHI\DynamicLinkManager
HDLM_core=n
restart=n
[ENVIRONMENT_SETTINGS]
load_balance=on
load_balance_type=exlio
load_balance_same_path_use_times=1
lbex_usetimes_limit=100
error_log_level=3
error_log_size=9900
error_log_number=2
trace_level=0
trace_file_size=1000
trace_file_number=4
path_health_check=on
path_health_check_interval=30
auto_failback=off
#auto_failback_interval=1
#intermittent_error_monitor=off
#intermittent_error_monitor_interval=30
#intermittent_error_monitor_number=3
dynamic_io_path_control=off
dynamic_io_path_control_interval=10
remove_lu=off
remove_lu_force=off
```

注意事項

- インストール情報設定ファイルで、行の先頭に「#」がある場合は、その行をコメント行と見なします。
- キーまたは設定値を指定しない場合は、キーを定義している行の先頭に「#」を付けてください。

7.7.4 ログファイルについて

サイレントインストールを使用したインストールでは、インストール処理状況を示すログファイル (installhdlm.log) が出力されます。

installhdlm.log ファイルについて、次に示します。

- installhdlm.log ファイルは、インストール情報設定ファイルの workdir キーの値に指定したフォルダに出力されます。
- すでに installhdlm.log ファイルが存在している場合は、ログ情報が追記されます。ログ出力フォルダの容量については、「3.5.3 HDLM をサイレントインストールする場合の準備」を参照してください。

注意事項

- installhdlm.log ファイルは、HDLM のアンインストールと同時に削除されることはありません。したがって、installhdlm.log ファイルが不要になったときは、手動で削除してください。
- installhdlm.log ファイルが出力先のディスク容量不足などで出力できなかった場合は、installhdlm ユティリティの終了直前にメッセージが出力されます。

7.8 removehdlm HDLM アンインストールユティリティ

HDLM をアンインストールします。-s パラメタを指定して removehdlm ユティリティを実行した場合は、ダイアログを出力しないでアンインストールを行います (サイレントアンインストール)。

7.8.1 形式

```
removehdlm [-s [-r] [-w 作業フォルダ] | -h]
```

7.8.2 パラメタ

-s [-r] [-w 作業フォルダ]

サイレントアンインストールを実行します。

-r

アンインストール後に、ホストを再起動します。

-w 作業フォルダ

removehdlm.log および作業用のファイルを出力するフォルダを指定します。フォルダの名にスペースが含まれる場合は、値全体を「"」(引用符)で囲んでください。

指定しない場合は、環境変数 TMP または TEMP に定義されているフォルダを使用します。

-h

removehdlm ユティリティの形式を表示します。

パラメタを指定しないで HDLM アンインストールユティリティ (removehdlm) を実行した場合は、「プログラムの追加と削除」で「Dynamic Link Manager」をアンインストールする場合と同様に、「アンインストール時の注意事項」「アンインストールの完了」などのダイアログを出力します。

注意事項

- removehdlm ユティリティは、removehdlm ユティリティの実行後、ホストを再起動したあとに削除されます。
- removehdlm ユティリティの実行後、コマンドプロンプトおよび removehdlm.log に出力されているメッセージを基に、HDLM がアンインストールされたか確認してください。removehdlm.log は環境変数 TMP または TEMP で定義されているフォルダ、または -w パラメタで指定したフォルダに出力されます。
- -r パラメタでホストの再起動を指定した場合、コマンドプロンプトでは HDLM のアンインストール結果を確認できません。HDLM のアンインストール結果は、ホストの再起動後に removehdlm.log の内容を確認してください。

メッセージ

この章では、HDLM から出力されるメッセージを参照するときに知っておいてほしい情報について説明します。そのあと、HDLM の運用に関わるメッセージと対処を説明します。「8.15 Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントのリターンコード」では、Global Link Manager から HDLM へ要求があった場合に、HDLM が出力するリターンコードの意味と対処を説明します。

- 8.1 メッセージ一覧を参照するための前提知識
- 8.2 KAPL01001～KAPL02000
- 8.3 KAPL02001～KAPL03000
- 8.4 KAPL03001～KAPL04000
- 8.5 KAPL04001～KAPL05000
- 8.6 KAPL05001～KAPL06000
- 8.7 KAPL07001～KAPL08000
- 8.8 KAPL08001～KAPL09000
- 8.9 KAPL09001～KAPL10000
- 8.10 KAPL10001～KAPL11000
- 8.11 KAPL11001～KAPL12000
- 8.12 KAPL12001～KAPL13000
- 8.13 KAPL13001～KAPL14000
- 8.14 KAPL15001～KAPL16000
- 8.15 Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントのリターンコード
- 8.16 HDLM が出力する Windows イベントログ

8.1 メッセージ一覧を参照するための前提知識

ここでは、「8.2 KAPL01001～KAPL02000」以降に記載するメッセージ一覧を参照するために必要な、次の情報について説明します。

- メッセージ ID の出力形式と意味
- メッセージおよびメッセージの説明で使用する用語
- メッセージの言語種別

上記の情報について、次に説明します。

8.1.1 メッセージ ID の出力形式と意味

各メッセージにはメッセージ ID が付いています。メッセージ ID の形式と意味を次の表に示します。

表 8-1 メッセージ ID (KAPLnnnnnI) の形式と意味

形式	意味
KAPL	HDLM のメッセージであることを示します。
nnnnn	モジュール別のメッセージの通し番号です。
I	メッセージのレベルです。 C : Critical E : Error W : Warning I : Information

8.1.2 メッセージおよびメッセージの説明で使用する用語

メッセージに表示される用語、およびメッセージの説明（意味、説明、対処）で使用する用語を次の表に示します。

表 8-2 メッセージとメッセージの説明で使用する用語

用語	意味
aa...aa	変数（1つのメッセージに2つ以上の変数がある場合、bb...bb, cc...cc のように続きます）
FO	フェイルオーバ
オペレーション名	コマンド名「dlnkmgr」に続けて入力する操作の種類
サービスステータス	サービスの稼働状態
マウントドライブ	ファイルシステムに見えるドライブ

8.1.3 メッセージの言語種別

HDLM からは、英語、または日本語のメッセージが出力されます。HDLM から出力されるメッセージの言語種別は、Windows の言語種別に従います。

8.2 KAPL01001～KAPL02000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01001-I	HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , 終了時刻 = <i>bb...bb</i> The HDLM command completed normally. Operation name = <i>aa...aa</i> , completion time = <i>bb...bb</i>	説明 コマンドが正常に終了しました。 <i>aa...aa</i> : clear, help, offline, online, set, または view <i>bb...bb</i> : 西暦/月/日 時:分:秒 対処 特にありません。
KAPL01002-I	HDLM コマンドを開始しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The HDLM command started. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 コマンドが実行されました。 <i>aa...aa</i> : clear, offline, online, set, または view 対処 特にありません。
KAPL01003-W	オペレーション名が指定されていません。 No operation name is specified.	対処 オペレーション名を指定してから、再実行してください。
KAPL01004-W	オペレーション名が誤っています。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The operation name is invalid. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : 指定したオペレーション名 対処 HDLM コマンドの help を実行してオペレーション名を確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「6.3」を参照してください。
KAPL01005-W	パラメタが誤っています。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> A parameter is invalid. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameter = <i>bb...bb</i>	説明 <i>aa...aa</i> : clear, set, online, offline, または view <i>bb...bb</i> : 指定したパラメタ 対処 HDLM コマンドの help オペレーション名を実行してパラメタを確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「6.3」を参照してください。
KAPL01006-W	必要なパラメタが指定されていません。 オペレーション名 = <i>aa...aa</i> A necessary parameter is not specified. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 指定したオペレーションに必要なパラメタがありません。 <i>aa...aa</i> : clear, set, offline, または view 対処 HDLM コマンドの help オペレーション名を実行してパラメタを確認し、正しいパラメタを指定してから、再実行してください。help オペレーションについては、「6.3」を参照してください。
KAPL01007-W	パラメタが重複して指定されています。 オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> A duplicate parameter is specified. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameter = <i>bb...bb</i>	説明 <i>aa...aa</i> : clear, offline, online, set, または view <i>bb...bb</i> : 重複しているパラメタ 対処 重複したパラメタを削除して、再実行してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01008-W	必要なパラメタ値が指定されていません。 オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> A necessary parameter value is not specified. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameter = <i>bb...bb</i>	説明 <i>aa...aa</i> : offline, online, set, または view <i>bb...bb</i> : パラメタ名 対処 パラメタ値を指定して、再実行してください。
KAPL01009-W	パラメタ値が誤っています。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> , パラメタ値 = <i>cc...cc</i> , 有効値 = <i>dd...dd</i> A parameter value is invalid. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameter = <i>bb...bb</i> , parameter value = <i>cc...cc</i> , Valid value = <i>dd...dd</i>	説明 <i>aa...aa</i> : offline, online, set, または view <i>bb...bb</i> : パラメタ名 <i>cc...cc</i> : 指定したパラメタ値 <i>dd...dd</i> : パラメタ値の指定可能範囲 対処 パラメタに正しい値を指定してから、再実行してください。
KAPL01012-E	HDLM マネージャとの接続に失敗しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> Could not connect the HDLM manager. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 view オペレーションの <code>-sys -sfunc</code> パラメタでは HDLM マネージャから情報を取得する必要がありますが、HDLM マネージャに対してアクセスできません。 <i>aa...aa</i> : view 対処 HDLM コマンドの view オペレーションを実行し、HDLM マネージャが起動されているか確認してください。起動されていない場合は、HDLM マネージャを起動してから HDLM コマンドを再実行してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。
KAPL01013-E	HDLM コマンド内部処理で障害が発生しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , 詳細 = <i>bb...bb</i> An error occurred in internal processing of the HDLM command. Operation name = <i>aa...aa</i> details = <i>bb...bb</i>	説明 コマンド処理中にユーザ操作以外が原因と思われるエラーが発生しました。 <i>aa...aa</i> : clear, offline, online, set, または view <i>bb...bb</i> : エラーの発生した関数名, 処理内容 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL01014-W	HDLM コマンドを実行する権限がありません。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> No authority to execute the HDLM command. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 HDLM コマンドの実行に必要な管理者権限がありません。 <i>aa...aa</i> : clear, offline, online, set, または view 対処

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		Administrators グループ権限を持つユーザで実行してください。
KAPL01015-W	操作対象の HBA がありませんでした。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The target HBA was not found. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 -hba パラメタで指定したポート番号、パス番号を持つパスが見つかりません。 <i>aa...aa</i> : offline または online 対処 HDLM コマンドの view オペレーション (dlnkmgr view -path) を実行して、「PathName」に表示される値を確認してください。そのあと、操作する HBA ポートの「PathName」上位 2 つの値を指定して、再実行してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。
KAPL01016-W	操作対象の CHA ポートがありませんでした。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The target CHA port was not found. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 -cha パラメタで必要な -pathid で示すパス ID が、HDLM の管理対象ではありません。 <i>aa...aa</i> : offline または online 対処 HDLM コマンドの view オペレーション (dlnkmgr view -path) を実行して、「ChaPort」に表示される値を確認してください。そのあと、操作する CHA ポートを通るパスのうち、どれかのパス管理 PATH_ID の値を指定して再実行してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。
KAPL01018-W	操作対象のデバイスがありませんでした。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The target device was not found. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 指定したホストデバイス名はありません。 <i>aa...aa</i> : view 対処 HDLM コマンドの view オペレーション (dlnkmgr view -path) を実行して、「HDevName」に表示される値を確認してください。そのあと、操作するホストデバイスの「HDevName」の値を指定して、再実行してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。
KAPL01019-W	操作対象のパスがありませんでした。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The target path was not found. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : offline, online, または view ◦ offline, online オペレーションの場合 パスの指定が間違っています。 ◦ view オペレーションの場合 HDLM の環境構築、または運用環境の構成変更が正しく完了し

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<p>ていないため、パスが構成されていません。</p> <p>対処</p> <ul style="list-style-type: none"> offline, online オペレーションの場合 HDLM コマンドの view オペレーションで指定値を確認して、再実行してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。 view オペレーションの場合 「3.」, または「4.7」を参照して、パスを構成してください。そのあともこのメッセージが出力される場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL01021-E	<p>メモリ不足により HDLM コマンドが実行できません。</p> <p>Cannot execute the HDLM command due to insufficient memory.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM コマンド処理に必要なメモリが確保できませんでした。</p> <p>対処</p> <p>不要なアプリケーションを終了させて空きメモリを増やし、再実行してください。</p>
KAPL01023-W	<p>デバイスに対する最後の稼働状態のパスは閉塞することができません。</p> <p>The last Online path for the device cannot be placed Offline(C).</p>	<p>説明</p> <p>offline オペレーションで指定したパスは該当する LU への最後のパスであるため、Offline(C)にはできません。</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの view オペレーションでパスの状態を確認してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。</p>
KAPL01024-W	<p>同時に指定できないパラメタが指定されています。オペレーション名 = aa...aa, パラメタ = bb...bb</p> <p>The specified parameters cannot be specified at the same time. Operation name = aa...aa, parameters = bb...bb</p>	<p>説明</p> <p>aa...aa : clear, offline, online, set, または view</p> <p>bb...bb : 同時に指定できないパラメタ</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの help オペレーション名を実行し、指定できるパラメタを確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「6.3」を参照してください。</p>
KAPL01035-W	<p>クラスタサポート機能が有効なため、ロードバランス機能はサポート対象外です。</p> <p>The cluster support function is active, so the load balancing function is not supported.</p>	<p>説明</p> <p>MSCS がインストールされているため、ロードバランス機能を有効にできません。</p> <p>対処</p>

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		MSCS がインストールされている環境では、ロードバランス機能はサポート対象外です。ロードバランス機能を使用する場合は MSCS をアンインストールしてください。
KAPL01036-E	パスの回復に失敗しました。PathID = <i>aa...aa</i> The Offline path cannot be placed online. PathID = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : パス ID (10 進数) 対処 該当するパスの障害を取り除いたあと、再度コマンドを実行してください。
KAPL01039-W	HDLM コマンドの online オペレーションの処理中に、状態を Online にできないパスを検出しました。 PathID = <i>aa...aa</i> 。 online オペレーションの処理を継続しますか? [y/n]: During the online operation processing of the HDLM command, a path that cannot be placed in the Online status was detected. PathID = <i>aa...aa</i> Would you like to continue the processing of the online operation? [y/n]:	説明 マルチパスのオンライン処理を実行中に、Online 状態にできないパスがありました。該当するパスを無視して次のパスのオンライン処理を行う場合は「y」を、処理を中止する場合は「n」を入力してください。 <i>aa...aa</i> : パス ID (10 進数) 対処 ほかのパスに対して、HDLM コマンドの online オペレーションの処理を継続する場合は「y」を、そのまま中止する場合は「n」を入力してください。online オペレーションについては、「6.5」を参照してください。
KAPL01040-W	入力の値が不正です。再入力してください。 [y/n]: The entered value is invalid. Re-enter [y/n]:	説明 「y」または「n」の入力要求に対して「y」または「n」以外が入力されました。「y」または「n」のどちらかの値を入力してください。 対処 「y」または「n」を入力してください。
KAPL01041-E	入力の値が不正です。オペレーションを中断します。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The entered value is invalid. The operation stops. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 入力要求に対し、3 回間違った入力を行ったため、コマンドの処理を中止します。 <i>aa...aa</i> : clear, offline, online, または set 対処 入力する値を確認して、HDLM コマンドを再実行してください。
KAPL01044-W	パラメタ値が重複して指定されています。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> , パラメタ値 = <i>cc...cc</i> A duplicate parameter value is specified. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameter = <i>bb...bb</i> , parameter value = <i>cc...cc</i>	説明 <i>aa...aa</i> : view <i>bb...bb</i> : パラメタ名 <i>cc...cc</i> : 重複しているパラメタ値 対処 重複したパラメタ値を削除して、再実行してください。
KAPL01045-W	パラメタ値が多過ぎます。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> , パラメタ値 = <i>cc...cc</i> Too many parameter values are specified. Operation name = <i>aa...aa</i> ,	説明 <i>aa...aa</i> : offline, online, set, または view <i>bb...bb</i> : パラメタ名 <i>cc...cc</i> : パラメタ値

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
	parameter = <i>bb...bb</i> , parameter value = <i>cc...cc</i>	対処 HDLM コマンドの help オペレーション名を実行してパラメタ値を確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「6.3」を参照してください。
KAPL01046-I	Offline 要求をバッチ登録しました。 PathID = <i>aa...aa</i> An offline request was registered in a batch job. PathID = <i>aa...aa</i>	説明 offline コマンドを実行しましたが、現在処理中です。この状態で view -path オペレーションを実行した場合は Offline(P)が表示されます。しばらく時間をおいてから再度 view -path オペレーションを実行して Offline(C)となることを確認してください。 <i>aa...aa</i> : パス ID (10 進数) 対処 特にありません。
KAPL01047-W	Offline 要求は 1 つしかバッチ登録できません。 Only one offline request can be registered in a batch job.	説明 現在 offline 処理実行中であるため、Offline コマンドは受け付けられません。 対処 登録されている Offline 要求が完了してから、再度実行してください。
KAPL01048-W	ヘルプ情報が存在しません。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> Help information cannot be found. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 指定したオペレーションは HDLM コマンドのオペレーションではありません。 <i>aa...aa</i> : 指定オペレーション名 対処 HDLM コマンドの help オペレーションでオペレーション名を確認してから再実行してください。help オペレーションについては、「6.3」を参照してください。
KAPL01049-I	オペレーションを開始します。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> 。よろしいですか? [y/n]: Would you like to execute the operation? Operation name = <i>aa...aa</i> [y/n]:	説明 clear または set オペレーションを開始します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。 <i>aa...aa</i> : clear または set 対処 オペレーションを実行する場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。clear オペレーションについては、「6.2」を参照してください。set オペレーションについては、「6.6」を参照してください。
KAPL01050-I	指定されたパスを Online にします。よろしいですか? [y/n]: The currently selected paths will be changed to the Online status. Is this OK? [y/n]:	説明 online オペレーションを開始します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		<p>対処</p> <p>指定したパスを Online 状態にする場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。online オペレーションについては、「6.5」を参照してください。</p>
KAPL01051-I	<p>パスが指定されていないので、Offline(C),Offline(E),Online(E)のパスを Online にします。よろしいですか? [y/n]:</p> <p>Because no path has been selected among the currently displayed paths, the paths in the Offline(C), Offline(E), and Online(E) statuses will be changed to the Online status. Is this OK? [y/n]:</p>	<p>説明</p> <p>online オペレーションでパスを選択するパラメタが指定されていないので、すべてのパスを Online にします。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p>対処</p> <p>Offline(C), Offline(E), Online(E)のパスを Online にする場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。実行する前に必ず HDLM コマンドの view オペレーションでパスの状態を確認してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。online オペレーションについては、「6.5」を参照してください。</p>
KAPL01052-I	<p>指定されたパスを Offline(C)にします。よろしいですか? [y/n]:</p> <p>The currently selected paths will be changed to the Offline(C) status. Is this OK? [y/n]:</p>	<p>説明</p> <p>offline オペレーションを開始します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p>対処</p> <p>指定したパスを Offline(C)にする場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。offline オペレーションについては、「6.4」を参照してください。</p>
KAPL01053-I	<p>指定されたパスが Offline(C)になってもよい場合は y を入力してください。そうでない場合は n を入力してください。 [y/n]:</p> <p>If you are sure that there would be no problem when the path is placed in the Offline(C) status, enter y. Otherwise, enter n. [y/n]:</p>	<p>説明</p> <p>offline オペレーションを開始します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p>対処</p> <p>指定したパスを Offline(C)にする場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。offline オペレーションについては、「6.4」を参照してください。</p>
KAPL01054-W	<p>HDLM コマンドの offline オペレーションの処理中に、状態を Offline(C)にできないパスを検出しました。PathID = aa...aa。offline オペレーションの処理を続けますか? [y/n]:</p> <p>During the offline operation processing of the HDLM command, a path that cannot be placed in the Offline(C) status was detected. PathID = aa...aa Would</p>	<p>説明</p> <p>マルチパスのオフライン処理中に、Offline(C)にできないパスがありました。該当するパスを無視して次のパスのオフライン処理を行う場合は「y」を、処理を中止する場合は「n」を入力してください。</p> <p>aa...aa : パス ID (10 進数)</p> <p>対処</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	you like to continue the processing of the offline operation? [y/n]:	ほかのパスに対して、HDLM コマンドの offline オペレーションの処理を継続する場合は「y」を、そのまま中止する場合は「n」を入力してください。offline オペレーションについては、「6.4」を参照してください。
KAPL01055-I	指定された <i>aa...aa</i> を通る全てのパスを Offline(C)にします。よろしいですか? [y/n]: All the paths which pass the specified <i>aa...aa</i> will be changed to the Offline(C) status. Is this OK? [y/n]:	説明 -hba または -cha パラメタが指定されたため、複数のパスをまとめて Offline(C)状態にします。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。 <i>aa...aa</i> : CHA port または HBA 対処 指定した対象物を通るすべてのパスを Offline(C)にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。
KAPL01056-I	指定された <i>aa...aa</i> を通る全てのパスが Offline(C)になってもよい場合は y を入力してください。そうでない場合は n を入力してください。 [y/n]: If you are sure that there would be no problem when all the paths which pass the specified <i>aa...aa</i> are placed in the Offline(C) status, enter y. Otherwise, enter n. [y/n]:	説明 パスを Offline(C)にしてよいかどうかを再度確認します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。 <i>aa...aa</i> : CHA port または HBA 対処 指定した対象物を通るすべてのパスを Offline(C)にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。
KAPL01057-I	指定された <i>aa...aa</i> を通る全てのパスを Online にします。よろしいですか? [y/n]: All the paths which pass the specified <i>aa...aa</i> will be changed to the Online status. Is this OK? [y/n]:	説明 -hba または -cha パラメタが指定されたため、複数のパスをまとめて Online 状態にします。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。 <i>aa...aa</i> : CHA port または HBA 対処 指定した対象物を通るすべてのパスを Online するには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。
KAPL01058-W	不要なパラメタ値が指定されました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> , パラメタ値 = <i>cc...cc</i> The specified parameter value is not needed. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameter = <i>bb...bb</i> , parameter value = <i>cc...cc</i>	説明 値を必要としないパラメタにパラメタ値が指定されました。 <i>aa...aa</i> : clear, offline, online, set, または view <i>bb...bb</i> : パラメタ名 <i>cc...cc</i> : パラメタ値 対処 HDLM コマンドの help オペレーション名を実行してパラメタおよびパラメタ値を確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「6.3」を参照してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01059-W	<p>パラメタ <i>aa...aa</i> にパラメタ値 <i>bb...bb</i> を指定した場合、同時にパラメタ <i>cc...cc</i> は指定できません。オペレーション名 = <i>dd...dd</i></p> <p>Cannot specify the parameter <i>cc...cc</i> at the same time if you specify parameter <i>aa...aa</i> and parameter value <i>bb...bb</i>. Operation name = <i>dd...dd</i></p>	<p>説明</p> <p>パラメタ値とほかのパラメタの指定が矛盾しています。 <i>aa...aa</i> : パラメタ名 <i>bb...bb</i> : パラメタ値 <i>cc...cc</i> : パラメタ名 <i>dd...dd</i> : view または set</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの help オペレーション名を実行してパラメタおよびパラメタ値を確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「6.3」を参照してください。</p>
KAPL01060-I	<p>ユーザの指定により、オペレーションの処理を中断しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i></p> <p>The user terminated the operation. Operation name = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>確認に対し「n」が入力されたため、コマンドの処理を中止します。 <i>aa...aa</i> : online, offline, set, または clear</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL01061-I	<p><i>aa...aa</i> 本のパスを <i>bb...bb</i> にしました。失敗したパス = <i>cc...cc</i> 本。オペレーション名 = <i>dd...dd</i></p> <p><i>aa...aa</i> path(s) were successfully placed <i>bb...bb</i>; <i>cc...cc</i> path(s) were not. Operation name = <i>dd...dd</i></p>	<p>説明</p> <p>online オペレーションまたは offline オペレーションで処理したパス数を示します。 <i>aa...aa</i> : online オペレーションまたは offline オペレーションが成功したパス数 (10 進数) <i>bb...bb</i> : Online または Offline(C) <i>cc...cc</i> : online オペレーションまたは offline オペレーションに失敗したパス数 (10 進数) <i>dd...dd</i> : online または offline</p> <p>対処</p> <p>特にありません。online オペレーションについては、「6.5」を参照してください。offline オペレーションについては、「6.4」を参照してください。</p>
KAPL01062-I	<p><i>aa...aa</i> 本のパスを Offline(C)にしました。 <i>bb...bb</i> 本のパスの offline 要求を登録しました。失敗したパス = <i>cc...cc</i> 本。オペレーション名 = <i>dd...dd</i></p> <p><i>aa...aa</i> path(s) were successfully placed Offline(C). The offline request of <i>bb...bb</i> path(s) were registered; <i>cc...cc</i> path(s) were not. Operation name = <i>dd...dd</i></p>	<p>説明</p> <p>リザーブ処理中でオフライン要求を登録した場合の処理パス数を示します。 <i>aa...aa</i> : オフライン処理に成功したパス数 (10 進数) <i>bb...bb</i> : オフライン処理を予約したパス数 (10 進数) <i>cc...cc</i> : オフライン処理に失敗したパス数 (10 進数) <i>dd...dd</i> : offline</p> <p>対処</p> <p>バッチ登録されたパスについては、view オペレーションを実行して確認してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01063-I	操作対象のパスは既に <i>aa...aa</i> です。 The target path(s) are already <i>aa...aa</i> .	<p>説明</p> <p>online オペレーションまたは offline オペレーションを実行した結果、指定されたパスはすでに Online または Offline(C)となっています。</p> <p><i>aa...aa</i> : Online または Offline(C)</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの view オペレーションでパスの状態を確認してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。online オペレーションについては、「6.5」を参照してください。offline オペレーションについては、「6.4」を参照してください。</p>
KAPL01064-W	指定されたホストデバイス情報が取得できませんでした。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The information for the specified host device could not be acquired. Operation name = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p>view -path -hdev で指定したホストデバイスへは現在アクセスできません。</p> <p><i>aa...aa</i> : view</p> <p>対処</p> <p>次のどれかの対処をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定したホストデバイスがフォーマット中である場合は、フォーマット完了後に再実行してください。 指定したホストデバイスへのパスがすべて障害になっている場合は、パスの障害を回復後に再実行してください。 クラスタ構成で、指定したホストデバイスの存在する LU がほかのホストから占有されている場合、または指定したホストデバイスがダイナミックディスクのボリュームに割り当てられている場合は、ホストデバイス名を指定してパス情報の表示はできません。HDLM コマンドの view オペレーションを、ホストデバイス名を指定しないで再実行してください。
KAPL01065-E	クラスタサポート機能とロードバランス機能を同時に有効にできない構成です。 The configuration does not support the simultaneous use of the load balancing and cluster support functions.	<p>説明</p> <p>HDLM の管理対象のストレージシステムの中に、パーシステントリザーブがサポートされていないストレージシステムが存在する場合は、クラスタ環境でロードバランス機能は使用できません。</p> <p>対処</p> <p>パーシステントリザーブをサポートしていないストレージシステムが管理対象にないか確認してください。お使いのストレージシステムがパー</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		システントリザブに対応しているかどうかは、ストレージシステムの購入元会社または保守会社にお問い合わせください。
KAPL01068-I	ライセンスキーを入力して下さい： Enter a license key:	説明 ライセンスを更新します。ライセンスキーを入力してください。 対処 特にありません。
KAPL01069-W	入力されたライセンスキーが不正です。 The entered license key is invalid.	説明 入力したライセンスキーが不正です。再入力してください。 対処 正しいライセンスキーを入力してください。
KAPL01070-E	入力されたライセンスキーが不正です。ライセンスの更新を中断します。 The entered license key is invalid. Renewal of the license key will now stop.	説明 3回不正なライセンスキーが入力されたため、ライセンス更新を中断します。 対処 正しいライセンスキーを取得したあと、再実行してください。
KAPL01071-I	永久ライセンスがインストールされました。 The permanent license was installed.	説明 ライセンスが永久ライセンスに更新されました。 対処 特にありません。
KAPL01072-I	非常ライセンスがインストールされました。期限満了日はaa...aaです。 The emergency license was installed. The license expires on aa...aa.	説明 ライセンスが非常ライセンスに更新されました。 aa...aa：西暦（4桁）/月（01～12）/日（01～31） 対処 期限満了日までに、永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL01073-E	一時ライセンスの期限が切れています。 The temporary license expired.	説明 一時ライセンスの期限が切れています。永久ライセンスをインストールしてください。 対処 永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL01074-E	非常ライセンスの期限が切れています。 The emergency license expired.	説明 非常ライセンスの期限が切れています。永久ライセンスをインストールしてください。 対処 永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL01075-E	HDLM内で重大エラーが発生しました。システム環境が不正です。 A fatal error occurred in HDLM. The system environment is invalid.	説明 ライセンス情報ファイルがありません。 対処

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		HDLM を再インストールしてください。
KAPL01076-I	永久ライセンスがインストールされています。 The permanent license has been installed.	説明 すでに永久ライセンスがインストールされているので、ライセンスのインストールは必要ありません。 対処 特にありません。
KAPL01079-W	自動フェイルバック機能が無効のため、間欠障害監視機能の設定ができません。 The intermittent error monitoring function cannot be set up because automatic failback is disabled.	説明 自動フェイルバック機能が無効のため、間欠障害監視は設定できません。 対処 自動フェイルバック機能を有効に設定してから、間欠障害監視を設定してください。
KAPL01080-W	障害監視時間、および障害発生回数が自動フェイルバックチェック間隔と矛盾しています。 The error monitoring interval and the number of times that the error is to occur conflict with the automatic failback checking interval.	説明 自動フェイルバックで指定したチェック間隔と、間欠障害監視で指定した障害監視時間および障害発生回数の値では、間欠障害を検出できません。 対処 間欠障害監視の障害監視時間は、「自動フェイルバックで指定するチェック間隔×間欠障害監視で指定する障害発生回数」以上に設定してください。
KAPL01081-E	ライセンスキーファイルが不正です。 ファイル名 = aa...aa The license key file is invalid. File name = aa...aa	説明 ライセンスキーファイルの形式に不正があります。 aa...aa : Windows のインストール先ドライブ:¥hdlm_license 対処 正しいライセンスキーファイルを Windows のインストール先ドライブの直下に格納してから、再実行してください。
KAPL01082-E	インストール可能なライセンスキーがライセンスキーファイル内にありません。 ファイル名 = aa...aa There is no installable license key in the license key file. File name = aa...aa	説明 ライセンスキーファイル中に、HDLM のインストールが可能なライセンスキーがありません。 aa...aa : Windows のインストール先ドライブ:¥hdlm_license 対処 ライセンスキーファイルが正しいか確認してから、再実行してください。
KAPL01083-I	ライセンスキーファイルがありません。 ファイル名 = aa...aa There is no license key file. File name = aa...aa	説明 ライセンスキーファイルが Windows のインストール先ドライブの直下がありません。 aa...aa : Windows のインストール先ドライブ:¥hdlm_license 対処

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		ライセンスキーの入力を促すメッセージが表示されるので、ライセンスキーを入力してください。 または、HDLM コマンドを中断し、正しいライセンスキーファイルを Windows のインストール先ドライブの直下に格納してから、HDLM コマンドを再実行してください。
KAPL01084-W	ライセンスキーファイルの削除に失敗しました。ファイル名 = <i>aa...aa</i> An attempt to delete the license key file has failed. File name = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : Windows のインストール先ドライブ: %hdlm_license 対処 ライセンスキーファイルが存在している場合は、削除してください。
KAPL01088-W	同時に指定できないパラメタ値が指定されています。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> , パラメタ値 = <i>cc...cc</i> The specified parameter values cannot be specified at the same time. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameter = <i>bb...bb</i> , parameter values = <i>cc...cc</i>	説明 <i>aa...aa</i> : view <i>bb...bb</i> : パラメタ名 <i>cc...cc</i> : 同時に指定できないパラメタ値 対処 HDLM コマンドの help オペレーション名を実行し、指定できるパラメタ値を確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「6.3」を参照してください。
KAPL01089-E	HDLM コマンドの set -lic オペレーションまたは、更新インストール時におけるライセンスの更新が同時に実行されました。One of the following was executed at the same time as an HDLM command set -lic operation: another set -lic operation, or an update of the license for an update installation.	対処 HDLM コマンドの view -sys -lic オペレーションでライセンスを確認し、必要に応じて、再度 HDLM コマンドの set -lic オペレーションを実行してください。同じエラーメッセージが表示される場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 なお、次の操作は行わないでください。 ◦ HDLM コマンドの set -lic オペレーションの同時実行 ◦ HDLM コマンドの set -lic オペレーションとアップグレードまたは再インストール時のライセンスの更新の同時実行
KAPL01095-E	HDLM のバージョン情報の取得に失敗しました。詳細 = <i>aa...aa</i> An attempt to acquire the HDLM version information has failed. details = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : エラーの発生要因コード 対処 再実行してください。繰り返し同じエラーが発生する場合は、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL01096-E	Service Pack のバージョン情報の取得に失敗しました。詳細 = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : エラーの発生要因コード

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	An attempt to acquire the Service Pack version information has failed. details = <i>aa...aa</i>	<p>対処</p> <p>再実行してください。繰り返し同じエラーが発生する場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL01097-W	<p>既存のトレースファイルが全て削除されます。よろしいですか? [y/n]:</p> <p>All the current trace files will be deleted. Is this OK? [y/n]</p>	<p>説明</p> <p>トレースファイルサイズ、またはファイル数を現在の設定値より縮小する場合は、既存のトレースファイルがすべて削除されます。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p>対処</p> <p>操作を続行する場合は「y」を入力してください。続行しない場合は「n」を入力してください。</p>
KAPL01100-I	<i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p>実行したコマンドラインを示します。 <i>aa...aa</i> : 実行したコマンド</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL01101-W	<p>操作対象の HBA ポートがありませんでした。オペレーション名 = <i>aa...aa</i></p> <p>The target HBA port was not found. Operation name = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>-hbaportwwn パラメタで指定された HBA ポート WWN を持つ HBA が見つかりません。 <i>aa...aa</i> : offline または online</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの view オペレーション (dlnkmgr view -path -hbaportwwn) を実行して、操作対象とする HBA ポート WWN を確認してください。そのあと、該当する HBA ポート WWN を指定して、再実行してください。</p>
KAPL01102-I	<p>指定された <i>aa...aa</i> ポートを通る全てのパスを Offline(C)にします。よろしいですか? [y/n]:</p> <p>All the paths which pass the specified <i>aa...aa</i> port will be changed to the Offline(C) status. Is this OK? [y/n]:</p>	<p>説明</p> <p>-hbaportwwn パラメタが指定されたため、複数のパスをまとめて Offline(C)にします。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。 <i>aa...aa</i> : HBA</p> <p>対処</p> <p>指定した対象物を通るすべてのパスを Offline(C)にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。</p>
KAPL01103-I	<p>指定された <i>aa...aa</i> ポートを通る全てのパスが Offline(C)になってもよい場合は y を入力してください。そうでない場合は n を入力してください。 [y/n]:</p>	<p>説明</p> <p>パスを Offline(C)にしてよいかどうかを再度確認します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。 <i>aa...aa</i> : HBA</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	If you are sure that there would be no problem when all the paths which pass the specified <i>aa...aa</i> port are placed in the Offline(C) status, enter y. Otherwise, enter n. [y/n]:	対処 指定した対象物を通るすべてのパスを Offline(C)にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。
KAPL01104-I	指定された <i>aa...aa</i> ポートを通る全てのパスを Online にします。よろしいですか？ [y/n]: All the paths which pass the specified <i>aa...aa</i> port will be changed to the Online status. Is this OK? [y/n]:	説明 -hbaportwwn パラメタが指定されたため、複数のパスをまとめて Online にします。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。 <i>aa...aa</i> : HBA 対処 指定した対象物を通るすべてのパスを Online にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。
KAPL01106-W	ロードバランス機能を使用できないストレージ装置が接続されています。 One or more connected storage system cannot use the load balancing function.	対処 特にありません。
KAPL01107-I	オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。本オペレーションを実行すると、LU 個別に設定されているロードバランス種別が無効になります。よろしいですか？ [y/n]: The load balancing type specified for individual LUs will become invalid when this operation is executed. Do you want to execute the operation anyway? Operation name = set [y/n]:	対処 システムのロードバランス種別を設定するには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。
KAPL01112-E	HDLM ドライバとの接続に失敗しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> An attempt to connect to the HDLM driver has failed. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 実行した HDLM コマンドのオペレーションは HDLM ドライバから情報を取得する必要がありますが、HDLM ドライバにアクセスができません。 <i>aa...aa</i> : clear, offline, online, set, または view 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL01114-W	監査ログ設定ファイルがありません。マネージャを再起動した後、"dlnkmgr view -sys -audlog"コマンドを実行して、設定を確認してください。 The audit log configuration file does not exist. Restart the HDLM Manager, and execute the "dlnkmgr view -sys -audlog" command and check the setting.	説明 監査ログ設定ファイルが存在しません。 対処 マネージャを再起動したあと、dlnkmgr view -sys -audlog コマンドを実行してください。そのあ

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		と、必要に応じて <code>dlnkmgr set -audlog</code> コマンドで設定してください。
KAPL01115-W	<p>監査ログ設定ファイルがオープンできません。"<code>dlnkmgr view -sys -audlog</code>"コマンドを実行して、結果が正常に表示されるか確認してください。</p> <p>The audit log configuration file cannot be opened. Execute the "<code>dlnkmgr view -sys -audlog</code>" command and check whether a normal result is displayed.</p>	<p>説明</p> <p>監査ログ設定ファイルがオープンできません。</p> <p>対処</p> <p><code>dlnkmgr view -sys -audlog</code> コマンドを実行した結果、正常に表示されない場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL01116-W	<p>監査ログ設定ファイルが不正です。マネージャを再起動した後、"<code>dlnkmgr view -sys -audlog</code>"コマンドを実行して設定を確認してください。</p> <p>The audit log configuration file is invalid. Restart the HDLM Manager, and execute the "<code>dlnkmgr view -sys -audlog</code>" command and check the setting.</p>	<p>説明</p> <p>監査ログ設定ファイルが不正です。</p> <p>対処</p> <p>マネージャを再起動したあと、<code>dlnkmgr view -sys -audlog</code> コマンドを実行してください。そのあと、必要に応じて <code>dlnkmgr set -audlog</code> コマンドで設定してください。</p>
KAPL01117-W	<p>監査ログ設定ファイルの読み込み処理でエラーが発生しました。</p> <p>An error occurred during processing to read the audit log configuration file.</p>	<p>説明</p> <p>監査ログ設定ファイルの読み込み中に内部エラーが発生しました。</p> <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL01118-W	<p>監査ログの出力処理でエラーが発生しました。</p> <p>An error occurred during processing to output the audit log configuration file.</p>	<p>説明</p> <p>監査ログの出力中に内部パラメタエラーが発生しました。</p> <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL01119-W	<p>監査ログの出力処理でエラーが発生しました。</p> <p>An error occurred during processing to output the audit log configuration file.</p>	<p>説明</p> <p>監査ログの出力中に内部エラーが発生しました。</p> <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL01120-W	<p>ストレージシステムのモデル ID を表示できませんでした。詳細 = <code>aa...aa, bb...bb</code></p> <p>A storage system model ID could not be displayed. Details = <code>aa...aa, bb...bb</code></p>	<p>説明</p> <p>ストレージシステムのモデル ID を表示できませんでした。</p> <p><code>aa...aa</code> : ストレージ認識情報</p> <p><code>bb...bb</code> : エラーコード</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p> <p>DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
KAPL01154-W	すでにシステム単位で(aa...aa)設定済みです。 The dynamic I/O path control function is already set to aa...aa for the system.	説明 aa...aa : on または off 対処 HDLM コマンドの view オペレーションでホスト単位, ストレージシステム単位, および LU 単位の設定を確認してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。
KAPL01155-W	すでにストレージ単位で(aa...aa)設定済みです。 The dynamic I/O path control function is already set to aa...aa for storage.	説明 aa...aa : on または off 対処 HDLM コマンドの view オペレーションでストレージシステム単位の設定を確認してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。
KAPL01156-I	ストレージ単位で(aa...aa)設定しました。 The dynamic I/O path control function was set to aa...aa for storage.	説明 aa...aa : on または off 対処 HDLM コマンドの view オペレーションでストレージシステム単位および LU 単位の設定を確認してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。
KAPL01157-I	システム単位で(aa...aa)設定しました。 The dynamic I/O path control function was set to aa...aa for the system.	説明 aa...aa : on または off 対処 HDLM コマンドの view オペレーションでホスト単位, ストレージシステム単位, および LU 単位の設定を確認してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。
KAPL01158-E	指定したストレージは動的パス制御が適用できないストレージ装置です。 Dynamic I/O path control cannot be applied to the specified storage.	対処 HDLM コマンドの view オペレーションでパス ID を確認してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。
KAPL01160-W	パス構成は変更されませんでした。 The path configuration was not changed.	説明 パスが削除されませんでした。 対処 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 削除対象のパスが切断されているかどうかを確認してください。 ◦ 削除対象のパスが Offline(C)状態になっているかどうかを確認してください。 ◦ HDLM コマンドの view オペレーションでパスがすでに削除済みではないかどうか確認してください。
KAPL01161-I	パス構成変更を実行します。よろしいですか? [y/n] :	説明 delete オペレーションでパス構成変更の実行を確認します。 対処

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	This operation will change the path configuration. Do you want to continue? [y/n]:	パス構成変更を実行する場合は「y」、実行を取り消す場合は「n」を入力してください。
KAPL01163-E	パスの構成変更が失敗しました。詳細 = <i>aa...aa</i> The path configuration change failed. (details = <i>aa...aa</i>)	説明 delete オペレーションの実行が失敗しました。 <i>aa...aa</i> : 発生したエラーの内容を示すコード 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL01164-I	<i>aa...aa</i> パスを削除しました。終了時刻 = <i>bb...bb</i> Paths were deleted. (number of paths deleted = <i>aa...aa</i> , completion time = <i>bb...bb</i>)	説明 delete オペレーションは成功しました。 <i>aa...aa</i> : 削除したパス数 <i>bb...bb</i> : 西暦(4桁)/月/日 時:分:秒 対処 HDLM コマンドの view オペレーションでパスが削除されたことを確認してください。
KAPL01165-I	パスを削除しました。パス ID = <i>aa...aa</i> , ストレージ = <i>bb...bb</i> , iLU = <i>cc...cc</i> A path was deleted. (path ID = <i>aa...aa</i> , storage = <i>bb...bb</i> , iLU = <i>cc...cc</i>)	説明 delete オペレーションを実行したあと、削除したパスの情報を表示します。 <i>aa...aa</i> : 削除したパスのパス ID <i>bb...bb</i> : 削除したパスが接続されていたストレージ(ベンダ ID, プロダクト ID, シリアル番号) <i>cc...cc</i> : 削除したパスが接続されていた LU 番号 対処 HDLM コマンドの view オペレーションでパスが削除されたことを確認してください。
KAPL01166-I	オペレーションを開始します。オペレーション名 = <i>set</i> 。本オペレーションを実行すると、LU 個別に設定されている同一パス使用回数が無効になります。よろしいですか? [y/n]: If you execute this operation, the specified number of times that the same path can be used for individual LUs will become invalid. Do you want to execute the operation anyway? Operation name = <i>set</i> [y/n]:	説明 LU 単位に設定された同一パス使用回数設定が無効になります。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。 対処 システムの同一パス使用回数を設定する場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。

8.3 KAPL02001～KAPL03000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL02001-I	HDLM GUI を正常に起動しました。 java.version = aa...aa HDLM GUI has started normally. java.version = aa...aa	説明 HDLM GUI が起動したことを示します。 aa...aa : バージョン 対処 特にありません。
KAPL02002-I	HDLM GUI を終了しました。 HDLM GUI has terminated.	対処 特にありません。
KAPL02003-E	HDLM GUI を起動する権限がありません。 You lack permission to start HDLM GUI.	対処 Administrators グループ権限を持つユーザ、または Administrator ユーザで実行してください。
KAPL02004-E	HDLM GUI の内部処理で障害が発生しました。HDLM GUI を起動できません。詳細 = aa...aa An error occurred during internal processing of HDLM GUI. HDLM GUI cannot start. Details = aa...aa	説明 HDLM GUI 起動時にユーザ操作が原因でないと思われるエラーが発生しました。 aa...aa : 発行した API 名 ◦ JHSPGetPathBy ◦ JHSPGetManagerStatus ◦ JHSPGetDriverStatus ◦ JHSPGetADriverStatus ◦ JHSPVerifyAuthorization 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL02005-E	メモリ不足により HDLM GUI を起動できません。 An attempt to start HDLM GUI has failed due to insufficient memory.	説明 HDLM GUI 処理に必要なメモリが確保できませんでした。 対処 不要なアプリケーションを終了させ、空きメモリを増やすか、ホストを再起動してください。
KAPL02006-W	パスを検出できませんでした。 No path was detected.	説明 操作対象となるパスが見つかりませんでした。 対処 ホストストレージシステム間のパスを接続したあとにホストを再起動してください。
KAPL02007-E	HDLM マネージャとの接続に失敗しました。aa...aa を中断します。 The HDLM manager could not be connected. The aa...aa operation has been stopped.	説明 オプションウィンドウ起動時、またはオプション情報設定時に HDLM マネージャに対してアクセスができません。 aa...aa : オプション情報取得 (英語メッセージの場合: Get Option Information) または、オプション情報設定 (英語メッセージの場合: Set Option Information) 対処 HDLM コマンドの view オペレーションを実行し、HDLM マネージャが起動され

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		<p>ているか確認してください。起動されていない場合は、HDLM マネージャを起動してから HDLM GUI を再起動してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。</p>
KAPL02011-I	<p><i>aa...aa</i> を実行します。よろしいですか？ [OK/キャンセル] Would you like to execute the <i>aa...aa</i> operation? [OK/Cancel]</p>	<p>説明 オペレーションの実行確認です。実行してよい場合は [OK] ボタンを、実行しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。 <i>aa...aa</i> : データクリア (英語メッセージの場合 : Clear Data)</p> <p>対処 オペレーションを実行する場合は [OK] ボタンを、実行を中断する場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。</p>
KAPL02012-I	<p><i>aa...aa</i> を開始しました。 <i>aa...aa</i> has started.</p>	<p>説明 <i>aa...aa</i> : オペレーション (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ CSV 出力 (Export CSV) ◦ オプション情報設定 (Set Option Information) ◦ 再表示 (Refresh) ◦ オンライン (Online) ◦ オフライン (Offline) ◦ データクリア (Clear Data) <p>注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL02013-I	<p><i>aa...aa</i> が正常終了しました。 <i>aa...aa</i> has completed normally.</p>	<p>説明 <i>aa...aa</i> : オペレーション (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ CSV 出力 (Export CSV) ◦ オプション情報設定 (Set Option Information) ◦ 再表示 (Refresh) ◦ データクリア (Clear Data) <p>注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL02014-W	<p><i>aa...aa</i> の入力がありません。 No data has been input in <i>aa...aa</i>.</p>	<p>説明 オプションウィンドウの入力欄に値が入力されていません。 <i>aa...aa</i> : 入力項目 (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ パスヘルスチェック間隔 (Path Health Checking Interval) ◦ 自動フェイルバックチェック間隔 (Auto Failback Checking Interval) ◦ 障害ログファイルサイズ (Error Log File Size) ◦ 障害監視時間 (Monitoring Interval)

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 障害発生回数 (Number of times) ◦ 障害ログファイル数 (Error Log Number of Files) ◦ トレースファイルサイズ (Trace File Size) ◦ トレースファイル数 (Trace Number of Files) <p>注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。</p> <p>対処 指定された項目に入力がありません。 「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照し、入力範囲内の数値を入力してください。</p>
KAPL02015-W	<p><i>aa...aa</i> に数値以外の値が入力されています。 A value which is not a number has been input in <i>aa...aa</i>.</p>	<p>説明 オプションウィンドウの入力欄に入力された値に数値以外の文字が含まれています。 <i>aa...aa</i> : 入力項目 (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ パスヘルスチェック間隔 (Path Health Checking Interval) ◦ 自動フェイルバックチェック間隔 (Auto Failback Checking Interval) ◦ 障害ログファイルサイズ (Error Log File Size) ◦ 障害監視時間 (Monitoring Interval) ◦ 障害発生回数 (Number of times) ◦ 障害ログファイル数 (Error Log Number of Files) ◦ トレースファイルサイズ (Trace File Size) ◦ トレースファイル数 (Trace Number of Files) <p>注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。</p> <p>対処 指定された項目に数値以外の値が入力されています。数値を入力してください。</p>
KAPL02016-W	<p><i>aa...aa</i> に入力範囲外の値が入力されています。 A value which is outside of the valid range has been input in <i>aa...aa</i>.</p>	<p>説明 オプションウィンドウの入力欄に入力された値が指定できる範囲を超えています。 <i>aa...aa</i> : 入力項目 (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ パスヘルスチェック間隔 (Path Health Checking Interval) ◦ 自動フェイルバックチェック間隔 (Auto Failback Checking Interval) ◦ 障害ログファイルサイズ (Error Log File Size) ◦ 障害監視時間 (Monitoring Interval)

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<ul style="list-style-type: none"> 障害発生回数 (Number of times) 障害ログファイル数 (Error Log Number of Files) トレースファイルサイズ (Trace File Size) トレースファイル数 (Trace Number of Files) 注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。 対処 指定された項目の値が入力範囲外です。「Hitachi Command Suite Dynamic Link Manager Software GUI ヘルプ」を参照し、入力範囲内の数値を入力してください。
KAPL02017-I	現在選択されているパスを Online にします。よろしいですか？ [OK/キャンセル] The currently selected paths will be changed to the Online status. Is this OK? [OK/Cancel]	説明 現在選択されているパスを Online 状態にします。続行してよい場合は [OK] ボタンを、続行しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。 対処 オンライン処理を実行する場合は [OK] ボタンを、中断する場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAPL02018-I	選択されているパスがないので、現在表示されているパスのうち、Offline(C), Offline(E), Online(E)のパスを Online にします。よろしいですか？ [OK/キャンセル] Because no path has been selected among the currently displayed paths, the paths in the Offline(C), Offline(E), and Online(E) statuses will be changed to the Online status. Is this OK? [OK/Cancel]	説明 現在表示されているパスの中から Online 状態以外のパスを Online 状態にします。続行してよい場合は [OK] ボタンを、続行しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。 対処 オンライン処理を実行する場合は [OK] ボタンを、中断する場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAPL02019-I	現在選択されているパスを Offline(C) にします。よろしいですか？ [OK/キャンセル] The currently selected paths will be changed to the Offline(C) status. Is this OK? [OK/Cancel]	説明 現在選択しているパスを Offline(C)状態にします。続行してよい場合は [OK] ボタンを、続行しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。 対処 オフライン処理を実行する場合は [OK] ボタンを、中断する場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAPL02020-I	選択したパスが Offline(C)になってもよい場合は[OK]をクリックしてください。そうでない場合は[キャンセル]をクリックしてください。 If you are sure that there would be no problem when the path is placed in the Offline(C) status, click OK. Otherwise, click Cancel. [OK/Cancel]	説明 選択したパスをオフライン状態にするかどうかを再確認しています。続行してよい場合は [OK] ボタンを、続行しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。 対処 オフライン処理を実行する場合は [OK] ボタンを、中断する場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL02021-I	<p><i>aa...aa</i> 本のパスを <i>bb...bb</i> にしました。 失敗したパス = <i>cc...cc</i> 本 <i>aa...aa</i> path(s) were successfully placed <i>bb...bb</i>. <i>cc...cc</i> path(s) could not be placed <i>bb...bb</i>.</p>	<p>説明</p> <p>オンライン処理またはオフライン処理が終了しました。 <i>aa...aa</i> : 操作に成功したパスの本数 (10進数) <i>bb...bb</i> : オンライン (英語メッセージの場合: Online) またはオフライン (英語メッセージの場合: Offline) <i>cc...cc</i> : 操作に失敗したパスの本数 (10進数)</p> <p>対処</p> <p>オンライン処理またはオフライン処理に失敗したパスの PathID については、動作ログを確認してください。</p>
KAPL02022-W	<p>状態を Online にできないパスを検出しました。PathID = <i>aa...aa</i> オンラインを継続しますか? [OK/キャンセル] A path that cannot be placed in the Online status has been detected. PathID = <i>aa...aa</i> Would you like to continue the Online processing? [OK/Cancel]:</p>	<p>説明</p> <p>マルチパスに対するオンライン処理を実施する場合に、Online にできないパスがあります。該当するパスを無視して次のパスのオンライン処理を行う場合は [OK] ボタンを、続行しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。 <i>aa...aa</i> : パス ID (10進数)</p> <p>対処</p> <p>オンライン処理を継続する場合は [OK] ボタンを、中断する場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。オンライン処理に失敗したパスについては、障害を取り除いたあとに再度オンライン処理を実行してください。</p>
KAPL02023-W	<p>状態を Offline(C) にできないパスを検出しました。PathID = <i>aa...aa</i> オフラインを継続しますか? [OK/キャンセル] A path that cannot be placed in the Offline(C) status has been detected. PathID = <i>aa...aa</i> Would you like to continue the Offline processing? [OK/Cancel]:</p>	<p>説明</p> <p>マルチパスに対するオフライン処理を実施する場合に、Offline(C) にできないパスがあります。該当するパスを無視して次のパスのオフライン処理を行う場合は [OK] ボタンを、続行しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。 <i>aa...aa</i> : パス ID (10進数)</p> <p>対処</p> <p>オフライン処理を継続する場合は [OK] ボタンを、中断する場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。オフライン処理に失敗したパスについては、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
KAPL02026-W	<p><i>aa...aa</i> の操作対象のパスがありませんでした。 The target path of the <i>aa...aa</i> operation could not be found.</p>	<p>説明</p> <p>オペレーションを行う対象のパスがありませんでした。 <i>aa...aa</i> : オペレーション (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ オンライン (Online) ◦ データクリア (Clear Data) ◦ CSV 出力 (Export CSV)

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		<ul style="list-style-type: none"> パス情報取得 (Get Path Information) 再表示 (Refresh) 注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。 対処 [再表示] ボタンをクリックしてビューを再表示し、パスの状態を確認したあとに再実行してください。
KAPL02027-E	LU に対する最後の Online パス、Online(E)パスは、Offline(C)にできません。 PathID = aa...aa The last Online path or Online(E) path to the LU cannot be placed in the Offline(C) status. PathID = aa...aa	説明 オフライン操作で指定したパスは、該当する LU への最後のパスであるため、Offline(C)にはできません。 aa...aa : パス ID (10 進数) 対処 [再表示] ボタンをクリックしてビューを再表示し、パスの状態を確認したあとに再実行してください。
KAPL02028-W	aa...aa に書き込み権限がありません。 You lack write permission for the aa...aa.	説明 指定された CSV ファイルの書き込み権限がありません。 aa...aa : CSV 出力するファイル名 対処 指定したファイルのアクセス権限を確認してください。また、指定したファイル名が正しいかどうかを確認してください。
KAPL02029-E	HDLM GUI の内部処理で障害が発生しました。 aa...aa を中断します。 詳細 = bb...bb An error occurred during internal processing of the HDLM GUI. The aa...aa operation has been stopped. Details = bb...bb	説明 HDLM GUI 処理中にユーザ操作が原因でないと思われるエラーが発生しました。 aa...aa : 内部処理名 (文字列※) <ul style="list-style-type: none"> オプション情報取得 (Get Option Information) オプション情報設定 (Set Option Information) オンライン (Online) オフライン (Offline) パス情報取得 (Get Path Information) 再表示 (Refresh) データクリア (Clear Data) HDLM マネージャステータス取得 (Get HDLM Manager Status) HDLM ドライバステータス取得 (Get HDLM Driver Status) HDLM アラートドライバステータス取得 (Get HDLM Alert Driver Status) bb...bb : 発行した API 名 (文字列) <ul style="list-style-type: none"> JHSPGetOption JHSPSetOption JHSPOnlinePath JHSPOfflinePath JHSPGetPathBy JHSPClearStatistics JHSPGetManagerStatus

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<ul style="list-style-type: none"> ◦ JHSPGetDriverStatus ◦ JHSPGetADriverStatus ◦ JHSPGetClusterService 注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL02032-E	メモリ不足のため、 <i>aa...aa</i> を実行できません。 The <i>aa...aa</i> operation cannot be executed because the amount of memory is insufficient.	説明 HDLM GUI 処理に必要なメモリが確保できませんでした。 <i>aa...aa</i> : 内部処理名 (文字列※) <ul style="list-style-type: none"> ◦ CSV 出力 (Export CSV) ◦ オンライン (Online) ◦ オフライン (Offline) ◦ パス情報取得 (Get Path Information) ◦ 再表示 (Refresh) ◦ データクリア (Clear Data) ◦ オプション情報取得 (Get Option Information) ◦ オプション情報設定 (Set Option Information) ◦ HDLM マネージャステータス取得 (Get HDLM Manager Status) ◦ HDLM ドライバステータス取得 (Get HDLM Driver Status) ◦ HDLM アラートドライバステータス取得 (Get HDLM Alert Driver Status) 注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。 対処 不要なアプリケーションを終了させ、空きメモリを増やすか、ホストを再起動してください。
KAPL02033-E	予測できないエラーが発生しました。 <i>aa...aa</i> を中断します。 An unexpected error occurred, and the <i>aa...aa</i> operation has been stopped.	説明 HDLM GUI 処理中に例外が発生しました。 <i>aa...aa</i> : 内部処理名 (文字列※) <ul style="list-style-type: none"> ◦ CSV 出力 (Export CSV) ◦ パス情報取得 (Get Path Information) ◦ 再表示 (Refresh) ◦ オンライン (Online) ◦ オフライン (Offline) ◦ データクリア (Clear Data) ◦ オプション情報取得 (Get Option Information)

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		<ul style="list-style-type: none"> オプション情報設定 (Set Option Information) HDLM マネージャステータス取得 (Get HDLM Manager Status) HDLM ドライバステータス取得 (Get HDLM Driver Status) HDLM アラートドライバステータス取得 (Get HDLM Alert Driver Status) 注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL02040-E	パスの回復に失敗しました。PathID = <i>aa...aa</i> The Offline(C) path cannot be placed Online. PathID = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : パス ID (10 進数) 対処 該当するパスの障害を取り除いたあと、再実行してください。
KAPL02041-W	クラスタサポート機能が有効なため、ロードバランス機能はサポート対象外です。 The cluster support function is active, so the load balancing function is not supported.	説明 MSCS がインストールされているため、ロードバランス機能を有効にできません。 対処 MSCS がインストールされている環境では、ロードバランス機能はサポート対象外です。ロードバランス機能を使用する場合は MSCS をアンインストールしてください。
KAPL02042-E	予測できないエラーが発生しました。HDLM GUI を起動できません。 An unexpected error occurred. The HDLM GUI cannot start.	説明 HDLM GUI 起動時に例外が発生しました。 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL02043-E	<i>aa...aa</i> の操作対象のパスがありませんでした。PathID = <i>bb...bb</i> The target path of the <i>aa...aa</i> operation could not be found. PathID = <i>bb...bb</i>	説明 オペレーションの操作対象のパスがありません。 <i>aa...aa</i> : オンライン (英語メッセージの場合 : Online) または、オフライン (英語メッセージの場合 : Offline) <i>bb...bb</i> : オペレーションを実行しようとしたパス ID (10 進数) 対処 [再表示] ボタンをクリックしてビューを再表示し、パスの状態を確認したあとに再実行してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL02044-W	<p><i>aa...aa</i> は既に存在します。上書きしますか? [OK/キャンセル]</p> <p><i>aa...aa</i> exists already. Do you want to overwrite it? [OK/Cancel]</p>	<p>説明</p> <p>既存のファイルに上書きします。続行してもよい場合は [OK] ボタンを、続行しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。</p> <p><i>aa...aa</i> : ファイル名</p> <p>対処</p> <p>上書きする場合は [OK] ボタンを、処理を中断する場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。</p>
KAPL02052-W	<p>HDLM マネージャとの接続に失敗しました。</p> <p>The HDLM manager could not be connected.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM GUI 起動時に HDLM マネージャに対してアクセスができません。</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの view オペレーションを実行し、HDLM マネージャが起動されているか確認してください。起動されていない場合は、HDLM マネージャを起動してから HDLM GUI を再起動してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。</p>
KAPL02053-I	<p>HDLM GUI を終了しますか? [OK/キャンセル]</p> <p>Would you like to terminate the HDLM GUI? [OK/Cancel]</p>	<p>対処</p> <p>HDLM GUI を終了する場合は [OK] ボタンをクリックしてください。終了しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。</p>
KAPL02054-I	<p><i>aa...aa</i> 本のパスを Offline(C)にしました。<i>bb...bb</i> 本のパスのオフライン要求を登録しました。失敗したパス = <i>cc...cc</i> 本</p> <p><i>aa...aa</i> path(s) were successfully placed Offline(C). The Offline request of <i>bb...bb</i> path(s) were registered. <i>cc...cc</i> path(s) could not be placed Offline(C).</p>	<p>説明</p> <p>Reserve 処理中でオフライン要求を登録した場合の処理パス数を示します。</p> <p><i>aa...aa</i> : オフライン処理に成功したパス数 (10 進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : オフライン要求を登録したパス数 (10 進数)</p> <p><i>cc...cc</i> : オフライン処理に失敗したパス数 (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>オフライン処理に失敗したパスの PathID については、動作ログを確認してください。バッチ登録されたパスについては、再表示を実行して確認してください。</p>
KAPL02055-I	<p>操作対象のパスは既に <i>aa...aa</i> です。</p> <p>The target path(s) are already <i>aa...aa</i>.</p>	<p>説明</p> <p>オンライン処理またはオフライン処理を実行した結果、指定されたパスはすでに Online 状態または Offline(C)状態となっています。</p> <p><i>aa...aa</i> : Online または Offline(C)</p> <p>対処</p> <p>再表示を実行してパスの状態を確認してください。</p>
KAPL02058-E	<p>クラスタサポート機能とロードバランス機能を同時に有効にできない構成です。</p> <p>The configuration does not support the simultaneous use of the load</p>	<p>説明</p> <p>HDLM の管理対象のストレージシステムの中に、パーシステントリザーブがサポートされていないストレージシステムが存在する場合は、クラスタ環境でロードバランス機能は使用できません。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	balancing and cluster support functions.	対処 パーシステントリザーブをサポートしていないストレージシステムが管理対象にないか確認してください。お使いのストレージシステムがパーシステントリザーブに対応しているかどうかは、ストレージシステムの購入元会社または保守会社にお問い合わせください。
KAPL02061-W	HDLM GUI の起動処理中にパスの構成が変更されたため、パス情報取得を中断します。 The getting PathInformation has been stopped because the path configuration was changed during HDLM GUI startup processing.	説明 HDLM GUI の起動処理中にパスの構成が変更されたため、パスの情報を取得できませんでした。 対処 パスの構成変更を行っていないことを確認したあとで、再表示を実行してください。
KAPL02062-E	再表示中にパスの構成が変更されたため、再表示を中断します。 The Refresh operation has been stopped because the configuration of paths was changed during the processing of the Refresh operation.	説明 再表示中にパスの構成が変更されたため、パスの情報を取得できませんでした。 対処 パスの構成変更を行っていないことを確認したあとで、再表示を実行してください。
KAPL02063-W	バージョン番号を表示できません。 The version number cannot be displayed.	説明 HDLM GUI を起動する際のパラメタファイルの読み込みに失敗したため、バージョン番号を取得できませんでした。 対処 バージョン番号は表示されませんが、HDLM GUI の操作に影響はありません。バージョン番号を表示したい場合は、HDLM を再インストールしてください。
KAPL02064-W	障害監視時間、および障害発生回数が自動フェイルバックチェック間隔と矛盾しています。 The error monitoring interval and the number of times that the error is to occur conflict with the automatic failback checking interval.	説明 自動フェイルバックで指定したチェック間隔と、間欠障害監視で指定した障害監視時間および障害発生回数の値では、間欠障害を検出できません。 対処 間欠障害監視の障害監視時間は、「自動フェイルバックで指定するチェック間隔×間欠障害監視で指定する障害発生回数」以上に設定してください。
KAPL02065-W	パス情報取得中にパスの構成が変更されたため、パス情報取得を中断します。 The getting PathInformation has been stopped because the configuration of paths was changed during the processing of the getting PathInformation.	説明 オンライン、オフライン、またはデータクリアのどれかの操作を行ったあとで、最新のパスの情報を取得する際にパスの構成が変更されたため、パス情報を取得できませんでした。 対処 パスの構成変更を行っていないことを確認したあとで、再表示を実行してください。
KAPL02076-W	HDLM のバージョン情報の取得に失敗しました。詳細 = aa...aa	説明 aa...aa : エラーの発生要因コード 対処

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	An attempt to acquire the HDLM version information failed. Details = <i>aa...aa</i>	再実行してください。繰り返し同じエラーが発生する場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL02077-W	Service Pack のバージョン情報の取得に失敗しました。詳細 = <i>aa...aa</i> An attempt to acquire the Service Pack version information failed. Details = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : エラーの発生要因コード 対処 再実行してください。繰り返し同じエラーが発生する場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL02080-W	既存のトレースファイルが全て削除されます。よろしいですか? [OK/キャンセル] All the current trace files will be deleted. Is this OK? [OK/Cancel]	説明 トレースファイルサイズ、またはファイル数を現在の設定値より縮小する場合は、既存のトレースファイルがすべて削除されます。続行してよい場合は [OK] ボタンを、続行しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。 対処 操作を続行する場合は [OK] ボタンを、続行しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAPL02083-I	ユーザ指定の JRE で HDLM GUI を起動します。java.version = <i>aa...aa</i> , java.vendor = <i>bb...bb</i> HDLM GUI is started by the user-specified JRE. <i>aa...aa</i> , <i>bb...bb</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが指定した JRE のバージョン番号 (文字列) <i>bb...bb</i> : ユーザが指定した JRE を提供しているベンダー情報 (文字列) 対処 特にありません。
KAPL02084-E	HDLM GUI の起動処理で障害が発生しました。HDLM GUI を起動できません。詳細 = <i>aa...aa bb...bb cc...cc</i> An error occurred in HDLM GUI startup processing. HDLM GUI cannot start. Details = <i>aa...aa bb...bb cc...cc</i>	説明 HDLM GUI の起動処理中に、ユーザ操作が原因でないと思われるエラーが発生しました。 <i>aa...aa</i> : 実行した関数名 (文字列) <i>bb...bb</i> : 実行した関数の戻り値 (10 進数) <i>cc...cc</i> : 障害発生個所を示す情報 (文字列) 対処 再実行してください。繰り返し同じエラーが発生する場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL02087-I	構成ビューは、このストレージシステムをサポートしていません。パスリストビューを使用してください。ストレージ = <i>aa...aa</i> "Configuration View" is not supported for this storage system model. Please use the "Path List View" instead. Storage = <i>aa...aa</i>	説明 選択中のストレージシステムについて、HDLM GUI が構成ビューの表示をサポートしていないため、構成ビューを表示できません。 <i>aa...aa</i> : ストレージシステム名 対処 パスリストビューを使用してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL02089-E	<p><i>aa...aa</i> 以下に JRE がインストールされていないため、HDLM GUI を起動できません。HDLM を再インストール、またはユーザズガイドの「JRE のインストール」を参照して JRE をインストールしてください。</p> <p>The HDLM GUI cannot start because a JRE is not installed in <i>aa...aa</i>. Re-install HDLM, or install a JRE by referring to the JRE installation instructions in the user's guide.</p>	<p>説明</p> <p>システム環境に、HDLM の起動に必要な JRE がインストールされていないため、HDLM GUI を起動できませんでした。</p> <p><i>aa...aa</i> : jre_user フォルダ</p> <p>対処</p> <p>HDLM を再インストール、または JRE をインストールしてください。JRE のインストールについては、「3.5.8」を参照してください。</p>
KAPL02200-I	<p>GUI 情報 - <i>aa...aa</i></p> <p>GUI information - <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>問題発生時の調査に必要な情報です。</p> <p><i>aa...aa</i> : トレース情報</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>

8.4 KAPL03001～KAPL04000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL03001-I	<p>HDLM A P I 情報 - <i>aa...aa</i></p> <p>HDLM API information - <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>問題発生時の調査に必要な情報です。</p> <p><i>aa...aa</i> : API トレース情報</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL03002-W	<p>HDLM A P I 警告情報 - <i>aa...aa</i></p> <p>HDLM API Warning - <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>問題発生時の調査に必要な情報です。</p> <p><i>aa...aa</i> : API トレース情報</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL03003-E	<p>HDLM A P I エラー情報 - <i>aa...aa</i></p> <p>HDLM API Error information - <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>問題発生時の調査に必要な情報です。</p> <p><i>aa...aa</i> : API トレース (エラー) 情報</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
KAPL03004-C	<p>HDLM A P I 内で重大エラーが発生しました。 - <i>aa...aa</i></p> <p>A critical error occurred in the HDLM API. (<i>aa...aa</i>)</p>	<p>説明</p> <p>問題発生時の調査に必要な情報です。</p> <p><i>aa...aa</i> : API トレース (エラー) 情報</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
KAPL03006-E	<p>HDLM ドライバのアクセスでエラーが発生しました。 - <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>問題発生時の調査に必要な情報です。</p> <p><i>aa...aa</i> : API トレース (エラー) 情報</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	An access to the HDLM driver causes an error. (aa...aa)	対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL03007-E	HDLM マネージャとの通信処理中にエラーが発生しました。-aa...aa An error occurred during communication with the HDLM manager. (aa...aa)	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 aa...aa : API トレース (エラー) 情報 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL03008-E	HDLM アラートドライバのログ入力処理でエラーが発生しました。-aa...aa An error occurred during log input to the HDLM alert driver. (aa...aa)	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 aa...aa : API トレース (エラー) 情報 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL03999-E	予期しない障害が発生しました。 An unexpected error occurred.	説明 HDLM 内部で使用するモジュールのバージョンに矛盾があります。 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。

8.5 KAPL04001～KAPL05000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL04001-I	HDLM マネージャが起動しました。 HDLM manager started.	対処 特にありません。
KAPL04002-E	HDLM マネージャの起動に失敗しました。 Could not start the HDLM manager.	説明 HDLM マネージャが正しく動作する環境ではないために HDLM マネージャの起動に失敗しました。 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡して

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		ください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL04003-E	スタートアップパラメタが不当です。 The startup parameter is invalid.	説明 HDLM マネージャが内部的に保持しているパラメタにエラーがあります。 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL04004-I	HDLM マネージャを終了します。 HDLM manager will now terminate.	対処 特にありません。
KAPL04005-E	サービス制御マネージャに接続できません。 Cannot connect the service control manager.	説明 HDLM マネージャが正常に起動できないことを示します (サービス制御マネージャに接続できませんでした)。 対処 HDLM マネージャは「サービス」として起動します。HDLM マネージャをコマンドラインから起動する場合は net start DLMManager コマンドで起動してください。
KAPL04006-E	サービス制御ハンドラ関数を登録できません。戻り値 = aa...aa Cannot register the service control handler function. Return value = aa...aa	説明 HDLM マネージャが正常に起動できないことを示します (サービス制御ハンドラ関数を登録できませんでした)。 aa...aa : OS のエラーコード 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL04007-E	サービスステータスを登録できません。 戻り値 = aa...aa Cannot register the service status. Return value = aa...aa	説明 HDLM マネージャが正常に起動できないことを示します (サービスステータスを登録できません)。 aa...aa : OS のエラーコード 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL04008-E	オプション定義ファイル(aa...aa)がオープンできません。 Cannot open the option definition file (aa...aa).	説明 HDLM マネージャが正常に起動できませんでした (オプション定義ファイルのオープンに失敗しました)。 aa...aa : オプション定義ファイル名 対処 ファイルをほかのプログラムで使用していないか (テキストエディタなどで開いていないか)、ファイルを間違えて削除していないか確認してください。
KAPL04009-E	オプション定義が不当です。 The option definition is invalid.	説明

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<p>HDLM マネージャが正常に起動できませんでした (オプション定義ファイル中の定義が不当です)。</p> <p>対処</p> <p>このメッセージのあとに KAPL04033-W メッセージが出力されている場合は、HDLM コマンドの <code>view -sys -sfunc</code> オペレーションを実行して、オプション設定を確認してください。設定値がデフォルト値に戻っているオプションは、<code>set</code> オペレーションで再設定してください。</p> <p>KAPL04033-W メッセージが出力されていない場合は、HDLM マネージャを再起動してください。</p> <p>対処しても同じエラーが発生する場合は、HDLM を再インストールしてください。</p> <p><code>view</code> オペレーションについては、「6.7」を参照してください。<code>set</code> オペレーションについては、「6.6」を参照してください。</p>
KAPL04010-E	<p>障害ログファイルのオープンに失敗しました。</p> <p>Could not open the error log file.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM マネージャが正常に起動できませんでした (障害ログファイルのオープンに失敗しました)。</p> <p>対処</p> <p>障害ログファイルをほかのプログラムで使用していないか (テキストエディタなどで開いていないか)、障害ログファイルを間違えて削除していないか確認してください。</p>
KAPL04011-E	<p>障害ログファイルの出力に失敗しました。</p> <p>Could not output the error log file.</p>	<p>説明</p> <p>障害ログファイルへのログ情報の出力に失敗しました。</p> <p>対処</p> <p>ディスクに空き容量があるか確認してください。</p>
KAPL04012-E	<p>通信パイプの作成に失敗しました。RC = <i>aa...aa</i></p> <p>Could not create a communication pipe. RC = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>HDLM マネージャが正常に起動できませんでした (HDLM コマンドとの通信に使用するパイプファイルの作成に失敗しました)。</p> <p><i>aa...aa</i> : OS のエラーコード (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
KAPL04013-E	<p>通信パイプからの入力に失敗しました。RC = <i>aa...aa</i></p> <p>Input is impossible via the communication pipe. RC = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>HDLM コマンドとの通信時、パイプファイルからのデータ入力に失敗しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : OS のエラーコード (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		し、HDLMの購入元会社、またはHDLMの保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL04014-E	通信パイプへの出力に失敗しました。 RC = aa...aa Output is impossible via the communication pipe. RC = aa...aa	説明 HDLM コマンドとの通信時、パイプファイルへのデータ出力に失敗しました。 aa...aa : OS のエラーコード (10 進数) 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL04019-E	障害情報取得に失敗しました。RC = aa...aa Could not collect the error information. RC = aa...aa	説明 アラートドライバからログ情報を入力できませんでした。 aa...aa : API のリターンコード (10 進数) 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL04021-I	HDLM マネージャ情報 - aa...aa HDLM manager information - aa...aa	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 aa...aa : HDLM マネージャトレース情報 対処 特にありません。
KAPL04022-W	HDLM マネージャ警告情報 - aa...aa HDLM manager warning information - aa...aa	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 aa...aa : HDLM マネージャトレース (警告) 情報 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL04023-E	HDLM マネージャエラー情報 - aa...aa HDLM manager error information - aa...aa	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 aa...aa : HDLM マネージャトレース (エラー) 情報 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL04024-C	HDLM マネージャ内で重大エラーが発生しました。 - aa...aa	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	A critical error occurred in the HDLM manager. (aa...aa)	<p>aa...aa : HDLM マネージャトレース (エラー) 情報</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
KAPL04025-C	<p>HDLM マネージャでメモリ不足が発生しました。</p> <p>A memory shortage occurred in the HDLM manager.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM マネージャの処理に必要なメモリを確保できませんでした。</p> <p>対処</p> <p>不要なアプリケーションを終了させ、空きメモリを増やすか、ホストを再起動してください。</p>
KAPL04026-I	<p>一時ライセンスが有効です。一時ライセンス満了まであと aa...aa 日です (bb...bb)。</p> <p>The temporary license is valid. The license expires in aa...aa days on (bb...bb).</p>	<p>説明</p> <p>aa...aa : 有効日数</p> <p>bb...bb : 期限満了日 西暦 (4桁) /月 (01~12) /日 (01~31)</p> <p>対処</p> <p>期限満了日までに、永久ライセンスをインストールしてください。</p>
KAPL04027-I	<p>非常ライセンスが有効です。非常ライセンス満了まであと aa...aa 日です (bb...bb)。</p> <p>The emergency license is valid. The license expires in aa...aa days on (bb...bb).</p>	<p>説明</p> <p>aa...aa : 有効日数</p> <p>bb...bb : 期限満了日 西暦 (4桁) /月 (01~12) /日 (01~31)</p> <p>対処</p> <p>期限満了日までに、永久ライセンスをインストールしてください。</p>
KAPL04028-E	<p>一時ライセンスの期限が切れています。</p> <p>The temporary license expired.</p>	<p>対処</p> <p>永久ライセンスをインストールしてください。</p>
KAPL04029-E	<p>非常ライセンスの期限が切れています。</p> <p>The emergency license expired.</p>	<p>対処</p> <p>永久ライセンスをインストールしてください。</p>
KAPL04030-E	<p>一時ライセンスの期限が切れました。</p> <p>The temporary license has already expired.</p>	<p>対処</p> <p>永久ライセンスをインストールしてください。</p>
KAPL04031-E	<p>非常ライセンスの期限が切れました。</p> <p>The emergency license has already expired.</p>	<p>対処</p> <p>永久ライセンスをインストールしてください。</p>
KAPL04032-C	<p>HDLM 内で重大エラーが発生しました。システム環境が不正です。</p> <p>A fatal error occurred in HDLM. The system environment is invalid.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM 構成ファイルの一部がありません。</p> <p>対処</p> <p>HDLM を再インストールしてください。</p>
KAPL04033-W	<p>オプション定義ファイルを再作成しました。</p> <p>The option definition file was re-created.</p>	<p>説明</p> <p>オプション定義ファイルをデフォルト値で再作成しました。一部のオプションが読めた場合は、指定値が設定されています。</p> <p>対処</p>

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		デフォルト以外のオプションについては、 <code>dlnkmgr set</code> オペレーションでオプションを再設定してください。set オペレーションについては、「6.6」を参照してください。
KAPL04034-E	オプション定義ファイルの作成に失敗しました。 An attempt to create the option definition file has failed.	説明 オプション定義ファイルをデフォルト値で再作成しようとしたのですが、失敗しました。 対処 不要ファイルを削除して、ファイルシステムの空き容量を確保してください。または、フォルダの書き込み権限、ファイルの書き込み権限を確認してください。
KAPL04035-I	ヘルスチェックを開始します。全パス数 = <i>aa...aa</i> The path health check will now start. Total number of paths = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : 全パス数 対処 特にありません。
KAPL04036-I	<i>aa...aa</i> パスのヘルスチェックを実行しました。異常パス数 = <i>bb...bb</i> The path health check for the path <i>aa...aa</i> was executed. Number of error paths = <i>bb...bb</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ヘルスチェック対象パス数 <i>bb...bb</i> : ヘルスチェックが失敗したパス数 対処 特にありません。
KAPL04037-I	ヘルスチェックに成功しました。パス ID = <i>aa...aa</i> The path health check completed normally. Path ID = <i>aa...aa</i>	説明 パスのヘルスチェックを行った結果、パスに異常はありませんでした。 <i>aa...aa</i> : ヘルスチェックを行ったパスのパス ID 対処 特にありません。
KAPL04042-I	HDLM SNMP TRAP 情報 - <i>aa...aa</i> HDLM SNMP TRAP information - <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : Start または Stop 対処 特にありません。
KAPL04045-I	HDLM SNMP TRAP を送信しました。 Trap ID = <i>aa...aa</i> , IP アドレス = <i>bb...bb</i> , ポート番号 = <i>cc...cc</i> , Community = <i>dd...dd</i> , Trap データ = <i>ee...ee</i> HDLM SNMP TRAP was sent. Trap ID = <i>aa...aa</i> , IP Address = <i>bb...bb</i> , Port Number = <i>cc...cc</i> , Community = <i>dd...dd</i> , Trap Data = <i>ee...ee</i>	説明 <i>aa...aa</i> : Trap ID <i>bb...bb</i> : Trap 送信先の IP アドレス <i>cc...cc</i> : Trap 送信先のポート番号 <i>dd...dd</i> : Trap に付与した Community 名 <i>ee...ee</i> : 送信データ 対処 特にありません。
KAPL04053-W	オプション定義ファイルを作業ファイルから回復しました。 The option definition file was recovered from a work file.	対処 HDLM コマンドの <code>view</code> オペレーション (<code>dlnkmgr view -sys</code>) を実行して、設定値が回復されているかどうかを確認してください。設定値が回復されていない場合は、HDLM コマンドの <code>set</code> オペレーションを実行して設定値を回復してください。view オペレーションについては、「6.7」を参照してください。set オペレーションについては、「6.6」を参照してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL04054-I	オーナーコントローラの見直しを開始します。対象 LU 数 = <i>aa...aa</i> The owner controller will now be revised. (number of LUs = <i>aa...aa</i>)	説明 <i>aa...aa</i> : 見直し対象の LU 数 対処 特にありません。
KAPL04055-I	オーナーコントローラの見直しを終了しました。変更 LU 数 = <i>aa...aa</i> The owner controller was revised. (number of changed LUs = <i>aa...aa</i>)	説明 <i>aa...aa</i> : オーナーコントローラの変更が行われた LU 数 対処 特にありません。
KAPL04056-W	Online 状態のパスが無いため見直し処理は行いませんでした。LU = <i>aa...aa</i> The owner controller cannot be revised because no paths are in the Online status. (LU = <i>aa...aa</i>)	説明 <i>aa...aa</i> : 見直し処理が行われなかった LU の ID (シリアル番号+LUN) 対処 パス障害を回復し、Online 状態にしてください。または、該当 LU を追従対象外として設定してください。

8.6 KAPL05001～KAPL06000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL05001-I	DriverEntry()を開始しました。 DriverEntry() started.	説明 初期化関数が実行されました。 対処 特にありません。
KAPL05002-I	DriverEntry()は正常に終了しました。 DriverEntry() completed normally.	説明 初期化関数の実行が成功しました。 対処 特にありません。
KAPL05003-I	Disk(<i>aa...aa</i>),Partition(<i>bb...bb</i>)への HDLM ドライバ(フィルタ部)のアタッチに成功しました。 The HDLM driver (filter component) was successfully attached to Disk (<i>aa...aa</i>), Partition (<i>bb...bb</i>).	説明 <i>aa...aa</i> : ディスクの通番 (10 進数) <i>bb...bb</i> : パーティションの通番 (0 固定) Partition とデバイススタックに相当するディスクへ、HDLM ドライバ (フィルタ部)のデバイスオブジェクトを追加しました。 対処 特にありません。
KAPL05004-I	HDLM ドライバ (フィルタ部) フィルタ機能(<i>aa...aa</i>)の初期化に成功しました。 The filtering function (<i>aa...aa</i>) for the HDLM driver (filter component) was initialized successfully.	説明 HDLM ドライバ (フィルタ部) のデバイスオブジェクトごとの初期化に成功しました。 <i>aa...aa</i> : デバイスオブジェクトのアドレス (16 進数) 対処 特にありません。
KAPL05005-I	HDLM ドライバ (フィルタ部) 制御機能(<i>aa...aa</i>)の初期化に成功しました。 The control function (<i>aa...aa</i>) for the HDLM driver (filter component) was initialized successfully.	説明 HDLM ドライバ (フィルタ部) のデバイスオブジェクトごとの初期化に成功しました。 <i>aa...aa</i> : デバイスオブジェクトのアドレス (16 進数) 対処

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		特にありません。
KAPL05008-E	メモリ確保に失敗しました。 (aa...aa:bb...bb) DLMgetras ユティリティを実行して、障害情報を購入元会社または保守会社に連絡してください。 Could not allocate memory. (aa...aa:bb...bb) Execute the DLMgetras utility to collect error information, and then contact your vendor or maintenance company. Refer to the HDLM User's Guide for instructions how to execute the DLMgetras utility.	説明 OS のメモリ確保関数、またはサイドエフェクトとして指定サイズのメモリを確保する関数の実行に失敗しました。 aa...aa : プログラム行数 (16 進数) bb...bb : メモリ確保サイズ (16 進数) 対処 HDLM ドライバが正常に開始しているか確認してください。開始していないか、エラー状態の場合、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL05010-E	HDLM ドライバ (フィルタ部) の初期化に失敗しました。(aa...aa:bb...bb) DLMgetras ユティリティを実行して、障害情報を購入元会社または保守会社に連絡してください。 Could not initialize the HDLM driver (filter component). (aa...aa:bb...bb) Execute the DLMgetras utility to collect error information, and then contact your vendor or maintenance company. Refer to the HDLM User's Guide for instructions how to execute the DLMgetras utility.	説明 HDLM ドライバ (フィルタ部) のデバイスオブジェクトごとの初期化に失敗しました。 aa...aa : プログラム行数 (16 進数) bb...bb : 詳細情報 (16 進数) 対処 HDLM ドライバが正常に開始しているか確認してください。開始していないか、エラー状態の場合、エラーと詳細コードを HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL05012-I	Disk(aa...aa),Partition(bb...bb)のデバイス(cc...cc)をマウントドライブに決定しました。 The device (cc...cc) for Disk (aa...aa), Partition (bb...bb) is selected for a mounted drive.	説明 Disk (aa...aa : ディスク通番 (10 進数)), Partition (bb...bb : パーティション通番 (10 進数)), デバイスオブジェクトのアドレス (cc...cc : デバイスオブジェクトのアドレス (16 進数)) のデバイスオブジェクトが LU に対して 1 番目のパスです (HDLM 管理対象外デバイスを含む)。 対処 特にありません。
KAPL05013-I	Disk(aa...aa),Partition(bb...bb)のデバイス(cc...cc)をマウントドライブから除外しました。 The device (cc...cc) for Disk (aa...aa), Partition (bb...bb) was removed from the mounted drive.	説明 Disk (aa...aa : ディスク通番 (10 進数)), Partition (bb...bb : パーティション通番 (10 進数)), デバイスオブジェクトのアドレス (cc...cc : デバイスオブジェクトのアドレス (16 進数)) のデバイスオブジェクトが LU に対して 2 番目以降のパスです。 対処 正常です。意図したドライブが参照できないときは、ディスクの構成を確認してください。
KAPL05014-I	デバイスオブジェクト(aa...aa)をパス(bb...bb)として登録しました。 The device object (aa...aa) was registered as the path (bb...bb).	説明 コアロジックヘデバイスオブジェクト (aa...aa : フィルタドライバ管理テーブル

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<p>アドレス (16 進数) のパス (<i>bb...bb</i> : コアロジックバス識別子 (16 進数)) の登録に成功しました。</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL05032-I	<p>パス(<i>aa...aa</i>)のヘルスチェックに成功しました。(<i>bb...bb cc...cc</i>)</p> <p>The path health checking for the path (<i>aa...aa</i>) completed normally. (<i>bb...bb cc...cc</i>)</p>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (16 進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : ディスク通番 (10 進数)</p> <p><i>cc...cc</i> : ヘルスチェック処理の進行度 (16 進数)</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL05033-W	<p>パス(<i>aa...aa</i>)のヘルスチェックに失敗しました。(<i>bb...bb cc...cc dd...dd</i>)</p> <p>The path health checking for the path (<i>aa...aa</i>) failed.(<i>bb...bb cc...cc dd...dd</i>)</p>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (16 進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : ディスク通番 (10 進数)</p> <p><i>cc...cc</i> : ヘルスチェック処理の進行度 (16 進数)</p> <p><i>dd...dd</i> : ヘルスチェック処理コマンドの実行結果など (16 進数)</p> <p>対処 ヘルスチェックに失敗したパスを確認してください。予期しないパスに対してこのメッセージが出力される場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL05034-I	<p>Disk(<i>aa...aa</i>)はサポートされています。(<i>bb...bb cc...cc</i>)</p> <p>Disk(<i>aa...aa</i>) is a target disk system for HDLM.(<i>bb...bb cc...cc</i>)</p>	<p>説明</p> <p>Disk のディスクが CoreLogic 管理対象ディスクであることを示します。</p> <p><i>aa...aa</i> : ディスク通番 (10 進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : ディスク認識処理の進行度 (16 進数)</p> <p><i>cc...cc</i> : ディスク認識処理のディスク確認処理コマンド実行結果など (16 進数)</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL05301-E	<p>パスを削除しました。削除されたパスに対応するホストストレージシステム間のパス接続状態を確認してください。パス接続状態に問題が無い場合、DLMgetras ユティリティを実行して、障害情報を購入元会社または保守会社に連絡してください。</p> <p>A path has been removed. Make sure that the path is correctly connected to the LU, and then recover the path. If the path cannot be recovered, execute the DLMgetras utility to collect error information, and then contact your vendor or maintenance company. Refer to the HDLM User's Guide for instructions how to execute the DLMgetras utility.</p>	<p>説明</p> <p>LU の動的削除機能が有効な場合にイベントログに出力されます。イベントビューアのデータには削除されたパスの情報が次の形式で表示されます。</p> <p>PathID PathName DskName iLU ChaPort</p> <p>LU にパスを追加した場合に出力されることがあります。これは、Windows の動作による現象で、障害ではありません。</p> <p>対処 パスが LU に正しく接続されているか確認しパスを回復させてください。パスが回復できない場合は HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL05819-I	<p>保守用トレースデータです。`<i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd</i>`</p>	<p>説明</p>

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
	Data for maintenance: <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd</i> .	<p>フィルタドライバが保守用に出力しているメッセージです。</p> <p><i>aa...aa</i> : HDLM デバイスのマイナー番号 (10 進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : メッセージ出力位置情報 (10 進数)</p> <p><i>cc...cc</i> : 詳細情報 1 (10 進数)</p> <p><i>dd...dd</i> : 詳細情報 2 (10 進数)</p> <p>対処 特にありません。</p>

8.7 KAPL07001~KAPL08000

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
KAPL07819-I	<p>保守用トレースデータです。: <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd</i></p> <p>Data for maintenance: <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd</i>.</p>	<p>説明</p> <p>コアロジックが保守用に出力しているメッセージです。</p> <p><i>aa...aa</i> : 詳細情報 1 (10 進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : コアロジック内部の関数番号 (10 進数)</p> <p><i>cc...cc</i> : 詳細情報 2 (10 進数)</p> <p><i>dd...dd</i> : 詳細情報 3 (10 進数)</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL07820-E	<p>クラスタサポート機能とロードバランス機能を同時に有効にできない構成です。</p> <p>The configuration does not support the simultaneous use of the load balancing and cluster support functions.</p>	<p>対処</p> <p>パーシステントリザーブをサポートしていないストレージシステムが管理対象にないか確認してください。お使いのストレージシステムがパーシステントリザーブに対応しているかどうかは、ストレージシステムの購入元会社または保守会社にお問い合わせください。</p>
KAPL07821-I	<p>クラスタ構成のときにロードバランス機能を使用できない LU が接続されています。</p> <p>An LU that cannot use the load balancing function in a cluster configuration is connected.</p>	<p>説明</p> <p>パーシステントリザーブ機能が使用できないストレージシステムの LU が接続されています。クラスタ構成のシステムの場合、パーシステントリザーブ機能が使用できないストレージシステムの LU はロードバランス機能を使用できません。</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL07822-W	<p>パス(<i>aa...aa</i>)に接続されている LU は、クラスタ構成のときにロードバランス機能を使用できません。</p> <p>An LU connected to PathID (<i>aa...aa</i>) cannot use the load balancing function in a cluster configuration.</p>	<p>説明</p> <p>パス ID (<i>aa...aa</i>) のパスに接続されているのは、パーシステントリザーブ機能が使用できないストレージシステムの LU です。クラスタ構成のシステムの場合、パーシステントリザーブ機能が使用できないストレージシステムの LU はロードバランス機能を使用できません。</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (view -path の PathID と同じ) (10 進数)</p> <p>対処 特にありません。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL07823-W	パス(aa...aa)に接続されている LU は、クラスタ構成のときもロードバランス機能を使用できます。 An LU connected to PathID (aa...aa) can also use the load balancing function in a cluster configuration.	説明 パス ID (aa...aa) のパスに接続されているのは、パーシステントリザーブ機能を使用できるストレージシステムの LU です。クラスタ構成のシステムの場合も、パーシステントリザーブ機能を使用できるストレージシステムの LU はロードバランス機能を使用できます。 aa...aa : パス ID (view -path の PathID と同じ) (10 進数) 対処 特にありません。
KAPL07824-I	パス(aa...aa)に接続されている LU の オーナ・コントローラを(bb...bb)に変更しました。 The owner controller of the LU connected to the path (aa...aa) was changed to (bb...bb).	説明 aa...aa で示すパス ID に接続されている LU のオーナコントローラを変更しました。 aa...aa : 変更した LU のパス ID (view -path の PathID と同じ) (10 進数) bb...bb : 変更後のオーナコントローラの ID (16 進数) 対処 特にありません。
KAPL07825-I	パス(aa...aa)に接続されている LU の オーナ・コアを(bb...bb)に変更しました。 The owner core of the LU connected to the path (aa...aa) was changed to (bb...bb).	説明 aa...aa で示すパス ID に接続されている LU のオーナ・コアを変更しました。 aa...aa : 変更した LU のパス ID (view -path の PathID と同じ) (10 進数) bb...bb : 変更後のオーナ・コアの ID (16 進数) 対処 特にありません。

8.8 KAPL08001～KAPL09000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL08019-E	パス(aa...aa)が障害(bb...bb)を検知しました。(cc...cc) The path (aa...aa) detected an error (bb...bb). (cc...cc)	説明 断線などによって、パスで障害が発生しました。 aa...aa : パス識別子 (16 進数) bb...bb : エラーコード (16 進数) <ul style="list-style-type: none"> Windows のプラグアンドプレイ機能によって SCSI デバイスが Windows から削除された場合、0x00000000 が表示されます。 パスヘルスチェック、または online オペレーションによって障害が検出された場合 0x000F0000 が表示されます。 I/O エラーによって障害が検出された場合 OS のエラーコードが表示されます。 cc...cc : 異常を起こしたフィルタドライバのアドレス (文字列) 対処

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		障害を検知したパスを確認してください。
KAPL08022-E	<p>パスの異常が発生しました。 ErrorCode = <i>aa...aa</i>, PathID = <i>bb...bb</i>, PathName = <i>cc...cc dd...dd ee...ee ff...ff</i>, DNum = <i>gg...gg</i>, HDevName = <i>hh...hh</i> A path error occurred. ErrorCode = <i>aa...aa</i>, PathID = <i>bb...bb</i>, PathName = <i>cc...cc dd...dd ee...ee ff...ff</i>, DNum = <i>gg...gg</i>, HDevName = <i>hh...hh</i></p>	<p>説明</p> <p>物理的または論理的なパス障害が発生しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : エラーコード (16 進数)</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows のプラグ アンド プレイ機能によって SCSI デバイスが Windows から削除された場合、0x00000000 が表示されます。 パスヘルスチェック, または online オペレーションによって障害が検出された場合 0x000F0000 が表示されます。 I/O エラーによって障害が検出された場合 OS のエラーコードが表示されます。 <p><i>bb...bb</i> : パス ID (view -path の PathID と同じ) (10 進数)</p> <p><i>cc...cc</i> : ポート番号 (view -path の PathName と同じ) (16 進数)</p> <p><i>dd...dd</i> : パス番号 (view -path の PathName と同じ) (16 進数)</p> <p><i>ee...ee</i> : ターゲット ID (view -path の PathName と同じ) (16 進数)</p> <p><i>ff...ff</i> : HLU 番号 (view -path の PathName と同じ) (16 進数)</p> <p><i>gg...gg</i> : Dev 番号 (view -path の DNum と同じ) (10 進数)</p> <p><i>hh...hh</i> : ホストデバイス名 (view -path の HDevName と同じ)</p> <p>対処</p> <p>パスで障害が発生したおそれがあります。「5.3」を参照して、メッセージ中に表示されたパスを稼働状態にしてください。</p>
KAPL08023-I	<p>パスを回復しました。PathID = <i>aa...aa</i>, PathName = <i>bb...bb cc...cc dd...dd ee...ee</i>, DNum = <i>ff...ff</i>, HDevName = <i>gg...gg</i> A path was recovered. PathID = <i>aa...aa</i>, PathName = <i>bb...bb cc...cc dd...dd ee...ee</i>, DNum = <i>ff...ff</i>, HDevName = <i>gg...gg</i></p>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (view -path の PathID と同じ) (10 進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : ポート番号 (view -path の PathName と同じ) (16 進数)</p> <p><i>cc...cc</i> : パス番号 (view -path の PathName と同じ) (16 進数)</p> <p><i>dd...dd</i> : ターゲット ID (view -path の PathName と同じ) (16 進数)</p> <p><i>ee...ee</i> : HLU 番号 (view -path の PathName と同じ) (16 進数)</p> <p><i>ff...ff</i> : Dev 番号 (view -path の DNum と同じ) (10 進数)</p> <p><i>gg...gg</i> : ホストデバイス名 (view -path の HDevName と同じ)</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL08025-I	<p>パスを回復しました。PathID = <i>aa...aa</i> A path was recovered. PathID = <i>aa...aa</i>.</p>	<p>説明</p> <p>自動回復機能によって、パスを回復しました。</p> <p>このメッセージは、LU に対するすべてのパスで障害が発生している状態で、1 本以</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<p>上のパスが障害から回復した場合に出力されます。</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (view -path の PathID と同じ) (10 進数)</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL08026-E	<p>LU への全てのパスで障害が発生しています。PathID = <i>aa...aa</i></p> <p>An error occurred on all the paths of the LU. PathID = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>断線などによって、1つのLUに対する最後のパスで障害が発生しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (view -path の PathID と同じ) (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>イベントログから KAPL05301-E メッセージを検索し、障害の発生しているストレージシステムを特定して、障害を回復してください。</p>
KAPL08027-E	<p>パスを自動フェイルバック対象から除外しました。PathID = <i>aa...aa</i></p> <p>A path was excluded from the items subject to automatic failback. PathID = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>該当パスに間欠障害が発生していると判断したため、自動フェイルバックの対象外としました。</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (view -path の PathID と同じ) (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>間欠障害が発生しています。パスで障害が発生したおそれがあります。「5.3」を参照して、メッセージ中に表示されたパスを稼働状態にしてください。</p>
KAPL08032-I	<p>パスを回復しました。PathID = <i>aa...aa</i></p> <p>A path was recovered. (PathID = <i>aa...aa</i>)</p>	<p>説明</p> <p>パスが Online になりました。</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (view -path の PathID と同じ) (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>

8.9 KAPL09001～KAPL10000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL09001-E	<p>システム管理権限がありません。</p> <p>Administrators グループのユーザで再度 <i>aa...aa</i> を実行してください。</p> <p>There is no system management permission. Login with administrator permission and <i>aa...aa</i> HDLM.</p>	<p>説明</p> <p>カレントユーザに管理者権限がないため、HDLM をインストールまたはアンインストールできません。</p> <p><i>aa...aa</i> : インストール (英語メッセージの場合 : re-install) またはアンインストール (英語メッセージの場合 : re-remove)</p> <p>対処</p> <p>Administrators グループのユーザで再度インストールまたはアンインストールしてください。</p>
KAPL09002-E	<p>ディスクに十分な空き容量がありません。</p> <p>The disk does not have sufficient free space.</p>	<p>対処</p> <p>インストール先を変えるか、不要なファイルを削除して空き容量を増やしてから再実行してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL09003-E	このシステムにはインストールできません。サポート対象の OS にインストールしてください。 Cannot install in this system. Install HDLM on a supported OS.	説明 このシステムには HDLM をインストールできません。 対処 サポート対象の OS にインストールしてください。サポート対象の OS については、「3.1.1」を参照してください。SP のサポート対象の OS については、Readme を参照してください。
KAPL09004-I	インストールが完了しました。システムを再起動してください。 Installation has finished. Restart the system.	説明 特にありません。 対処 直ちに再起動する場合には [今すぐコンピュータを再起動します] チェックボックスを ON にしてください。直ちに再起動しない場合は [後でコンピュータを再起動します] チェックボックスを ON にしてください。
KAPL09005-E	HDLM マネージャを停止できませんでした。 手動で HDLM マネージャを停止してください。そのあと、インストールプログラム、またはアンインストールプログラムを再実行してください。 Could not stop the HDLM manager. Stop it manually, and then try the installation program or the remove program again.	説明 HDLM マネージャサービスの停止に失敗しました。 対処 手動で HDLM マネージャを停止してください。そのあと、インストールプログラム、またはアンインストールプログラムを再実行してください。
KAPL09006-E	HDLM はインストールされませんでした。 Could not install HDLM.	対処 途中で中断した場合、不完全なファイル、フォルダが残っていることがあります。不完全なファイル、フォルダは削除してください。
KAPL09007-W	バージョン aa...aa の HDLM がインストールされています。上書きしますか？ HDLM version aa...aa is installed. Do you want to overwrite it?	説明 上書きインストールを行うか確認します。 aa...aa : バージョン番号 (文字列) 対処 上書きインストールする場合は OK を押してください。
KAPL09008-W	ライセンスコードが不適切です。 The license code is invalid.	対処 ライセンスコードを確認して、再入力してください。
KAPL09009-E	ライセンスコードが不適切です。インストールプログラムを終了します。 The license code is invalid. The HDLM installation program will now terminate.	説明 ライセンスコードの入力に複数回失敗したためインストールを中止します。 対処 ライセンスコードを確認して、インストールプログラムを再実行してください。
KAPL09010-E	PC に内蔵されているディスク以外の記憶装置にはインストールできません。 You cannot install onto storage media that is not a built-in disk.	対処 PC に内蔵されているディスクにインストールしてください。
KAPL09014-E	HDLM をインストールする前に OS の再起動が必要です。	対処

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	The OS must be restarted before you install HDLM.	HDLM をインストールする前に OS を再起動してください。
KAPL09015-E	HDLM をインストールできません。すでに新しいバージョンがインストールされています。 HDLM cannot be installed. A newer version of HDLM is already installed.	対処 HDLM をアンインストールしてください。そのあとインストールプログラムを再実行してください。
KAPL09016-E	HDLM はほかのシステムにインストールされているため、このシステムにはインストールできません。 Because HDLM has been installed in another system, HDLM cannot be installed in this system.	説明 すでに HDLM がほかのシステムからインストールされているので、このシステムにはインストールが行えません。 対処 同じドライブのほかの OS にインストールされている HDLM をアンインストールしてください。そのあとインストールプログラムを再実行してください。
KAPL09019-E	Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 のバンドル PP 名称の登録解除に失敗しました。HDLM ユーザーズガイドの「Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2) のアンインストール」の章を参照し Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 のアンインストールを行ってください。 An attempt to cancel the registration of the bundle PP name of Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 failed. Remove Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 by referring to HDLM User's Guide section "Removing Hitachi Network Objectplaza Trace Library (HNTRLib2)".	対処 手動でバンドル PP 名称の登録解除と Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 のアンインストールを行ってください。再度、バンドル PP 名称の登録解除と Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 のアンインストールに失敗した場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL09020-E	Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 のアンインストールに失敗しました。 An attempt to remove Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 failed.	説明 HNTRLib2 のアンインストールに失敗しました。 対処 手動で Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 のアンインストールを行ってください。再度、アンインストールに失敗した場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL09021-E	Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 のバンドル PP 名称の登録に失敗しました。 An attempt to register the bundle PP name of Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 failed.	説明 HNTRLib2 の PP 名称登録に失敗しました。 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL09026-I	Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 は、ほかの製品に利用されているためアンインストールされませんでした。	説明 ほかの製品が HNTRLib2 を使用しているため、アンインストールされませんでした。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2 wasn't removed because it was being used for other products.	対処 特にありません。
KAPL09034-E	HDLM インストーラで内部エラーが発生しました。コード = <i>aa...aa bb...bb</i> HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 An Internal error occurred in the HDLM Installer. Code = <i>aa...aa bb...bb</i> Contact your HDLM vendor or the maintenance company if there is a maintenance contract of HDLM.	説明 HDLM のインストール中にユーザ操作が原因でないと思われるエラーが発生しました。 <i>aa...aa</i> : エラー番号 (10 進数) <i>bb...bb</i> : 詳細情報 (10 進数) 対処 Code=13 1633 の場合 Windows が管理する SCSI ディスクの中に, HardwareID がないディスクがあります。システム環境が不正になっているおそれがあるため, OS のサポートへお問い合わせください。 そのほかの場合は, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL09076-I	永久ライセンスがインストールされました。 The permanent license was installed.	対処 特にありません。
KAPL09077-I	一時ライセンスがインストールされました。期限満了日は <i>aa...aa</i> です。 The temporary license was installed. The license expires on <i>aa...aa</i> .	説明 <i>aa...aa</i> : 西暦 (4 桁) / 月 (01~12) / 日 (01~31) 対処 期限満了日までに, 永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL09078-I	非常ライセンスがインストールされました。期限満了日は <i>aa...aa</i> です。 The emergency license was installed. The license expires on <i>aa...aa</i> .	説明 <i>aa...aa</i> : 西暦 (4 桁) / 月 (01~12) / 日 (01~31) 対処 期限満了日までに, 永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL09079-I	永久ライセンスがインストールされています。 The permanent license has been installed.	対処 特にありません。
KAPL09080-I	一時ライセンスがインストールされています。期限満了日は <i>aa...aa</i> です。 The temporary license has been installed. The license expires on <i>aa...aa</i> .	説明 <i>aa...aa</i> : 西暦 (4 桁) / 月 (01~12) / 日 (01~31) 対処 期限満了日までに, 永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL09081-I	非常ライセンスがインストールされています。期限満了日は <i>aa...aa</i> です。 The emergency license has been installed. The license expires on <i>aa...aa</i> .	説明 <i>aa...aa</i> : 西暦 (4 桁) / 月 (01~12) / 日 (01~31) 対処 期限満了日までに, 永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL09082-W	一時ライセンスの期限が切れています。 The temporary license expired.	対処 永久ライセンスのライセンスキーを入力してください。
KAPL09083-W	非常ライセンスの期限が切れています。	対処

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	The emergency license expired.	永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL09084-W	一時ライセンスをインストールできません。 The temporary license cannot be installed.	説明 一時ライセンスまたは非常ライセンスに一時ライセンスはインストールできません。 対処 永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL09085-W	非常ライセンスをインストールできません。 The emergency license cannot be installed.	説明 非常ライセンスに非常ライセンスはインストールできません。 対処 永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL09086-W	入力されたライセンスキーが不正です。 The license key is invalid.	対処 正しいライセンスキーを入力してください。
KAPL09087-E	入力されたライセンスキーが不正です。ライセンスの更新を中断します。正しいライセンスキーを取得後、再度インストールを実行してください。 The entered license key is invalid. Renewal of the license key will now stop. Obtain a valid license key, and then re-install HDLM.	説明 3回不正なライセンスキーが入力されたため、ライセンス更新を中断します。 対処 正しいライセンスキーを取得後、再度インストールしてください。
KAPL09088-E	入力されたライセンスキーが不正です。インストールを中断します。正しいライセンスキーを取得後、再度インストールを実行してください。 The entered license key is invalid. The HDLM installation will now terminate. Obtain a valid license key, and then re-install HDLM.	対処 正しいライセンスキーを取得後、再度インストールしてください。
KAPL09089-W	既にインストールされている環境からライセンス情報が取得できません。 License information cannot be acquired.	説明 ライセンス情報が取得できないため、ライセンスのインストールが必要です。 対処 ライセンスキーの入力を促すメッセージが表示されるので、ライセンスキーを入力してください。
KAPL09090-W	ライセンスを更新せずに、処理を続行します。 This operation will now be continued without updating the license.	対処 別途、永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL09091-E	HDLM 内で重大エラーが発生しました。システム環境が不正です。HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 A fatal error occurred in HDLM. The system environment is invalid. Contact your HDLM vendor or the	説明 HDLM 構成ファイルの一部がありません。 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	maintenance company if there is a maintenance contract of HDLM.	
KAPL09093-I	aa...aa をインストールします。よろしいですか？ aa...aa will be installed. Is this OK?	説明 aa...aa : インストールする SP のバージョン 対処 インストールを実行する場合には「OK」を、インストールを中止する場合には「キャンセル」を選択してください。
KAPL09114-I	ライセンスキーファイルがありません。 ファイル名 = aa...aa There is no license key file. File name = aa...aa	説明 ライセンスキーファイルが Windows のインストール先ドライブの直下にはありません。 aa...aa : Windows のインストール先ドライブ:\%hdlm_license またはユーザが指定したファイル名 対処 ライセンスキーの入力を促すメッセージが表示されるので、ライセンスキーを入力してください。 または、インストールを中断し、正しいライセンスキーファイルを Windows のインストール先ドライブの直下に格納してから、再度インストールしてください。
KAPL09115-W	ライセンスキーファイルの削除に失敗しました。ファイル名 = aa...aa An attempt to delete the license key file has failed. File name = aa...aa	説明 aa...aa : Windows のインストール先ドライブ:\%hdlm_license またはユーザが指定したファイル名 対処 ライセンスキーファイルが存在している場合は、削除してください。
KAPL09118-W	ライセンスキーファイルが不正です。 ファイル名 = aa...aa The license key file is invalid. File name = aa...aa	説明 ライセンスキーファイルの形式に不正があります。 aa...aa : Windows のインストール先ドライブ:\%hdlm_license またはユーザが指定したファイル名 対処 正しいライセンスキーファイルを Windows のインストール先ドライブの直下に格納してから、インストーラを再実行してください。
KAPL09119-W	インストール可能なライセンスキーがライセンスキーファイル内にありません。ファイル名 = aa...aa There is no installable license key in the license key file. File name = aa...aa	説明 ライセンスキーファイル内に、HDLM のインストールが可能なライセンスキーがありません。 aa...aa : Windows のインストール先ドライブ:\%hdlm_license またはユーザが指定したファイル名 対処 ライセンスキーファイルが正しいか確認してから、インストーラを再実行してください。
KAPL09120-E	ライセンスキーファイルがありません。 ファイル名 = aa...aa	説明

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	There is no license key file. File name = <i>aa...aa</i>	<p>ライセンスキーファイルが Windows のインストール先ドライブの直下にはありません。</p> <p><i>aa...aa</i> : Windows のインストール先ドライブ\%hdlm_license またはユーザが指定したファイル名</p> <p>対処</p> <p>正しいライセンスキーファイルを Windows のインストール先ドライブの直下に格納してから、JP1/NETM/DM の配布指令を再実行してください。</p>
KAPL09127-W	<p>このシステムには既に MPIO ドライバが存在します。</p> <p>ドライバ <i>aa...aa</i> は既にインストールされています。ファイルバージョンは <i>bb...bb</i> です。</p> <p>ドライバ <i>aa...aa</i> は既にインストールされています。ファイルバージョンは取得できませんでした。</p> <p>インストールを続行するとファイルバージョン <i>cc...cc</i> の <i>dd...dd</i> に書き込まれます。</p> <p>The MPIO driver has already been installed in this system.</p> <p>Driver <i>aa...aa</i> has already been installed. The file version is <i>bb...bb</i>.</p> <p>Driver <i>aa...aa</i> has already been installed. The file version could not be acquired.</p> <p>If installation continues, <i>dd...dd</i> of file version <i>cc...cc</i> will be overwritten.</p>	<p>説明</p> <p>「ドライバ <i>aa...aa</i> は既にインストールされています。ファイルバージョンは <i>bb...bb</i> です。」「ドライバ <i>aa...aa</i> は既にインストールされています。ファイルバージョンは取得できませんでした。」、および「インストールを続行するとファイルバージョン <i>cc...cc</i> の <i>dd...dd</i> に書き込まれます。」、および <i>mpio.sys</i>, <i>mpspfltr.sys</i>, および <i>mpdev.sys</i> についてそれぞれ表示されます。</p> <p>ファイルバージョンが取得できた場合は、「ドライバ <i>aa...aa</i> は既にインストールされています。ファイルバージョンは <i>bb...bb</i> です。」が表示されます。「ドライバ <i>aa...aa</i> は既にインストールされています。ファイルバージョンは取得できませんでした。」は表示されません。</p> <p>ファイルバージョンが取得できなかった場合は、「ドライバ <i>aa...aa</i> は既にインストールされています。ファイルバージョンは取得できませんでした。」が表示されます。「ドライバ <i>aa...aa</i> は既にインストールされています。ファイルバージョンは <i>bb...bb</i> です。」は表示されません。</p> <p><i>aa...aa</i> : 「<i>mpio.sys</i>」、 「<i>mpspfltr.sys</i>」、または 「<i>mpdev.sys</i>」</p> <p><i>bb...bb</i> : すでにインストールされた <i>mpio.sys</i>, <i>mpspfltr.sys</i>, または <i>mpdev.sys</i> のファイルバージョン</p> <p><i>cc...cc</i> : インストールする <i>mpio.sys</i>, <i>mpspfltr.sys</i>, または <i>mpdev.sys</i> のファイルバージョン</p> <p><i>dd...dd</i> : 「<i>mpio.sys</i>」、 「<i>mpspfltr.sys</i>」、または 「<i>mpdev.sys</i>」</p> <p>対処</p> <p>処理を継続する場合は「次へ」ボタンを、処理を中断する場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。</p>
KAPL09128-W	<p>入力された PRSV キーが不正です。</p> <p>The entered PRSV key is invalid.</p>	<p>対処</p> <p>有効な PRSV キーを入力してください。</p>
KAPL09129-E	<p><i>aa...aa</i> から <i>bb...bb</i> へのバージョンアップは実行できません。</p> <p>The version upgrade from <i>aa...aa</i> to <i>bb...bb</i> cannot be executed.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM05-50 よりも前のバージョンがインストールされている場合、HDLM05-50</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<p>以降のインストールプログラムを実行することはできません。</p> <p><i>aa...aa</i> : すでにインストールされた HDLM のバージョン</p> <p><i>bb...bb</i> : インストールする HDLM のバージョン</p> <p>対処 「3.5.6」を参照してください。</p>
KAPL09131-W	<p>PRSV キーの登録に失敗しました。 An attempt to register the PRSV key has failed.</p>	<p>対処</p> <p>インストール終了後、ホストを再起動せずに HDLM パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ (dlmprsvkey) を実行して、PRSV キーを登録してください。dlmprsvkey ユティリティについては、「7.4」を参照してください。</p>
KAPL09134-E	<p>システム環境変数 Path に HDLM のパスを追加することができません。 HDLM ユーザーズガイドのメッセージ一覧で対処方法を確認ください。 The HDLM path cannot be added to the Path environment variable. Refer to the Messages section of the HDLM User's Guide for instructions to correct this problem.</p>	<p>対処</p> <p>環境変数「Path」を編集して HDLM でパスを追加したあとに、次に示す長さに収まるように環境変数を編集してください。</p> <p>Windows Server 2003 SP1 または Windows Server 2003 R2 (SP なし) で環境変数「Path」が 1024 バイトに切り捨てられ、この現象に対する Microsoft 社の修正プログラムを適用した場合 2047 バイト</p> <p>Windows Server 2003 SP1 または Windows Server 2003 R2 (SP なし) で環境変数「Path」が 1024 バイトに切り捨てられ、この現象に対する Microsoft 社の修正プログラムを適用しない場合 1023 バイト</p> <p>HDLM のデフォルトパスを指定した場合、次に示すファイルパスが環境変数へ追加されます。</p> <p>Windows Server 2003(x86)および Windows Server 2008(x86) (";"を含めて 213 バイト)</p> <ul style="list-style-type: none"> • C:¥Program Files¥HDVM¥HBaseAgent¥bin • C:¥Program Files¥HDVM¥HBaseAgent¥util¥bin • C:¥Program Files¥HITACHI¥DynamicLinkManager¥bin • C:¥Program Files¥HITACHI¥DynamicLinkManager¥lib • C:¥Program Files¥Common Files¥Hitachi <p>Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012 (";"を含めて 243 バイト)</p> <ul style="list-style-type: none"> • C:¥Program Files (x86)¥HDVM¥HBaseAgent¥bin

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • C:\Program Files (x86)\HDVM\HBaseAgent\util\bin • C:\Program Files (x86)\HITACHI\DynamicLinkManager\bin • C:\Program Files (x86)\HITACHI\DynamicLinkManager\lib • C:\Program Files (x86)\Common Files\Hitachi <p>ただし、Hntrlib2 がすでにインストール済みの場合、次に示すファイルパスは追加されません。</p> <p>Windows Server 2003(x86)および Windows Server 2008(x86)</p> <p>C:\Program Files\Common Files\Hitachi</p> <p>Windows Server 2003(x86)を除く Windows Server 2003, Windows Server 2008(x86)を除く Windows Server 2008, および Windows Server 2012</p> <p>C:\Program Files (x86)\Common Files\Hitachi</p> <p>なお、HDLM のインストールには、Windows をインストールしたときに設定された検索パスが必要なため、これらの検索パスを削除しないでください。</p>
KAPL09135-E	<p>HDLM コマンドの set -lic オペレーションまたは、更新インストール時におけるライセンスの更新が同時に実行されました。</p> <p>One of the following was executed at the same time as an HDLM command set -lic operation: another set -lic operation, or an update of the license for an update installation.</p>	<p>対処</p> <p>view -sys -lic オペレーションでライセンスを確認し、必要に応じてインストール中、またはインストール後に set -lic オペレーションを使用してライセンスを更新してください。</p> <p>同じメッセージが表示される場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p> <p>なお、次の操作は行わないでください。set -lic オペレーションと HDLM のアップグレードまたは再インストール時のライセンスの更新の同時実行</p>
KAPL09142-E	<p>HDLM を aa...aa できません。時間を置いてから再度 aa...aa を実行してください。Error Code = bb...bb</p> <p>HDLM aa...aa cannot be performed. Wait a while, and then perform aa...aa again. Error Code =bb...bb</p>	<p>説明</p> <p>Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントが使用されているため、HDLM をインストールまたはアンインストールできませんでした。</p> <p>aa...aa : インストールまたはアンインストール</p> <p>bb...bb : 内部コード (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>時間を置いてから再度インストールまたはアンインストールを行ってください。Global Link Manager と連携している場</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		合は、リモートアクセスを中止してください。それでもこのメッセージが出力される場合は、マニュアル「Hitachi Command Suite Global Link Manager Software 導入・設定ガイド」を参照し、「hbsasrv stop -f」コマンドを実行してください。そのあと、必要に応じて再度 HDLM のインストールまたはアンインストールを実行してください。
KAPL09173-W	バージョン <i>aa...aa</i> の HDLM がインストールされています。 <i>bb...bb</i> で上書きしますか？ HDLM version <i>aa...aa</i> is installed. Do you want to overwrite it with version <i>bb...bb</i> ?	説明 <i>aa...aa</i> : すでにインストールされている HDLM のバージョン番号 (文字列) <i>bb...bb</i> : インストールしようとしている HDLM のバージョン番号 (文字列) 対処 アップグレードまたは再インストールする場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。
KAPL09179-I	保守用トレースデータ : <i>aa...aa bb...bb</i> Data for maintenance: <i>aa...aa bb...bb</i>	説明 <i>aa...aa</i> : メッセージ出力位置情報 (10 進数) <i>bb...bb</i> : 詳細情報 (文字列) 対処 特にありません。
KAPL09180-I	HDLM の <i>aa...aa</i> を開始します。 HDLM <i>aa...aa</i> will now start.	説明 HDLM のサイレントインストールまたはアンインストールを開始しました。 <i>aa...aa</i> : インストール (英語メッセージの場合: installation) またはアンインストール (英語メッセージの場合: remove) 対処 特にありません。
KAPL09181-I	HDLM <i>aa...aa</i> の <i>bb...bb</i> が正常に終了しました。 The <i>bb...bb</i> of HDLM version <i>aa...aa</i> completed successfully.	説明 HDLM のサイレントインストールまたはアンインストールが正常に終了しました。 <i>aa...aa</i> : インストールまたはアンインストールされた HDLM のバージョン <i>bb...bb</i> : インストール (英語メッセージの場合: installation) またはアンインストール (英語メッセージの場合: remove) 対処 特にありません。
KAPL09182-W	HDLM <i>aa...aa</i> は <i>bb...bb</i> されませんでした。 このメッセージの前に出力されているメッセージを確認し、エラーに対処してください。 An attempt to <i>bb...bb</i> HDLM version <i>aa...aa</i> has failed. See the previous messages to resolve the problems.	説明 HDLM のサイレントインストールまたはアンインストールが失敗しました。 <i>aa...aa</i> : インストールまたはアンインストールしようとした HDLM のバージョン <i>bb...bb</i> : インストール (英語メッセージの場合: install) またはアンインストール (英語メッセージの場合: remove) 対処 このメッセージの前に出力されている警告、エラーメッセージを確認し、エラーに対処してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL09183-I	バージョン <i>aa...aa</i> の HDLM がインストールされています。 <i>bb...bb</i> で上書きします。 HDLM version <i>aa...aa</i> is installed. This version will now be overwritten with version <i>bb...bb</i> .	説明 <i>aa...aa</i> : すでにインストールされている HDLM のバージョン番号 <i>bb...bb</i> : インストールしようとしている HDLM のバージョン番号 対処 特にありません。
KAPL09184-I	PRSV キーを登録しました。 PRSV キー = <i>aa...aa</i> The PRSV key was registered. (PRSV key = <i>aa...aa</i>)	説明 <i>aa...aa</i> : PRSV キー (16 桁の 16 進数) 対処 特にありません。
KAPL09185-I	コンピュータを再起動してください。 Restart the computer.	説明 <ul style="list-style-type: none"> HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) の場合 HDLM のインストールは正常に終了しました。 HDLM アンインストールユーティリティ (removehdlm) の場合 HDLM のアンインストールは正常に終了しました。 対処 <ul style="list-style-type: none"> HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) の場合 コンピュータを再起動したあとに、HDLM が正常に動作しているか確認してください。 HDLM アンインストールユーティリティ (removehdlm) の場合 特にありません。
KAPL09186-I	コンピュータを再起動します。 The computer will now restart.	説明 <ul style="list-style-type: none"> HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) の場合 インストール情報設定ファイルで再起動を行うよう指定されているため、HDLM のインストール後にコンピュータを再起動します。 HDLM アンインストールユーティリティ (removehdlm) の場合 -e パラメータが指定されたため、HDLM のアンインストール後にコンピュータを再起動します。 対処 <ul style="list-style-type: none"> HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) の場合 コンピュータが再起動したあとに、HDLM が正常に動作しているか確認してください。 HDLM アンインストールユーティリティ (removehdlm) の場合 特にありません。
KAPL09187-W	パラメータが指定されていません。 No parameter is specified.	説明 HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) にパラメータ (インストール情報設定ファイル) が指定されていません。 対処

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		installhdlm ユティリティのパラメタをチェックしてから、再実行してください。
KAPL09188-W	パラメタが多過ぎます。 Too many parameters are specified.	説明 HDLM インストールユティリティ (installhdlm) に 3 個以上のパラメタが指定されました。 HDLM アンインストールユティリティ (removehdlm) に 5 個以上のパラメタが指定されました。 対処 installhdlm ユティリティまたは removehdlm ユティリティのパラメタを チェックしてから、再実行してください。 installhdlm ユティリティについては、「7.7」を参照してください。removehdlm ユティリティについては、「7.8」を参照し てください。
KAPL09189-W	パラメタの値が誤っています。値 = aa...aa The parameter contains an incorrect value. (Value = aa...aa)	説明 HDLM インストールユティリティ (installhdlm) の第 1 パラメタは -f または -h を指定してください。 HDLM アンインストールユティリティ (removehdlm) のパラメタは -s, -r, -w, または -h を指定してください。 aa...aa : 不当なパラメタ (文字列) 対処 installhdlm ユティリティまたは removehdlm ユティリティのパラメタを チェックしてから、再実行してください。 installhdlm ユティリティについては、「7.7」を参照してください。removehdlm ユティリティについては、「7.8」を参照し てください。
KAPL09190-W	インストール情報設定ファイルが指定 されていません。 The installation information settings file is not specified.	説明 HDLM インストールユティリティ (installhdlm) の第 2 パラメタにインス トール情報設定ファイルが指定されてい ません。 対処 installhdlm ユティリティのパラメタ をチェックしてから、再実行してくださ い。
KAPL09191-W	インストール情報設定ファイルが存在 しません。 The installation information settings file does not exist.	説明 HDLM インストールユティリティ (installhdlm) の第 2 パラメタに指定さ れているファイルが存在しません。 対処 正しいインストール情報設定ファイルの パス名称を指定して、再実行してくださ い。
KAPL09192-W	使用できないバージョンのインストー ル情報設定ファイルが指定されていま す。hdlmversion = aa...aa	説明 指定されたインストール情報設定ファ イルは、本バージョンでは使用できません。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	An installation information settings file of an unsupported product version is specified. (hdlmversion = aa...aa)	<p>aa...aa : インストール情報設定ファイルが提供された HDLM のバージョン</p> <p>対処</p> <p>インストールする HDLM のバージョン、または以前のバージョンの HDLM で提供されたインストール情報設定ファイルを指定して、再実行してください。</p>
KAPL09193-W	<p>インストール情報設定ファイルの定義に誤りがあります。aa...aa = bb...bb</p> <p>A definition in the installation information settings file is invalid. (aa...aa = bb...bb)</p>	<p>説明</p> <p>キーに誤った値が指定されています。</p> <p>aa...aa : 誤りのあるエントリのキー名</p> <p>bb...bb : 誤りのあるキーの値</p> <p>対処</p> <p>インストール情報設定ファイルの定義を修正して、再実行してください。</p>
KAPL09194-W	<p>インストール情報設定ファイルに指定されたフォルダまたはファイルが存在しません。aa...aa = bb...bb</p> <p>A folder or file specified in the installation information settings file does not exist. (aa...aa = bb...bb)</p>	<p>説明</p> <p>キーに指定されたフォルダまたはファイルが存在しません。</p> <p>aa...aa : 存在しないフォルダまたはファイルが指定されているエントリのキー名</p> <p>bb...bb : 存在しないフォルダまたはファイルのパス名</p> <p>対処</p> <p>インストール情報設定ファイルの定義を修正して、再実行してください。</p>
KAPL09195-W	<p>Setup.exe ファイルが存在しません。</p> <p>The setup.exe file does not exist.</p>	<p>説明</p> <p>インストール情報設定ファイルの installfile_location に指定されたフォルダに、インストールプログラム (Setup.exe) が存在しないため、HDLM をインストールできません。</p> <p>対処</p> <p>インストール情報設定ファイルの installfile_location に「インストール DVD が入ったドライブ: ¥HDLM_Windows」を指定してください。</p>
KAPL09196-W	<p>HDLM の管理対象 LU の中に、シングルパス構成になっていない LU があります。</p> <p>Some of the LUs managed by HDLM are not in a single path configuration.</p>	<p>説明</p> <p>アップグレードインストールまたはアンインストール時は、シングルパス構成にする必要があります。</p> <p>対処</p> <p>シングルパス構成にしてから、再実行してください。</p>
KAPL09197-W	<p>ユーザの操作により aa...aa は終了しました。HDLM の bb...bb は続行されます。</p> <p>The user terminated aa...aa, but HDLM bb...bb will continue.</p>	<p>説明</p> <p>[Ctrl] + [C] などで, installhdlm.exe または removehdlm.exe が終了させられました。</p> <p>installhdlm.exe または removehdlm.exe は終了しますが、HDLM のインストールまたはアンインストールは続行されます。</p> <p>aa...aa : installhdlm.exe または removehdlm.exe</p> <p>bb...bb : インストール (英語メッセージの場合 : installation) またはアンインストール (英語メッセージの場合 : remove)</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<p>対処</p> <p>installhdlm.log または removehdlm.log を参照し、インストールまたはアンインストール結果を確認してください。</p>
KAPL09198-E	<p>インストール情報設定ファイルの入出力でエラーが発生しました。Code = <i>aa...aa bb...bb</i></p> <p>An error occurred in I/O of the installation information settings file.</p> <p>Code = <i>aa...aa bb...bb</i></p>	<p>説明</p> <p>インストール情報設定ファイルの入出力でユーザ操作が原因でないと思われるエラーが発生しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : エラー番号 (10 進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : 詳細情報 (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL09210-I	<p><i>aa...aa</i> を開始します。</p> <p><i>aa...aa</i> will now start.</p>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> を開始しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : dlnkmgr</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL09211-I	<p><i>aa...aa</i> が正常終了しました。</p> <p><i>aa...aa</i> completed successfully.</p>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : dlnkmgr</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL09212-E	<p><i>aa...aa</i> が異常終了しました。</p> <p><i>aa...aa</i> ended abnormally.</p>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : dlnkmgr</p> <p>対処</p> <p>このメッセージ以前に出力されているエラーメッセージを確認し、そのエラーメッセージの対処を実行してください。</p>
KAPL09213-W	<p><i>aa...aa</i> の処理中にエラーが発生しています。</p> <p>An error occurred during <i>aa...aa</i> processing.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) の処理は最後まで実行されましたが、途中でエラーになった処理があります。</p> <p><i>aa...aa</i> : dlnkmgr</p> <p>対処</p> <p>このメッセージ以前に出力されているエラーメッセージを確認し、そのエラーメッセージの対処を実行してください。</p>
KAPL09216-E	<p><i>aa...aa</i> が使用するファイルの入出力処理でエラーが発生しました。エラーコード = <i>bb...bb, cc...cc</i></p> <p>An error occurred during I/O of a file that <i>aa...aa</i> uses. Error Code = <i>bb...bb, cc...cc</i></p>	<p>説明</p> <p>HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) または HDLM アンインストールユーティリティ (removehdlm) が使用するファイルの入出力でエラーが発生しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : installhdlm または removehdlm</p> <p><i>bb...bb</i> : 実行した処理を特定するエラー番号(10 進数)</p> <p><i>cc...cc</i> : 実行した処理の戻り値(10 進数)</p> <p>対処</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) の場合

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<p>workdir に指定したフォルダの容量に不足がないか確認してください。</p> <p>workdir に指定したフォルダの容量が不足している場合は、十分な空き容量を確保したあとに再実行してください。必要な空き容量は、「3.5.3」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> HDLM アンインストールユーティリティ (removehdlm) の場合 -w パラメタに指定したフォルダの容量に不足がないか確認してください。-w パラメタに指定したフォルダの容量が不足している場合は、十分な空き容量を確保したあとに再実行してください。必要な空き容量は、「3.9.2」を参照してください。
KAPL09222-E	<p>HDLM をアンインストールできませんでした。</p> <p>HDLM could not be removed.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM のアンインストールを実行できませんでした。</p> <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL09223-E	<p>インストールできない機能がありました。機能 = aa...aa HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p> <p>A feature could not be installed. (feature = aa...aa) Contact your HDLM vendor or the maintenance company if there is a maintenance contract of HDLM.</p>	<p>説明</p> <p>インストールされなかった機能は使用できません。</p> <p>aa...aa : インストールされなかった機能</p> <ul style="list-style-type: none"> HDLM GUI の場合 HDLM GUI が使用できません。 Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントの場合 Global Link Manager から HDLM を管理できません。 MPIO 設定の場合 Windows Management Instrumentation (WMI) で管理されている MPIO の設定が変更されていません。 <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL09224-E	<p>アンインストールできない機能がありました。機能 = aa...aa</p> <p>A feature could not be removed. (feature = aa...aa)</p>	<p>説明</p> <p>Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントの機能がアンインストールできませんでした。Global Link Manager から HDLM を管理できません。</p> <p>aa...aa : アンインストールされなかった機能</p> <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL09226-I	<p>MPIO 用の更新プログラム (QFE) がインストールされています。ドライババージョン = aa...aa MPIO ドライバを</p>	<p>説明</p> <p>Microsoft 社から提供されている MPIO 用の更新プログラム (QFE) がインストー</p>

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
	<p>上書きせずに、HDLM ドライバだけをインストールします。</p> <p>An update (QFE) for MPIO has been installed. Driver version = aa...aa</p> <p>Only the HDLM driver will be installed, without overwriting the MPIO driver.</p>	<p>ルされている場合は、HDLM に同梱している MPIO ドライバはインストールされません。</p> <p>aa...aa : インストールされている MPIO ドライバのバージョン番号</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p> <p>HDLM に同梱している MPIO ドライバをインストールする場合は、MPIO 用の更新プログラム (QFE) をアンインストールしたあとに、HDLM をインストールしてください。</p>
KAPL09253-W	<p>全ての HDLM コンポーネントがインストールされている場合は、HDLM_core キーに「y」を指定することはできません。</p> <p>y cannot be specified in the HDLM_core key when all HDLM components are installed.</p>	<p>説明</p> <p>すべての HDLM コンポーネントがインストールされている環境では、HDLM Core インストールオプションを指定して HDLM をアップグレードまたは再インストールを行うことはできません。</p> <p>対処</p> <p>すべての HDLM コンポーネントがインストールされている環境で、HDLM Core インストールオプションを指定して HDLM をインストールする場合は、HDLM をアンインストールしたあとに新規インストールを行ってください。</p>
KAPL09254-W	<p>指定されたフォルダが存在しません。</p> <p>The specified folder does not exist.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM アンインストールユーティリティ (removehdlm) の -w パラメータに指定されたフォルダが存在しません。</p> <p>対処</p> <p>指定したフォルダのパス名を確認してください。</p>
KAPL09255-W	<p>HDLM はすでにアンインストールされています。</p> <p>HDLM has already been removed.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM はすでにアンインストールされているため、アンインストールを中止します。</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL09256-E	<p>システム環境変数 Path に検索パスが設定されていません。</p> <p>Windows をインストールしたときに設定された検索パスを追加して、HDLM のインストールを再実行してください。</p> <p>No search paths have been specified for the Path system environment variable.</p> <p>Add the search paths that were specified during the installation of Windows, and then re-install HDLM.</p>	<p>説明</p> <p>システム環境変数「Path」に検索パスが 1 つも設定されていません。</p> <p>HDLM のインストールには、Windows をインストールしたときに設定された検索パスが必要です。</p> <p>対処</p> <p>Windows をインストールしたときに設定された検索パスを、すべて環境変数「Path」に追加してください。そのあと、HDLM をインストールしてください。</p> <p>Windows をインストールしたときに設定されていた検索パスが不明な場合は、Microsoft 社に問い合わせてください。</p>
KAPL09257-W	<p>MPIO aa...aa がインストールされたシステムへのインストールはサポートしていません。</p>	<p>説明</p> <p>HDLM のサポートしている MPIO のバージョンよりも新しいバージョンの</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	<p>MPIO <i>aa...aa</i> のセットアップ情報ファイル (INF ファイル) をシステムから削除したあとに、インストールを続行してください。</p> <p>HDLM cannot be installed on a system where MPIO <i>aa...aa</i> has already been installed.</p> <p>Delete the MPIO <i>aa...aa</i> setup information files (the INF files) from the system, and then continue the installation.</p>	<p>mpio.sys が%SystemRoot%\system32\drivers にあります。 <i>aa...aa</i> : インストールされていた MPIO のバージョン</p> <p>対処 インストールを続行する前に、インストールされた MPIO のセットアップ情報ファイル (INF ファイル) をシステムから削除してください。削除方法は「3.4.5」を参照してください。 なお、セットアップ情報ファイルを削除したあとにインストールを再実行した場合も、メッセージ KAPL09257-W は出力されます。 インストールを続行する場合は、「OK」を選択してください。</p>
KAPL09258-E	<p>MPIO <i>aa...aa</i> がインストールされたシステムへのインストールはサポートしていません。</p> <p>HDLM cannot be installed on a system where MPIO <i>aa...aa</i> has already been installed.</p>	<p>説明 HDLM のサポートしている MPIO のバージョンよりも新しいバージョンの mpio.sys が%SystemRoot%\system32\drivers にあります。 <i>aa...aa</i> : インストールされていた MPIO のバージョン</p> <p>対処 インストールされた MPIO のセットアップ情報ファイル (INF ファイル) をシステムから削除した後に、setup.exe を起動して再インストールしてください。削除方法は「3.4.5」を参照してください。</p>
KAPL09259-I	<p>HDLM <i>aa...aa</i> のインストールチェックが正常に終了しました。</p> <p>The HDLM <i>aa...aa</i> installation check has completed successfully.</p>	<p>説明 HDLM のインストールチェックが正常に終了しました。 <i>aa...aa</i> : インストールされる HDLM のバージョン</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL09260-W	<p>HDLM <i>aa...aa</i> のインストールチェックでエラーが検出されました。</p> <p>このメッセージの前に出力されているメッセージを確認し、エラーに対処してください。</p> <p>Errors were detected during the HDLM <i>aa...aa</i> installation check. See the previous messages to resolve the problems.</p>	<p>説明 HDLM のインストールチェックでエラーが検出されました。 <i>aa...aa</i> : インストールされる HDLM のバージョン</p> <p>対処 このメッセージの前に出力されている警告、エラーメッセージを確認し、エラーに対処してください。</p>
KAPL09261-I	<p>永久ライセンスがインストールされます。</p> <p>A permanent license will be installed.</p>	<p>対処 特にありません。</p>
KAPL09262-I	<p>一時ライセンスがインストールされます。期限満了日は <i>aa...aa</i> です。</p> <p>A temporary license will be installed. The license expires on <i>aa...aa</i>.</p>	<p>説明 <i>aa...aa</i> : 西暦 (4桁) /月 (01~12) /日 (01~31)</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL09263-I	<p>非常ライセンスがインストールされます。期限満了日は <i>aa...aa</i> です。</p>	<p>説明</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	A emergency license will be installed. The license expires on <i>aa...aa</i> .	<i>aa...aa</i> : 西暦 (4 桁) / 月 (01~12) / 日 (01~31) 対処 特にありません。
KAPL09264-I	HDLM Light 版以外の永久ライセンスがインストールされます。 A permanent license (excluding HDLM Light) will be installed.	対処 特にありません。
KAPL09265-I	HDLM Light 版以外の一時ライセンスがインストールされます。期限満了日は <i>aa...aa</i> です。 A temporary license (excluding HDLM Light) will be installed. The license expires on <i>aa...aa</i> .	説明 <i>aa...aa</i> : 西暦 (4 桁) / 月 (01~12) / 日 (01~31) 対処 特にありません。
KAPL09266-I	HDLM Light 版以外の非常ライセンスがインストールされます。期限満了日は <i>aa...aa</i> です。 A emergency license (excluding HDLM Light) will be installed. The license expires on <i>aa...aa</i> .	説明 <i>aa...aa</i> : 西暦 (4 桁) / 月 (01~12) / 日 (01~31) 対処 特にありません。
KAPL09281-I	6.3.0 以降の HDLM がインストールされています。MPIO ドライバを上書きせずに、HDLM ドライバだけをインストールします。 HDLM 6.3.0 or later has been installed. Only the HDLM driver will be installed, without overwriting the MPIO driver.	説明 インストールされている MPIO ドライバのバージョンが、同梱されているバージョンと同じであるため、MPIO ドライバはインストールされません。 対処 特にありません。 HDLM に同梱している MPIO ドライバを再インストールする場合は、[MPIO ドライバを再インストールする] チェックボックスを ON にしてください。
KAPL09283-W	<i>aa...aa</i> ¥bin¥installhdlm.exe では、サイレントインストールを実行できません。サイレントインストールを実行する場合は、インストール媒体に格納されている HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) を使用してください。 A silent installation cannot be executed by using <i>aa...aa</i> ¥bin¥installhdlm.exe. To execute a silent installation, use the HDLM installation utility (installhdlm) that is included on the installation media.	説明 HDLM のインストール先フォルダ¥bin¥installhdlm.exe では、サイレントインストールを実行できません。 <i>aa...aa</i> : HDLM のインストール先フォルダ 対処 サイレントインストールを実行する場合は、インストール DVD が入ったドライブ:¥HDLM_Windows¥DLMTools¥installhdlm.exe を使用してください。
KAPL09284-W	HDLM がインストールされていません。 HDLM is not installed.	説明 HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) の -v パラメータは、HDLM がインストールされているホストで指定してください。 対処 特にありません。
KAPL09287-W	このシステムにはすでに HDLM for VMware がインストールされています。 The HDLM for VMware has already been installed in this system.	説明 VMware 版の HDLM と Windows 版の HDLM は、同じホストにインストールすることはできません。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		対処 特にありません。
KAPL09501-E	このシステムには HDLM がインストールされていません。 HDLM is not installed in this system.	説明 このシステムには HDLM がインストールされていないため、SP は適用できません。 対処 システムに HDLM が正しくインストールされていることを確認してください。
KAPL09504-E	HDLM と Service Pack の言語環境が異なります。 The language environments of HDLM and the Service Pack are different.	説明 英語の HDLM に日本語の SP をインストールしようとしたか、または日本語の HDLM に英語の SP をインストールしようとした場合に出力されます。 対処 インストールされた HDLM と同じ言語の SP をインストールしてください。
KAPL09505-E	aa...aa に対して、bb...bb は更新インストールできません。 bb...bb cannot be applied to the installed aa...aa.	説明 aa...aa : インストール済みの HDLM のバージョンまたは SP のバージョン bb...bb : インストールしようとした HDLM のバージョンまたは SP のバージョン 対処 インストール済みの HDLM、または SP に対してアップグレードまたは再インストールはできません。HDLM をインストールする場合、アンインストールを行ってから再度インストールを実行してください。SP をインストールする場合、インストール済みの HDLM に適用可能な SP、または修正版を入手して、再度インストールを実行してください。
KAPL09509-E	Service Pack aa...aa をインストールできません。すでに同等のバージョンがインストールされています。 Service Pack aa...aa cannot be installed. The same version has already been installed.	説明 インストールしようとしている SP と同等のバージョンがすでにインストールされているため、SP のインストールを中断しました。 aa...aa : インストールする SP のバージョン 対処 インストールしようとしている SP は、インストールの必要がありません。インストールされている HDLM をそのままお使いください。
KAPL09510-E	Service Pack aa...aa をインストールできません。すでに新しいバージョン bb...bb がインストールされています。 Service Pack aa...aa cannot be installed. A newer bb...bb version has already been installed.	説明 インストールしようとしている SP (aa...aa) より新しいバージョン (bb...bb) がインストールされているため、SP のインストールを中断しました。 aa...aa : インストールする SP のバージョン bb...bb : すでにインストールされた HDLM のバージョン、またはすでにインストールされた SP のバージョン

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<p>対処</p> <p>インストールしようとしている SP は、インストールの必要がありません。インストールされている HDLM をそのままお使いください。</p>

8.10 KAPL10001~KAPL11000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL10002-W	<p>パラメタが多過ぎます。</p> <p>Too many parameters have been specified.</p>	<p>説明</p> <p>パラメタが 4 個以上指定されました。</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
KAPL10003-W	<p>第 1 パラメタにディレクトリ以外が指定されました。値 = aa...aa</p> <p>The first parameter has not been set to a directory. Value = aa...aa</p>	<p>説明</p> <p>第 1 パラメタは収集情報出力先フォルダでなければなりません。</p> <p>aa...aa : 第 1 パラメタ</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
KAPL10004-W	<p>パラメタ値が誤っています。値 = aa...aa</p> <p>The parameter contains an incorrect value. Value = aa...aa</p>	<p>説明</p> <p>第 1 パラメタはフォルダでなければなりません。</p> <p>aa...aa : 不当なパラメタ</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
KAPL10009-W	<p>指定したディレクトリがすでに存在します。上書きしますか? [y/n]:</p> <p>The specified directory already exists. Do you want to overwrite it? [y/n]:</p>	<p>説明</p> <p>指定したフォルダがすでに存在します。上書きする場合は「y」、中止する場合は「n」を入力してください。</p> <p>対処</p> <p>指定したフォルダはすでにあります。「y」を指定したときには、上書きします。「n」またはそのほかのキーを入力した場合は、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行しないで終了します。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
KAPL10017-W	<p>HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行する権限がありません。</p>	<p>説明</p> <p>DLMgetras ユティリティは Administrators グループのユーザで実行する必要があります。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	You lack privileges for executing the utility for collecting HDLM error information.	対処 Administrators グループのユーザで再実行してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL10020-I	ファイルの取得に成功しました。ファイル名 = aa...aa, 取得時刻 = bb...bb(GMT:bb...bb) The file has been obtained successfully. File = aa...aa, Collection time = bb...bb(GMT:bb...bb)	説明 収集対象ファイルを取得しました。 aa...aa : 収集したファイル名 bb...bb : 西暦/月/日 時:分:秒 対処 特にありません。
KAPL10022-I	HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras)が正常終了しました。 The utility for collecting HDLM error information completed normally.	説明 障害情報の収集が終了しました。 対処 特にありません。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL10030-I	ユーザの指定によって、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras)が終了しました。 A user terminated the utility for collecting HDLM error information.	説明 確認に対し「n」を入力したため、DLMgetras ユティリティの処理を中止しました。 対処 特にありません。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL10031-W	入力の値が不正です。処理を続けますか? [y/n]: The entered value is invalid. Continue operation? [y/n]:	説明 「y」または「n」の入力要求に対して「y」または「n」以外が入力されました。「y」または「n」を入力してください。 対処 「y」、または「n」を入力してください。
KAPL10032-W	入力の値が不正です。HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras)の処理を中止します。 The entered value is invalid. The utility for collecting HDLM error information stops.	説明 入力要求に対し、3回間違った入力をしたため、DLMgetras ユティリティの処理を中止します。 対処 再度 DLMgetras ユティリティを実行してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL10033-W	ファイルが存在しません。ファイル名 = aa...aa The file does not exist. Filename = aa...aa	説明 収集しようとしたファイルがありません。 aa...aa : 収集対象ファイル 対処 特にありません。
KAPL10034-E	ファイルのコピーに失敗しました。ファイル名 = aa...aa, 詳細 = bb...bb The file could not be copied. Filename = aa...aa, Details = bb...bb	説明 aa...aa : コピーしようとしたファイル名 bb...bb : WindowsAPI のエラー番号 (16進数) 対処 収集対象のファイルのコピー中にエラーが発生しました。ユーザ環境が安定していなかったおそれがあります。システム構成を確認してください。
KAPL10041-I	aa...aa 情報の収集を開始します。	説明

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	Collection of <i>aa...aa</i> information will now start.	<i>aa...aa</i> : 収集するログ情報 対処 特にありません。
KAPL10042-I	<i>aa...aa</i> 情報の収集を終了しました。 Collection of <i>aa...aa</i> information will now finish.	説明 <i>aa...aa</i> : 収集が終了したログ情報 対処 特にありません。
KAPL10043-I	障害情報を収集しています。(<i>aa...aa</i> %) Error information is being collected. (<i>aa...aa</i> %)	説明 <i>aa...aa</i> : 収集するログのうち、すでに収集した割合 対処 特にありません。
KAPL10044-W	空きディスク容量が足りません。 There is insufficient disk space.	説明 ディスクの空き容量が 50MB より少なくなったので、障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を中止します。 対処 空きディスク容量を 50MB 以上に増やしてから再実行してください。
KAPL10045-W	パラメタが誤っています。 A parameter is invalid.	対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。
KAPL10046-W	パラメタ値が誤っています。 A parameter value is invalid.	対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。
KAPL10047-W	必要なパラメタ値が指定されていません。パラメタ = <i>aa...aa</i> A necessary parameter value has not been specified. (parameter = <i>aa...aa</i>)	説明 パラメタ値を指定しなければならないパラメタに、パラメタ値が指定されていません。 <i>aa...aa</i> : パラメタ名 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。
KAPL10048-E	HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) の内部処理で障害が発生しました。詳細 = <i>aa...aa</i> , <i>bb...bb</i> An error occurred in internal processing of the utility for collecting HDLM error information. Details = <i>aa...aa</i> , <i>bb...bb</i>	説明 <i>aa...aa</i> : エラー番号 (文字列) <i>bb...bb</i> : エラー番号 (文字列) 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL10080-I	保守用トレースデータ : <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd</i> Data for maintenance: <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd</i>	説明 <i>aa...aa</i> : 保守情報 <i>bb...bb</i> : WindowsAPI のエラー番号 (16 進数) <i>cc...cc</i> および <i>dd...dd</i> : 0 固定 (16 進数) 対処 特にありません。
KAPL10081-I	保守用トレースデータ : <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd ee...ee</i> Data for maintenance: <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd ee...ee</i>	説明 <i>aa...aa</i> : 保守情報 <i>bb...bb</i> : WindowsAPI のエラー番号 (16 進数)

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		<p>cc...cc および dd...dd : 0 固定 (16 進数) ee...ee : 実行できなかったコマンド, およ び取得できなかったレジストリキー 対処 特にありません。</p>
KAPL10640-I	<p>HDLM パーシステントリザーブ解除ユ ティリティ (dlmpr) が正常終了しまし た。 The dlmpr utility completed normally.</p>	<p>対処 特にありません。dlmpr ユティリティに ついては、「7.3」を参照してください。</p>
KAPL10644-W	<p>同時に指定できないパラメタが指定さ れています。パラメタ = aa...aa The specified parameters cannot be specified at the same time. parameter = aa...aa</p>	<p>説明 aa...aa : 指定したパラメタ (文字列) 対処 HDLM パーシステントリザーブ解除ユ ティリティ (dlmpr) の -h パラメタを指 定して実行し, パラメタを確認してから, 再実行してください。dlmpr ユティリ ティについては、「7.3」を参照してくださ い。</p>
KAPL10646-W	<p>パラメタが誤っています。パラメタ = aa...aa A parameter is invalid. parameter = aa...aa</p>	<p>説明 aa...aa : 指定したパラメタ (文字列) 対処 HDLM パーシステントリザーブ解除ユ ティリティ (dlmpr) を, -h パラメタを 指定して実行し, 指定できるパラメタを確 認してから, 再実行してください。dlmpr ユティリティについては、「7.3」を参照し てください。</p>
KAPL10648-E	<p>HDLM パーシステントリザーブ解除ユ ティリティ (dlmpr) で内部エラーが発 生しました。Error Code = aa...aa An internal error occurred in the dlmpr utility. Error Code = aa...aa</p>	<p>説明 aa...aa : エラー番号 (文字列) 対処 HDLM の購入元会社, または HDLM の保 守契約があれば保守会社に連絡してくだ さい。dlmpr ユティリティについては, 「7.3」を参照してください。</p>
KAPL10651-I	<p>ユーザの指定により, オペレーションの 処理を中断しました。 The user terminated the operation.</p>	<p>対処 特にありません。</p>
KAPL10652-E	<p>入力の値が不正です。オペレーショ ンを中断します。 The entered value is invalid. The operation stops.</p>	<p>説明 入力要求に対し, 3 回以上間違っ て入力されました。 対処 再度 dlmpr ユティリティを実行してくだ さい。</p>
KAPL10653-W	<p>入力の値が不正です。再入力してくだ さい。[y/n]: The entered value is invalid. Please Re-enter it [y/n]:</p>	<p>対処 「y」または「n」のどちらかの値を入力し てください。</p>
KAPL10654-W	<p>パラメタ(aa...aa)は単独で指定できま せん。 The parameter (aa...aa) cannot be not specified alone.</p>	<p>対処 パラメタに正しい値を指定して, 再実行し てください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL10655-I	Persistent Reservation 情報をクリアする LU の PathID を指定してください。(x で中止): Specify the PathID of the LU for which you want to clear persistent reservation information. (To cancel, press the x key):	対処 パーシステントリザーブを解除する LU の PathID を入力してから Enter キーを押すか、または「x」を入力して、処理を中止してください。
KAPL10656-I	PathID = aa...aa の Persistent Reservation 情報をクリアします。よろしいですか? [y/n]: The persistent reservation information of PathID = aa...aa will be cleared. Is this OK? [y/n]:	説明 aa...aa : パス ID (10 進数) 対処 解除を実行する場合は「y」を、中止する場合は「n」を入力してください。
KAPL10657-I	処理を続行した場合、指定した LU の排他が解除されます。他のサーバなどから指定 LU にアクセスしていないことを確認してください。処理を続行しますか? [y/n]: If you continue this process, the reservation of the LU you specified will be cleared. Please confirm that no other servers are accessing this LU.	対処 解除を実行する場合は「y」を、中止する場合は「n」を入力してください。
KAPL10658-I	PathID = aa...aa の Persistent Reservation 情報をクリアしました。 The persistent reservation information of PathID = aa...aa was cleared.	説明 aa...aa : パス ID (10 進数) 対処 特にありません。
KAPL10659-I	Persistent Reservation 情報が存在する LU はありません。 There is no LU for which persistent reservation information exists.	対処 特にありません。
KAPL10660-I	HDLM 管理対象 LU はありません。 There is no LU managed by HDLM.	対処 特にありません。
KAPL10661-E	SCSI コマンド処理に失敗しました。 SCSI Code = aa...aa, Service Action = bb...bb, Status Code = cc...cc, Error Code = dd...dd, LU = ee...ee The SCSI command failed. SCSI Code = aa...aa, Service Action = bb...bb, Status Code = cc...cc, Error Code = dd...dd, LU = ee...ee	説明 aa...aa : SCSI コード (16 進数) bb...bb : サービスアクション (16 進数) cc...cc : 状態コード (16 進数) dd...dd : Windows の Error コード ee...ee : LU 番号 (文字列) 対処 <ul style="list-style-type: none"> クラスタシステムのサービスおよびドライバが動作している場合は、クラスタシステムのサービスおよびドライバを停止したあと、再度 dlmpr ユティリティを実行してください。 dlmpr ユティリティの実行中に LU の切断などによる構成変更があった場合は、元の構成に戻したあと、再度 dlmpr ユティリティを実行してください。 上記の内容を確認しても問題が解決しない場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL10662-E	空きメモリが不足しています。 Free memory is insufficient.	対処 不要なアプリケーションを終了させた上で再実行してください。それでも問題が解決しない場合は再起動したあとで再実行させてください。または、パーシステントリザーブを解除する必要がある LU だけ接続してください。
KAPL10663-W	入力の値が不正です。Persistent Reservation 情報をクリアする LU の PathID を再度指定してください。(x で中止): The input value is invalid. Specify the PathID of the LU for you want to clear persistent reservation information. (To cancel: press the x key):	対処 一覧に表示されている PathID を入力して処理を続けるか、または「x」を入力して処理を中断してください。
KAPL10664-E	Inquiry データの取得に失敗しました。PortNo = aa...aa, Error Code = bb...bb An attempt to acquire Inquiry data failed. PortNo = aa...aa, Error Code = bb...bb	説明 SCSI コントローラへ IOCTL_SCSI_GET_INQUIRY_DATA を発行した結果、何らかの異常が発生しました。 aa...aa : ポート番号 (16 進数) bb...bb : エラーコード (16 進数) 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL10665-I	HDLM パーシステントリザーブ解除ユーティリティ (dlmpr) が終了しました。The dlmpr utility completed.	対処 特にありません。dlmpr ユティリティについては、「7.3」を参照してください。
KAPL10666-I	PathID = aa...aa の LU には Persistent Reservation 情報が存在していません。クリアは行われませんでした。 There is no persistent reservation information for the LU of PathID = aa...aa. The clear processing will not be executed.	説明 aa...aa : ユーザが指定した LU のパス ID 対処 特にありません。
KAPL10667-C	物理ドライブ番号の取得に失敗しました。LU = aa...aa An attempt to the get physical drive number failed. LU = aa...aa	説明 物理ドライブ番号が存在しない LU が存りました。 aa...aa : LU 番号 対処 クラスタシステムのサービスおよびドライバが動作している場合は、クラスタシステムのサービスおよびドライバを停止したあと、再度 dlmpr ユティリティを実行してください。 それでも問題が解決しない場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL10668-E	デバイスのオープンに失敗しました。DeviceName = aa...aa	説明 aa...aa : デバイス名 対処

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	An attempt to open a device failed. Device name = aa...aa	HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL10669-W	HDLM がインストールされているため, HDLM パーシステントリザーブ解除ユーティリティ (dlmpr) は実行できません。 The utility for clearing HDLM persistent reservation (dlmpr) cannot be executed because HDLM is installed.	対処 dlmpr ユティリティは, アンインストール後にパーシステントリザーブが残った場合だけ実行してください。dlmpr ユティリティを実行する場合は, HDLM をアンインストールしたあとでホストを再起動してください。

8.11 KAPL11001~KAPL12000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL11901-I	aa...aa を開始しました。 aa...aa has started.	説明 ホスト上でのオペレーションを開始しました。 aa...aa : オペレーション (文字列※) <ul style="list-style-type: none"> ◦ パス情報取得 (Get Path Information) ◦ オプション情報取得 (Get Option Information) ◦ オプション情報設定 (Set Option Information) ◦ データクリア (Clear Data) ◦ HDLM ドライバステータス取得 (Get HDLM Driver Status) ◦ HDLM マネージャステータス取得 (Get HDLM Manager Status) ◦ HDLM アラートドライバステータス取得 (Get HDLM Alert Driver Status) ◦ SNMP Trap 情報取得 (Get SNMP Trap Information) ◦ SNMP Trap 情報設定 (Set SNMP Trap Information) ◦ LU 単位ロードバランスアルゴリズム設定 (Set LU Load Balance) ◦ パスステータスログ情報取得 (Get Path Status Log Information) ◦ ローカル時間取得 (Get Local Time) ◦ パス情報追加 (Add Path Information) ◦ パス情報削除 (Delete Path Information) ◦ ストレージ認識情報設定 (Set Storage Identification Information) 注※ 英語メッセージ中では, 括弧内の英文字列が出力されます。 対処

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		特にありません。
KAPL11902-I	<p><i>aa...aa</i> を開始しました。PathID = <i>bb...bb</i> <i>aa...aa</i> has started. PathID = <i>bb...bb</i></p>	<p>説明</p> <p>ホスト上でのオペレーションを開始しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : オペレーション (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ オンライン (Online) ◦ オフライン (Offline) <p><i>bb...bb</i> : オペレーション対象パスの PathID (10 進数)</p> <p>注※</p> <p>英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL11903-I	<p><i>aa...aa</i> が正常終了しました。 <i>aa...aa</i> has completed normally.</p>	<p>説明</p> <p>ホスト上でのオペレーションが正常に終了しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : 次に示すオペレーション (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ パス情報取得 (Get Path Information) ◦ オプション情報取得 (Get Option Information) ◦ オプション情報設定 (Set Option Information) ◦ データクリア (Clear Data) ◦ HDLM ドライバステータス取得 (Get HDLM Driver Status) ◦ HDLM マネージャステータス取得 (Get HDLM Manager Status) ◦ HDLM アラートドライバステータス取得 (Get HDLM Alert Driver Status) ◦ オンライン (Online) ◦ オフライン (Offline) ◦ SNMP Trap 情報取得 (Get SNMP Trap Information) ◦ SNMP Trap 情報設定 (Set SNMP Trap Information) ◦ LU 単位ロードバランスアルゴリズム設定 (Set LU Load Balance) ◦ パスステータスログ情報取得 (Get Path Status Log Information) ◦ ローカル時間取得 (Get Local Time) ◦ パス情報追加 (Add Path Information) ◦ パス情報削除 (Delete Path Information) ◦ ストレージ認識情報設定 (Set Storage Identification Information) <p>注※</p> <p>英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。</p> <p>対処</p>

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		特にありません。
KAPL11904-E	<p><i>aa...aa</i> が異常終了しました。エラーステータス = <i>bb...bb</i> <i>aa...aa</i> has completed abnormally. Error status = <i>bb...bb</i></p>	<p>説明</p> <p>ホスト上でのオペレーションが異常終了しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : オペレーション (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ パス情報取得 (Get Path Information) ◦ オプション情報取得 (Get Option Information) ◦ オプション情報設定 (Set Option Information) ◦ データクリア (Clear Data) ◦ HDLM ドライバステータス取得 (Get HDLM Driver Status) ◦ HDLM マネージャステータス取得 (Get HDLM Manager Status) ◦ HDLM アラートドライバステータス取得 (Get HDLM Alert Driver Status) ◦ オンライン (Online) ◦ オフライン (Offline) ◦ SNMP Trap 情報取得 (Get SNMP Trap Information) ◦ SNMP Trap 情報設定 (Set SNMP Trap Information) ◦ LU 単位ロードバランスアルゴリズム設定 (Set LU Load Balance) ◦ パスステータスログ情報取得 (Get Path Status Log Information) ◦ パス情報追加 (Add Path Information) ◦ パス情報削除 (Delete Path Information) ◦ ストレージ認識情報設定 (Set Storage Identification Information) <p><i>bb...bb</i> : API からのエラーステータス (文字列)</p> <p>注※</p> <p>英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が出力されます。</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
KAPL11905-E	<p>予測できないエラーが発生しました。 An unexpected error occurred.</p>	<p>説明</p> <p>ホスト内での処理で例外が発生しました。</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡して</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		ください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
KAPL11906-I	GUI 情報 - <i>aa...aa</i> GUI information - <i>aa...aa</i>	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 <i>aa...aa</i> : トレース情報 (文字列) 対処 特にありません。
KAPL11907-I	XML 受信 - <i>aa...aa</i> XML reception - <i>aa...aa</i>	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 <i>aa...aa</i> : XML 情報 (文字列) 対処 特にありません。
KAPL11908-I	XML 送信 - <i>aa...aa</i> XML transmission - <i>aa...aa</i>	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 <i>aa...aa</i> : XML 情報 (文字列) 対処 特にありません。

8.12 KAPL12001~KAPL13000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL12101-W	パラメタが指定されていません。 A parameter has not been specified.	対処 HDLM パーシステントリザーブキー登録 ユティリティ (dlmprsvkey) のパラメタ をチェックしてから、再実行してくだ さい。dlmprsvkey ユティリティについ ては、「7.4」を参照してください。
KAPL12102-W	パラメタが多過ぎます。 There are too many parameters.	対処 HDLM パーシステントリザーブキー登録 ユティリティ (dlmprsvkey) のパラメタ をチェックしてから、再実行してくだ さい。dlmprsvkey ユティリティについ ては、「7.4」を参照してください。
KAPL12103-W	パラメタの値が誤っています。値 = <i>aa...aa</i> The parameter value is invalid. (value = <i>aa...aa</i>)	説明 第1パラメタは-r, -v, または-hを指定 してください。 -rを指定する場合、第2パラメタは16進 数16桁の値または-sを指定してくだ さい。-hを指定する場合、-h以外の値は入 力できません。 <i>aa...aa</i> : 不当なパラメタ (文字列) 対処 HDLM パーシステントリザーブキー登録 ユティリティ (dlmprsvkey) のパラメタ をチェックしてから、再実行してくだ さい。dlmprsvkey ユティリティについ ては、「7.4」を参照してください。
KAPL12104-I	PRSV キー登録オペレーションを開始 します。よろしいですか(y/n)? The operation for PRSV key registration will now start. Is this OK? [y/n]:	説明 PRSV キーの登録オペレーションを開始 します。続行してよい場合は「y」を、続 行しない場合は「n」を入力してください。 対処

メッセージID	メッセージテキスト	説明
		オペレーションを実行する場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。
KAPL12105-W	HDLM パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ(dlmprsvkey)を実行する権限がありません。 The user does not have permission to execute the dlmprsvkey utility for registering HDLM persistent reservation key.	説明 HDLM パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ (dlmprsvkey) は Administrators グループのユーザで実行する必要があります。 対処 Administrators グループのユーザで再実行してください。dlmprsvkey ユティリティについては、「7.4」を参照してください。
KAPL12106-I	PRSV キーの登録に成功しました。 PRSV キー = aa...aa An attempt to register the PRSV key was successful. (PRSV key = aa...aa)	説明 aa...aa : 登録された PRSV キー (文字列) 対処 特にありません。
KAPL12107-W	PRSV キーの登録に失敗しました。 PRSV キー = aa...aa An attempt to register the PRSV key has failed. (PRSV key = aa...aa)	説明 aa...aa : 登録された PRSV キー (文字列) 対処 HDLM が正常にインストールされているか確認してください。正常にインストールされている場合、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL12108-I	ユーザの指定により、HDLM パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ(dlmprsvkey)が終了しました。 The utility for registering the HDLM persistent reservation key finished due to a user specification.	説明 確認に対し n が入力されたため、dlmprsvkey ユティリティの処理を中止しました。 対処 特にありません。dlmprsvkey ユティリティについては、「7.4」を参照してください。
KAPL12110-W	入力の値が不正です。HDLM パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ(dlmprsvkey)の処理を中止します。 The entered value is invalid. Processing of the utility for registering the HDLM persistent reservation key will now terminate.	説明 入力要求に対し、3 回間違った入力されたため、dlmprsvkey ユティリティの処理を中止します。 対処 再度 dlmprsvkey ユティリティを実行してください。dlmprsvkey ユティリティについては、「7.4」を参照してください。
KAPL12111-E	登録先のレジストリキーが存在しません。 The registry key for the registration destination does not exist.	説明 レジストリキー "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM ¥CurrentControlSet¥Services ¥HDLMdsm¥Parameters"が存在しません。 対処 HDLM が正常にインストールされているか確認してください。正常にインストールされている場合、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL12112-E	HDLM パーシステントリザーブキー登録ユーティリティ(dlmprsvkey)の内部処	説明

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	<p>理で障害が発生しました。エラーの詳細 = <i>aa...aa</i>, エラーコード = <i>bb...bb</i></p> <p>An error occurred during internal processing of the utility for registering the HDLM persistent reservation key (dlmprsvkey).Details = <i>aa...aa, bb...bb</i></p>	<p>dlmprsvkey ユティリティの処理中に、ユーザの操作が原因でないと思われるエラーが発生しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : エラーの詳細 <i>bb...bb</i> : エラーコード (文字列)</p> <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。dlmprsvkey ユティリティについては、「7.4」を参照してください。</p>
KAPL12113-E	<p>PRSV キーの取得に失敗しました。</p> <p>An attempt to acquire the PRSV key has failed.</p>	<p>説明</p> <p>-v を指定して HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey) を実行したときに、レジストリキー「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥HDLMdsm¥Parameters ¥PRSVKeyString」から PRSV キーを取得できませんでした。</p> <p>対処</p> <p>dlmprsvkey ユティリティを使用して PRSV キーを登録していない場合、登録したあと -v を指定して再度実行してください。PRSV キーが登録されている場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。dlmprsvkey ユティリティについては、「7.4」を参照してください。</p>
KAPL12114-E	<p>不正な PRSV キーが登録されています。</p> <p>An invalid PRSV key has been registered.</p>	<p>説明</p> <p>レジストリキー「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM ¥CurrentControlSet¥Services ¥HDLMdsm¥Parameters ¥PRSVKeyString」に不正な PRSV キーが登録されています。</p> <p>対処</p> <p>HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey) を実行して、有効な PRSV キーを登録してください。</p>
KAPL12115-E	<p>PRSV キーの生成に失敗しました。</p> <p>An attempt to generate the PRSV key has failed.</p>	<p>対処</p> <p>再度 PRSV キーを指定して HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey) を実行して、PRSV キーを登録してください。dlmprsvkey ユティリティについては、「7.4」を参照してください。</p>
KAPL12116-I	<p>登録済みの PRSV キーを表示します。</p> <p>PRSV キー = <i>aa...aa</i></p> <p>The registered PRSV key will now be displayed. (PRSV key = <i>aa...aa</i>)</p>	<p>説明</p> <p>レジストリキー「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM ¥CurrentControlSet¥Services ¥HDLMdsm¥Parameters ¥PRSVKeyString」に登録されている PRSV キーを表示します。</p> <p><i>aa...aa</i> : PRSV キー</p> <p>対処</p>

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		特にありません。
KAPL12117-I	保守用トレースデータ:登録 PRSV キー = <i>aa...aa</i> Trace data for maintenance: registered PRSV key = <i>aa...aa</i>	説明 PRSV キー登録成功時に出力します。 <i>aa...aa</i> に PRSV キー (16 桁の 16 進数) が入ります。トレースログ用メッセージです。 対処 特にありません。
KAPL12118-E	保守用トレースデータ: <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd</i> Trace data for maintenance: <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd</i>	説明 「-r」を指定した場合に PRSV キーを生成する前に障害が発生したとき、または「-v」指定した場合に PRSV キー取得前に障害が発生したときのトレースログ用メッセージです。 <i>aa...aa</i> : 保守情報 1 (16 進数) <i>bb...bb</i> : 保守情報 2 (16 進数) <i>cc...cc</i> : 保守情報 3 (16 進数) <i>dd...dd</i> : 保守情報 4 (16 進数) 対処 特にありません。
KAPL12119-E	保守用トレースデータ: <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd ee...ee</i> Trace data for maintenance: <i>aa...aa bb...bb cc...cc dd...dd ee...ee</i>	説明 「-r」を指定した場合に PRSV キーを生成する前に障害が発生したとき、または「-v」指定した場合に PRSV キー取得前に障害が発生したときのトレースログ用メッセージです。 <i>aa...aa</i> : 保守情報 1 (16 進数) <i>bb...bb</i> : 保守情報 2 (16 進数) <i>cc...cc</i> : 保守情報 3 (16 進数) <i>dd...dd</i> : 保守情報 4 (16 進数) <i>ee...ee</i> : PRSV キー (16 進数) 対処 特にありません。
KAPL12150-W	HDLM パフォーマンスモニタの内部処理で障害が発生しました。HDLM パフォーマンスモニタを起動できません。 詳細 = <i>aa...aa</i> An error occurred during internal processing of HDLM Performance Monitor. HDLM Performance Monitor cannot start. Details = <i>aa...aa</i>	説明 HDLM パフォーマンスモニタの起動に失敗しました。 メモリ不足、またはホストに高い負荷が掛かっているおそれがあります。 WMI リポジトリが破損している場合にも、このメッセージが出力されることがあります。 <i>aa...aa</i> : エラー操作 (文字列) 対処 システムの状況を確認してください。 このメッセージが繰り返し出力される場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 WMI リポジトリが破損している場合は、リポジトリの再構築を検討してください。
KAPL12151-W	Windows Management Instrumentation サービスとのアクセスエラーが発生しました。詳細 = <i>aa...aa, bb...bb</i>	説明 Windows Management Instrumentation サービスとのアクセスで障害が発生しました。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	A Windows Management Instrumentation service access error occurred. Details = <i>aa...aa</i> , <i>bb...bb</i>	<p>Windows Management Instrumentation サービスが稼働していないおそれがあります。</p> <p>WMI リポジトリが破損している場合にも、このメッセージが出力されることがあります。</p> <p><i>aa...aa</i> : API 名 (文字列) <i>bb...bb</i> : エラーコード (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>Windows Management Instrumentation サービスが稼働中であるか確認してください。サービスが稼働していない場合、サービスを起動してください。サービスが起動できない、またはサービス起動後も改善されない場合、HDLM の購入元会社、もしくは HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p> <p>WMI リポジトリが破損している場合は、リポジトリの再構築を検討してください。</p>
KAPL12152-W	<p>HDLM パフォーマンスモニタの内部処理で障害が発生しました。詳細 = <i>aa...aa</i>, <i>bb...bb</i></p> <p>An error occurred during internal processing of HDLM Performance Monitor. Details = <i>aa...aa</i>, <i>bb...bb</i></p>	<p>説明</p> <p>パフォーマンスモニタの処理中にユーザ操作が原因でないとされるエラーが発生しました。</p> <p>メモリ不足、またはホストに高い負荷が掛かっているおそれがあります。</p> <p>WMI リポジトリが破損している場合にも、このメッセージが出力されることがあります。</p> <p><i>aa...aa</i> : 内部処理名 (文字列) <i>bb...bb</i> : エラーコード (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>システムの状況を確認してください。</p> <p>このメッセージが繰り返し出力される場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p> <p>WMI リポジトリが破損している場合は、リポジトリの再構築を検討してください。</p>
KAPL12401-I	<p>HDLM の管理対象のすべての LU はシングルパス構成です。</p> <p>All LUs managed by HDLM are in a single path configuration.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM の管理対象の LU がない場合も、このメッセージが出力されます。</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL12402-W	<p>iLU(<i>aa...aa</i>)はマルチパス構成です。PathID = <i>bb...bb</i>[<i>cc...cc</i>]...</p> <p>iLU (<i>aa...aa</i>) is in a multi-path configuration. PathID = <i>bb...bb</i>[<i>cc...cc</i>]...</p>	<p>説明</p> <p>メッセージに示す LU 番号の LU が、シングルパス構成ではありません。</p> <p><i>aa...aa</i> : LU 番号 <i>bb...bb</i>, <i>cc...cc</i> : パス ID</p> <p>対処</p> <p>アンインストール、アップグレードまたは再インストールする場合は、表示された LU のパスをシングルパス構成にしてから、再度アンインストール、アップグレードまたは再インストールしてください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL12403-W	必要なパラメタが指定されていません。 A necessary parameter has not been specified.	対処 HDLM パス状態確認ユーティリティ (dlmchkpath) を、-h パラメタを指定して実行し、パラメタを確認してから、再実行してください。dlmchkpath ユティリティについては、「7.5」を参照してください。
KAPL12404-W	パラメタが誤っています。パラメタ = aa...aa A parameter is invalid. Parameter = aa...aa	説明 aa...aa : 指定したパラメタ 対処 HDLM パス状態確認ユーティリティ (dlmchkpath) を、-h パラメタを指定して実行し、パラメタを確認してから、再実行してください。dlmchkpath ユティリティについては、「7.5」を参照してください。
KAPL12405-E	メモリ不足により HDLM パス確認ユーティリティが実行できません。 Cannot execute the utility for checking HDLM paths due to insufficient memory.	説明 HDLM パス状態確認ユーティリティ (dlmchkpath) の処理に必要なメモリを確保できませんでした。 対処 不要なアプリケーションを終了させて空きメモリを増やすか、ホストを再起動してください。
KAPL12406-E	HDLM パス確認ユーティリティの内部処理で障害が発生しました。エラーコード = aa...aa, 詳細コード = bb...bb An error occurred in internal processing of the utility for checking HDLM paths. Error code = aa...aa, details code = bb...bb	説明 aa...aa : エラーコード bb...bb : 詳細コード 対処 <ul style="list-style-type: none"> エラーコードが 22 の場合 HDLM が正しくインストールされていないおそれがあります。HDLM が正しくインストールされているか確認してください。HDLM が正しくインストールされていてもエラーコードに 22 が表示される場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 エラーコードが 22 以外の場合 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。

8.13 KAPL13001~KAPL14000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL13601-W	監査ログ設定ファイルがありません。マネージャを再起動した後、"dlnmgr view -sys -auditlog"コマンドを実行して、設定を確認してください。 The audit log configuration file does not exist. Restart the HDLM	説明 監査ログ設定ファイルが存在しません。 対処 HDLM マネージャを再起動したあと、dlnmgr view -sys -auditlog コマンドを実行してください。そのあと、必要に

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	Manager, and execute the "dlnkmgr view -sys -audlog" command and check the setting.	応じて dlnkmgr set -audlog コマンドで、設定を行ってください。
KAPL13602-W	監査ログ設定ファイルがオープンできません。 "dlnkmgr view -sys -audlog"コマンドを実行して、結果が正常に表示されるか確認してください。 The audit log configuration file cannot be opened. Execute the "dlnkmgr view -sys -audlog" command and check whether a normal result is displayed.	説明 監査ログ設定ファイルがオープンできません。 対処 dlnkmgr view -sys -audlog コマンドを実行した結果、正常に表示されない場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL13603-W	監査ログ設定ファイルが不正です。マネージャを再起動した後、"dlnkmgr view -sys -audlog"コマンドを実行して設定を確認してください。 The audit log configuration file is invalid. Restart the HDLM Manager, and execute the "dlnkmgr view -sys -audlog" command and check the setting.	説明 監査ログ設定ファイルが不正です。 対処 HDLM マネージャを再起動したあと、dlnkmgr view -sys -audlog コマンドを実行してください。そのあと、必要に応じて dlnkmgr set -audlog コマンドで、設定を行ってください。
KAPL13604-W	監査ログ設定ファイルの読み込み処理でエラーが発生しました。 An error occurred during processing to read the audit log configuration file.	説明 監査ログ設定ファイルの読み込み中に内部エラーが発生しました。 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL13605-W	監査ログの出力処理でエラーが発生しました。 An error occurred during processing to output the audit log configuration file.	説明 監査ログの出力中に内部パラメタエラーが発生しました。 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL13606-W	監査ログの出力処理でエラーが発生しました。 An error occurred during processing to output the audit log configuration file.	説明 監査ログの出力中に内部エラーが発生しました。 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL13801-I	HDLM インストール情報確認ユーティリティが正常終了しました。 The dlmhostinfo utility for confirming HDLM installation information completed normally.	説明 インストール情報の出力が終了しました。 対処 特にありません。
KAPL13802-W	インストール情報の出力に失敗しました。 Installation information failed to be output.	説明 HDLM インストール情報確認ユーティリティ (dlmhostinfo) でエラーが発生したため、インストール情報が出力されませんでした。 対処

メッセージ ID	メッセージテキスト	説明
		このメッセージの前に出力されている警告、エラーメッセージを参照しエラーの要因を特定してください。
KAPL13803-W	HDLM インストール情報確認ユーティリティを実行する権限がありません。 The user does not have the privileges required to execute the dlmhostinfo utility for confirming HDLM installation information.	説明 HDLM インストール情報確認ユーティリティ (dlmhostinfo) は Administrators グループのユーザで実行する必要があります。 対処 Administrators グループのユーザで再実行してください。
KAPL13804-W	パラメタが多過ぎます。 Too many parameters have been specified.	説明 パラメタが 3 個以上指定されました。 対処 HDLM インストール情報確認ユーティリティ (dlmhostinfo) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。
KAPL13805-W	パラメタが誤っています。 At least one parameter is invalid.	説明 指定されたパラメタが誤っています。 対処 HDLM インストール情報確認ユーティリティ (dlmhostinfo) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。
KAPL13806-W	インストール情報ファイルが指定されていません。 The installation information file has not been specified.	説明 第 2 パラメタにインストール情報ファイルが指定されていません。 対処 HDLM インストール情報確認ユーティリティ (dlmhostinfo) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。
KAPL13807-W	HDLM がインストールされていません。 HDLM is not installed.	説明 HDLM がインストールされていないときは、HDLM インストール情報確認ユーティリティ (dlmhostinfo) は実行できません。 対処 特にありません。
KAPL13808-W	インストール情報ファイルの作成に失敗しました。Code = aa...aa An attempt to create the installation information file has failed. Code = aa...aa	説明 aa...aa : エラー番号 (10 進数) 指定したインストール情報ファイルが次の条件のどれかを満たしている場合は、インストール情報ファイルは作成されません。 ・ インストール情報ファイルがすでに存在する。 ・ インストール情報ファイルと同じ名称のフォルダが存在する。 ・ 親フォルダが存在しない。 ・ 親フォルダに書き込み権限がない。 対処 特にありません。
KAPL13809-E	インストール情報確認ユーティリティの内部処理で障害が発生しました。Code = aa...aa, bb...bb	説明 HDLM インストール情報確認ユーティリティ (dlmhostinfo) の実行中にユーザ

メッセージID	メッセージテキスト	説明
	An internal error occurred in the dlmhostinfo utility for confirming HDLM installation information. Code = <i>aa...aa</i> , <i>bb...bb</i>	<p>操作が原因でないと思われるエラーが発生しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : エラー番号 (10 進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : 詳細情報 (10 進数)</p> <p>Code が「2, 403」の場合は、6.0.0-00 以前の HDLM がインストールされている可能性があります。</p> <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>

8.14 KAPL15001~KAPL16000

この節で説明するメッセージの言語種別は、英語だけです。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL15010-W	The HDLM utility was executed by the user who does not have the authority. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユティリティ名</p>
KAPL15030-I	An HDLM persistent reservation key was successfully registered. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユティリティ名</p>
KAPL15031-W	An attempt to register an HDLM persistent reservation key has failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユティリティ名</p>
KAPL15032-I	An HDLM persistent reservation key was successfully displayed. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユティリティ名</p>
KAPL15033-W	An attempt to display an HDLM persistent reservation key has failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユティリティ名</p>
KAPL15034-I	The status that indicates whether paths are in an individual or multiple path configuration was successfully displayed. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユティリティ名</p>
KAPL15035-W	An attempt to display the status that indicates whether paths are in an individual or multiple path configuration has failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユティリティ名</p>
KAPL15060-I	DLMgetras was invoked. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユティリティ名</p>
KAPL15061-I	DLMgetras successfully executed. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユティリティ名</p>
KAPL15101-I	Clear operation was completed successfully. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン</p>
KAPL15102-W	Clear operation has failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL15103-I	<i>aa...aa</i> path(s) were successfully placed <i>bb...bb</i> . <i>cc...cc</i> path(s) were not. Command Line = <i>dd...dd</i>	説明 <i>aa...aa</i> : online または offline が成功したパス数 <i>bb...bb</i> : Online または Offline (C) <i>cc...cc</i> : online または offline に失敗したパス数 <i>dd...dd</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15104-W	<i>aa...aa</i> path(s) were failed to place <i>bb...bb</i> . Command Line = <i>cc...cc</i>	説明 <i>aa...aa</i> : online または offline に失敗したパス数 <i>bb...bb</i> : Online または Offline (C) <i>cc...cc</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15105-I	Setting up the operating environment succeeded. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15106-W	Setting up the operating environment failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15107-I	Program information was successfully displayed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15108-W	An attempt to display program information has failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15109-I	Information about HDLM-management targets was successfully displayed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15110-W	An attempt to display information about HDLM-management targets has failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15111-W	The HDLM command was started or stopped by the user who does not have the authority. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15119-I	Deletion of path(s) succeeded. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15120-W	Deletion of path(s) failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15201-I	HDLM GUI has started successfully.	—
KAPL15202-I	HDLM GUI has terminated.	—
KAPL15203-W	HDLM GUI was executed by the user who does not have the authority.	—
KAPL15204-W	HDLM GUI has not started successfully.	—
KAPL15205-I	<i>aa...aa</i> has completed successfully.	説明 <i>aa...aa</i> : Refresh, Clear Data, Export CSV, Get Option Information, または Set Option Information
KAPL15206-W	<i>aa...aa</i> has failed.	説明 <i>aa...aa</i> : Refresh, Clear Data, Export CSV, Get Option Information, または Set Option Information

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL15207-I	<i>aa...aa</i> path(s) were successfully placed <i>bb...bb</i> . <i>cc...cc</i> path(s) could not be placed <i>bb...bb</i> .	説明 <i>aa...aa</i> : online または offline が成功したパス数 <i>bb...bb</i> : Online または Offline <i>cc...cc</i> : online または offline に失敗したパス数
KAPL15208-W	<i>aa...aa</i> path(s) were failed to place <i>bb...bb</i> .	説明 <i>aa...aa</i> : online または offline に失敗したパス数 <i>bb...bb</i> : Online または Offline
KAPL15401-I	HDLM Manager successfully started.	—
KAPL15402-W	Could not start the HDLM manager.	—
KAPL15403-I	HDLM Manager successfully stopped.	—
KAPL15404-W	The HDLM Manager was executed by the user who does not have the authority.	—

8.15 Hitachi Command Suite 共通エージェントコンポーネントのリターンコード

Global Link Manager から HDLM へ要求した動作が異常終了した場合、または正常終了しても警告がある場合に HDLM がリターンコードを出力します。

リターンコード	説明
1002	説明 操作対象のパスがありませんでした。 対処 ホストの情報を更新して、パス情報を確認したあとに再度オペレーションを実行してください。
1003	説明 パスを検出できませんでした。 対処 ホストストレージシステム間のパスが接続されているかを確認してください。パスが接続されている場合は、HDLM が正しく構成されているかを確認してください。
1004	説明 HDLM の内部処理に必要なメモリが確保できませんでした。 対処 不要なアプリケーションを終了させ、空きメモリを増やすか、ホストを再起動してください。
1006	説明 パスの回復に失敗しました。 対処 パスの障害を取り除いたあと、再度オンライン操作を実行してください。
1007	説明 オフラインの対象として指定されたパスはデバイスの最後のパスであるため、オフライン状態にはできません。 対処 ホストの情報を更新して、パスの状態を確認したあとに再度オフライン操作を実行してください。

リターンコード	説明
1015	<p>説明 パスの回復に失敗しました。</p> <p>対処 パスの障害を取り除いたあと、再度オンライン操作を実行してください。</p>
1016	<p>説明 操作対象のパスはすでに Online です。</p> <p>対処 ホストの情報を更新して、パスの状態を確認してください。</p>
1017	<p>説明 操作対象のパスはすでに Offline(C)です。</p> <p>対処 ホストの情報を更新して、パスの状態を確認してください。</p>
1019	<p>説明 HDLM の内部処理で障害が発生しました。</p> <p>対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
1020	<p>説明 HDLM の内部処理で予測できないエラーが発生しました。</p> <p>対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
1021	<p>説明 ホストに MSCS がインストールされていません。</p> <p>対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
1022	<p>説明 オフライン処理をバッチ登録しました。</p> <p>対処 ホストの情報を更新して、パスの状態を確認してください。</p>
1023	<p>説明 オフライン処理はすでにバッチ登録されています。</p> <p>対処 ホストの情報を更新して、パスの状態を確認してください。</p>
1024	<p>説明 クラスタサポート機能とロードバランス機能を同時に有効にできない構成です。</p> <p>対処 ホスト上でパーシステントリザーブをサポートしていないストレージシステムが管理対象となっていないか確認してください。お使いのストレージシステムがパーシステントリザーブに対応しているかは、ストレージシステムの購入元会社、または保守会社にお問い合わせください。</p>
1025	<p>説明 パラメタ値が誤っています。</p> <p>対処 ホストの情報を更新して、再度オペレーションを実行してください。繰り返し同じエラーとなる場合は、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約が</p>

リターンコード	説明
	<p>あれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
1026	<p>説明 パス情報取得中にパスの構成が変更されたため、パス情報取得を中断します。</p> <p>対処 ホストの情報を更新して、パス情報を確認したあとに再度オペレーションを実行してください。</p>
1027	<p>説明 障害監視時間、および障害発生回数が自動フェイルバックチェック間隔と矛盾しています。</p> <p>対処 間欠障害監視の障害監視時間は、「自動フェイルバックで指定するチェック間隔×間欠障害監視で指定する障害発生回数」以上に設定してください。</p>
1033	<p>説明 HDLM のバージョン情報の取得に失敗しました。</p> <p>対処 再実行してください。繰り返し同じエラーとなる場合は、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
1034	<p>説明 HDLM のバージョン情報または SP のバージョン情報の取得に失敗しました。</p> <p>対処 再実行してください。繰り返し同じエラーとなる場合は、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
1035	<p>説明 HDLM のバージョン情報または SP のバージョン情報の取得に失敗しました。</p> <p>対処 再実行してください。繰り返し同じエラーとなる場合は、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
1036	<p>説明 HDLM のバージョン情報または SP のバージョン情報の取得に失敗しました。</p> <p>対処 再実行してください。繰り返し同じエラーとなる場合は、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
1037	<p>説明 パラメタ値が誤っています。</p> <p>対処 ホストの情報を更新して、再度オペレーションを実行してください。繰り返し同じエラーとなる場合は、HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。</p>
1038	<p>説明 ロードバランス機能を使用できないストレージ装置が接続されています。</p> <p>対処</p>

リターンコード	説明
	システム構成を確認してください。本システムにはロードバランス機能が使用できないストレージ装置が接続されています。そのストレージ装置のLUに対してはロードバランス機能は動作しません。
1041	説明 HDLM マネージャとの通信に失敗しました。 対処 ホストの HDLM マネージャが起動されているか確認してください。
1042	説明 指定した LU のパス構成情報は、HDLM が保持しているパス構成情報と一致しません。 対処 ホストの情報を更新して、パス情報を確認したあとに再度オペレーションを実行してください。
1043	説明 指定した LU はロードバランス機能を使用できないストレージ装置の LU です。 対処 指定したパスで接続されている LU のストレージ装置を確認してください。
1045	説明 パラメタ値が誤っています。 対処 ホストの情報を更新して、再度オペレーションを実行してください。繰り返し同じエラーとなる場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。
1046	説明 パラメタ値が誤っています。 対処 ホストの情報を更新して、再度オペレーションを実行してください。繰り返し同じエラーとなる場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「7.2」を参照してください。

8.16 HDLM が出力する Windows イベントログ

HDLM が出力する Windows イベントログの一覧を次の「表 8-3 Windows イベントログ一覧表 (アプリケーションログ)」および「表 8-4 Windows イベントログ一覧表 (システムログ)」に示します。

表 8-3 Windows イベントログ一覧表 (アプリケーションログ)

メッセージ ID	種類	ソース	分類	イベント ID	ユーザ
KAPL04001-I	情報	DLMMManager	なし	16385	N/A
KAPL04002-E	エラー	DLMMManager	なし	16386	N/A
KAPL04003-E	エラー	DLMMManager	なし	16387	N/A
KAPL04004-I	情報	DLMMManager	なし	16388	N/A
KAPL04005-E	エラー	DLMMManager	なし	16389	N/A
KAPL04006-E	エラー	DLMMManager	なし	16390	N/A
KAPL04007-E	エラー	DLMMManager	なし	16391	N/A
KAPL04008-E	エラー	DLMMManager	なし	16392	N/A

メッセージID	種類	ソース	分類	イベントID	ユーザ
KAPL04009-E	エラー	DLMManager	なし	16393	N/A
KAPL04010-E	エラー	DLMManager	なし	16394	N/A
KAPL04011-E	エラー	DLMManager	なし	16395	N/A
KAPL04012-E	エラー	DLMManager	なし	16396	N/A
KAPL04013-E	エラー	DLMManager	なし	16397	N/A
KAPL04014-E	エラー	DLMManager	なし	16398	N/A
KAPL04019-E	エラー	DLMManager	なし	16403	N/A
KAPL04023-E	エラー	DLMManager	なし	16407	N/A
KAPL04024-C	エラー	DLMManager	なし	16408	N/A
KAPL04025-C	エラー	DLMManager	なし	16409	N/A
KAPL04026-I	情報	DLMManager	なし	16410	N/A
KAPL04027-I	情報	DLMManager	なし	16411	N/A
KAPL04028-E	エラー	DLMManager	なし	16412	N/A
KAPL04029-E	エラー	DLMManager	なし	16413	N/A
KAPL04030-E	エラー	DLMManager	なし	16414	N/A
KAPL04031-E	エラー	DLMManager	なし	16415	N/A
KAPL04032-C	エラー	DLMManager	なし	16416	N/A
KAPL04033-W	警告	DLMManager	なし	16417	N/A
KAPL04034-E	エラー	DLMManager	なし	16418	N/A
KAPL05008-E	エラー	DLMManager	なし	20488	N/A
KAPL05010-E	エラー	DLMManager	なし	20490	N/A
KAPL05011-E	エラー	DLMManager	なし	20491	N/A
KAPL07820-E	エラー	DLMManager	なし	29492	N/A
KAPL08019-E	エラー	DLMManager	なし	32787	N/A
KAPL08022-E	エラー	DLMManager	なし	32790	N/A
KAPL08023-I	情報	DLMManager	なし	32791	N/A
KAPL08025-I	情報	DLMManager	なし	32793	N/A
KAPL08026-E	エラー	DLMManager	なし	32794	N/A
KAPL08027-E	エラー	DLMManager	なし	32795	N/A
KAPL12150-W	警告	PerfHdlm	なし	60033	N/A
KAPL12151-W	警告	PerfHdlm	なし	60034	N/A
KAPL12152-W	警告	PerfHdlm	なし	60035	N/A
KAPL12151-W	警告	ProvHdlm	なし	60034	N/A
KAPL12152-W	警告	ProvHdlm	なし	60035	N/A

表 8-4 Windows イベントログ一覧表（システムログ）

メッセージID	種類	ソース	分類	イベントID	ユーザ
KAPL05301-E	エラー	hdlmdsm	なし	20781	N/A

バージョン間の機能差異

ここでは、HDLM の旧バージョンで提供していた機能について、変更前と変更後の相違点を示します。

- A.1 6.6 以降と 6.6 より前のバージョンとの機能差異
- A.2 6.2 以降と 6.2 より前のバージョンとの機能差異
- A.3 6.0.1 以降と 6.0.1 より前のバージョンとの機能差異
- A.4 6.0 以降と 6.0 より前のバージョンとの機能差異
- A.5 05-94 以降と 05-94 より前のバージョンとの機能差異
- A.6 05-91 以降と 05-91 より前のバージョンとの機能差異
- A.7 05-90 以降と 05-90 より前のバージョンとの機能差異
- A.8 パスの遷移と自動切り替え
- A.9 LU の動的削除機能の差異
- A.10 Windows のドライブ文字表示の差異
- A.11 デフォルト値の差異
- A.12 MSCS 環境でのロードバランス機能の差異

A.1 6.6 以降と 6.6 より前のバージョンとの機能差異

- 6.6 の HDLM から、イベントログに出力する次のメッセージ種別を「エラー」から「警告」に変更しました。また、メッセージ ID の「レベル」を「E」から「W」に変更しました。
 - KAPL12150, KAPL12151, および KAPL12152
- 6.6 の HDLM から、HDLM GUI のパスリストビューに「ドライブ」および「ディスク番号」を表示できるようになりました。

A.2 6.2 以降と 6.2 より前のバージョンとの機能差異

6.2 より前の HDLM では、Hitachi AMS2000 シリーズ、Hitachi SMS シリーズ、および Universal Storage Platform V/VM シリーズの場合、HDLM GUI の構成ビューに未サポートを示す KAPL02087-I のメッセージが出力されていました。6.2 の HDLM から HDLM GUI の構成ビューが表示できるようになりました。

A.3 6.0.1 以降と 6.0.1 より前のバージョンとの機能差異

- HDLM の新規インストール時、ロードバランスのアルゴリズムのデフォルト値をラウンドロビンから拡張最少 I/O 数に変更しました。

A.4 6.0 以降と 6.0 より前のバージョンとの機能差異

- HDLM のコマンドやユティリティの実行結果で表示される、HDLM のバージョンの表記を変更しました。
- HDLM に同梱されている Java 実行環境 (JRE) を Sun Microsystems 社製 JRE 5.0_11(32bit) に変更しました。これに伴い、Java 実行環境をデータ実行防止 (DEP) 機能の対象から除く操作は不要となりました。

A.5 05-94 以降と 05-94 より前のバージョンとの機能差異

- インストール時の応答操作削減のため、次に示す操作を変更しました。
 - ユーザ情報の入力を削除しました。
 - HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey) が自動的に実行され、PRSV キーの作成に成功した場合、PRSV キーのダイアログボックスの表示、および応答を削除しました。
 - HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ (dlmprsvkey) が自動的に実行され、PRSV キーが時刻情報だけで生成された場合、または生成に失敗した場合は、PRSV キーの登録を求めるダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの説明に従って、PRSV キーを登録するようになりました。
- HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) で取得するログファイルの大きさを変更しました。

A.6 05-91 以降と 05-91 より前のバージョンとの機能差異

- 05-91 の HDLM では、HDLM GUI のパス管理ウィンドの初期画面を、構成ビューからパスリストビューに変更しました。

A.7 05-90 以降と 05-90 より前のバージョンとの機能差異

- 05-90 の HDLM では、Hitachi Device Manager Software と連携して HDLM GUI および HDLM Web GUI で HDLM を遠隔操作する機能のサポートを終了しました。
- 05-90 の HDLM では、Windows の [スタート] メニューから HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を起動できるようにしました。

A.8 パスの遷移と自動切り替え

A.8.1 Online 状態のパスの遷移

05-50 以降の HDLM では、次に示すどちらかの条件を満たす場合、Online 状態のパスは Online(E) 状態または Offline(E) 状態へ遷移します。05-02 以前の HDLM では、次に示すどちらかの条件を満たしても Online 状態のままです。

- I/O 障害を伴わないパス断線が発生した場合
- LU が HDLM の管理対象から削除された場合

A.8.2 Online(E)状態、Offline(C)状態、および Offline(E)状態のパスの自動切り替え

05-50 以降の HDLM では、次に示す条件を満たす場合 Online(E)状態、Offline(C)状態、および Offline(E)状態のパスを自動的に Online 状態へ切り替えます。05-02 以前の HDLM では、次に示す条件を満たしてもパスを自動的に稼働状態へ切り替えません。

- Online(E)状態のパス
次に示すどちらかの条件を満たしている場合、Online(E)状態のパスを自動的に Online 状態へ切り替えます。
 - I/O 障害を伴わないパス断線から回復した場合
 - LU が HDLM の管理対象から削除されたあと、HDLM の管理対象に追加された場合
- Offline(C)状態のパス
次に示す条件を満たしている場合、接続している Offline(C)のパスを自動的に稼働状態へ切り替えます。
 - 稼働状態のパスが Online(E)だけになった状態で、かつ Online(E)のパスに対応する SCSI デバイスが削除されている。
 - SCSI デバイスが接続状態で、かつ自動フェイルバック対象外の Offline(E)のパスがない。
 - Offline(C)のパスに SCSI デバイスが接続している。
- 間欠障害が発生したと見なされた Offline(E)状態のパス
次に示す条件を満たしている場合、接続している Offline(E)のパスを自動的に稼働状態へ切り替えます。

- 稼働状態のパスが **Online(E)**だけになった状態で、かつ **Online(E)**のパスに対応する SCSI デバイスが削除されている。
- **Offline(E)**のパスに SCSI デバイスが接続している。
- 間欠障害が発生したと見なされていない **Offline(E)**状態のパス
次に示すどちらかの条件を満たしている場合、**Online(E)**状態のパスを自動的に **Online** 状態へ切り替えます。
 - I/O 障害を伴わないパス断線から回復した場合
 - LU が HDLM の管理対象から削除されたあと、HDLM の管理対象に追加された場合

A.9 LU の動的削除機能の差異

HDLM のバージョンによって、LU の動的削除機能は次に示すように異なります。

- 05-02 の HDLM
 - 「**Offline(C)**のパスがある LU も削除」を設定しない場合 (HDLM コマンドの場合は `dlnkmgr set -rmlu on`)
LU に接続するパスの中に **Online** 状態、**Offline(C)**状態のパスがない場合、HDLM の管理対象から LU を削除します。
 - 「**Offline(C)**のパスがある LU も削除」を設定した場合 (HDLM コマンドの場合は `dlnkmgr set -rmlu on -force`)
LU に接続するパスの中に **Online** 状態のパスがない場合、HDLM の管理対象から LU を削除します。
- 05-50 以降の HDLM
 - 「**Offline(C)**のパスがある LU も削除」を設定しない場合 (HDLM コマンドの場合は `dlnkmgr set -rmlu on`)
LU に接続するパスの中に **Online** 状態、**Offline(C)**状態のパスがない場合、HDLM の管理対象から LU を削除します。
ただし、次に示すどちらかの条件を満たす場合は HDLM の管理対象から LU を削除しません。
 - LU に接続するパスの中に、自動的に **Online** 状態へ切り替わる条件を満たす **Offline(E)**状態のパスがある場合。**Offline(E)**状態のパスが自動的に **Online** 状態へ切り替わる条件については、「A.8 パスの遷移と自動切り替え」の「A.8.2 **Online(E)**状態、**Offline(C)**状態、および **Offline(E)**状態のパスの自動切り替え」を参照してください。
 - **Offline(C)**のパスが切断されたあと、オンライン操作により **Offline(E)**に遷移した結果、**Online** 状態のパスがなくなった場合。
 - 「**Offline(C)**のパスがある LU も削除」を設定した場合 (HDLM コマンドの場合は `dlnkmgr set -rmlu on -force`)
LU に接続するパスの中に **Online** 状態のパスがない場合、HDLM の管理対象から LU を削除します。ただし、LU に接続するパスの中に、自動的に **Online** 状態へ切り替わる条件を満たす **Offline(E)**状態または **Offline(C)**状態のパスがある場合は、HDLM の管理対象から LU を削除しません。**Offline(E)**状態、**Offline(C)**状態のパスが自動的に **Online** 状態へ切り替わる条件については、「A.8 パスの遷移と自動切り替え」の「A.8.2 **Online(E)**状態、**Offline(C)**状態、および **Offline(E)**状態のパスの自動切り替え」を参照してください。

A.10 Windows のドライブ文字表示の差異

HDLM のバージョンによって、LU に接続するすべてのパスが障害となったときに表示する Windows のドライブ文字は、次に示すように異なります。

- 05-02 の HDLM で LU の動的削除機能を使用しない場合
マイコンピュータなどで表示されるディスクにドライブ文字が表示されます。
- 05-02 の HDLM で LU の動的削除機能を使用する場合、05-50 以降の HDLM で LU の動的削除機能を使用する場合、および 05-50 の HDLM で LU の動的削除機能を使用しない場合
マイコンピュータなどで表示されるディスクにドライブ文字は表示されません。

A.11 デフォルト値の差異

HDLM のバージョンによって、HDLM 機能のデフォルト値は次に示すように異なります。

- パスヘルスチェックのデフォルト値
 - 04-00 以前の HDLM の場合は off です。
 - 05-00 以降の HDLM の場合は on で、チェック間隔は 30 (分) です。
- 障害ログファイルサイズのデフォルト値
 - 05-02 以前の HDLM の場合は 1000(KB)です。なお、05-02 以前の HDLM では「ログファイルサイズ」という項目名です。
 - 05-50 以降の HDLM の場合は 9900(KB)です。
- ロードバランスアルゴリズムのデフォルト値
 - 6.0 以前の HDLM の場合は rr (ラウンドロビン) です。
 - 6.0.1 以降の HDLM の場合は exlio (拡張最少 I/O 数) です。
 - また、HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) で使用するインストール情報設定ファイルのサンプルファイル (sample_installhdlm.ini) の load_balance_type キーの値は rr から exlio になりました。

A.12 MSCS 環境でのロードバランス機能の差異

05-00 以前の HDLM では、MSCS 環境でのロードバランス機能をサポートしません。したがって、05-00 以前の HDLM でかつ MSCS 環境の場合、ロードバランスを on に設定しても自動的に off になります。

このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

- B.1 関連マニュアル
- B.2 このマニュアルでの表記
- B.3 このマニュアルで使用している略語
- B.4 KB（キロバイト）などの単位表記について

B.1 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- Hitachi Command Suite Global Link Manager Software ユーザーズガイド (3020-3-X11)
- Hitachi Command Suite Global Link Manager Software 導入・設定ガイド (3020-3-X12)
- Hitachi Command Suite Global Link Manager Software メッセージ (3020-3-X13)
- Hitachi Adaptable Modular Storage シリーズ用 各種ユーザーズガイド
- Hitachi Simple Modular Storage シリーズ用 各種ユーザーズガイド
- Hitachi Tape Modular Storage シリーズ用 各種ユーザーズガイド
- Hitachi Unified Storage シリーズ用 各種ユーザーズガイド
- Hitachi Universal Storage Platform シリーズ用 各種ユーザーズガイド
- Hitachi Workgroup Modular Storage シリーズ用 各種ユーザーズガイド
- SANRISE2000/SANRISE9900/SANRISE Universal Storage Platform/Hitachi Universal Storage Platform V Hitachi Virtual Storage Platform FAL for AIX FAL for HP-UX FAL for Solaris FAL for Windows FAL for NCR UNIX FAL for HI-UX/WE2 FAL for Tru64 UNIX FAL for LINUX ユーザーズガイド
- SANRISE 9580V シリーズ ディスクアレイ ユーザーズガイド
- Universal Storage Platform V シリーズ用 各種ユーザーズガイド
- Universal Storage Platform VM シリーズ用 各種ユーザーズガイド
- Virtual Storage Platform シリーズ用 各種ユーザーズガイド
- JP1 Version 7i JP1/NETM/DM システム運用 1 (Windows(R)用) (3020-3-G32)
- JP1 Version 7i JP1/NETM/DM システム運用 2 (Windows(R)用) (3020-3-G33)
- JP1 Version 7i JP1/NETM/DM システム構築 (Windows(R)用) (3020-3-G31)
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R)用) (3020-3-L38)
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 2 (Windows(R)用) (3020-3-L39)
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R)用) (3020-3-L37)
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R)用) (3020-3-L36)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R)用) (3020-3-S81)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 2 (Windows(R)用) (3020-3-S82)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R)用) (3020-3-S80)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R)用) (3020-3-S79)

B.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を次のように表記します。

このマニュアルでの表記	製品名称または意味
Device Manager エージェント	Hitachi Device Manager に含まれる Device Manager エージェント
Global Link Manager	Hitachi Global Link Manager
H10000	Hitachi Universal Storage Platform H10000
H12000	Hitachi Universal Storage Platform H12000
H20000	Hitachi Universal Storage Platform H20000

このマニュアルでの表記	製品名称または意味
H24000	Hitachi Universal Storage Platform H24000
HDLM	Hitachi Dynamic Link Manager
Hitachi AMS シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Hitachi Adaptable Modular Storage 1000 Hitachi Adaptable Modular Storage 500 Hitachi Adaptable Modular Storage 200
Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Hitachi Adaptable Modular Storage 1000 Hitachi Adaptable Modular Storage 500 Hitachi Adaptable Modular Storage 200 Hitachi Tape Modular Storage シリーズ Hitachi Workgroup Modular Storage シリーズ
Hitachi AMS2000/AMS/TMS/WMS/SMS シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Hitachi Adaptable Modular Storage 2000 シリーズ Hitachi Adaptable Modular Storage 1000 Hitachi Adaptable Modular Storage 500 Hitachi Adaptable Modular Storage 200 Hitachi Tape Modular Storage シリーズ Hitachi Workgroup Modular Storage シリーズ Hitachi Simple Modular Storage シリーズ
Hitachi AMS2000 シリーズ	Hitachi Adaptable Modular Storage 2000 シリーズ
Hitachi NSC55	Hitachi Network Storage Controller NSC55
Hitachi SMS シリーズ	Hitachi Simple Modular Storage シリーズ
Hitachi TMS シリーズ	Hitachi Tape Modular Storage シリーズ
Hitachi USP シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Hitachi Universal Storage Platform 1100 Hitachi Universal Storage Platform 600 Hitachi Universal Storage Platform 100 Hitachi Network Storage Controller NSC55 Hitachi Universal Storage Platform H12000 Hitachi Universal Storage Platform H10000 HP StorageWorks XP12000 Disk Array HP StorageWorks XP10000 Disk Array HP StorageWorks 200 Storage Virtualization System
Hitachi WMS シリーズ	Hitachi Workgroup Modular Storage シリーズ
HUS100 シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Hitachi Unified Storage 150 Hitachi Unified Storage 130 Hitachi Unified Storage 110 BladeSymphony 専用エントリークラスディスクアレイ装置 BR1650 シリーズ
HUS VM	Hitachi Unified Storage VM
InstallShield	InstallShield®
Itanium	Itanium®
JP1/NETM/DM	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> JP1/NETM/DM Manager JP1/NETM/DM Client
JRE	Java 2 Runtime Environment, Standard Edition
Oracle9i RAC	Oracle9i Real Application Clusters
Oracle RAC	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Oracle9i Real Application Clusters

このマニュアルでの表記	製品名称または意味
	<ul style="list-style-type: none"> Oracle Real Application Clusters 10g Oracle Real Application Clusters 11g
Oracle RAC 10g	Oracle Real Application Clusters 10g
Oracle RAC 11g	Oracle Real Application Clusters 11g
P9500	HP StorageWorks P9500 Disk Array
SANRISE2000 シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> SANRISE2000 シリーズ SANRISE H512 SANRISE H48
SANRISE9900V シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> SANRISE9900V シリーズ SANRISE H1024 SANRISE H128 HP StorageWorks XP1024 Disk Array HP StorageWorks XP128 Disk Array
SVS	HP StorageWorks 200 Storage Virtualization System
Universal Storage Platform V/VM シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Hitachi Universal Storage Platform V Hitachi Universal Storage Platform VM Hitachi Universal Storage Platform H24000 Hitachi Universal Storage Platform H20000 HP StorageWorks XP24000 Disk Array HP StorageWorks XP20000 Disk Array
VCS	Veritas Cluster Server
Virtual Storage Platform シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Hitachi Virtual Storage Platform Hitachi Virtual Storage Platform VP9500 HP StorageWorks P9500 Disk Array
VMware	VMware®
Volume Manager	Veritas Volume Manager および Veritas Storage Foundation for Windows に含まれる Volume Manager 機能
VP9500	Hitachi Virtual Storage Platform VP9500
VxVM	Veritas Volume Manager
XP128	HP StorageWorks XP128 Disk Array
XP1024	HP StorageWorks XP1024 Disk Array
XP10000	HP StorageWorks XP10000 Disk Array
XP12000	HP StorageWorks XP12000 Disk Array
XP20000	HP StorageWorks XP20000 Disk Array
XP24000	HP StorageWorks XP24000 Disk Array

AIX, Solaris, Linux®, および HP-UX を区別する必要がない場合、UNIX と表記しています。

B.3 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルでは、次に示す略語を使用しています。

略語	正式名称
AL	Arbitrated Loop

略語	正式名称
API	Application Programming Interface
BIOS	Basic Input / Output System
CHA	Channel Adapter
CLPR	Cache Logical Partition
CPU	Central Processing Unit
CSV	Comma Separated Value
CU	Control Unit
DBMS	Database Management System
DEP	Data Execution Prevention
Dev	Device
DNS	Domain Name Server
FC	Fibre Channel
FC-SP	Fibre Channel Security Protocol
FO	Failover
FQDN	Fully Qualified Domain Name
GMT	Greenwich Mean Time
GPT	GUID Partition Table
GUI	Graphical User Interface
GUID	Globally Unique Identifier
HBA	Host Bus Adapter
HDev	Host Device
HLU	Host Logical Unit
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
I/O	Input/Output
IP	Internet Protocol
IPF	Itanium Processor Family
iSCSI	Internet Small Computer System Interface
LAN	Local Area Network
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
LDEV	Logical Device
LU	Logical Unit
LUN	Logical Unit Number
MPIO	Multipath I/O
MVS	Multiple Virtual Storage
NAS	Network Attached Storage
NIC	Network Interface Card
NTP	Network Time Protocol
OS	Operating System
P	Port
PRSV	Persistent Reserve
QFE	Quick Fix Engineering
RADIUS	Remote Authentication Dial in User Service
SAN	Storage Area Network

略語	正式名称
SCSI	Small Computer System Interface
SLPR	Storage Logical Partition
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SNMP	Simple Network Management Protocol
SP	Service Pack
SSL	Secure Sockets Layer
SVP	Service Processor
VGA	Video Graphics Array
WMI	Windows Management Instrumentation
WWN	World Wide Name
XGA	Extended Graphics Array

B.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

用語解説

ここでは、マニュアル中で使用している用語を解説します。

(英字)

CHA (Channel Adapter)

ストレージシステムのチャンネルを制御するアダプタです。

CLPR (Cache Logical Partition)

Hitachi USP シリーズ, Universal Storage Platform V/VM シリーズ, Virtual Storage Platform シリーズ, Hitachi AMS2000/AMS/TMS/WMS/SMS シリーズ, HUS100 シリーズ, および HUS VM がサポートするキャッシュの論理的な分割機能です。この機能を使用すると、ストレージシステム内でパリティグループ単位にキャッシュを分割するため、キャッシュ性能がほかのパリティグループの影響を受けません。

Dev (Device)

HDLM が制御、操作する対象で、LU を論理的に分割した単位を指します。Windows ではパーティションに相当します。

各 LU の Dev は 1 つだけです。

各 Dev には「Dev 番号」が付けられています。

(関連用語：Dev 番号)

Dev 番号

HDLM では構成表示での Dev 番号 (DNum 欄) を指します。

LU 全体を示す Dev として「0」が表示されます。

HDLM は、1 つの LU に 1 つの Dev が存在していると仮定して動作するため、「0」で固定です。

(関連用語：Dev)

FC-SAN (Fibre Channel - Storage Area Network)

FC を使った SAN を指します。

HBA (Host Bus Adapter)

ホストと外部装置を接続するインターフェースとなるデバイスです。

このマニュアルでは、ホストとストレージ間を SCSI または FC で接続するときに、ホストに搭載するインターフェース・カードを指します。

HDLM アラートドライバ

HDLM ドライバが検知した障害情報を受け取り、HDLM マネージャに通知するプログラムです。

HDLM ドライバ

HDLM の機能の制御、パスの管理、および障害検知をするプログラムです。

HDLM マネージャ

障害情報を管理するプログラムです。HDLM アラートドライバから障害情報を受け取って、障害ログを採取します。

IP-SAN (Internet Protocol - Storage Area Network)

iSCSI 規格を用いてホストとストレージシステムを接続する、データ転送用のネットワークです。

LDEV (Logical Device)

LDEV は、ストレージシステムの製品名称、シリアル番号、および内部 LU を組み合わせた値で表示されます。HDLM は、この値によって LU を識別しています。

LU (Logical Unit)

論理ユニットです。ストレージシステム側で定義した、論理的なボリュームです。ホストからの入出力対象となります。

(関連用語：ホスト LU)

LU の動的削除

LU を削除するか、または LU に接続されているすべてのパスが切断された場合に、HDLM の管理対象から LU を削除する機能です。

SAN (Storage Area Network)

ホストとストレージシステムを結ぶ高速ネットワークです。LAN とは独立していて、データ転送専用に使われます。SAN を使用することで、ストレージシステムへのアクセスを高速化できます。また、大容量のデータが流れて LAN の性能が劣化することを防げます。

SCSI デバイス

SCSI ディスクのデバイスです。

SLPR (Storage Logical Partition)

Hitachi USP シリーズ、Universal Storage Platform V/VM シリーズ、および Virtual Storage Platform シリーズがサポートするストレージシステムの論理的な分割機能です。この機能を使用すると、ストレージシステム内のリソース（ポート、CLPR、ボリュームなど）を分割するため、それぞれのリソースを独立して管理できます。

(ア行)

エミュレーションタイプ

ホストからアクセスできる LU の種類です。

HDLM のホストはオープン系ホスト (PC、または UNIX) であるため、HDLM のホストからは、オープン系のエミュレーションタイプを持つ LU にだけアクセスできます。

ストレージシステムがサポートするエミュレーションタイプの詳細については、各ストレージシステムの保守マニュアルを参照してください。

オーナコントローラ

SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズを使用している場合、ストレージシステム側で LU のオーナコントローラに設定したコントローラです。

オーナコントローラ以外のコントローラは、ノンオーナコントローラと呼ばれます。

SANRISE2000 シリーズ、SANRISE9900V シリーズ、Hitachi USP シリーズ、Universal Storage Platform V/VM シリーズ、Virtual Storage Platform シリーズ、Hitachi AMS2000 シリーズ、Hitachi SMS シリーズ、

HUS100 シリーズ、または HUS VM を使用している場合には、すべてのコントローラがオーナコントローラになります。

(関連用語：オーナパス、ノンオーナコントローラ)

オーナパス

SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズを使用している場合、ストレージシステム側で LU のオーナコントローラに設定したコントローラを経由するパスです。オーナコントローラ以外のコントローラを経由するパスをノンオーナパスと呼びます。

SANRISE2000 シリーズ、SANRISE9900V シリーズ、Hitachi USP シリーズ、Universal Storage Platform V/VM シリーズ、Virtual Storage Platform シリーズ、Hitachi AMS2000 シリーズ※、Hitachi SMS シリーズ※、HUS100 シリーズ※、または HUS VM を使用している場合には、すべてのパスがオーナパスになります。

(関連用語：オーナコントローラ、ノンオーナパス)

注※ ダイナミック I/O パスコントロール機能を無効にしているときに対象になります。

(カ行)

間欠障害

ケーブルの接触不良などが原因で、断続的に発生する障害です。

クラスタ

同一の OS、またはプラットフォーム (同一のアプリケーションを動作できる環境) を持つ 2 台以上のホストを接続して、1 つのシステムとして扱うシステムです。

(サ行)

自動フェイルバック

一定間隔でパスの状態を確認し、障害が発生したパスの状態が回復したときに、パスの状態を自動的に稼働状態にする機能です。

「Offline(E)」状態、または「Online(E)」状態だったパスが正常に戻った場合、パスの状態を「Online」にします。

自動フェイルバックの対象となるのは、障害が原因で「Offline(E)」状態、または「Online(E)」状態になっているパスです。offline オペレーションを実行して「Offline(C)」状態になったパスは、自動フェイルバックの対象になりません。offline オペレーションについては、「[6.4 offline パスを閉塞状態にする](#)」を参照してください。

(タ行)

動的再構成

ホストを再起動しないで、構成変更した HDLM デバイスを HDLM に認識させる機能です。Windows のプラグアンドプレイ機能を使用します。

(ナ行)

ノード

クラスタメンバのサーバです。

ノンオーナコントローラ

オーナコントローラ以外のコントローラです。

ノンオーナコントローラは、SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズを使用している場合にだけあります。

(関連用語：オーナコントローラ、ノンオーナパス)

ノンオーナパス

オーナコントローラ以外のコントローラを経由するパスです。

ノンオーナパスは、SANRISE9500V シリーズ、または Hitachi AMS/TMS/WMS シリーズを使用している場合にだけあります。

(関連用語：オーナパス、ノンオーナコントローラ)

(ハ行)

パーシステントリザーブ

リザーブと同様、あるサーバが 1 つの LU を占有したい場合、その LU に対して占有を宣言し、ほかのサーバからその LU にアクセスできないように保護する機能です。ただし、リザーブはパス 1 本を占有しますが、パーシステントリザーブは複数のパスを占有できます。

したがって、HDLM がパーシステントリザーブを支援する場合、複数のパスを占有できるため、占有した複数のパスでロードバランスができるようになります。

(関連用語：リザーブ)

パス

ホストからストレージシステムへのアクセス経路です。ホスト側の HBA と、ストレージシステム側の CHA を結ぶケーブルを経由して、ストレージシステム側の LU 内の領域にアクセスします。

各パスには「パス管理 PATH_ID」が付けられています。

(関連用語：パス管理 PATH_ID)

パス管理 PATH_ID

HDLM がシステム起動時にパスに付ける ID です。すべてのパスが固有のパス管理 PATH_ID を持ちます。

(関連用語：パス)

パスヘルスチェック

一定間隔でパスの状態を確認する機能です。

「Online」状態だったパスに障害が発生した場合、パスの状態を「Offline(E)」にします。パスヘルスチェックの対象となるのは、「Online」状態のパスです。

パス名

次に示す 4 つの項目をピリオドで区切って表される名前です。

- ・ホストポート番号 (16 進数)
- ・バス番号 (16 進数)
- ・ターゲット ID (16 進数)
- ・ホスト LU 番号 (16 進数)

パス名でパスを特定してください。

(関連用語：ホスト LU 番号)

フェイルオーバー

あるパスに障害が発生したときに、ほかの正常なパスに切り替えてシステムの運用を続ける機能です。

フェイルバック

障害が発生していたパスが障害から回復したときに、障害から回復したパスの状態を稼働状態にして、パスを切り替える機能です。

ホスト

サーバ、およびクライアントの総称です。

ホスト LU

ホストが認識する LU です。実体はストレージシステム側の LU です。

各ホスト LU には「ホスト LU 番号」が付けられています。

(関連用語：LU, ホスト LU 番号, ホストデバイス)

ホスト LU 番号

ホスト LU に付けられている番号です。パス名の一部になります。

(関連用語：ホスト LU, パス名)

ホストデバイス

ホスト LU 内の領域です。

(関連用語：ホスト LU, ホストデバイス名)

ホストデバイス名

ホストデバイスに付けられている名前です。ドライブレターが割り当てられます。

(関連用語：ホストデバイス)

(ラ行)

リザーブ

あるホストが 1 つの LU を占有したい場合、その LU に対して占有を宣言し、ほかのホストから LU にアクセスできないように保護する機能です。リザーブを発行したホストには、そのリザーブを発行したパスに LU へのアクセス許可が与えられるため、複数のパスで同時に LU にアクセスできません。そのため、ロードバランスはできません。

(関連用語：パーシステントリザーブ)

ロードバランス

LU 内の領域にアクセスするパスが複数ある場合、それらの複数のパスを使用して I/O を行うことで、パスに掛かる負荷を分散する機能です。

次に示す 6 つのアルゴリズムがあります。

- ・ラウンドロビン
- ・拡張ラウンドロビン
- ・最少 I/O 数
- ・拡張最少 I/O 数
- ・最少ブロック数
- ・拡張最少ブロック数

索引

C

CHA 27
CHA (Channel Adapter) 333
clear [HDLM コマンドのオペレーション] 162
CLPR (Cache Logical Partition) 333
Critical [障害レベル] 52

D

delete [HDLM コマンドのオペレーション] 206
Dev 26, 27, 29, 333
Dev 番号 333
dlmchkpath 220
DLMgetras 158, 210
dlmhostinfo 222
dlmpr 133, 217
dlmprsvkey 219

E

Error [障害レベル] 52

F

FC-SAN 26, 27, 77, 333
FO 234

G

Global Link Manager 57
Global Link Manager を使用して HDLM を管理する場合のファイアウォールの設定 114
GUI 23
GUI ヘルプを参照する 137

H

HBA 27, 37
HBA (Host Bus Adapter) 333
HDev 30
HDLM
 アンインストール 128
 インストール 79
 設定解除 127
HDLM GUI 31
HDLM アラートドライバ 31, 333
HDLM アンインストールユティリティ 230
HDLM インストール情報確認ユティリティ 222
HDLM インストールユティリティ 223
HDLM が検知した障害情報 50
HDLM が検知する障害 52
HDLM がサポートするクラスタソフトウェア 65
HDLM 管理対象デバイス 26
HDLM コマンド 31, 162
HDLM コマンドのオペレーション 162
HDLM 障害情報収集ユティリティ 158, 210
HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) が収集する障害情報の一覧 212
HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を使用した障害情報の収集 52
HDLM で監査ログに出力する種別と監査事象 54
HDLM で管理するデバイス 26
HDLM で使用するコマンド 162
HDLM とは 22
HDLM ドライバ 31, 32, 334
HDLM のアップグレードまたは再インストール 111
HDLM の移行
 05-40 以前の HDLM から 05-50 以降の HDLM への移行 112
HDLM のインストール
 種別 69
HDLM のインストールの種別
 HDLM のアップグレードインストール 69
 HDLM の移行 69

HDLM の再インストール 70
HDLM の新規インストール 69
HDLM の概要 21
HDLM の機能 25
HDLM のシステム構成
FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成 26
HDLM の常駐プロセス一覧 147
HDLM の新規インストール 84, 102
HDLM の統合管理 57
HDLM の特長 22
HDLM のプログラム情報 185
HDLM パーシステントリザーブ解除ユティリティ 133, 217
HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ 219
HDLM パス状態確認ユティリティ 111, 220
HDLM パス状態管理ユティリティ 129, 131, 132
HDLM パフォーマンスモニタ 145
HDLM マネージャ 31, 334
起動 146
停止 146
HDLM ユティリティ 31
help [HDLM コマンドのオペレーション] 164
Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2)
アンインストール 132
HLU 30

I

I/O 回数 162
I/O 障害回数 162
Information [障害レベル] 52
installhdlm 223
IP-SAN 27, 77, 80, 334
iSCSI 29, 334
iSCSI ソフトウェア 27, 80
iSCSI 用ホストバスアダプタ 27

J

JRE のインストール 113

K

KAPL08022-E メッセージの項目
DNum 155
ErrorCode 155
HDevName 155
PathID 155
PathName 155

L

LDEV (Logical Device) 334
Logical Unit Id 197
LU 27, 147
LU (Logical Unit) 334
LUN 197
LU 構成 29
LU の動的削除 120, 150, 334

M

MPIO ドライバ 32, 96, 99
MSCS 65, 130, 136

O

offline [HDLM コマンドのオペレーション] 165
Offline(C)状態 41
Offline(E)状態 41
Offline(P)状態 42
online [HDLM コマンドのオペレーション] 169
Online(E)状態 41
Online(EP)状態 41
Online(P)状態 41
Online 状態 41

P

P 27
PRSV キー 111, 219

R

removehdlm 230

S

SAN (Storage Area Network) 334
SCSI Bus 番号 197
SCSI Port 番号 197
SCSI デバイス 334
set [HDLM コマンドのオペレーション] 172
SLPR (Storage Logical Partition) 334

T

Target Id 197

V

- VCS 65, 95, 130
- view [HDLM コマンドのオペレーション] 183

W

- Warning [障害レベル] 52
- Windows の管理ツール (パフォーマンス) を使用してパス情報を確認する 145

あ

- アップグレードインストール 69
- アンインストール
 - HDLM 128
 - Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリ (HNTRLib2) 132

い

- 移行 69
- イベントログ 51
- インストール
 - 新規インストールする前の準備 79
- インストール情報設定ファイル
 - セクション[ENVIRONMENT_SETTINGS] 226
 - セクション[INSTALLATION_SETTINGS] 224

え

- エミュレーションタイプ 334

お

- オーナコントローラ 34, 334
- オーナパス 34, 335
- オペレーション 234
- オペレーション一覧 162
- オペレーションの形式を表示する 164

か

- 確認
 - パス構成 115
- 稼働状態 169
- 環境構築 61
- 環境を構築する場合の注意事項
 - HBA および HBA ドライバに関する注意事項 70
 - HDLM のバージョンに関する注意事項 70
 - Windows に関する注意事項 71

- 移行またはアップグレードインストールに関する注意事項 78
- 関連するソフトウェアに関する注意事項 74
- 新規インストールおよびアップグレードインストールに関する注意事項 77
- ストレージシステムに関する注意事項 70

- 間欠障害 335
- 間欠障害監視 119
- 監査ログの採取 53
- 監査ログの出力形式 56
- 監視
 - メッセージ 158
- 監視サイクル 126

き

- 起動
 - HDLM マネージャ 146
- 機能の設定 116

く

- クラスタ 335
- クラスタソフトウェア 58
- クラスタ対応 58

こ

- コアロジック部 32
- 構成
 - プログラム 30
- コマンド
 - 概要 162
 - 入力形式 162
- コマンドデバイス 26
- コンポーネント情報を参照する 144

さ

- サービスステータス 234
- 再インストール 70
- 採取するログの種類 50
- サイレントインストール 83
 - 注意事項 83

し

- システム構成 26, 27
- 自動パス切り替え 38
- 自動フェイルオーバー 38
- 自動フェイルオーバーの対象となる障害 38

- 自動フェイルバック 39, 119, 335
- 収集情報出力先フォルダ 211
- 主系ホスト 58
- 手動パス切り替え 40
- 取得
 - パス情報 157
 - プログラム情報 158
- 障害
 - メッセージ 154
- 障害個所特定 157
- 障害管理 49
- 障害情報の種類 51
- 障害情報のフィルタリング 52
- 障害パス
 - 抽出 157
- 障害発生ハードウェアの絞り込み 157
- 障害レベル 52
- 障害ログ 51
- 障害ログ採取レベル 121
- 障害ログ採取レベルの設定値 174
- 障害ログファイルサイズ 122, 174
- 障害ログファイル数 174
- 情報を表示する 183
- シリアル番号 194, 196
- 新規インストール 69
- 新規インストール (Windows Server 2003 の場合) 84
- 新規インストール (Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合) 102
- シングルパス構成 79, 87, 105

す

- ストレージシステム 22

せ

- 設定 172
 - 統合トレース 124
 - 動作環境 [set オペレーション] 172

た

- ターゲット ID 197
- 対処
 - パス障害 155
 - プログラム障害 159
 - プログラム障害時 158
- ダイナミック I/O パスコントロール 120

ち

- チャンネルアダプタ 26, 27
- 抽出
 - 障害パス 157

て

- 停止
 - HDLM マネージャ 146

と

- 統計情報 162
- 統合トレース
 - 設定 124
- 統合トレース情報ファイル 124
- 統合トレースファイル 51
- 動作環境 172
 - 参照 [view オペレーション] 188
 - 設定 [set オペレーション] 172
- 動作環境を参照または設定する 141
- 動的再構成 335
- トレースファイル 51
- トレースファイルサイズ 175
- トレースファイル数 175
- トレースレベル 121, 175

の

- ノード 335
- ノンオーナコントローラ 34, 335
- ノンオーナパス 34, 336

は

- パーシステントリザーブ 133, 336
- バージョン情報を参照する 143
- ハードウェア障害対処 157
- パス 26, 27, 336
- パス管理 PATH_ID 26, 27, 336
- パス切り替えによるフェイルオーバーとフェイルバック 37
- パス構成
 - 確認 115
- パス障害
 - 対処 155
- パス情報
 - 取得 157
- パスの状態遷移 40, 42
- パスの状態を変更する 139
- パスの情報を参照する 138

パスの統計情報を初期値にする 141, 162
パス番号 197
パスヘルスチェック 48, 118, 175, 336
パス名 336
パス名を構成する項目 194, 197, 204
パスを稼働状態にする 169
パスを稼働状態に変更 157
パスを動的に削除する 206
パスを閉塞状態にする 165
バッファの容量 125
パフォーマンス 145
パフォーマンスモニタ 145

ふ

ファイアウォール
例外登録 114
例外登録解除 127
フィルタ部 32
フィルタリング 52
フェイルオーバー 37, 336
フェイルバック 37, 336
プログラム
構成 30
役割 31
プログラム障害
対処 158, 159
プログラム情報 185
取得 158
プログラム情報表示 183
プロダクト ID 194, 196

へ

閉塞状態 165
ベンダ ID 194, 196

ほ

ポート 26, 27
ホスト 337
ホスト LU 30, 337
ホスト LU 番号 197, 337
ホスト側で認識される LU の構成 30
ホストデバイス 30, 337
ホストデバイス名 337
ホストバスアダプタ 26
ホストポート番号 197

ま

マウントドライブ 234
マルチパス構成 79, 87, 105

め

メッセージ 233
ID の形式と意味 234
監視 158
障害 154
説明で使用する用語 234
表示される用語 234
レベル 234

ゆ

ユティリティ
HDLM アンインストールユティリティ 230
HDLM インストール情報確認ユティリティ 222
HDLM インストールユティリティ 223
HDLM 障害情報収集ユティリティ 210
HDLM パーシステントリザーブ解除ユティリティ 217
HDLM パーシステントリザーブキー登録ユティリティ 219
HDLM パス状態確認ユティリティ 220
概要 210

よ

用語解説 333

り

リザーブ 337
リモートインストール 77, 80, 84
前提条件 81
流れ 81
配布指令の作成および登録 82
パッケージング 82

ろ

ロードバランス 33, 118, 173, 337
ロードバランスが適用されるパス 34
ロードバランスによる負荷分散 33
ロードバランスのアルゴリズム 36
論理ユニット 26, 27

